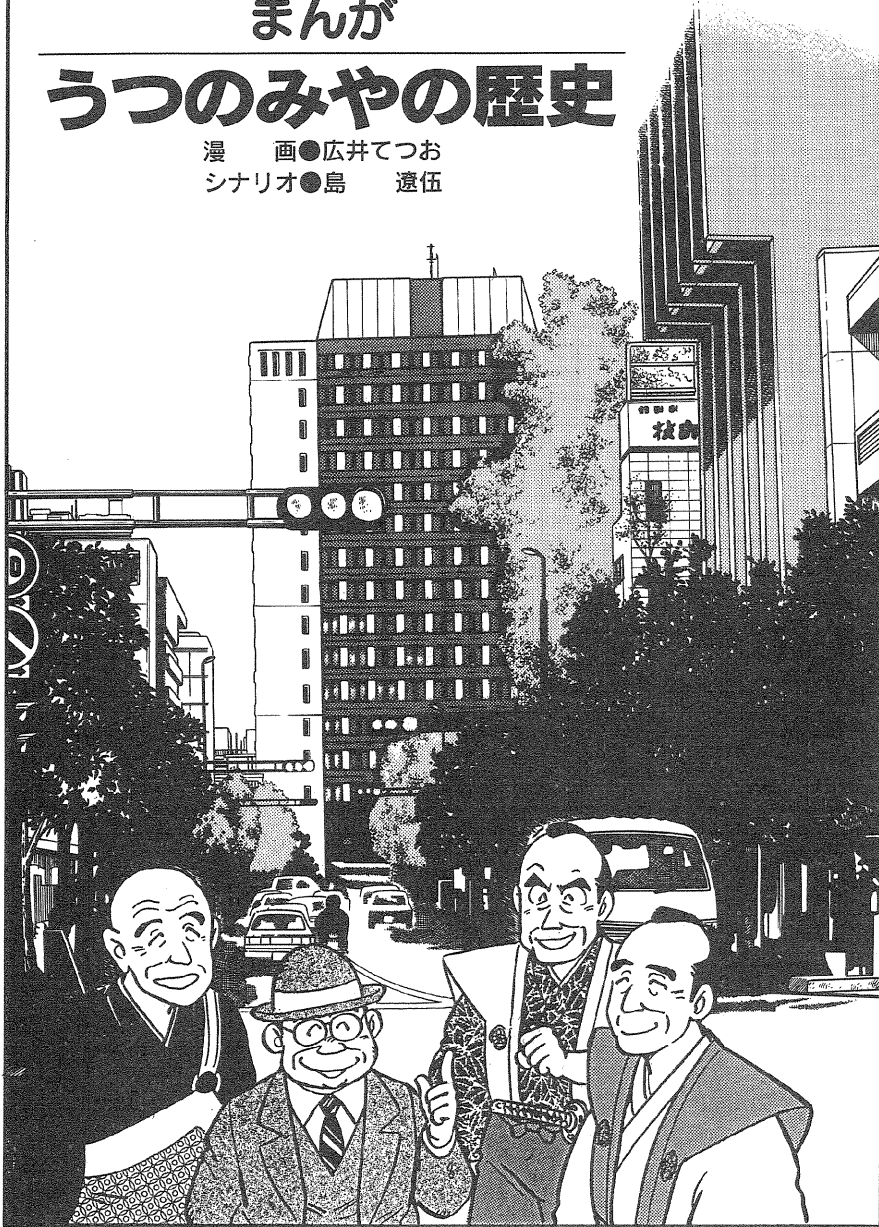


まんが

うつのみやの歴史

漫 画 ● 広井てつお
シナリオ ● 島 遼伍



発刊によせて

宇都宮市長 増山道保

私たちの郷土宇都宮は、古くは二荒の門前町として、また、城下町、宿場町として栄えてまいりました。明治二九（一八九六）年四月一日に市制を施行し、今年、市制一〇〇周年を迎え、また、全国に先駆けて、中核市として新たな第一歩を踏み出しました。

この記念すべき年に、市民の皆様にあつた宇都宮の歴史を親しみやすく理解していただくため『まんが うつのみやの歴史』を発刊いたしました。

戦災や自然災害など多くの困難を乗り越えながら、着実に成長発展を遂げてきた宇都宮の歴史について、蒲生君平、宇都宮蓮生、本多正純、川上澄生という本市にゆかりの深い四人の偉人が、分かりやすく皆様をご案内いたします。たくさんの方の市民の皆様にご愛読いただき、私たちのまち宇都宮が歩んで来た歴史に思いをめぐらすとともに、二一世紀への新たな期待と夢を育んでいただければ幸いです。

平成八年四月

もくじ

発刊によせて 宇都宮市長 増山道保

プロローグ 6

第一章・古代 13

◆根古谷台遺跡の時代

◆宇都宮の古墳文化

◆東山道と律令制

◆水道山の瓦窯

◆大谷の磨崖仏

第二章・中世 45

◆宇都宮氏の下野進出(宗円伝説)

◆宇都宮二荒山神社

◆蓮生と宇都宮歌壇

◆元寇と宇都宮氏の栄光

◆宇都宮弘安式条

◆乱世の宇都宮氏

◆宇都宮氏の没落

第三章・近世 101

◆「関ヶ原の戦い」と宇都宮

◆蒲生・奥平時代

◆本多正純の宇都宮大改造

◆頻繁な城主の交代

◆連続する災害と柵摺騒動

◆幕末の宇都宮藩政

〈坂下門外の変／山陵修補／天狗党事件〉

第四章・近代 165

◆戊辰戦争

◆二荒山神社社格問題と県庁移転

◆教育・産業の発達と一四師団の設置

◆大正期の都市づくり

◆戦時の宇都宮と大空襲

◆宇都宮の復興と発展

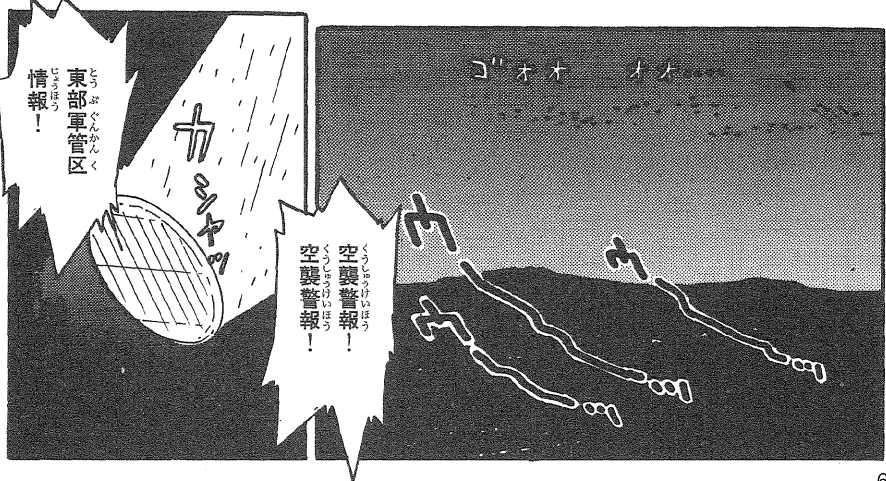
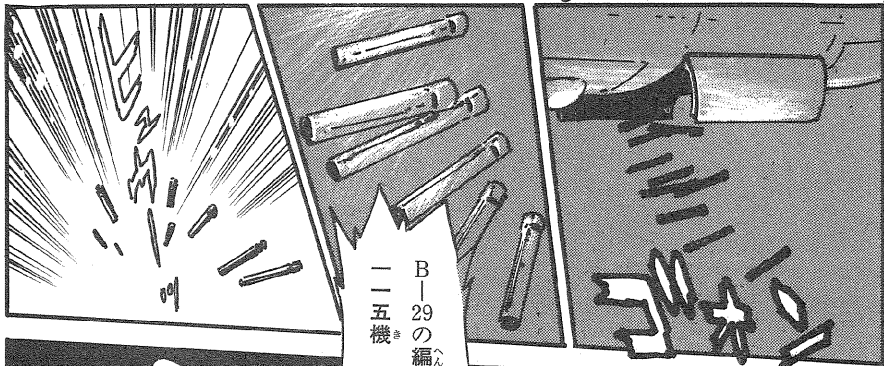
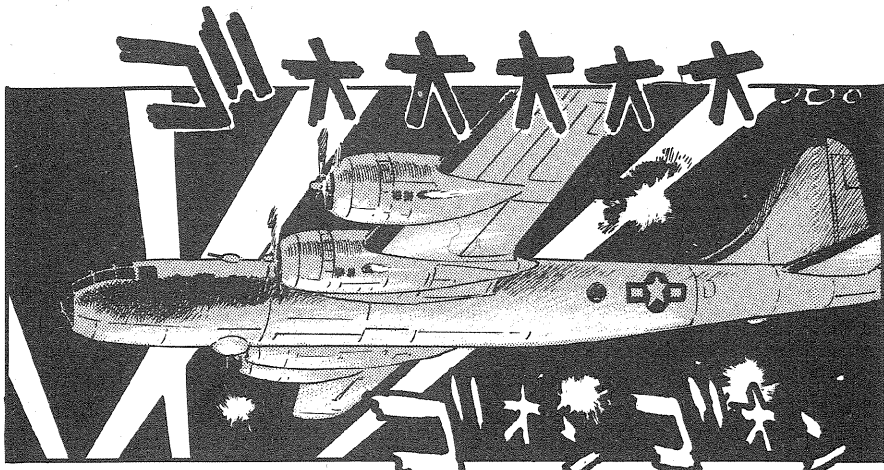
資料編

年表 211

市勢要覧 218

漫画家・シナリオライター紹介

監修者紹介

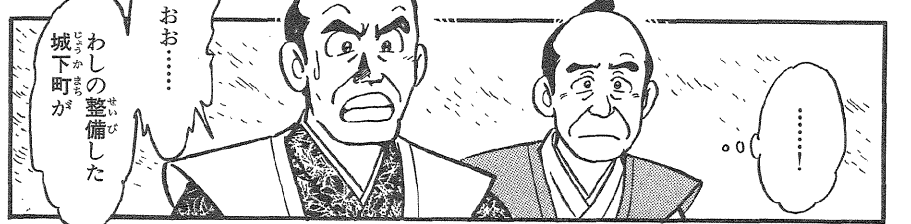




戦争は
いつの世も悲惨な
ものじゃ……
殺人と破壊を
もたらす



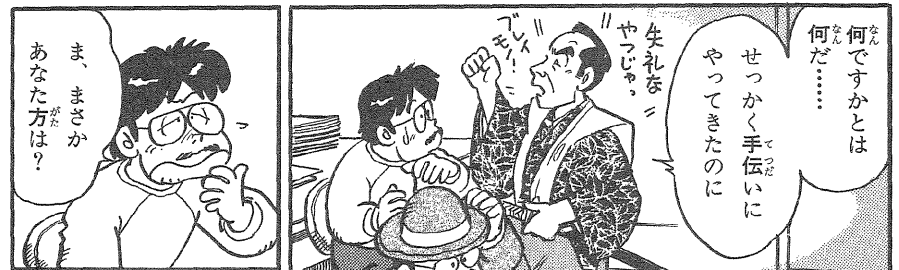
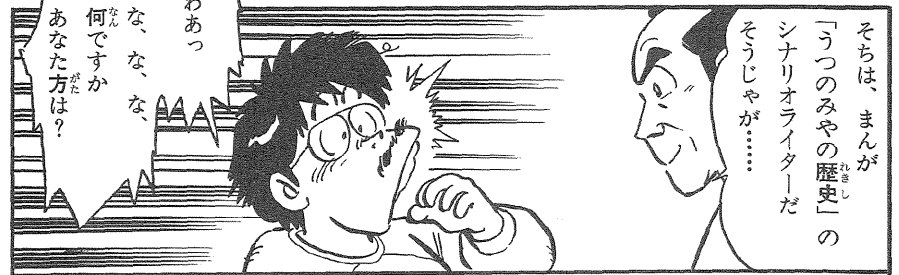
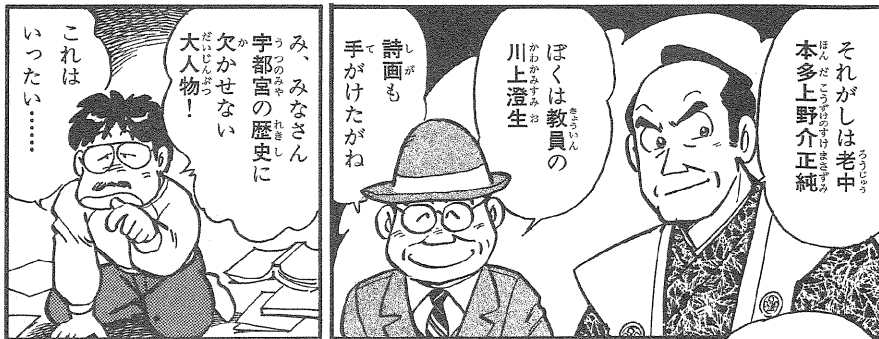
二度と
このような
戦争の
悲劇をくり返す
ようなことが
あつてはならん！
平和な時代にこそ
思い起こせ！



おお……
わしの整備した
城下町が

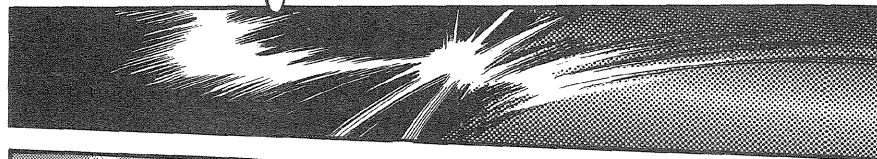
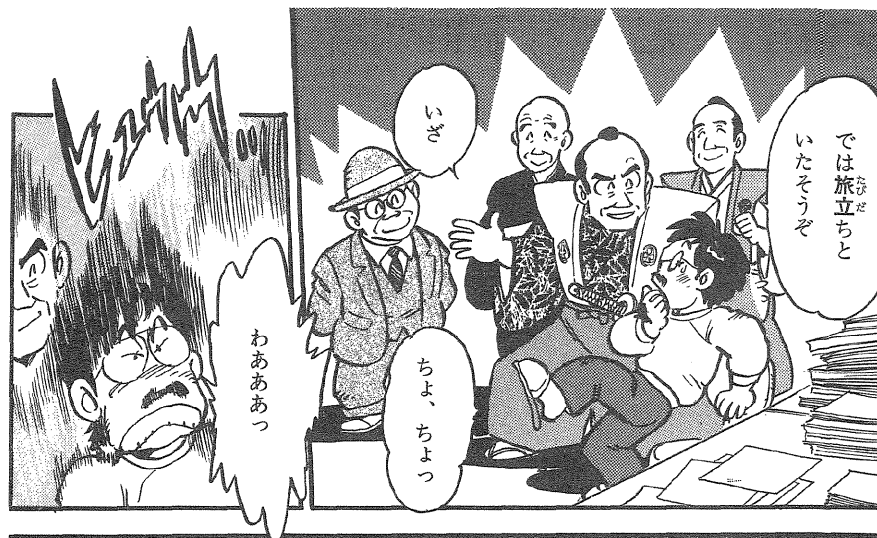
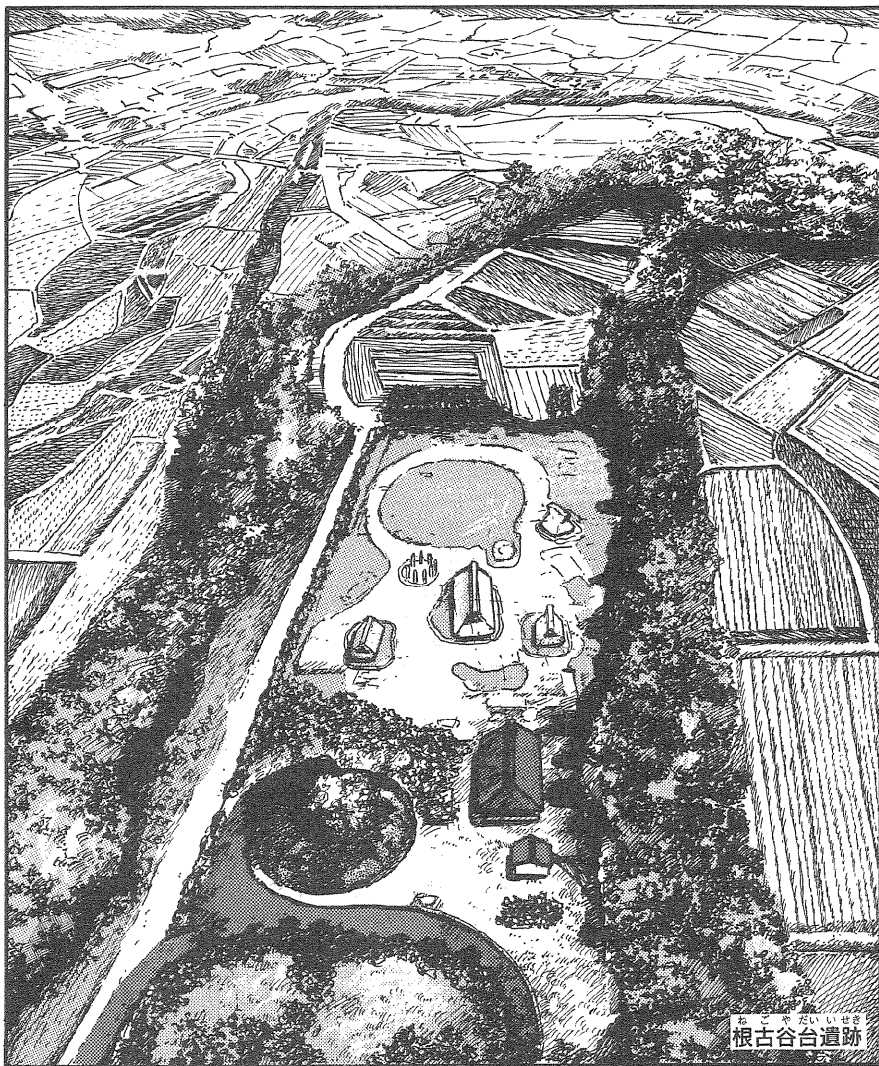


燃えている……
わが宇都宮家が
築き上げた
宇都宮が燃えて
いる……！！
狂っている……
どうして人と人が
殺しあわなければ
ならないのか！

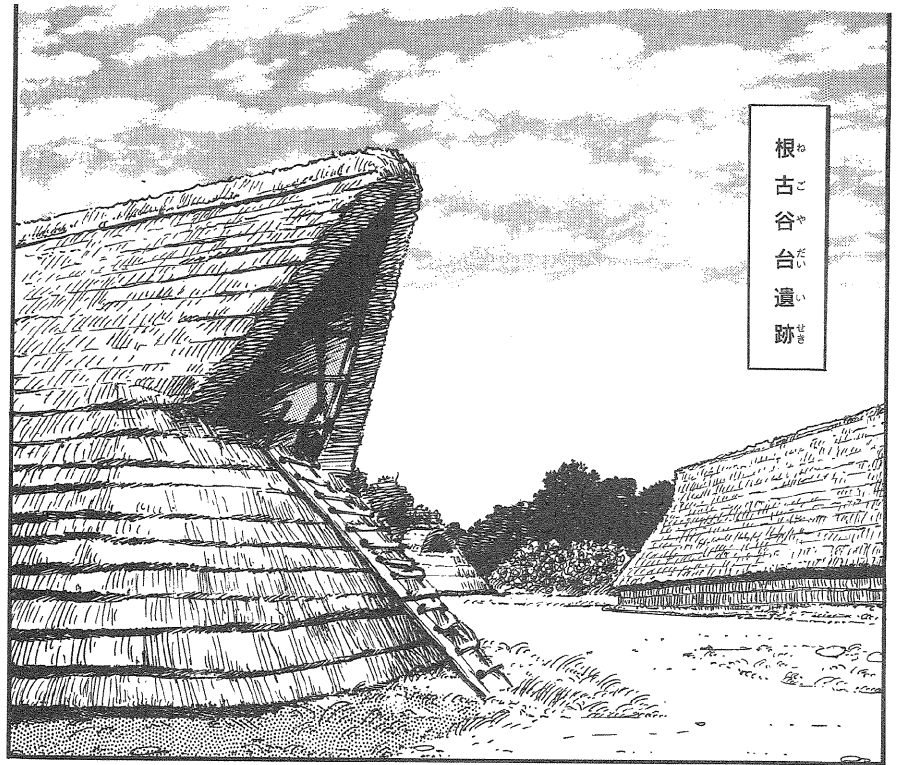


※寛政の三奇人…蒲生君平、林子平、高山彦九郎、3人の学者達

だい しょう こ だい
第一章・古 代



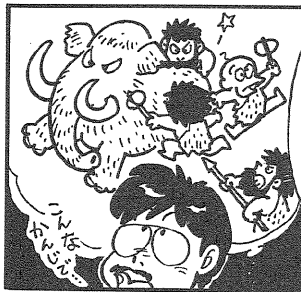
根古谷台遺跡



どうじゃ
これが縄文時代の
関東最大級と
いわれる
根古谷台遺跡じゃ

ははあ
すごいもん
ですねえ

原始時代の
イメージでは…



みくびつちや
いかんよ

彼らはもつと
平和的で文化的
だったのじゃ



しかーし！
蒲生さん

わたしの記憶が
正しければ
あなたは確か
江戸時代
末期の人！

ヒッポーン

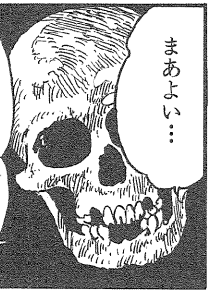
しかし、わしは
こうした遺跡とは
無縁では
ないのじゃよ

だからこそ
古代のガイド役を
ひきうけたのだ



そりやまた
どうして？

わしが
天皇陵の記録
※山陵志を刊行
したことを
知らぬのか！



まあよい…

じつはな…この遺跡は
縄文人の生きた文化
であると同時に
死者の文化でも
あるのじゃ！



死者の文化？

そのとおり！
彼らは
死者たちと一緒に
この集落に住んで
いたのじゃよ。

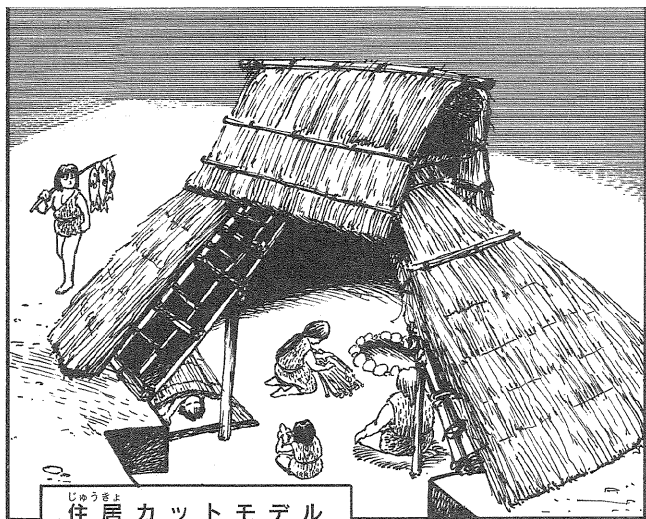


じゃあ、
この遺跡は
墓地でもあるって
わけですか？



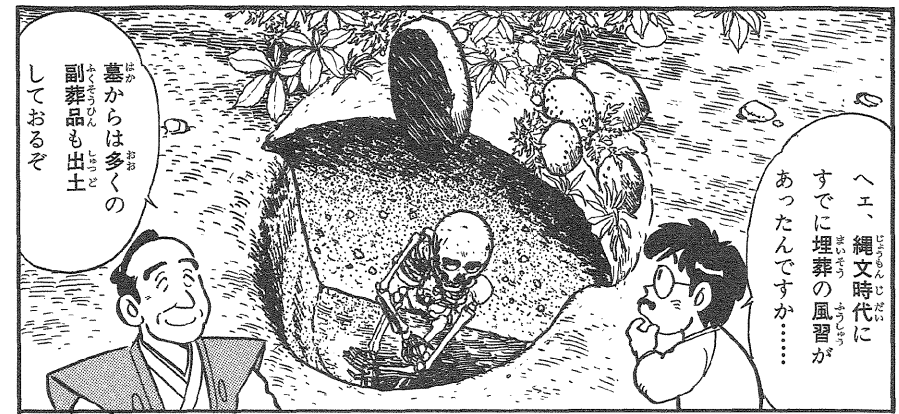
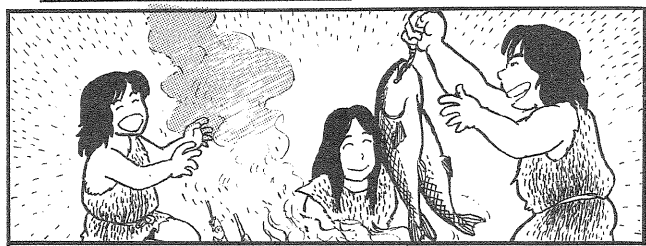
そう…
集落の中心には
約六〇メートルの
円形の広場があり
そこから約三〇〇基もの
墓穴が発見
されておる

※山陵志：一八〇八（文化五）年に刊行した近畿地方の天皇や皇族陵の記録で、ここで君平は前方後円という用語を使う



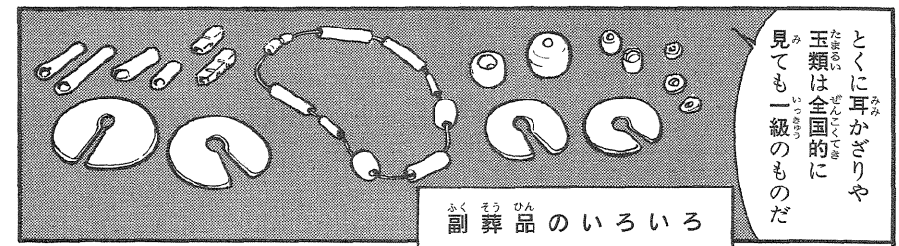
じゅうぎよ
住居カッタモデル

うーん、なるほど
居住スペースにも
工夫をこらして
快適なライフスタイルを
エンジョイしてたんだな



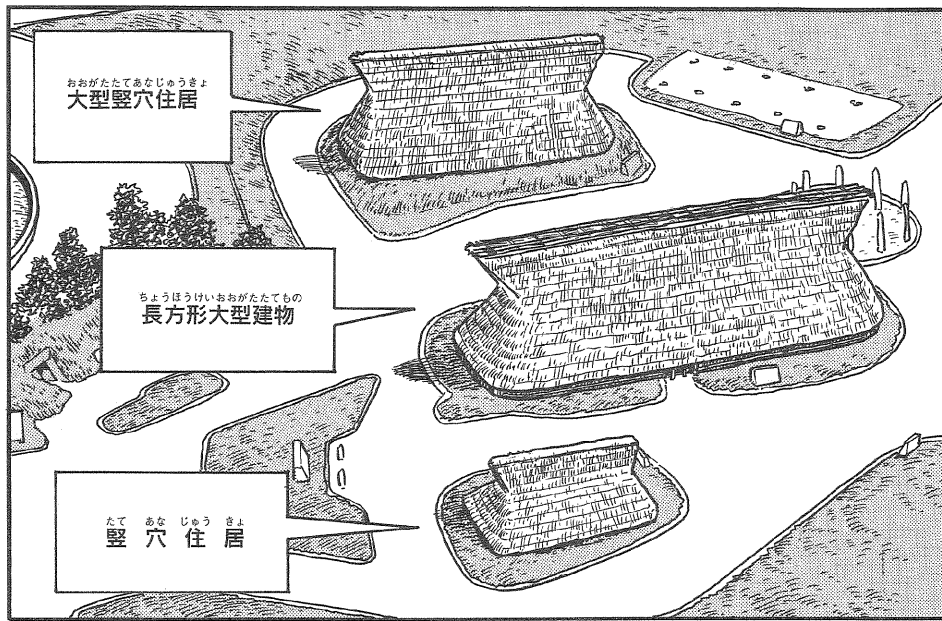
墓からは多くの
副葬品も出土
しておるぞ

へエ、縄文時代に
すでに埋葬の風習が
あったんですか……



とくに耳かざりや
玉類は全国的に
見ても一級のものだ

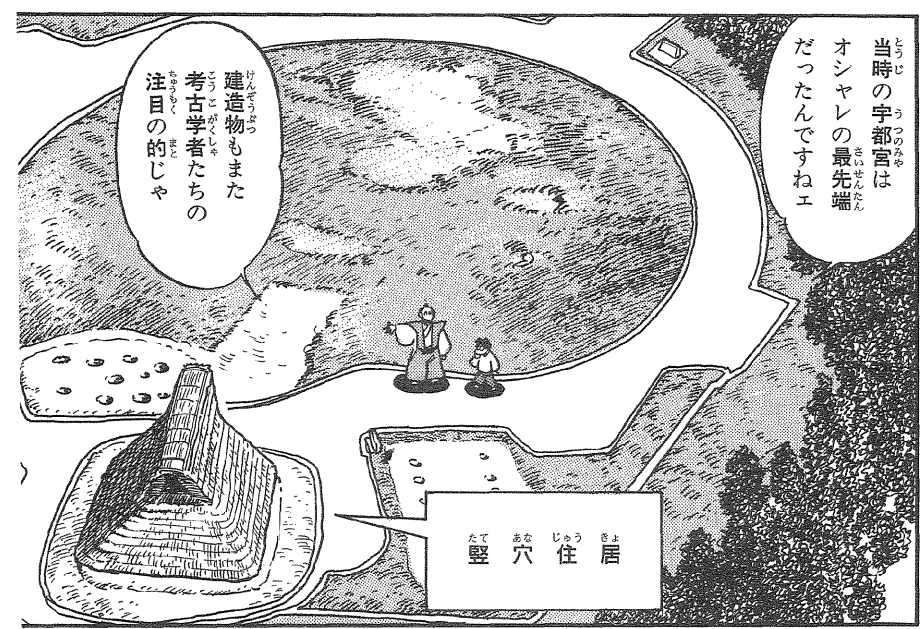
ふく そう ひん
副葬品のいろいろ



おおがたてあなじゅうぎよ
大型竪穴住居

ちようほうけいおおがたてもの
長方形大型建物

たて あな じゅう きよ
竪穴住居

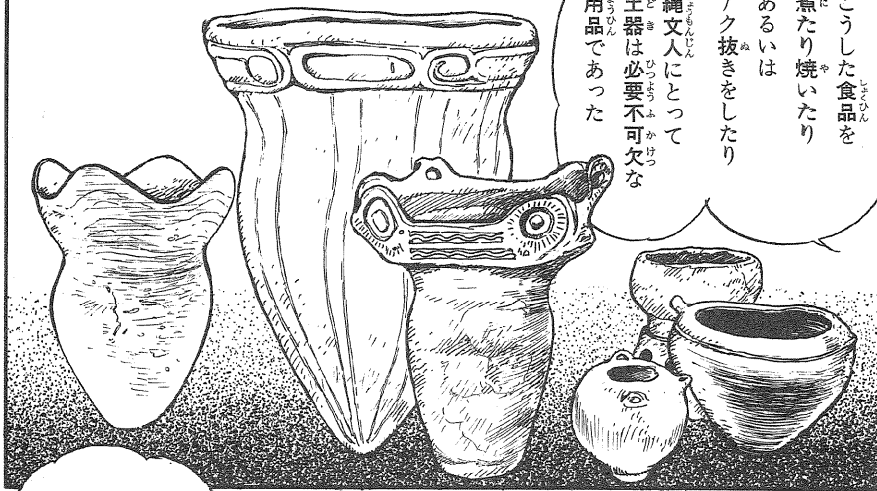


建造物もまた
考古学者たちの
注目の的じゃ

当時の宇都宮は
オシャレの最先端
だったんですねエ

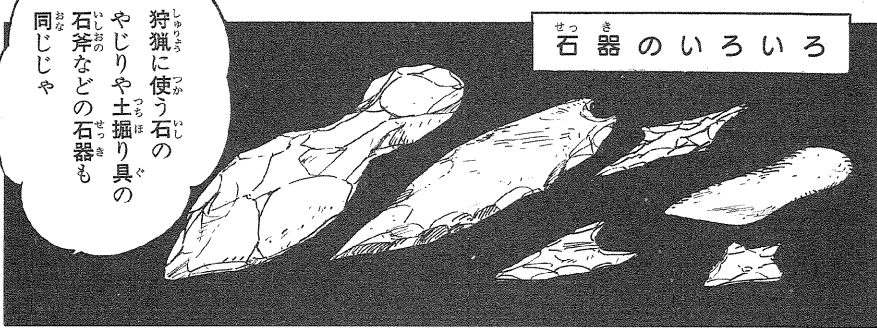
たて あな じゅう きよ
竪穴住居

縄文式土器のいろいろ



こうした食品を煮たり焼いたりあるいはアク抜きをしたり縄文人にとって土器は必要不可欠な用品であった

石器のいろいろ



狩猟に使う石のやじりや土掘り具の石斧などの石器も同じじゃ

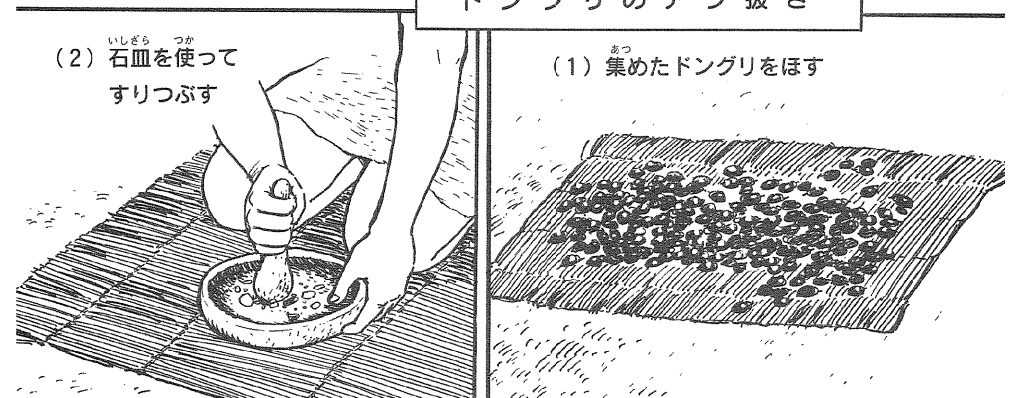
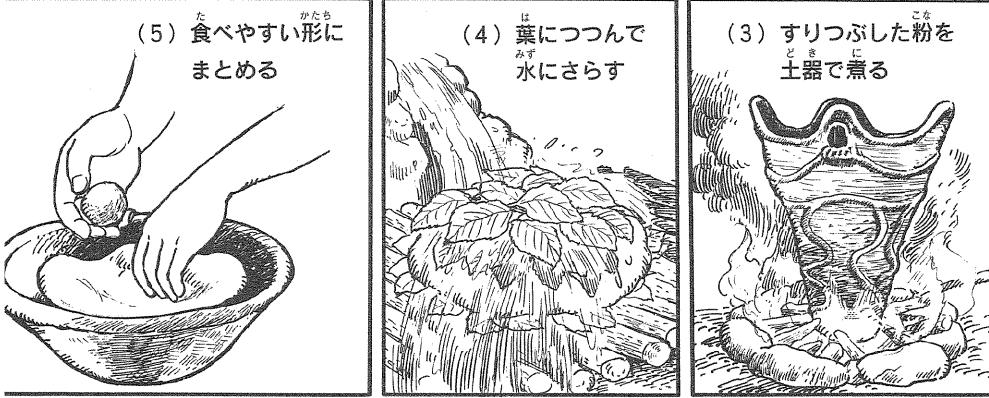
縄文人の食料のいろいろ



ちよっとその食文化を見てみよう

彼らの生活は現代人が考えるよりはるかに文化的で健康的だったのじゃ

ドングリのアク抜き



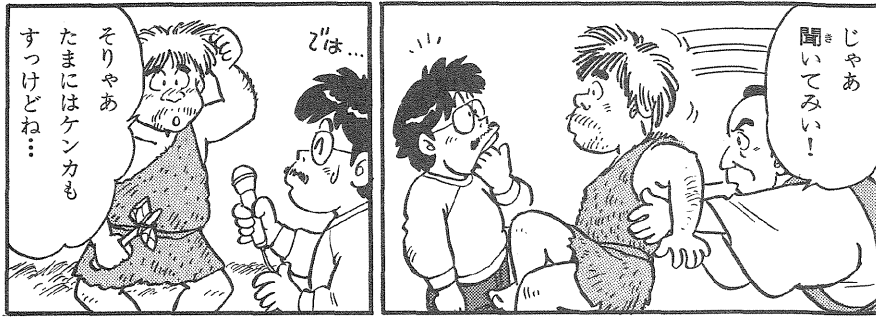
(5) 食べやすい形にまとめる

(4) 葉につつんで水にさらす

(3) すりつぶした粉を土器で煮る

(2) 石皿を使ってすりつぶす

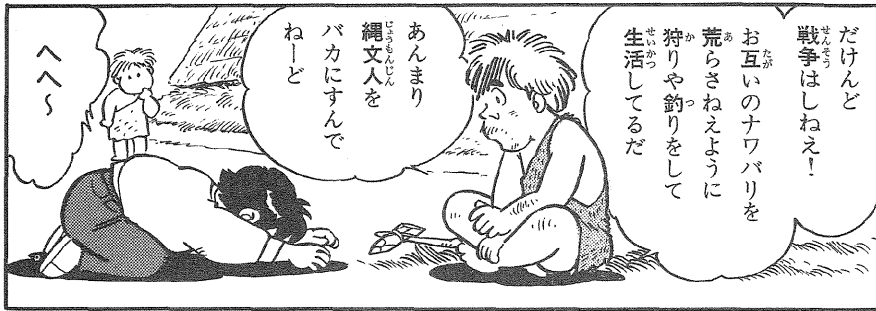
(1) 集めたドングリをほす



そりゃあ
たまにはケンカも
すつけどね…

ごは…

じゃあ
聞いてみい!



だげんと
戦争はしねえ!
お互いのナワバリを
荒らさねえように
狩りや釣りをして
生活してるだ

あんまり
縄文人を
バカにすんで
ねーと

へへ

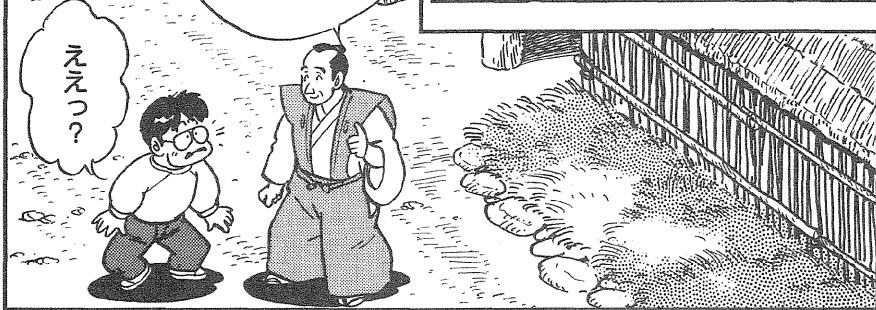


戦争もなく栄養の
バランスもこれ
大気汚染も川の
汚れもない

うーん
空気は澄んでいて
森林浴の毎日…
まさに理想郷だ

さらに驚いたことに
彼ら縄文人は
情報交換の場である
自治会のようなものを
持っていたようだし

地域ごとに他の
集落との物の取り引きや
合同祭りなども
していたらしいぞ



ええっ?



すばらしい!
じつにすばらしい
縄文人はぼくらの
想像をはるかに超えた
知恵の民族だった
わけですね!

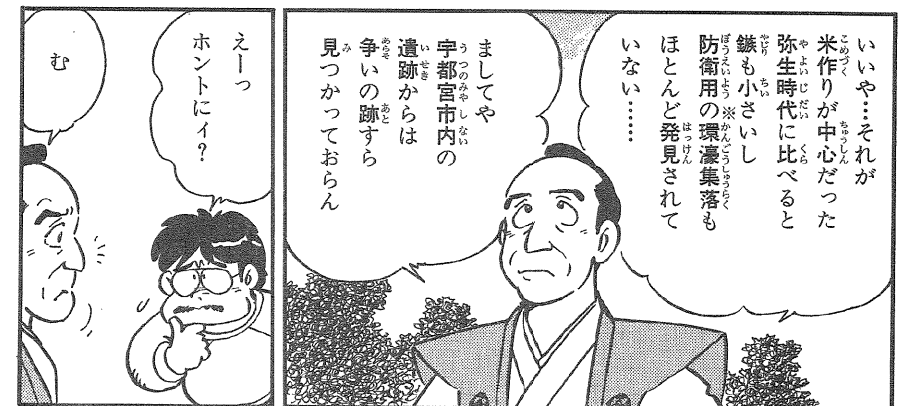


酒もつくって
いたらしいぞ

ちよ…ちよっと
待って下さいよ

それほどの
民族ならば
他のムラ・部族との
争いもけっこう
起きていた
はずですよ

おっと
へーっ
こりゃビラも



えーっ
ホントにイ?

ましてや
宇都宮市内の
遺跡からは
争いの跡すら
見つかっておらん

いや…それが
米作りが中心だった
弥生時代に比べると
鎌も小さいし
防衛用の環濠集落も
ほとんど発見されて
いない…

※環濠集落…住居のまわりに溝をめぐらせた集落で、溝は外敵から守るためにつくられた



また
当時の男女を
図式化すれば

…となり、
それぞれ
神聖化されて
いたのじゃ

すくなくとも
今の時代よりは
男女平等といえる
よな……

くーっ、
縄文人に生まれ
変わりたいッ



いいのか？
そんな事を
言っても……

縄文人には
大人になるための
こんな習慣が
あったのだぞ

げっ！
抜歯？！

え？



こうした肉体的
精神的試練をへて
はじめて大人と
認められたのじゃ

それに、
縄文時代の
生活には
致命的な
弱点があった

今まで学んだ
ことから
よく考えて
みるがよい

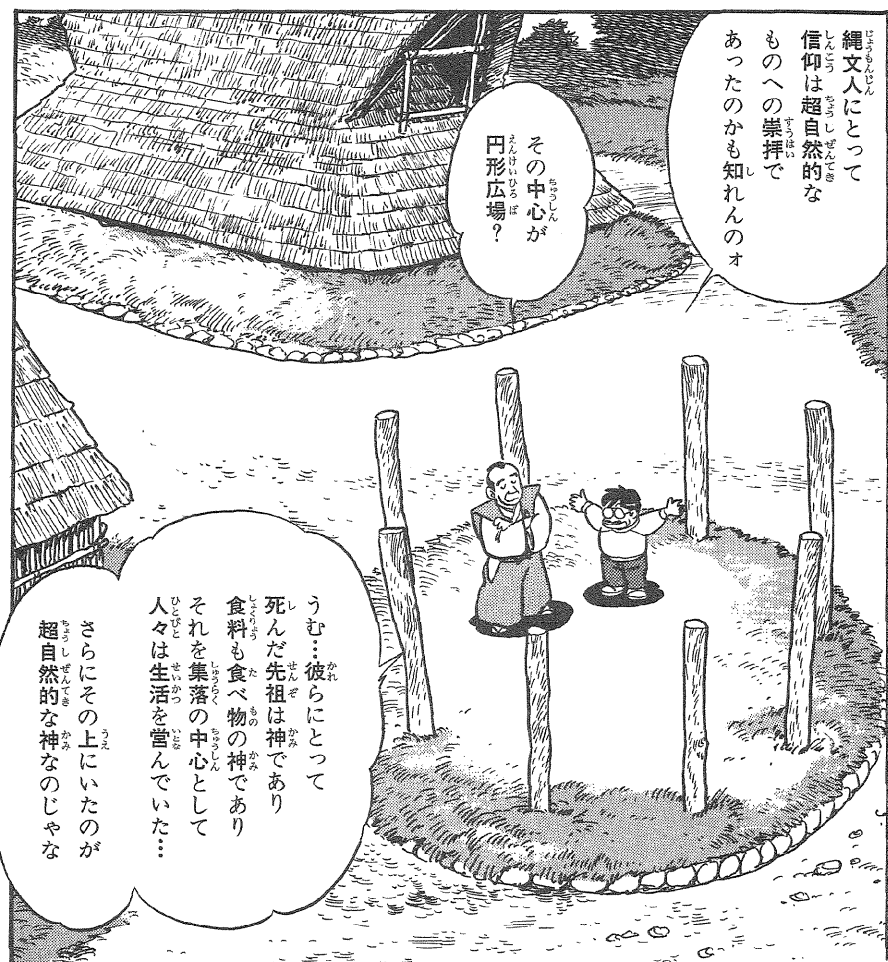
あれ？
何が弱点
なんだろ？

え？



この根古谷台は
べらやらの地域の
交流センターの役目を
果たしておった
ようなのじゃ

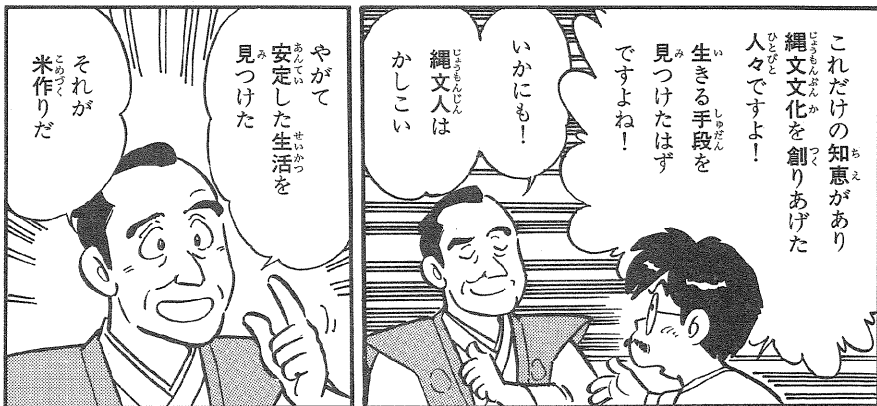
へええ

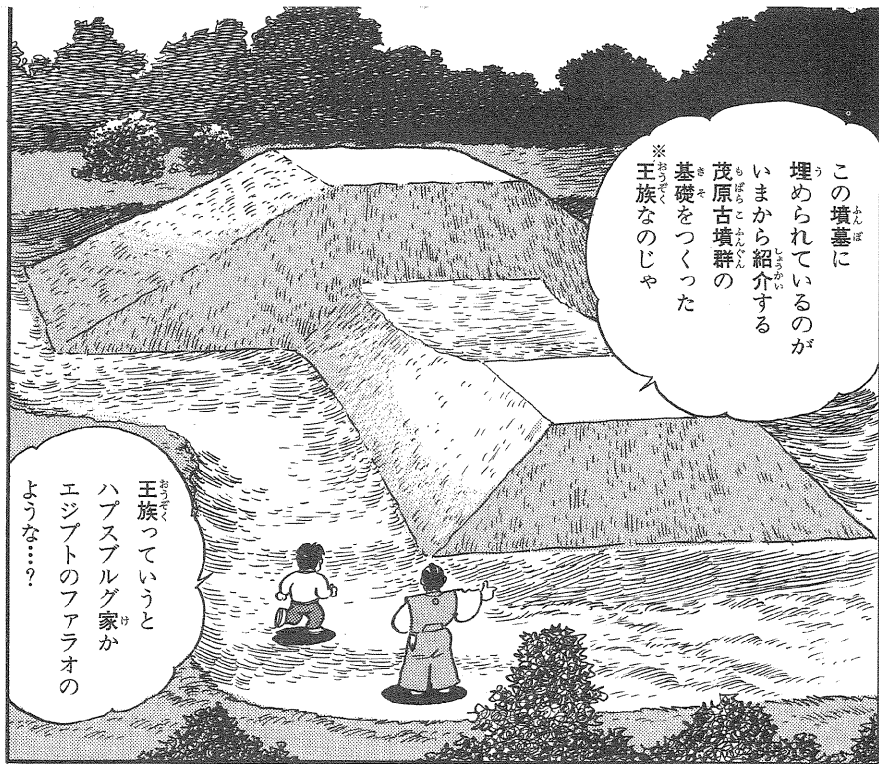


縄文人にとって
信仰は超自然的な
ものへの崇拜で
あったのかも知れんのか

その中心が
円形広場？

うむ…彼らにとって
死んだ先祖は神であり
食料も食べ物の神であり
それを集落の中心として
人々は生活を営んでいた…
さらにその上にいたのが
超自然的な神なのじゃな





この墳墓に埋められているのが、いまから紹介する茂原古墳群の基礎をつくった王族なのじゃ

王族っていうとハプスブルグ家がエジプトのファラオのような…?



いや、正確にいうなら部族長というか…中小企業の社長というか…

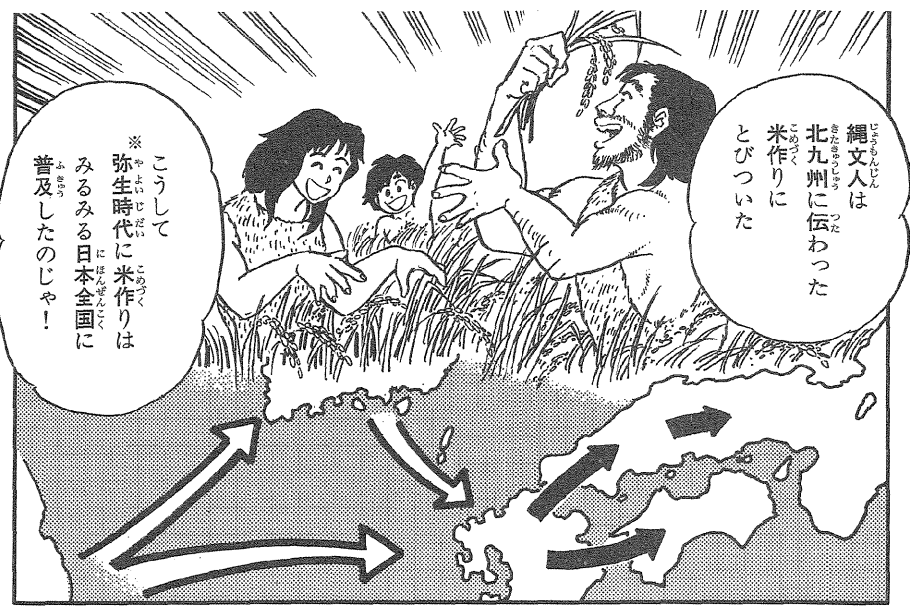
と、いつても、当時は現代から比べると人口が極端に少ない

古墳時代に小さくても自分たちの国家文化を持つという事は画期的なことだった



この王族を仮に河内王族と称しておこう……この王族は弥生時代の農耕を中心とした部族とは少し毛色が変わっておってな

毛色がちがうという外国人…?



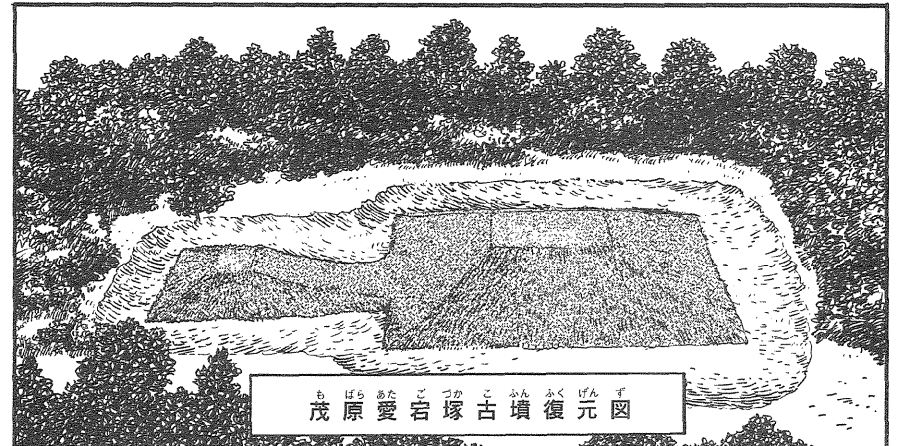
縄文人は北九州に伝わった米作りにとびついた

こうして弥生時代に米作りはみるみる日本全国に普及したのじゃ!



さて…米作りのあとは國の統一であるその象徴が古墳じゃ宇都宮最古といわれる茂原の古墳群を見にまいろうではないか

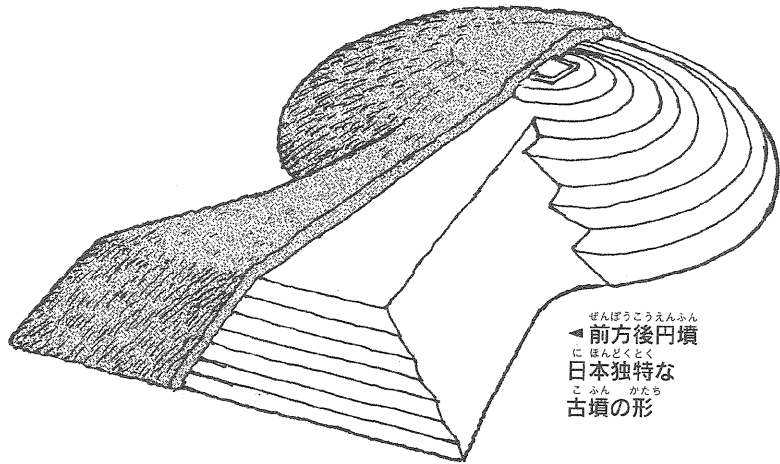
はい、ようやく、君平先生の分野というわけですね



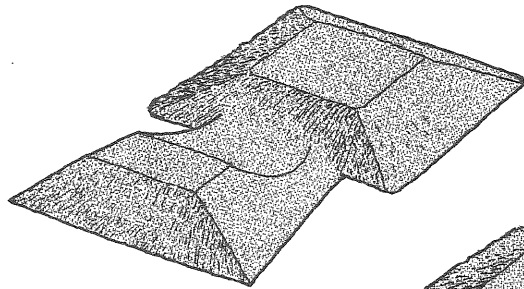
茂原愛宕塚古墳復元図

※弥生時代…稲作が始まり、青銅器・鉄器が普及した時代。紀元前三世紀から紀元三世紀中頃まで

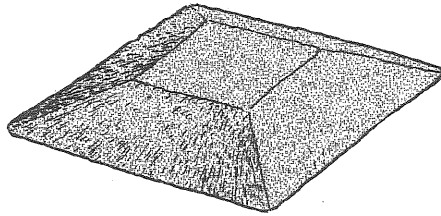
古墳の形と造られた時代



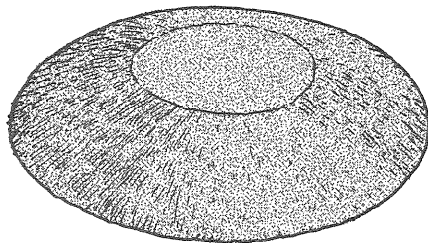
前方後円墳
日本独特な古墳の形



前方後方墳
栃木県では古い時代に多く見られる形



方墳
古墳時代の始めと終わりに見られる形



円墳
古墳の大部分を占める形



よくそんな古い型の生活で王族が形成できましたねエ

米作りもあまりさかんでなく縄文的な伝統を継承した王族であつたと

関西方面によく見られる環濠集落や方形周溝墓もみられず

※方形周溝墓：周囲を四角の溝で囲んだお墓。弥生時代から出現する。本市では古墳時代のものが発見されている



そこじゃ！

おそらくこの王族は東海や南関東の王族とは系統を異にした部族であつたのじゃろう
だからこそ独自の文化を築くことができたといえるのではないだろうか！

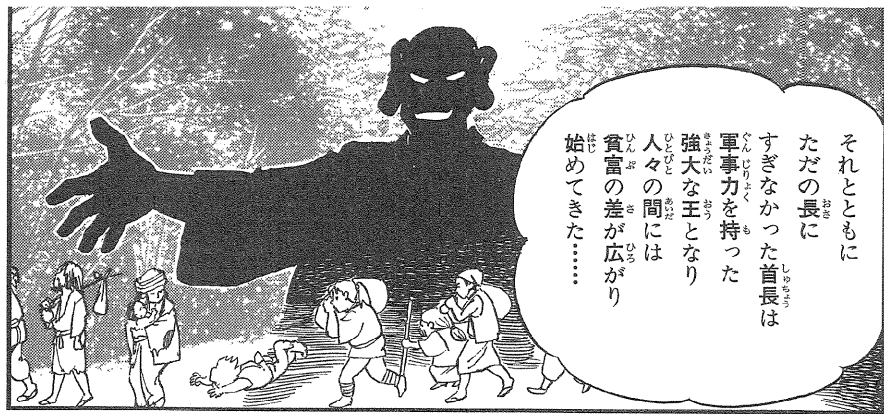


とにかく河内王族は古い！

前方後方墳という形からみても茂原古墳群は

下野国最古の古墳那須郡小川町の駒形大塚古墳と同じ時代、四世紀中頃の建造物なのじゃ！

茂原大日塚古墳



それとともに
ただの長に
すぎなかつた首長は
軍事力を持った
強大な王となり
人々の間には
貧富の差が広がり
始めてきた……

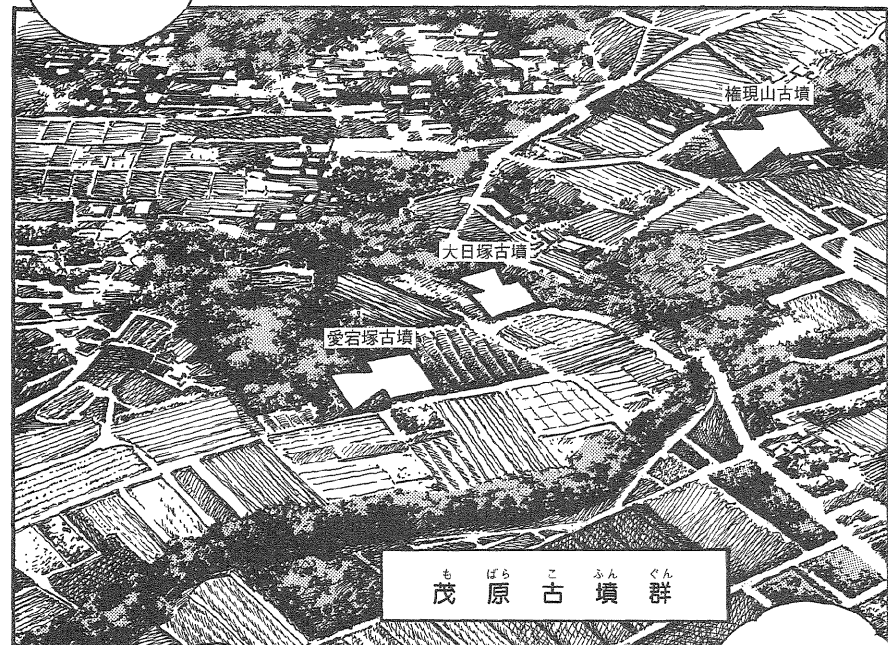


首長の力は
絶対だったの
ですか？

いや

独裁者ではない……
集落の長
あるいは祭りのときの
神王ぐらゐの役目だった
という者もおる

この王族が築いたのが
茂原古墳群の
大日塚、愛宕塚、権現山
古墳なのじゃ！



その王族のあとに
大和の政権が
下野國に侵入してきた
というわけですね

そうじゃ！
大和の政権の進出とともに
前方後方墳は姿を消し
前方後円墳と
なるのじゃよ



いよいよ
身分制度の
きざしが……

さよう



鏡 獣 神 帝 文 画



これは
大和政権に従った
無言の証明じゃ

茂原古墳群の次の世代
宇都宮市雀宮の
牛塚古墳からは
日本に二三面しか
ないとされる
鏡が出土している

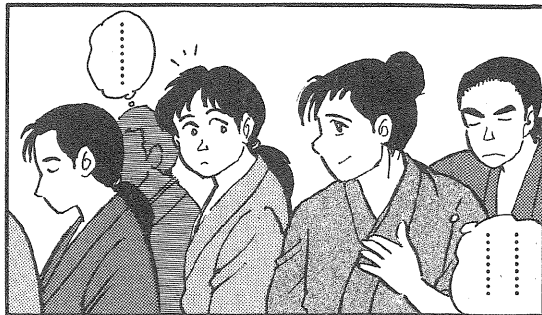


古墳はこのあと
何世紀ぐらゐまで
造られたのですか？

うん

ひや
一〇〇年！

ほう一〇〇年！
七世紀前後までじゃ



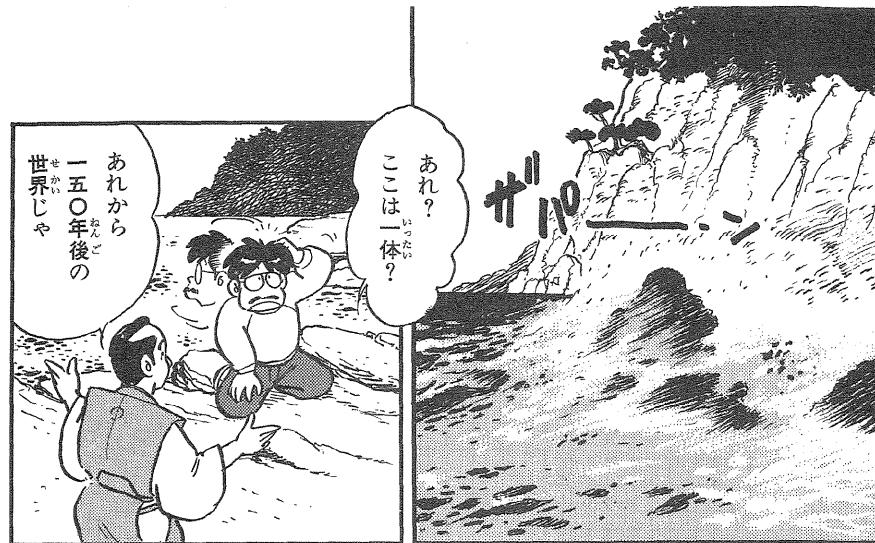
国々の防人つどひ船乗りて
別るを見ればいと為方無し

（防人の出身地が同じであっても
数が多いために別々の船に
乗せられたのであろう
しかも分乗した同郷の仲間と
一度別れてしまおう
任地は必ずしも同じでは
なかった）



こうして旅立つ
防人たちを見ると
なんだか律令制に
ハラがたちますね

歴史はあやまちと
失敗をくり返しつつ
お主たちの時代に
たどりついた……
その祖先の
足跡を知ることが
このマンガの目的
ではないか



あれから
一五〇年後の
世界じゃ

あれ？
ここは一体？



中央では
大宝律令が
制定され
平城京に
政府が移されて
間もない頃だ

ということは
奈良時代！



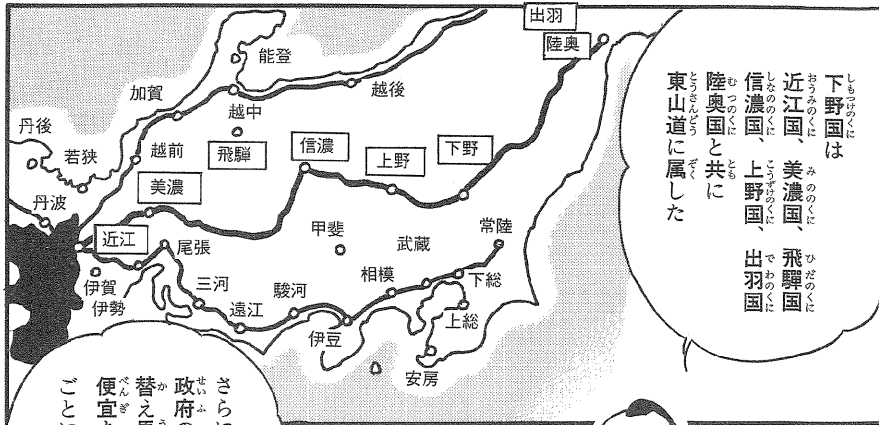
下野国で召集され
筑紫（九州）へ向かう
防人の兵士たちの
ようじやな



うむ……

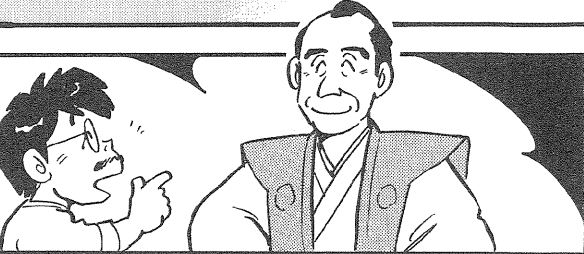


?!

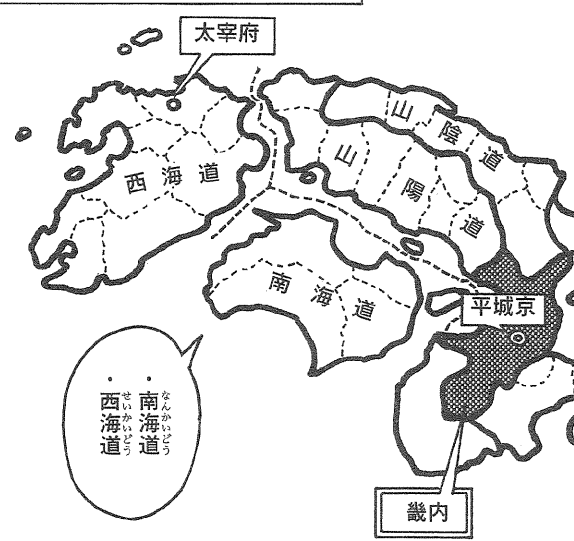


下野国は
近江国、美濃国、
信濃国、上野国、
陸奥国と共に
東山道に属した

さらに下野国では
政府の役人の
替え馬、食事、宿泊の
便宜を図るため一六キロ
ごとに七つの駅家を設けた
でしょ？



八世紀の行政区分



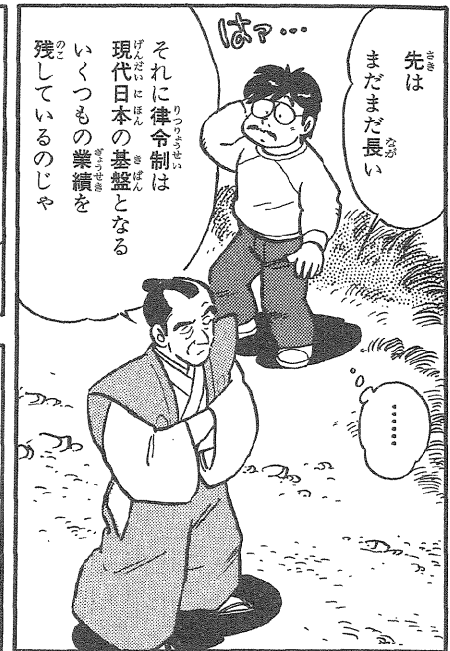
律令制の整備される以前の本県域には
下毛野国と那須国があったが
七世紀後半には下毛野国に統合され
八世紀はじめには下野国と改められた



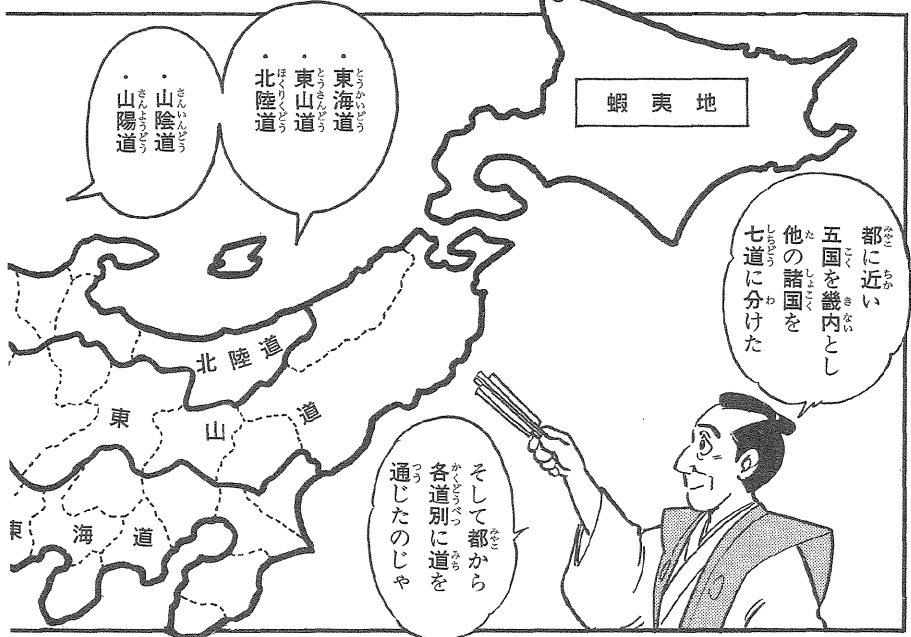
東山道
ですね
行政のしくみの整備も
そのひとつじゃ



うむ！
政府は
中央と地方の連絡の
円滑化をはかるため
七道を設置した

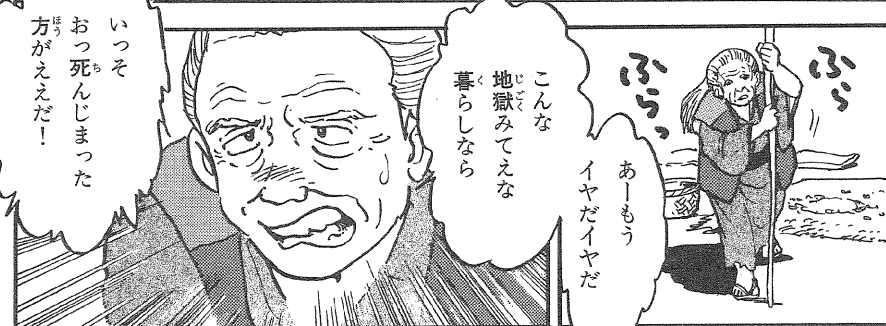


は？...
先は
まだまだ長い
それに律令制は
現代日本の基盤となる
いくつもの業績を
残しているのじゃ

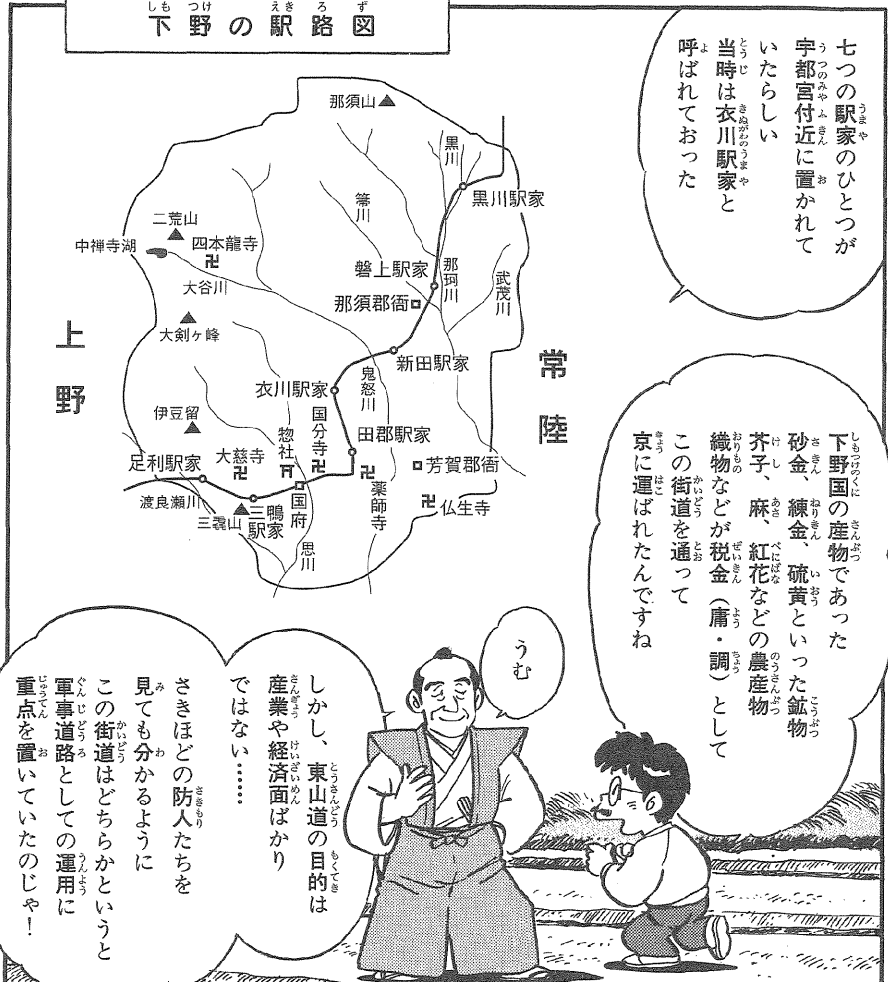
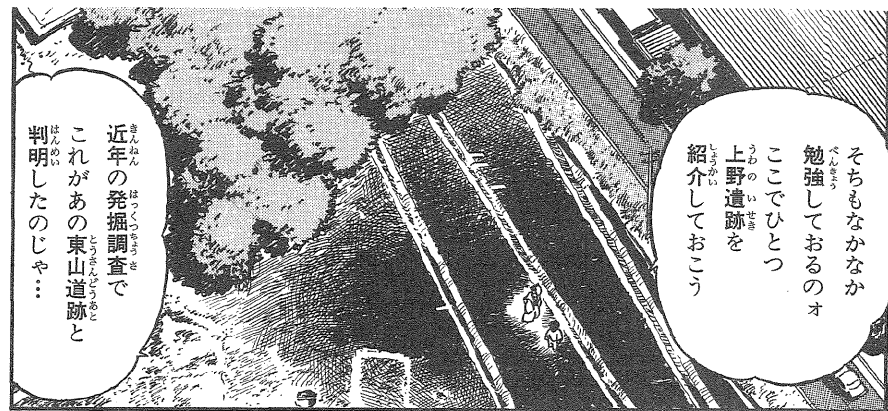


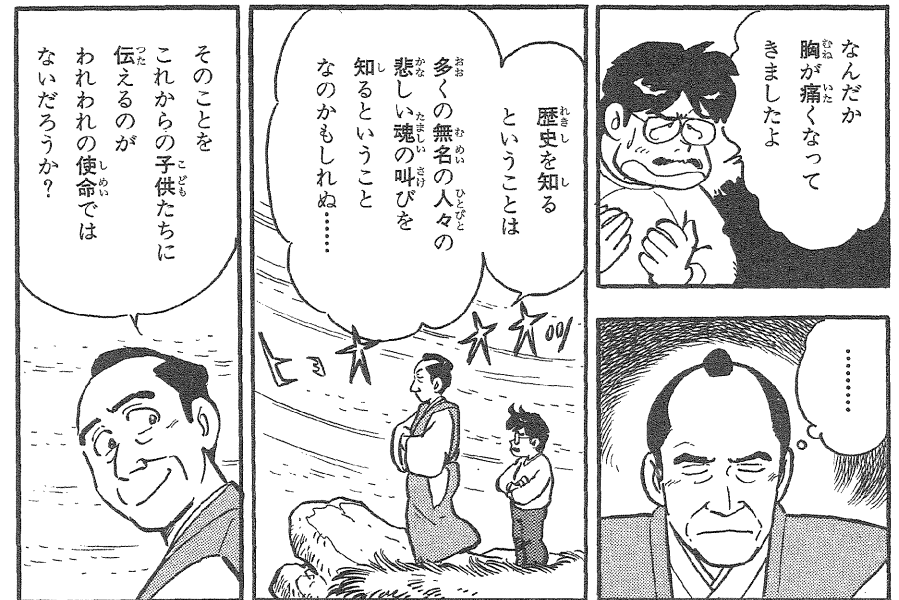
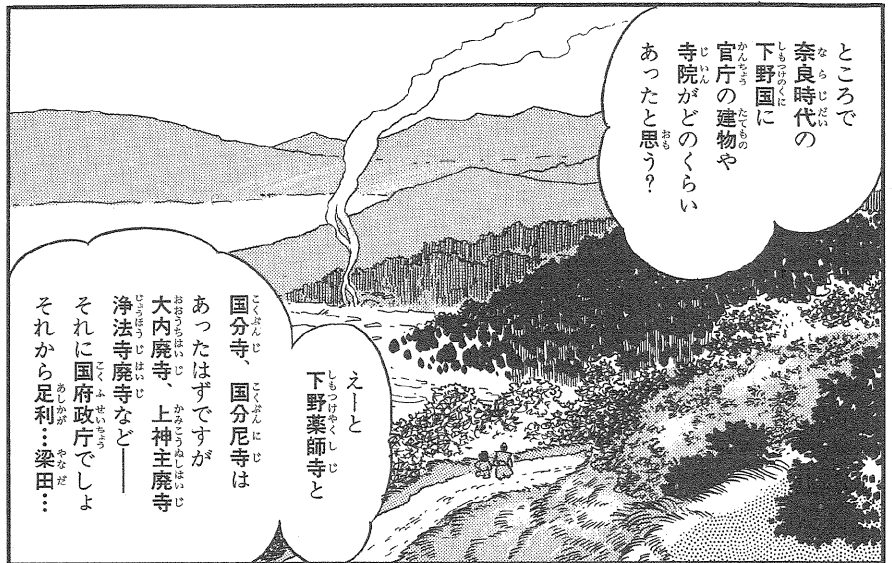
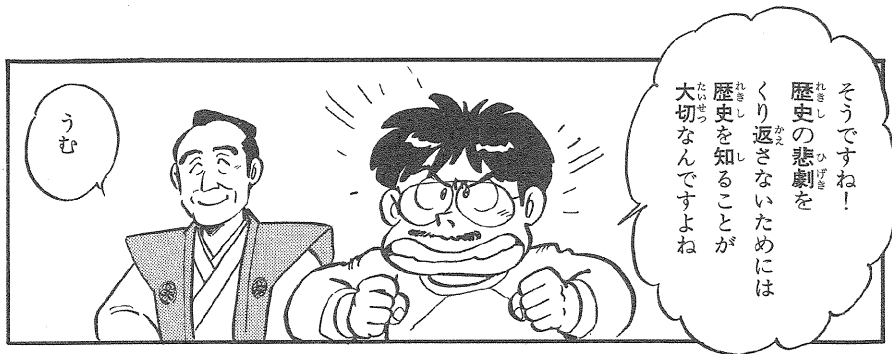
山陰道
山陽道
北陸道
東山道
東海道
南海道
西海道

都に近い
五国を畿内とし
他の諸国を
七道に分けた
そして都から
各道別に道を
通じたのじゃ



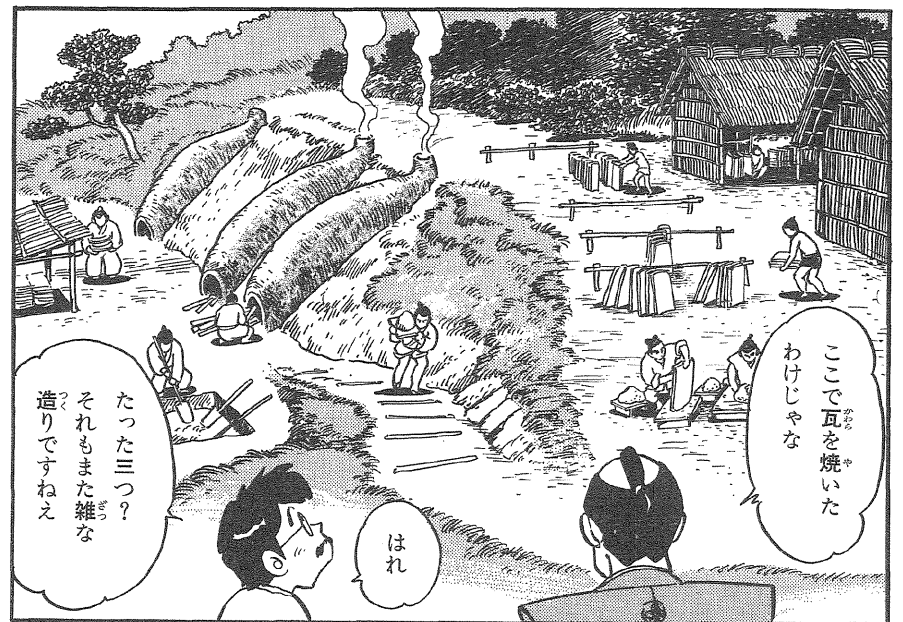
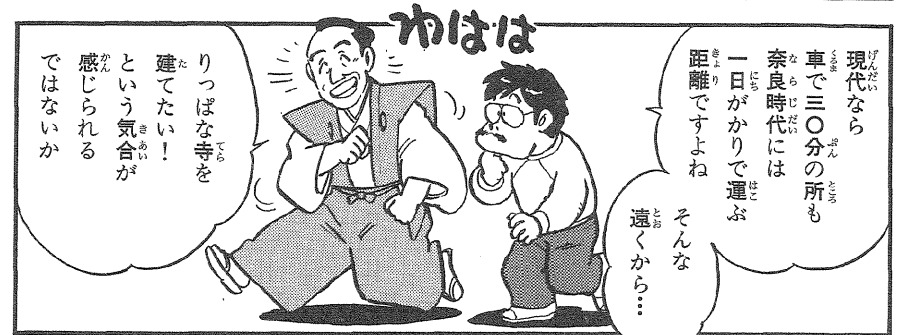
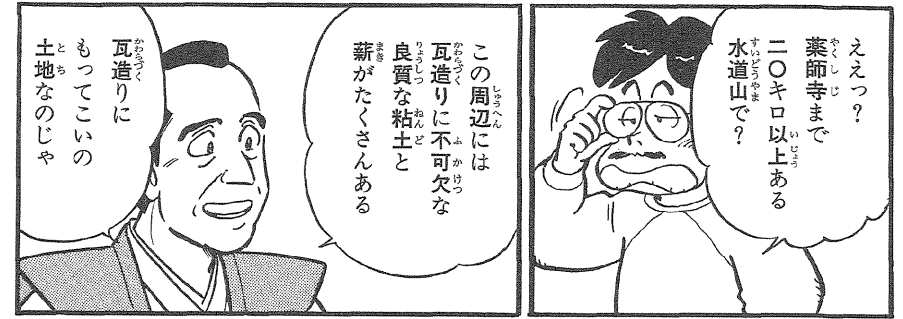
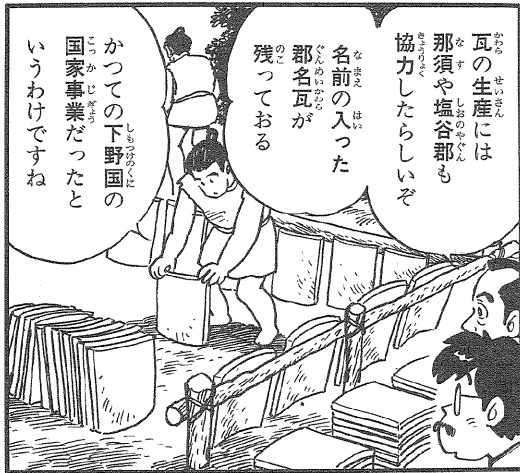
※蝦夷…東北地方にいた律令政府に従わない人達

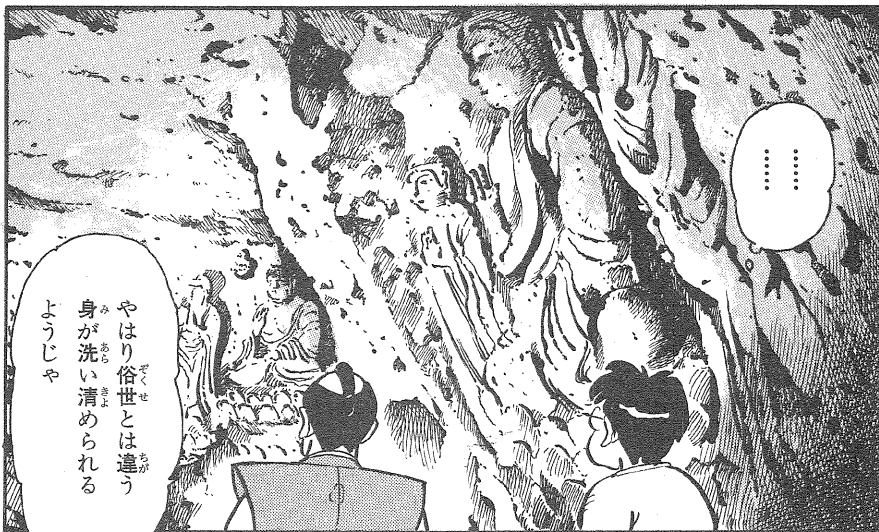
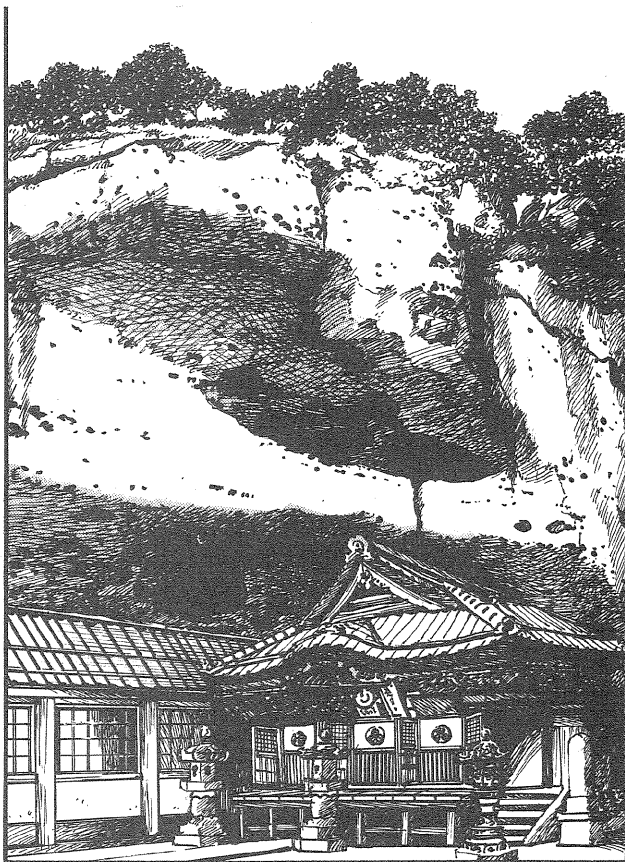
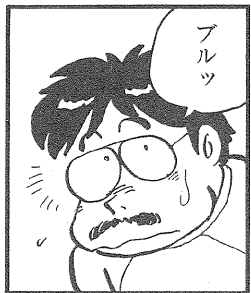


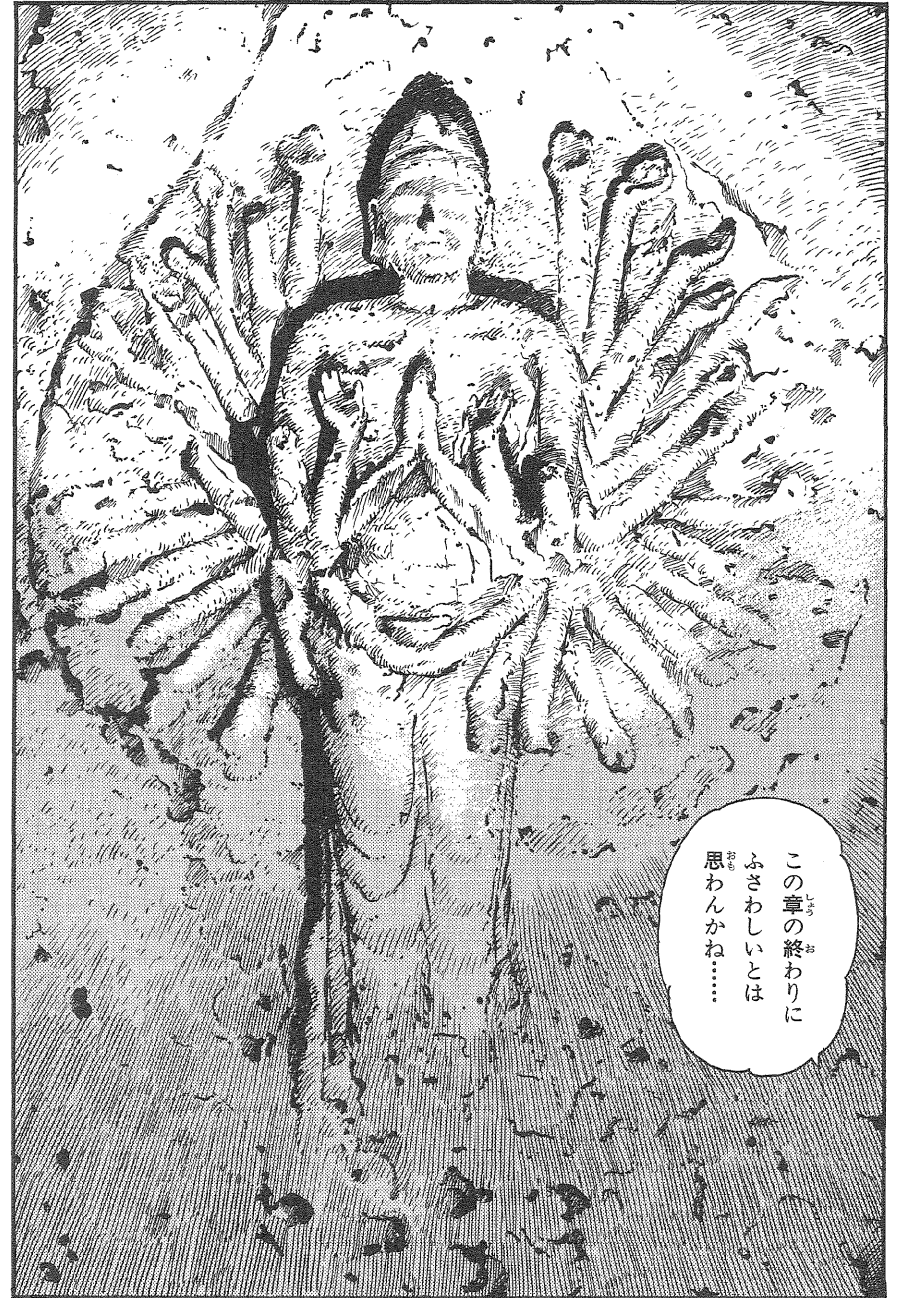


※三世一身の法…開墾を申し出て耕作した土地を三世代にわたって私有を認めた法律
※墾田永年私財法…開墾を申し出て三年以内に耕作すれば永久の私有を認めた法律

すい どう やま や かわら
水道山で焼かれた瓦





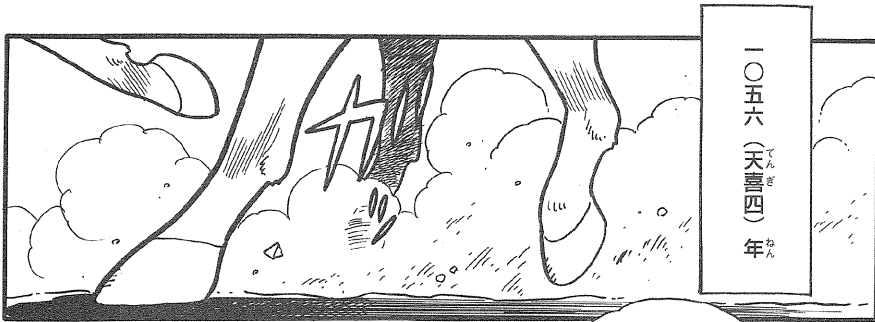


この章の終わりに
ふさわしいとは
思わんかね……

だい しょう ちゅう せい
第二章・中 世



ちゅう せい の う つ の みや じょう そう ぞう ず
中世の宇都宮城想像図



一〇五六(天喜四)年



またやけに
大所帯な
軍勢ですね
どこの豪族
ですか？

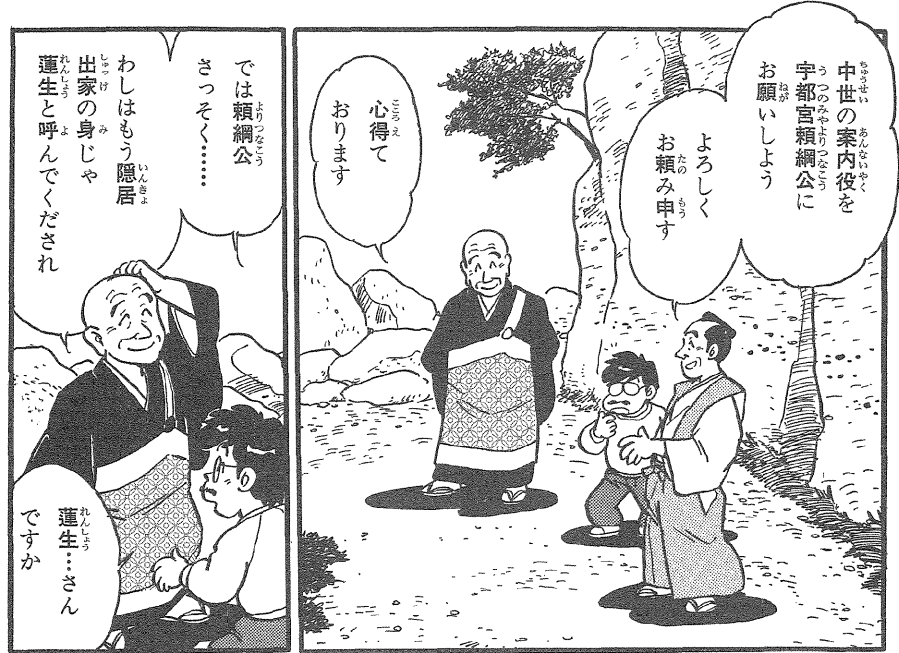
織を
みてみよ



あ…白旗だ！
つてことは
源氏だな

うむ…大將は
陸奥守源頼義殿

陸奥の
安倍頼時討伐…
前九年の役「じゃ



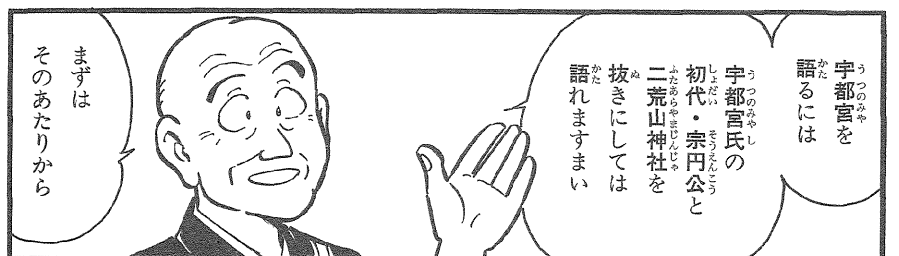
中世の案内役を
宇都宮頼綱公に
お願いしよう

よろしく
お頼み申す

心得て
おります

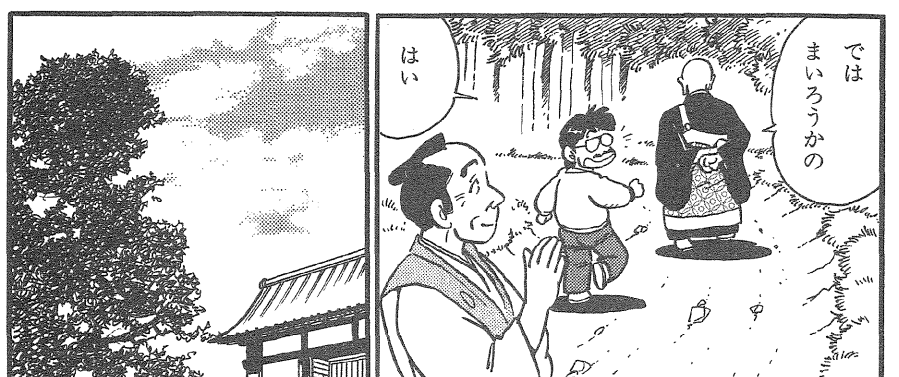
では頼綱公
さっそく…
わしはもう隠居
出家の身じゃ
蓮生と呼んでくだされ

蓮生…さん
ですか



宇都宮を
語るには
宇都宮氏の
初代・宗円公と
二荒山神社を
抜きにしては
語れますまい

まずは
そのあたりから

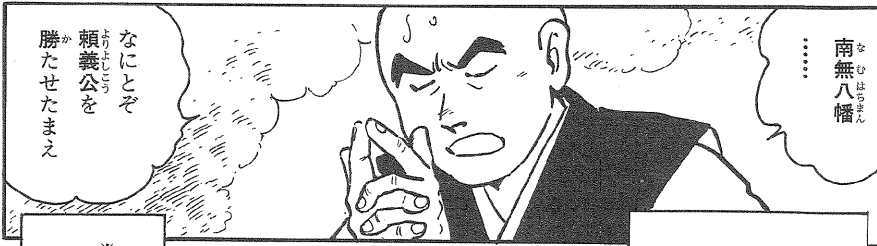


では
まいろうかの

はい



宗円は氏家郷勝山の
釜が淵をのぞむ小高い丘の
いただきに護摩壇を設け
安倍頼時調伏の
祈ごとをはじめた

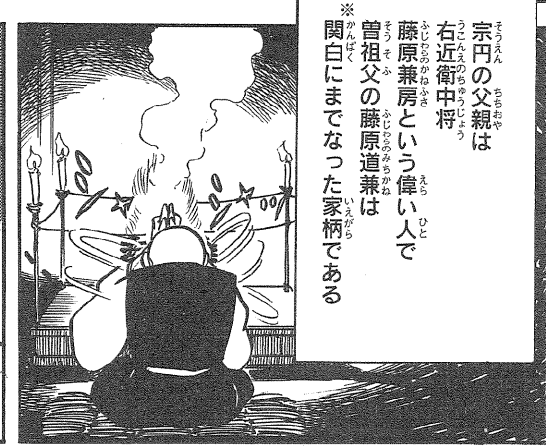


南無八幡
……

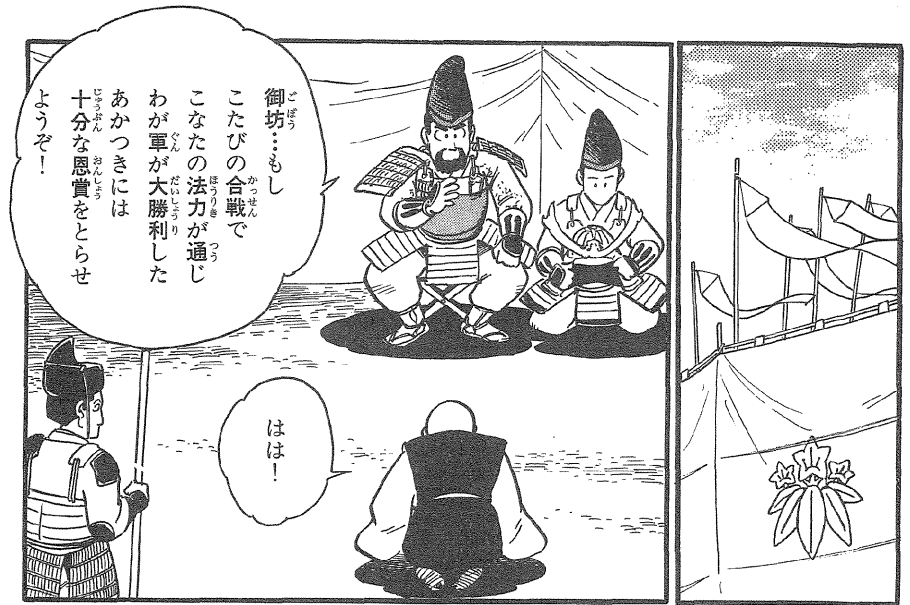
なにとぞ
頼義公を
勝たせたまえ



※彼自身もまた
石山寺の座主で
あった……



宗円の父親は
右近衛中将
藤原兼房という偉い人で
曾祖父の藤原道兼は
関白にまでなった家柄である



御坊…もし
こたびの合戦で
こなたの法力が通じ
わが軍が大勝利した
あかつきには
十分な恩賞をとらせ
ようぞ！

はは！



ありがとう
存じます！



頼義
こなたに悪い
ようにはせぬ

こなたの曾祖父
藤原道兼公には
わが源氏一門
ひとかたならぬ
ご恩を受けた身



え…意外に
若いですね

あの御坊が
宇都宮氏の初代
宗円公じゃ



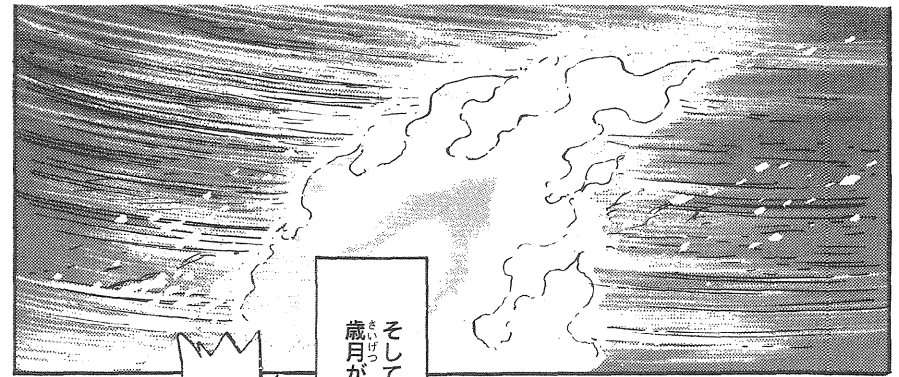
うむ！

必ずや
わが法力を
お役にたてて
みせましよう

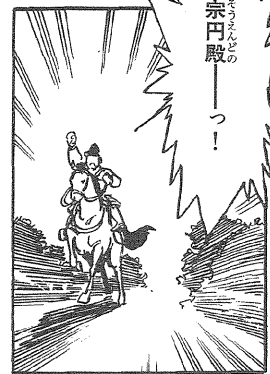


こうして
源氏の大勝利の恩賞として
宗円は宇都宮大明神
(二荒山神社)の
神領の支配をまかされ

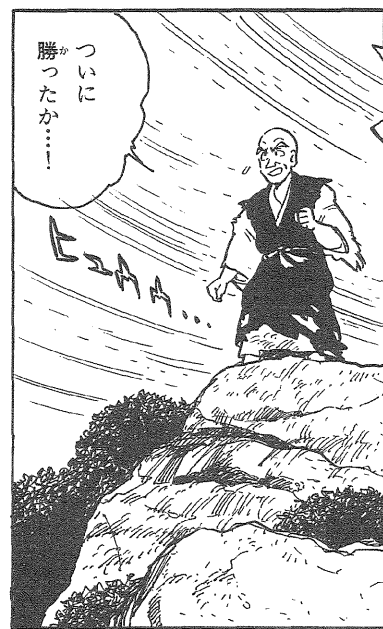
鬼怒川流域の下野国の
中央から東部
常陸国西南部の一部の
土地を手におさめた



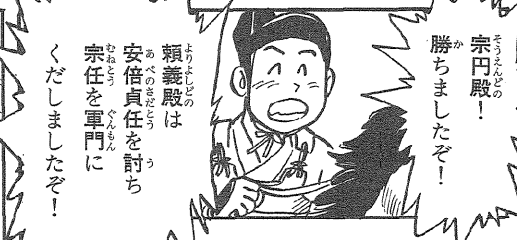
そして六年の
歳月が流れた



宗円殿——っ！



ついに
勝ったか……！

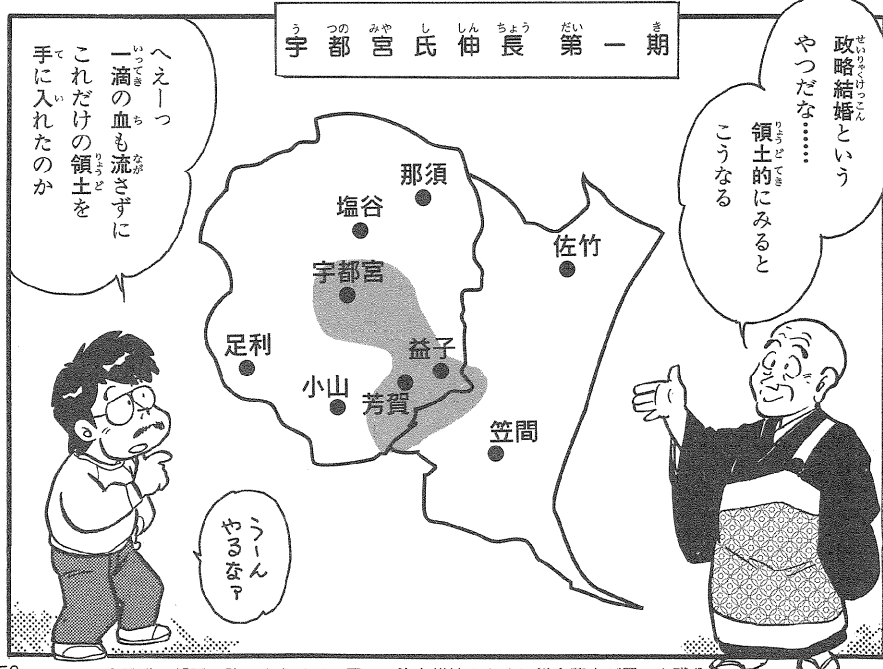
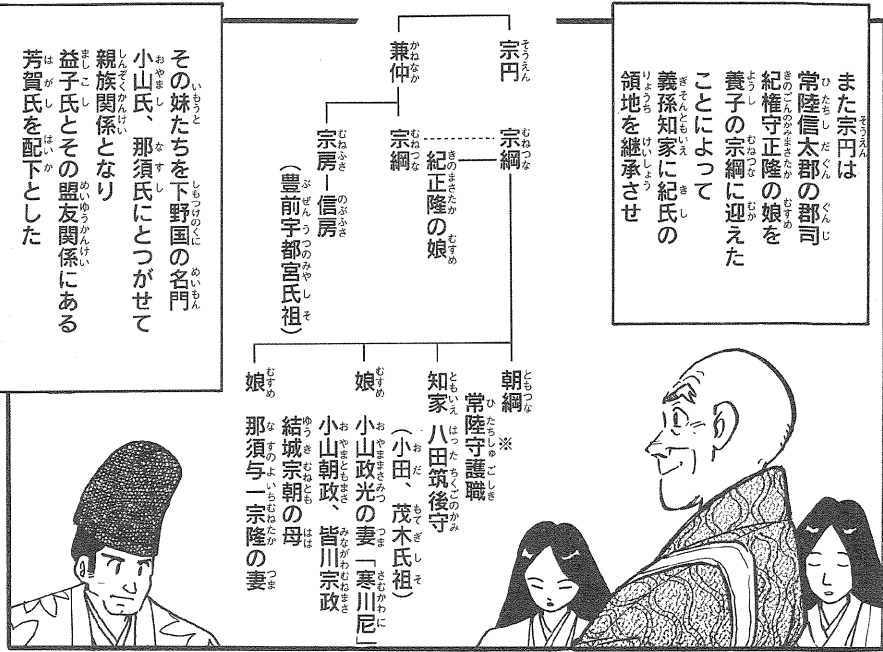


宗円殿！
勝ちましたぞ！

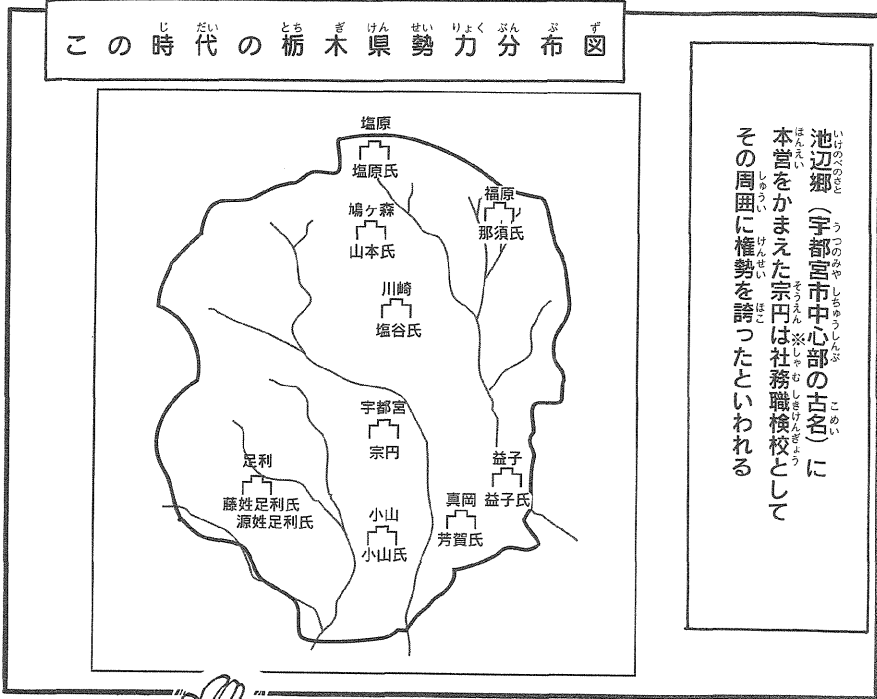
頼義殿は
安倍貞任を討ち
宗任を軍門に
くだしましたぞ！



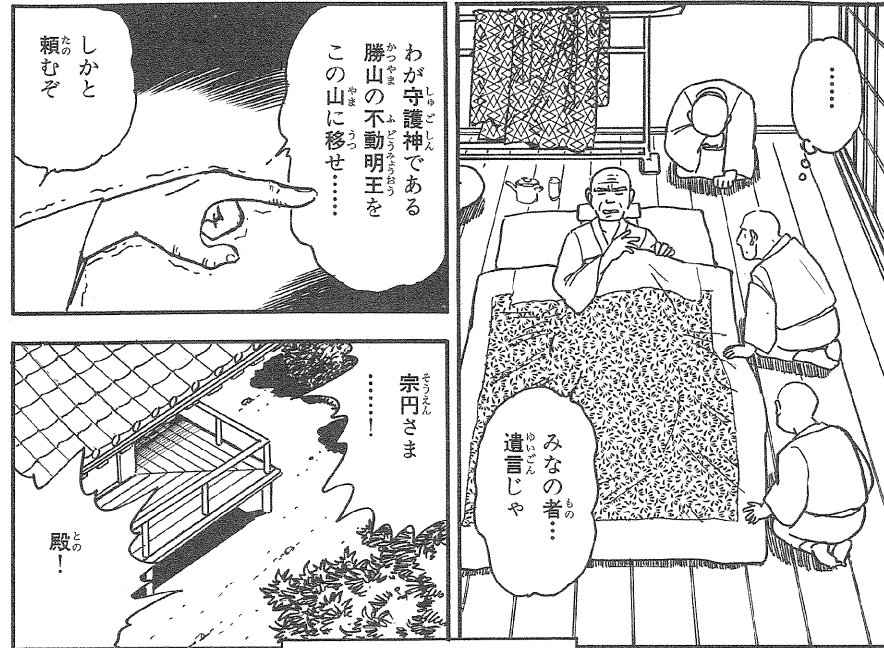
そうか……



※守護職…朝廷の許しをうけて、国々の治安維持のために鎌倉幕府が置いた職分



※社務職検校…神社の最高責任者(社務職)と附属寺院の責任者(検校)を兼ねたもの



しかと頼むぞ

わが守護神である
勝山の不動明王を
この山に移せ……

宗円さま

みなもの者……
遺言じゃ

殿！



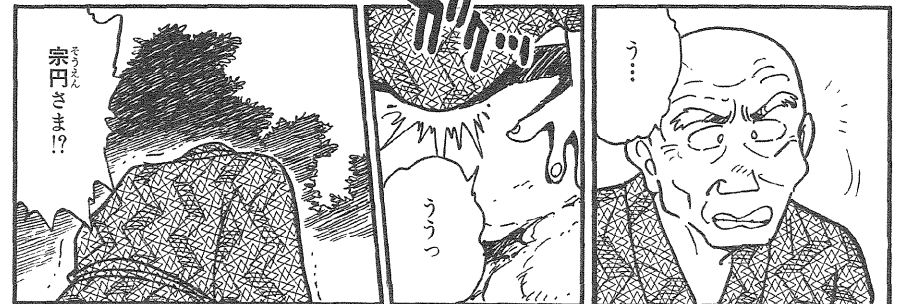
宗円の遺言か！
宇都宮をまもる
執念というか
なんと……

その後
勝山の不動明王は
宗円の遺言とおり
多気山持宝院に
移された

ぜんげん ざい げん たい げん ぶ とう ぜん
現在の多気不動尊



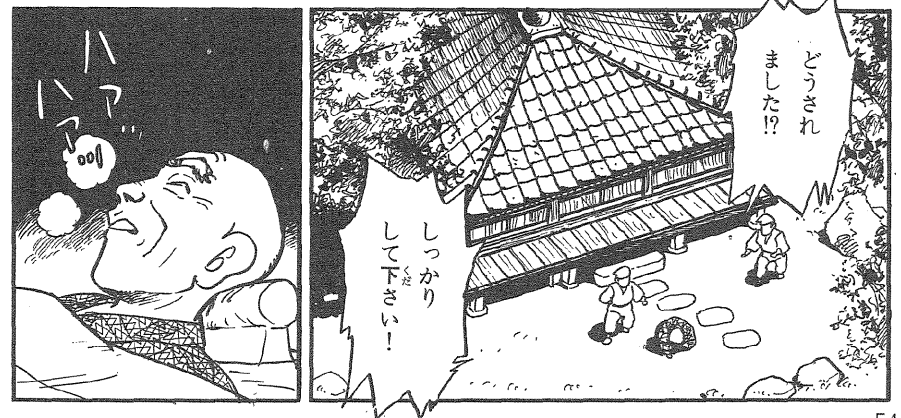
晩年の宗円は
宇都宮城下を見下ろす
多気山に隠居館を建て
そこで暮らしたと伝えられている



宗円さま……

カクカク

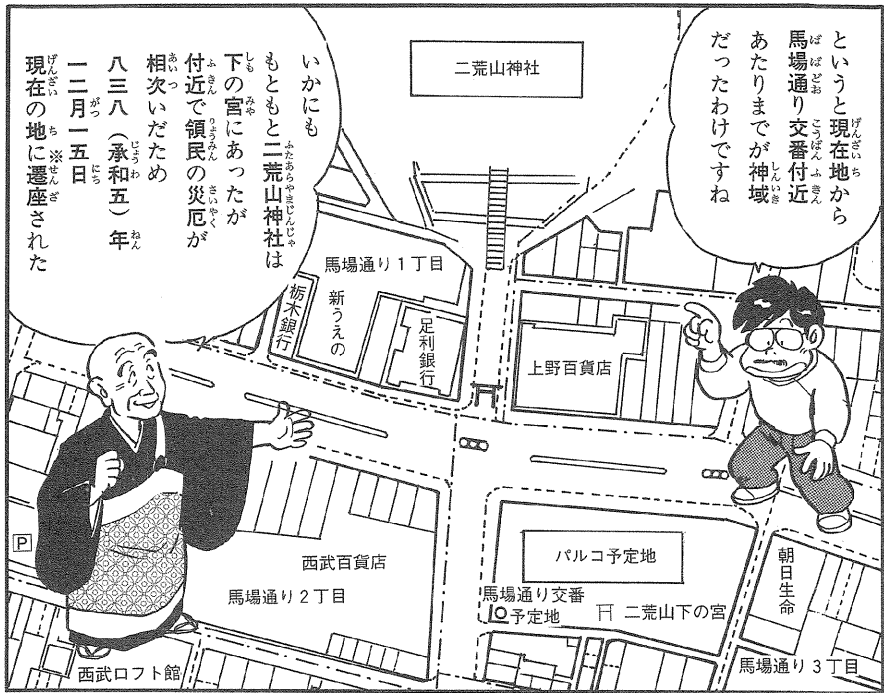
ううう



ハハハ

しっかりと
してやうぞー！

どうされ
ました！



いかにも
もともと二荒山神社は
下の宮にあったが
付近で鎮民の災厄が
相次いだため
八三八（承和五）年
一二月一五日
現在の地に遷座された

と、いうと現在地から
馬場通り交番付近
あたりまでが神域
だったわけですね



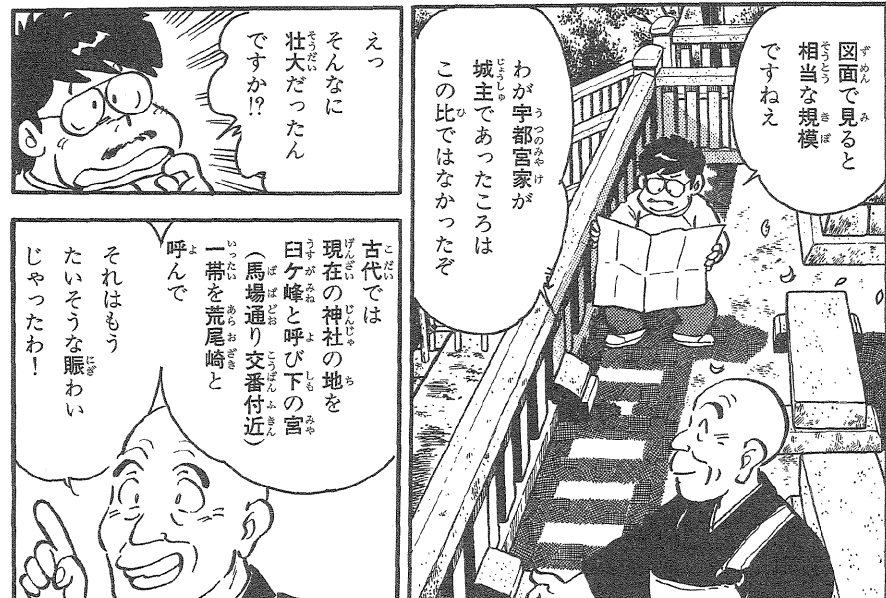
その遷座のなごりが
毎年一月と二月に
行われる
おたりやの
祭りなのじゃよ

なにせ下の宮と
二荒山神社は
ひとつの丘で
つながってあった
からの…



さてそれでは
宇都宮大明神…
おっと平成の世では
二荒山神社だったな

わが宇都宮家の
氏神である
この神社を案内
しておかねばな



図面で見ると
相当な規模
ですねえ

わが宇都宮家が
城主であったころは
この比ではなかったぞ

えっ
そんなに
壮大だったん
ですか!?

古代では
現在の神社の地を
白ヶ峰と呼び下の宮
（馬場通り交番付近）
一帯を荒尾崎と
呼んで
それはもう
たいそうな賑わい
じゃったわ!



かまくらしよだいしようぐん
"鎌倉初代将軍"
みなもとのとよとむ
源 頼朝



おうしゅうあべしとうぼつ
"奥州安倍氏討伐"の
みなもとのとよよし はちまん たろうよしえおやこ
源 頼義、八幡太郎義家父子



平 将門の乱"の
ふじわらのあそと
藤原秀郷



とくがわしよだいしようぐん
"徳川初代将軍"
とくがわいえや
徳川家康



やしまおうぎまと
"屋島の扇的"
なすのよいちむねたか
那須与一宗隆

なるほど
そうそうたる
メンバーですね



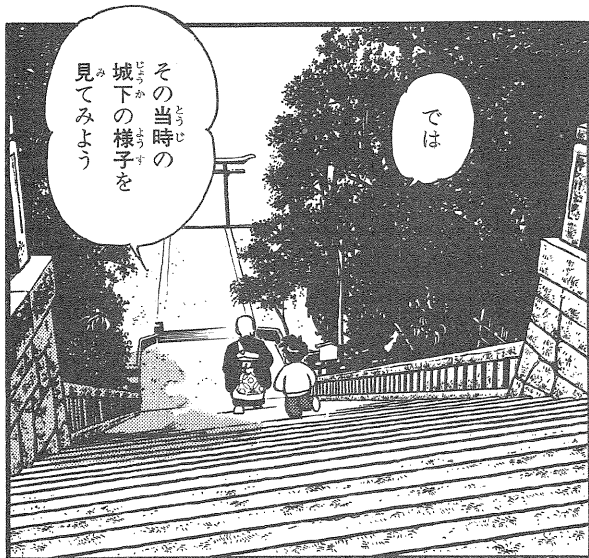
その通り!
"ザッライ!"
というと現在
二荒山神社に
祭られている...



ところで
二荒山神社の
由来は?
まじだ
二荒山神社に
祭られたおかたは
第一〇代崇神天皇の皇子
豊城入彦命!



豊城入彦命は父帝
崇神天皇の命令によつて
東国(関東・東北地方)を
平定し、荒尾崎の地に
御諸山の神・大物主命を祭り
高田畠(御本丸公園)の地に
御所を設けて
東北地方の蝦夷と隣接する
毛野国(栃木県・群馬県)を
統治した



その当時の
城下の様子を
見てみよう

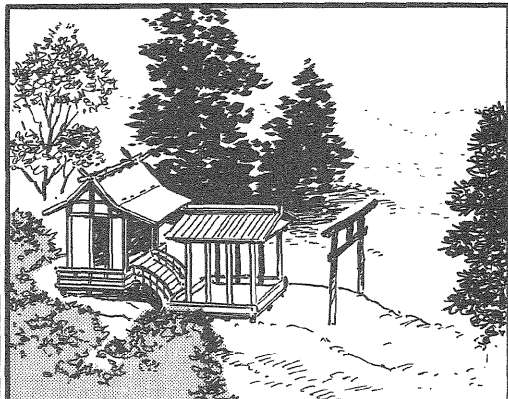
では



そして!
かくいう下野国
(栃木県)の武門の雄
わが宇都宮家じゃ
わかりました
わかりました



豊城入彦命は
武運長久の神
として
時代時代の
武将たちから
崇拝されてきた





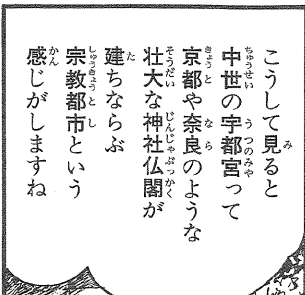
県庁前通りの郵便局
 NTT栃木支社
 県総合文化センター
 栃木放送のビル一帯は
 粉河寺の敷地の一部だった

いまの県庁は
 社家筆頭の
 中里市正邸



宇都宮の歴史は
 宇都宮氏を中心とした
 神社や仏閣の
 繁栄のうえに形成
 されてきたのじや

ました!
 まさに
 その通り!



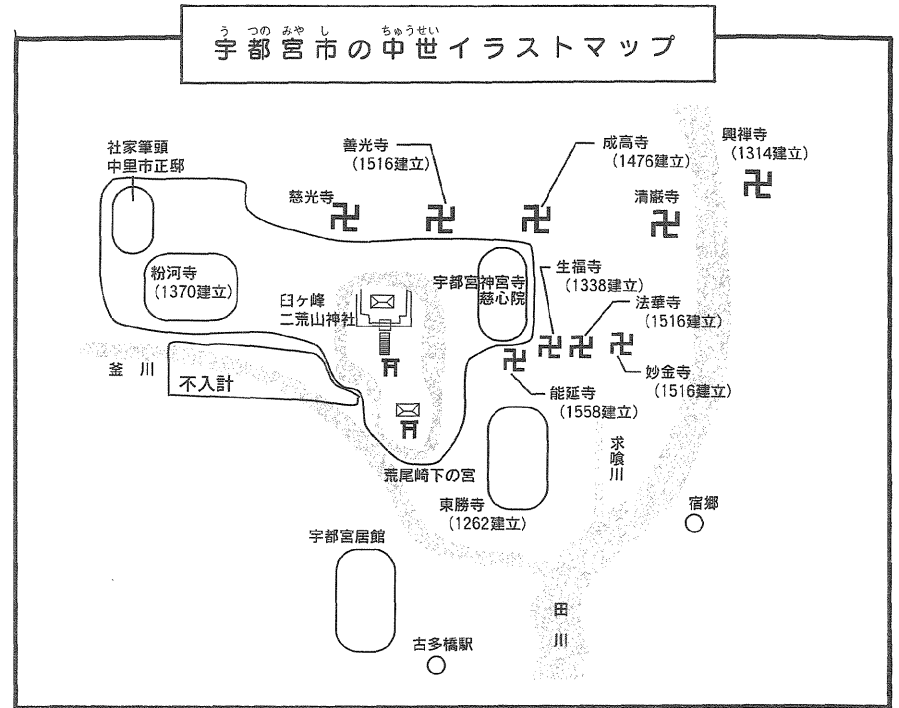
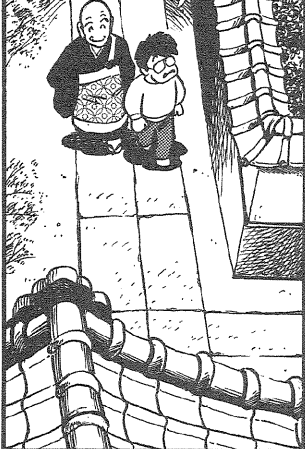
こうして見ると
 中世の宇都宮って
 京都や奈良のような
 壮大な神社仏閣が
 建ちならぶ
 宗教都市という
 感じがしますね



よからう



じゃあこのあとは
 これだけ大規模な
 文化を築いた
 宇都宮氏の
 実情にみるごとく
 迫ってみますか

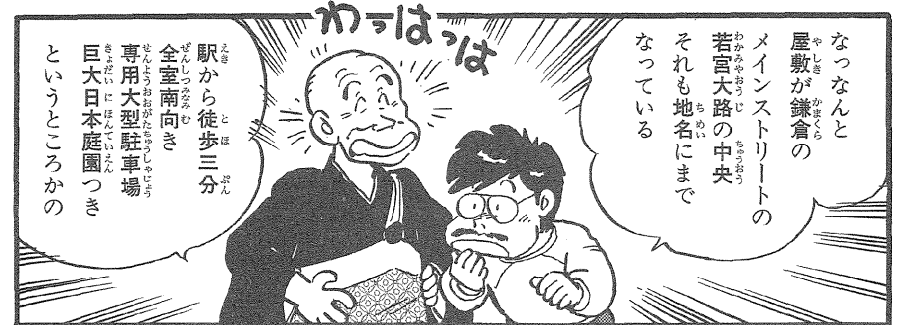
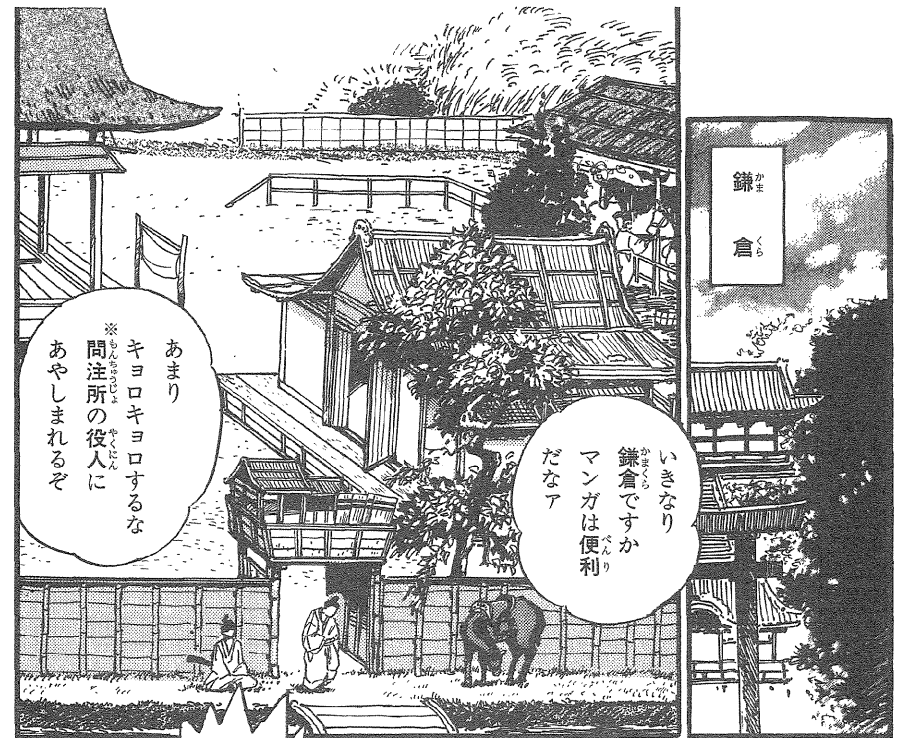
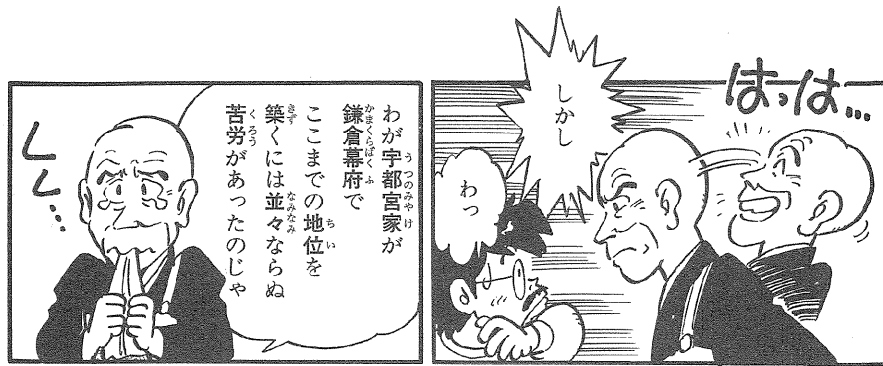


東勝寺が
 宇都宮氏の氏寺
 といわれ

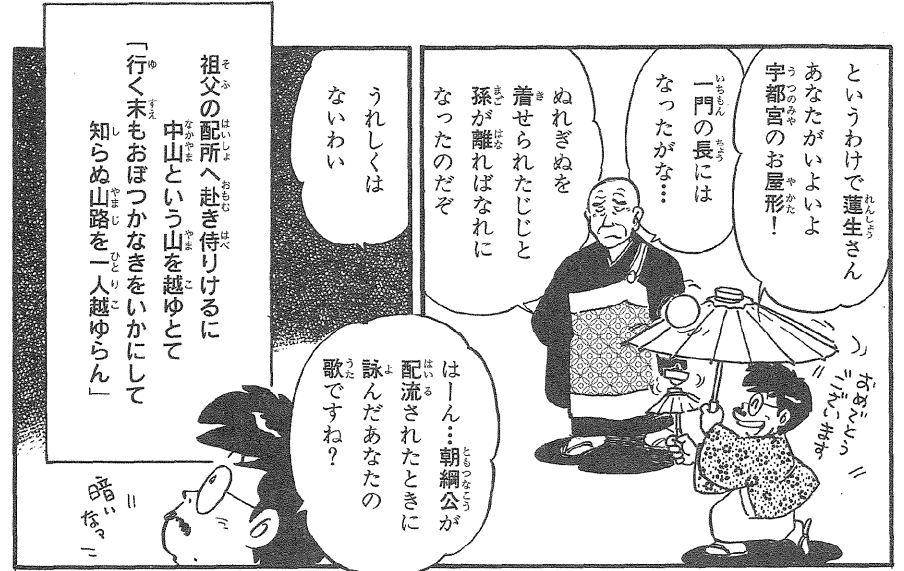
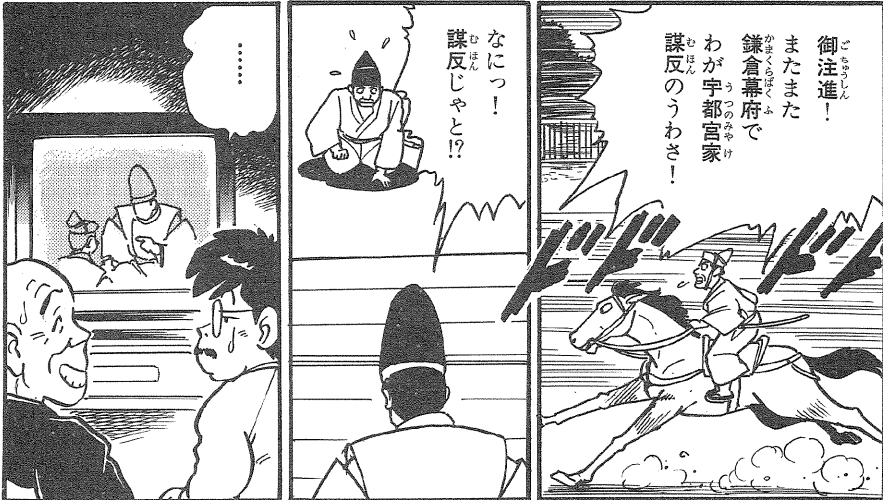
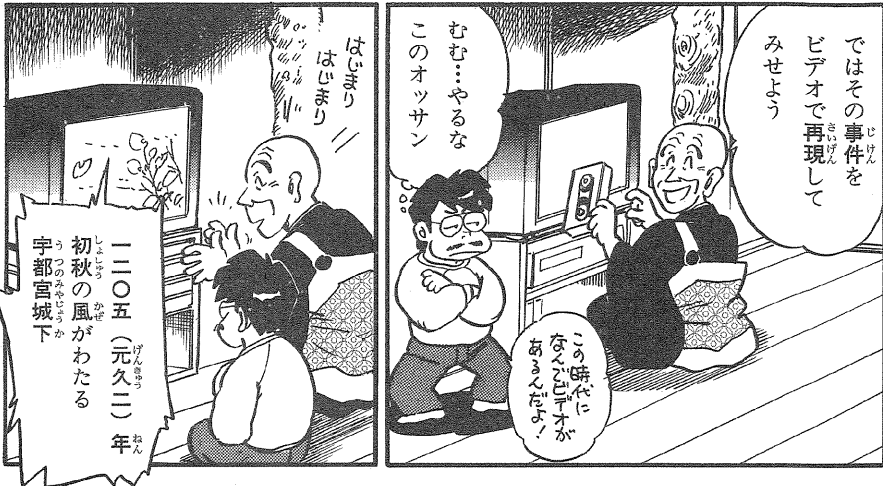
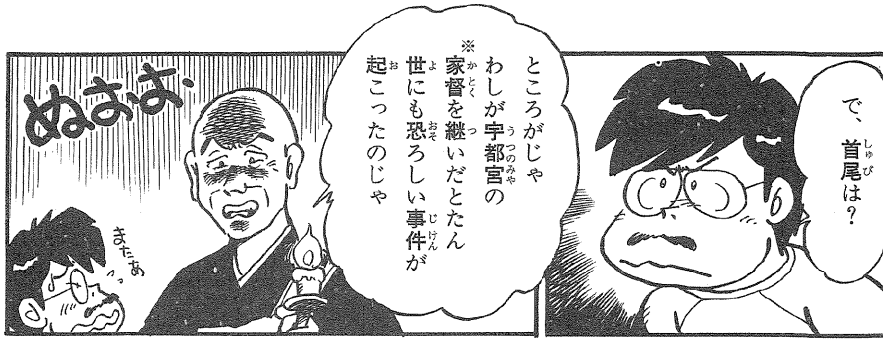


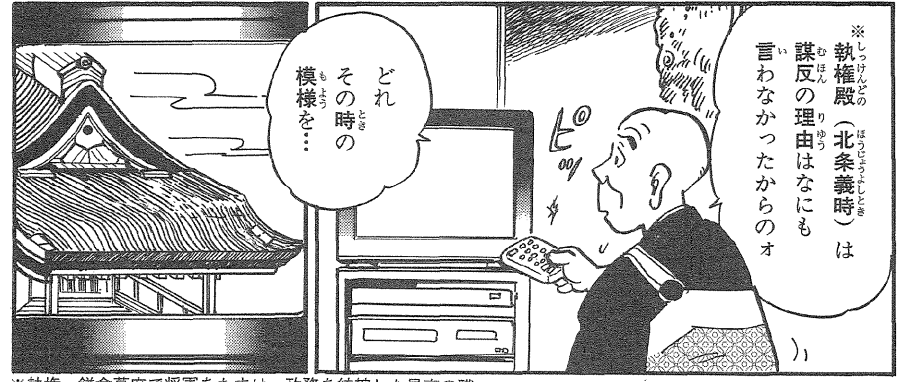
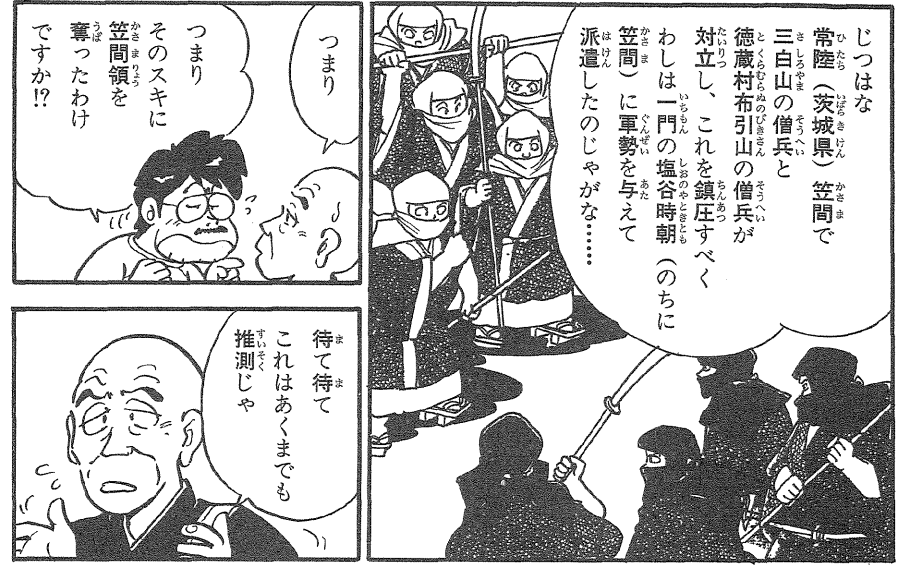
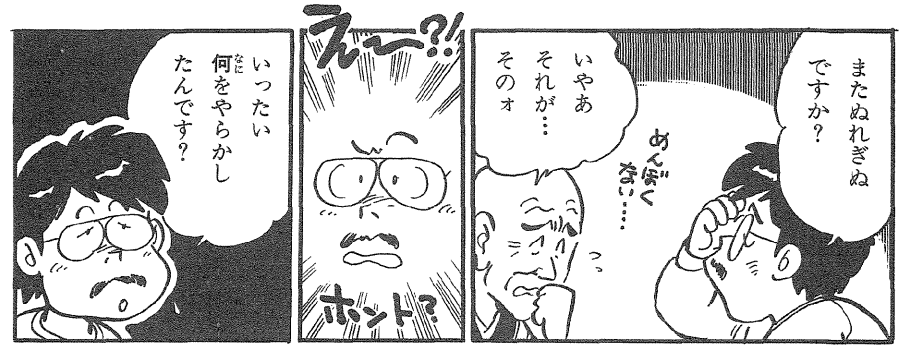
このうち慈心院が
 二荒山の神宮寺

※神宮寺…神仏混こうのため神社に付属しておかれた寺院

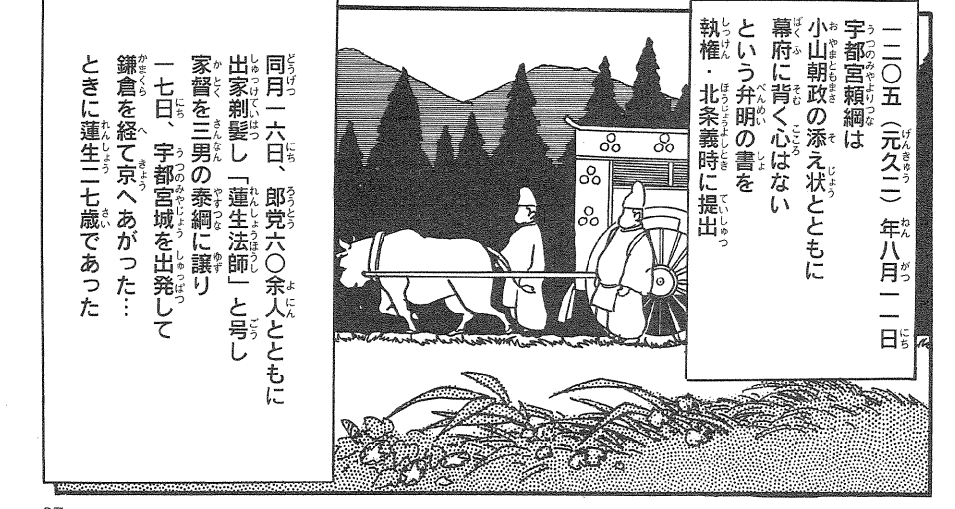


※問注所…鎌倉幕府の役所の一つで、警察の役目を担当
※辻子…中世の都市で、小路、十字路または人家の密集する一画をいう





※執権…鎌倉幕府で將軍をたすけ、政務を統轄した最高の職



※法然房源空上人：鎌倉時代の初めに浄土宗を開いた。従来の貴族中心の仏教から、どんな人でも念仏すれば極楽往生できると説いた

蓮生さん一説によると
あなたは法然房源空上人さんの
お弟子さんだと
聞きました

うむ…わしは
京へあがつたあと
摂津（大阪府）
勝尾山へのぼって
法然上人のお教えを
受け、上人なき後は
その第一の弟子
証空上人に師事したのじゃ

わしが後年
京都市右京区の
下津林楠町に建立した
『観念三昧院』は
その影響によるものなんだ

晴れて法然門下の
浄土宗信者となった蓮生は
ふたたび京にもどり
当時歌道の第一人者で
あつた藤原定家に
和歌を学んだ

こうしてのちに
宇都宮歌壇と
称される下野国の
歌道文化の第一歩が
しるされたわけですね

さよう
わしがいなかつたら
下野国の中世文化は
花ひらくことはなかつた
じやろうな

藤原定家という人は
そんなにビッグな
人物だったんですか？

「広辞苑」にも
ちゃあんと載っておる

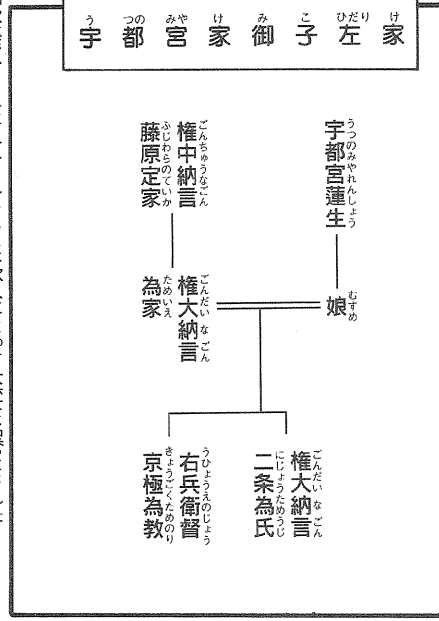
なにしろわしは
感激のあまり娘を
定家殿の子息
藤原為家殿に嫁がせた
くらいじゃからの

名が…
が…
が…

娘さんを定家さんの
息子さんに？

その二人の間に
生まれたのが
貴族の名門
二条家祖、権大納言
二条為氏殿じゃ

わが外孫たちは
いずれも後に



京都歌壇の
中心的な歌詠みに
なるのじゃよ
おかげで宇都宮一族も
一三人あわせた
※勅撰集入集歌は
なんと一二六首
…どうした？

それじゃあ
またビデオに
もどしますか

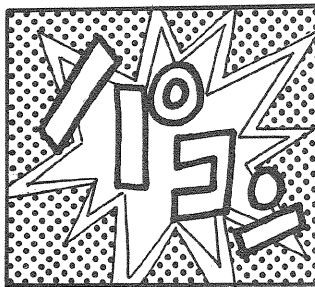
※勅撰集：天皇の命令によって作られる和歌集で、これに入れられることは歌人にとって大変な名誉とされた



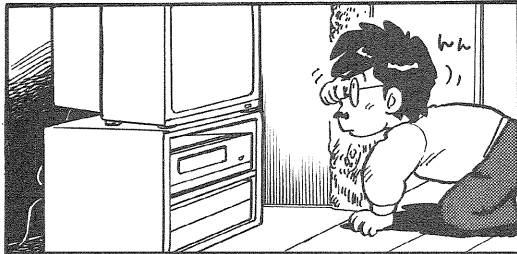
実はわが別荘の襖も新しくすることにしたのでこれにも揮毫願えまいか？

ほかならぬ蓮生殿の頼みひきうけましよう

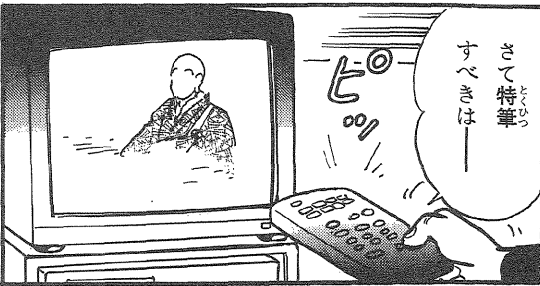
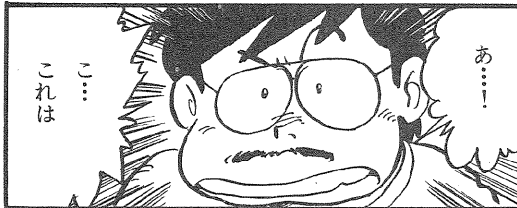
そしてまた
一一三五(嘉禎元)年
五月二十七日
嵯峨中院



このとき定家殿が贈ってくださった「百人秀歌」がのちの『小倉百人一首』の原型なのじゃ どうじゃおそれい…



あ…！
そんなことより画面を見てもよ



定家殿

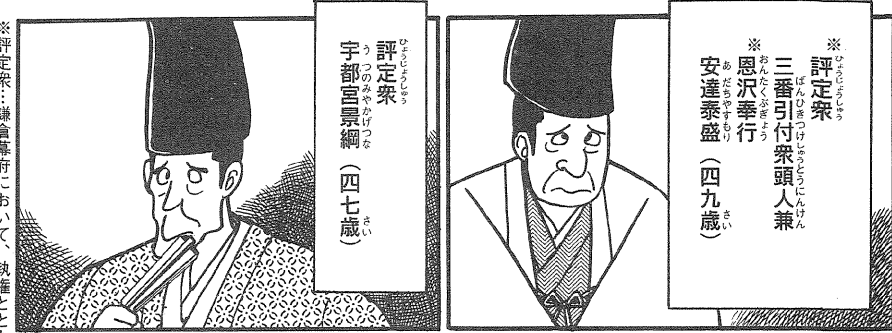
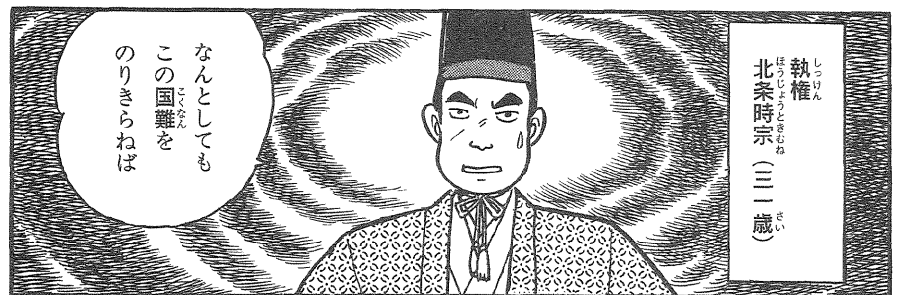
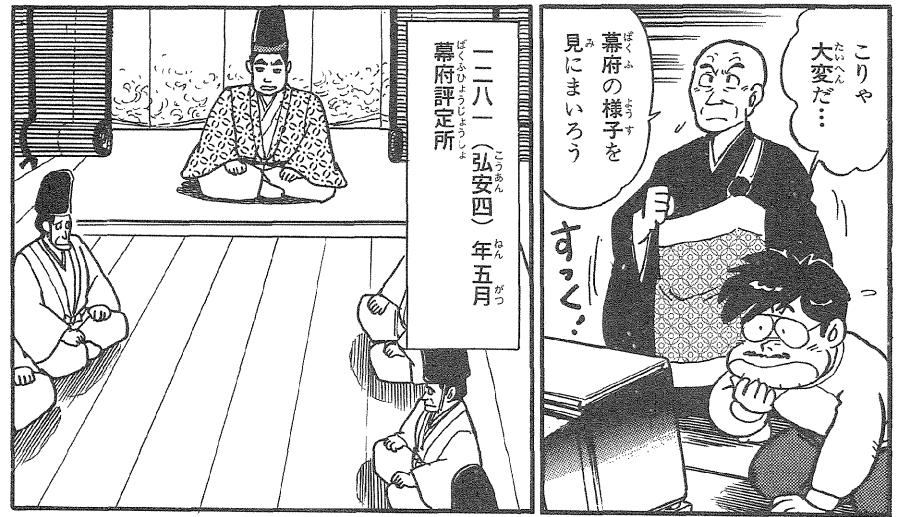
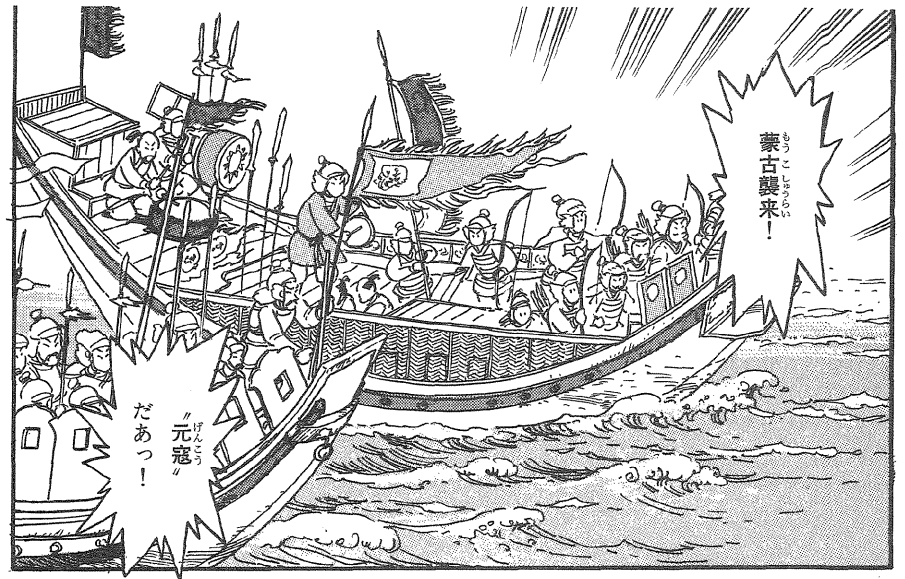
さて特筆すべきは…



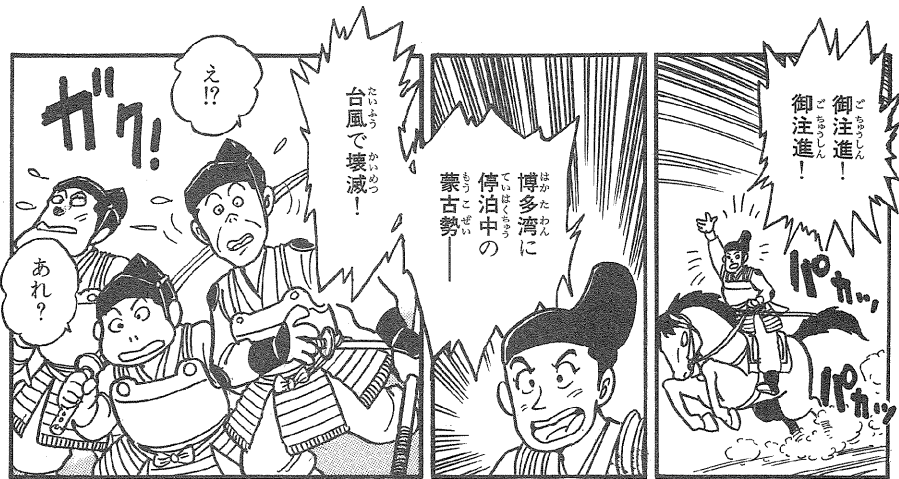
わが宇都宮城下の神宮寺である慈心院の襖を新調することになったのじゃが、そこに張る色紙を書いていただけまいか？

よろしゅうございます

わが歌の友藤原家隆殿とともに大和国(奈良県)の名所を詠んだ和歌を贈りましよう



※評定衆：鎌倉幕府において、執権とともに政務に参画した重職

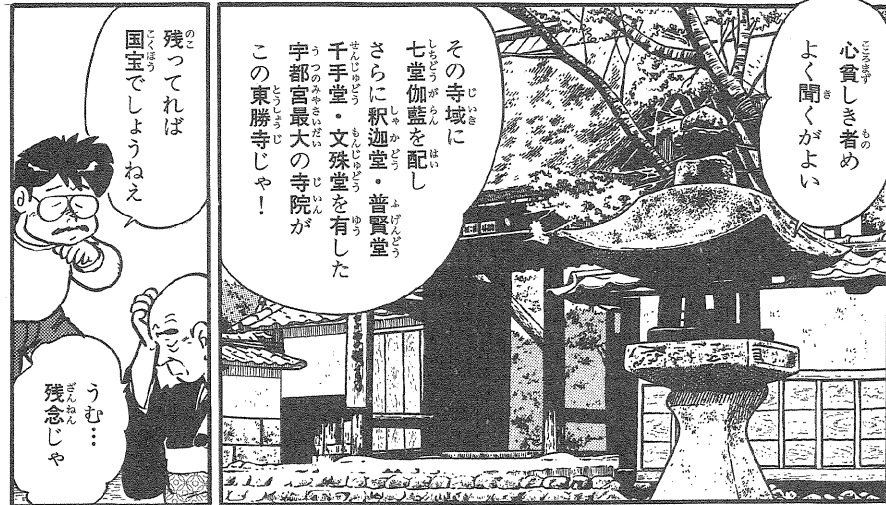


こうしてわが家は
いくつもの分家を
つくり...ますます
巨大になったのじゃ



こうして若冠一六歳の
幕府引付衆の
宇都宮貞綱は
蒙古軍征伐の大將軍として
山陽・山陰(中国地方)の
御家人六万あまりを
ひきつれて出陣!

安芸国(広島県)に
さしかかる...

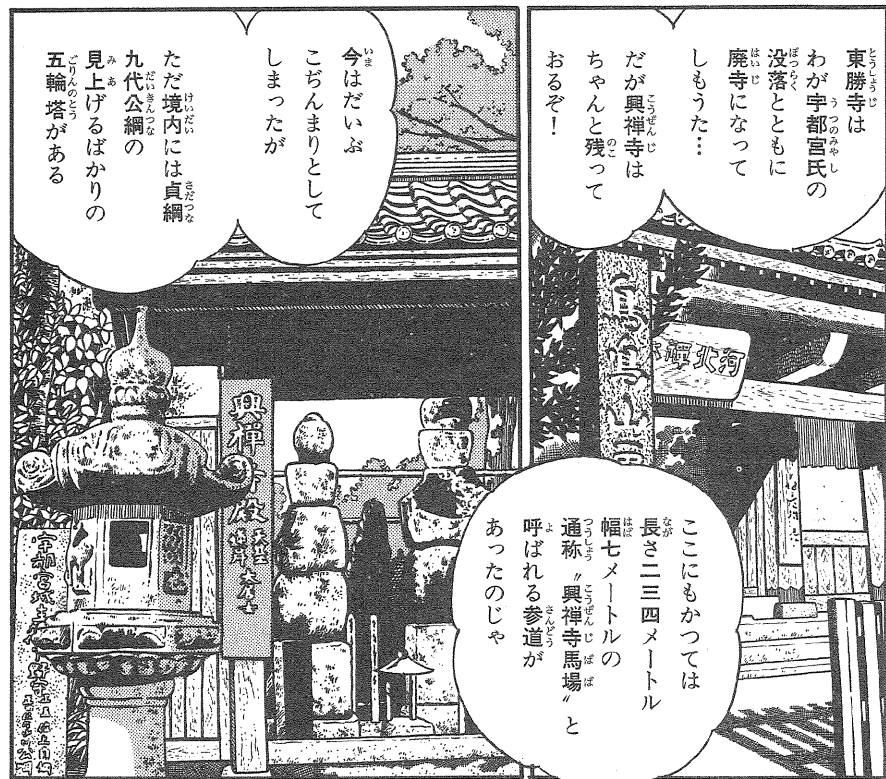


心賞しき者の
よく聞くがよい

その寺域に
七堂伽藍を配し
さらに釈迦堂・普賢堂
千手堂・文殊堂を有した
宇都宮最大の寺院が
この東勝寺じゃ！

残ってれば
国宝でしようねえ

うむ…
残念じゃ



東勝寺は
わが宇都宮氏の
没落ととも
廃寺になって
しもうた…
だが興禅寺は
ちゃんが残って
おるぞ！

今はだいぶ
こちんまりとして
しまったが

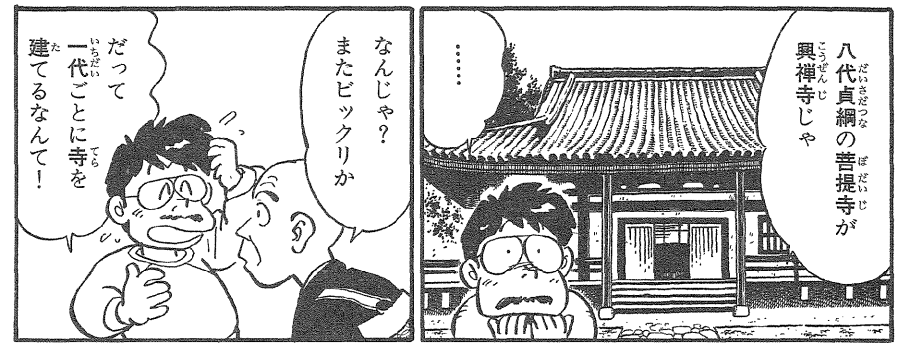
ただ境内には貞綱
九代公綱の
見上げるばかりの
五輪塔がある

ここにかつては
長さ三三メートル
幅七メートルの
通称「興禅寺馬場」と
呼ばれる参道が
あったのじゃ



おぬし
天下の御意見番
大久保彦左衛門は
知っておるか？
はあ…
あの者も
わが宇都宮家の
子孫じゃよ！

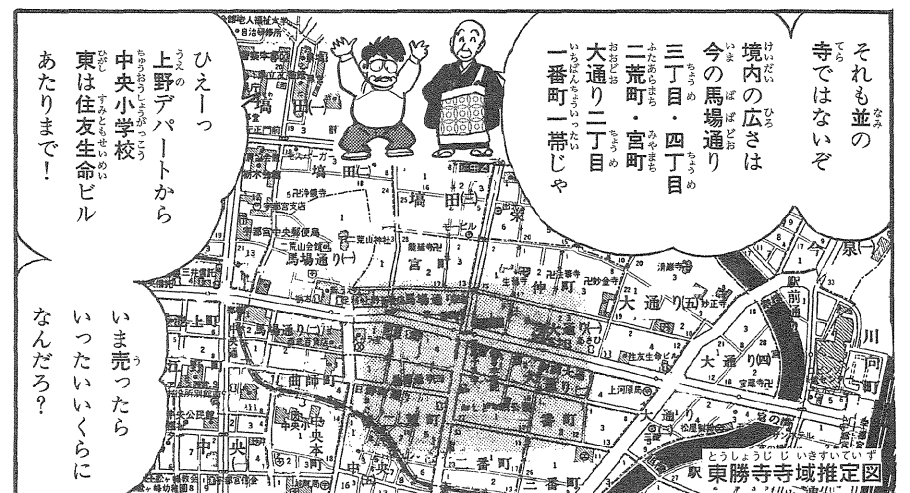
ところで
その繁栄を築いた
七代景綱の菩提寺が
東勝寺



八代貞綱の菩提寺が
興禅寺じゃ

なんじゃ？
またビックリか

だって
一代ごとに寺を
建ててるなんて！

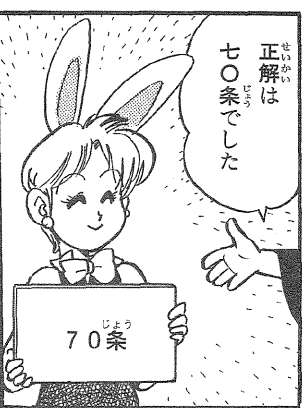
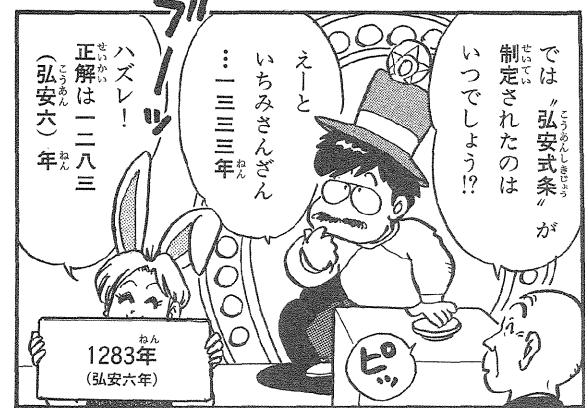
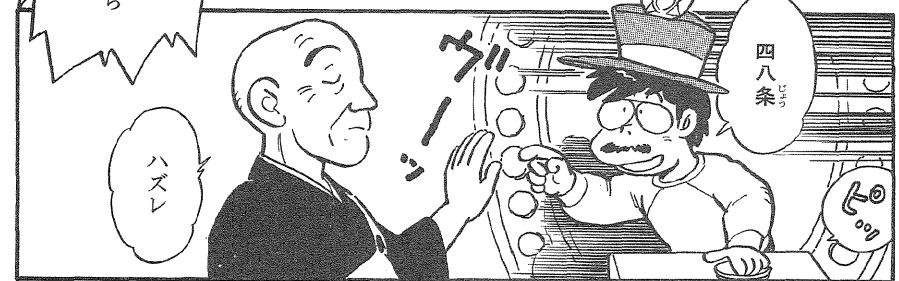
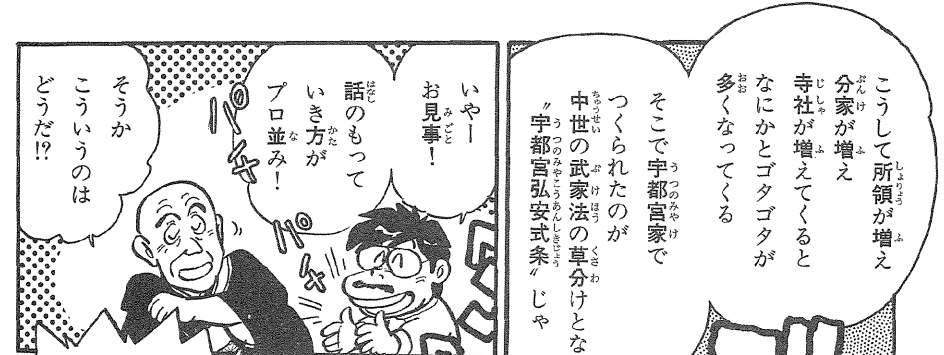
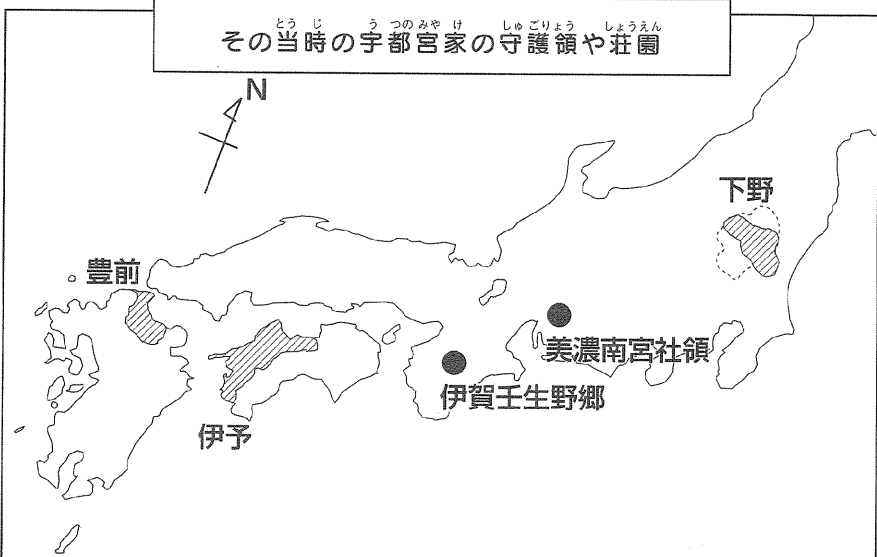


それも並の
寺ではないぞ
境内の広さは
今の馬場通り
三丁目・四丁目
二荒町・宮町
大通り二丁目
一番町一帯じゃ

ひえーっ
上野デパートから
中央小学校
東は住友生命ビル
あたりまで！

いま売ったら
いったいいくらに
なんだろう？

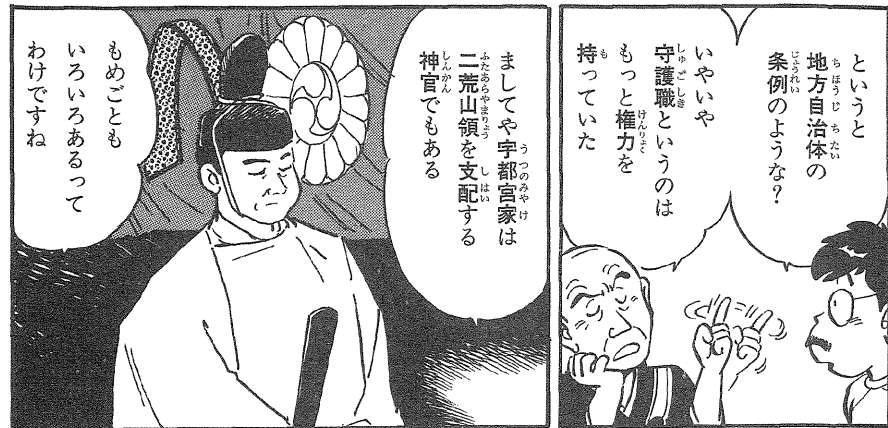
東勝寺寺域推定図





鎌倉幕府も末期をむかえんと
幕府の定めを無視して
内輪もめにあげられる御家人とか
あるいは土豪・下級武士くすれの
新興勢力「悪党」が各地に蜂起し

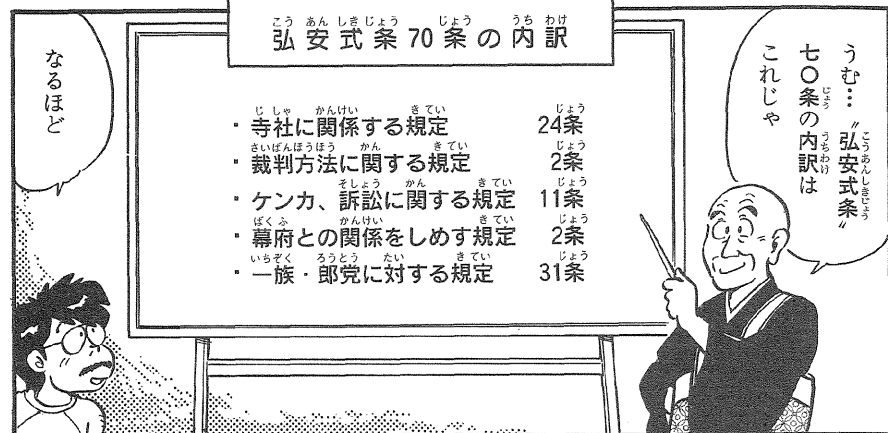
幕府にあつては執権北条氏の
執事である長崎円喜・高資
父子が権力をほしきままにして
あれほど堅固にみえた執権政治も
音をたてて崩れはじめた……



というところ
地方自治体の
条例のような？

いやいや
守護職というのは
もっと権力を
持っていた

もめじこも
いろいろあるって
わけですね

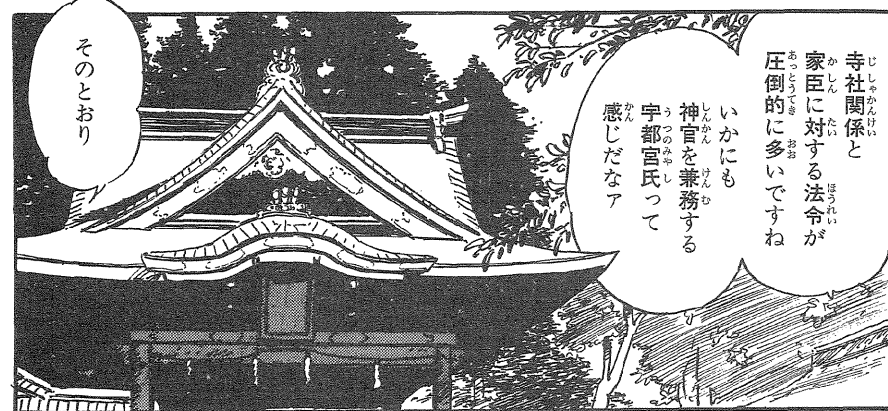


弘安式条70条の内訳

- ・ 寺社に関する規定 24条
- ・ 裁判方法に関する規定 2条
- ・ ケンカ、訴訟に関する規定 11条
- ・ 幕府との関係をしめす規定 2条
- ・ 一族・郎党に対する規定 31条

うむ…弘安式条
七〇条の内訳は
これじゃ

なるほど



寺社関係と
家臣に対する法令が
圧倒的に多いですね
いかにも
神官を兼務する
宇都宮氏って
感じだなア

そのとおり



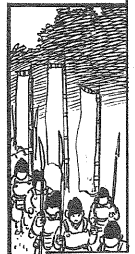
この混乱期に
いちやく脚光を
あびたのが
河内の武將
楠木正成じゃ

後醍醐天皇の
幕府打倒計画に
同調した新興勢力
「悪党」の大将ですね

悪党といつても
立派な武士

悪とはもともと
強いつか賢いという
意味で使われた
言葉なんじゃよ

へえ！



千早城にももる楠木正成と播磨(兵庫県南部)で拳兵した赤松則村を討伐するため下野足利荘の領主足利尊氏は名越高家とともに一三三三(元弘三・正慶二)年三月、鎌倉を出陣した

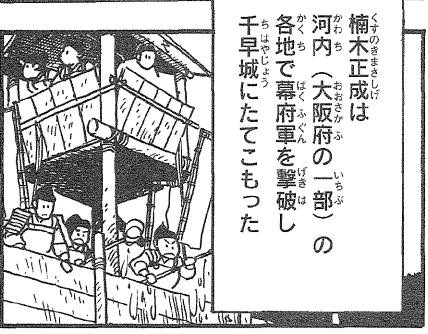
幕府の援軍として...



このとき赤松則村との戦いで名越高家が摂津(大阪府の一部)で討死すると足利尊氏は突如一転して丹波(京都府の一部)で倒幕の兵をあげた!



ま...わが宇都宮家にはおよばぬとしても従業員一、五〇人前後の中企業の社長といったところかな
その中企業のオーナー楠木正成に国の内閣である鎌倉幕府の北条氏が苦戦している



楠木正成は河内(大阪府の一部)の各地で幕府軍を撃破し千早城にたてこもった



一三三二(元弘二・正慶元)年春幕府軍の千早城攻め



うむむ…
武家のお屋形になった
男だからな

ええ…だけど
ここでの主役は
足利尊氏さん
でしたからね

戦場で死ぬことを
へとも思っていない
精鋭部隊が相手では
うかつに戦えないと
言ってるんですね

うむ…宇都宮氏の
率いる紀清党が
いかに恐れられて
おったかがわかる
じやろう



のちの南北朝時代
足利兄弟は対立し
戦うことになる…

一三三八(延元三・暦応元)年
征夷大將軍に就任した尊氏は
足利家内部の訴訟や荘園管理を
執事の高師直にまかせ
幕府全般の訴訟・恩賞・法制
といった行政全般を
弟の直義にとりせるといっ
二元政治を行ったが



一三七〇(応安三)年
戦いに出て
紀州の粉河寺で
死んでいますね

その氏綱さんは
南朝方との
ゲリラ戦に
身をけずり



一〇代の氏綱は
上野國と越後國の
守護職に任せられる

わが宇都宮家は
この戦乱期にも
さらに活躍し



一三三二(元弘二・正慶元)年
「四天王寺の合戦」

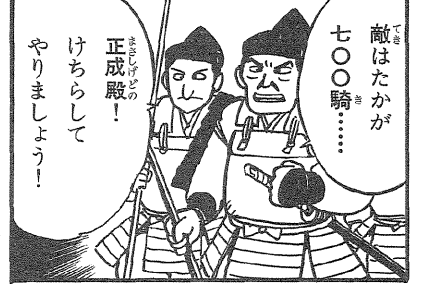
宇都宮公綱は旗本の
紀・清両党七〇騎を率いて
楠木正成勢と対峙した



宇都宮公綱



勝ちいくさを
つづけている
からといって
敵をあなどる
ものではない



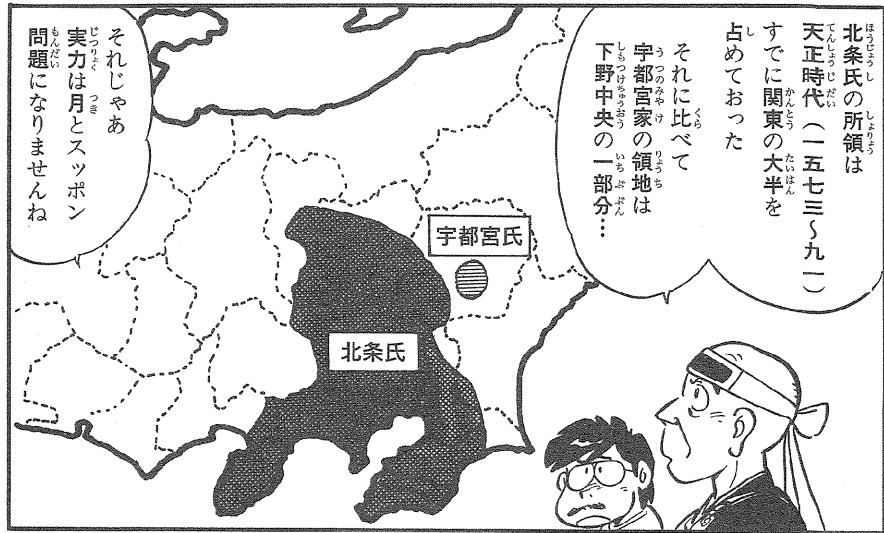
敵はたかが
七〇騎…
正成殿!
けちらして
やりましょう!



紀清両党の兵
元來戦場に臨みて
命を棄てること
塵芥よりも尚軽くす!

宇都宮は坂東一の
弓矢取り(武士)なり

楠木正成



北条氏の所領は
天正時代（一五七三〜九二）
すでに関東の大半を
占めておった

それに比べて
宇都宮家の領地は
下野中央の一部分…

それじゃあ
實力は月とスッポン
問題になりませんね



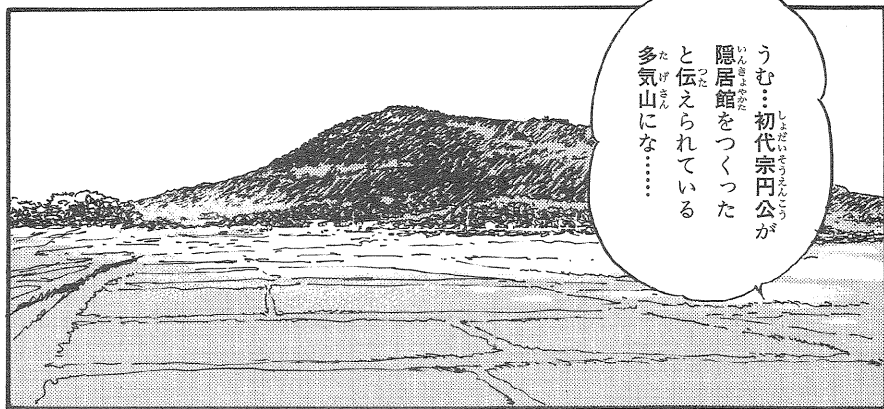
なにせ
たび重なる猛攻で
二荒山神社も
神宮寺の慈心院も
東勝寺も興禅寺も
みな焼けてしまった

城下まで
攻められ
たんですか？

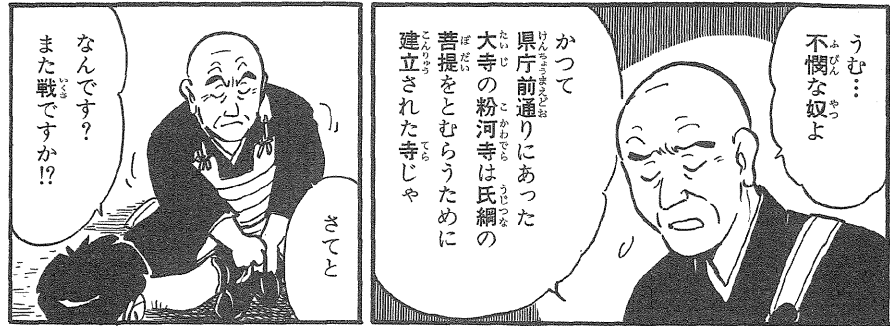
それで居城を
この山に…



そうズケズケ
ものを言うな



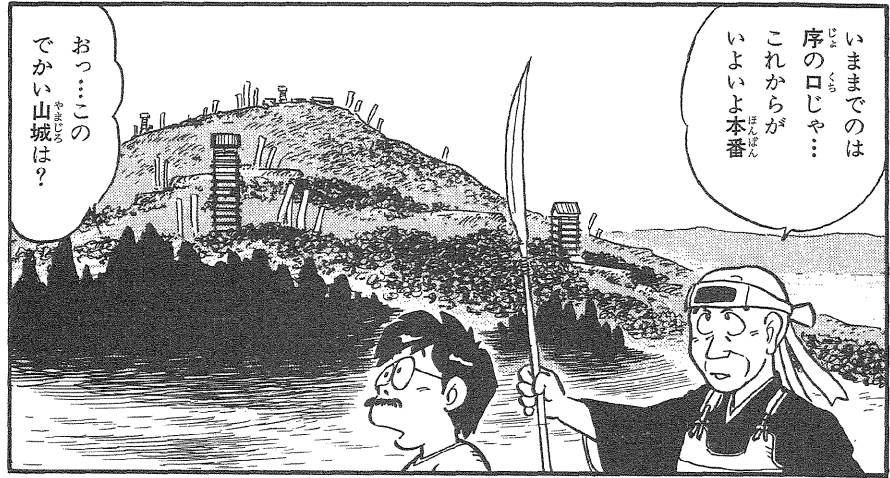
うむ…初代宗円公が
隠居館をつくった
と伝えられている
多気山にな…



うむ…
不憫な奴よ

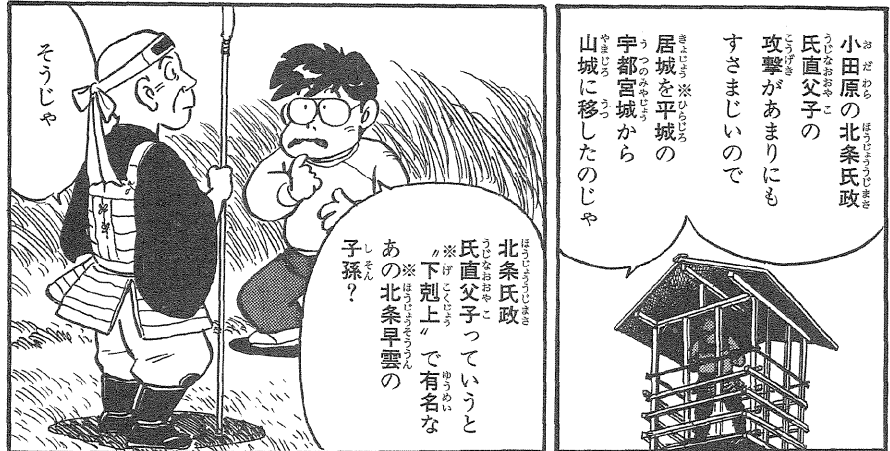
かつて
県庁前通りにあった
大寺の粉河寺は氏綱の
菩提をとむらうために
建立された寺じゃ

さてこ
なんです？
また戦ですか!?



いままでの
序の口じゃ…
これからが
いよいよ本番

おっ…この
でかい山城は？



小田原の北条氏政
氏直父子の
攻撃があまりにも
すさまじいので
居城を平城の
宇都宮城から
山城に移したのじゃ

北条氏政
氏直父子…ついでと
下剋上…で有名な
あの子孫？
北条早雲の
子孫？

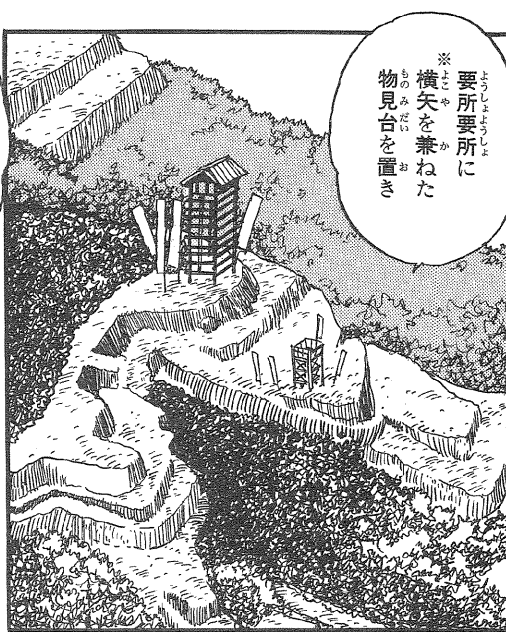
そうじゃ

※平城：平地に築かれた城のため、防御には不利である ※下剋上：身分の低い者がしあがって、身分の高い者をしのぐこと

※北条早雲…出身は不明ながら、一代で戦国大名北条氏の基礎を築いた人物



ふもとには
二重の空堀と
土塁がぐるりと
巡らせてある



※
要所要所に
横矢を兼ねた
物見台を置き



同感です

多気城は
おそろく関東…
いや日本最大級の
山城じゃな



ぼくの時代には
杉や檜の生い茂った
ただの山ですよ

四〇〇年前は
じつに壮大な城
だったんだなア



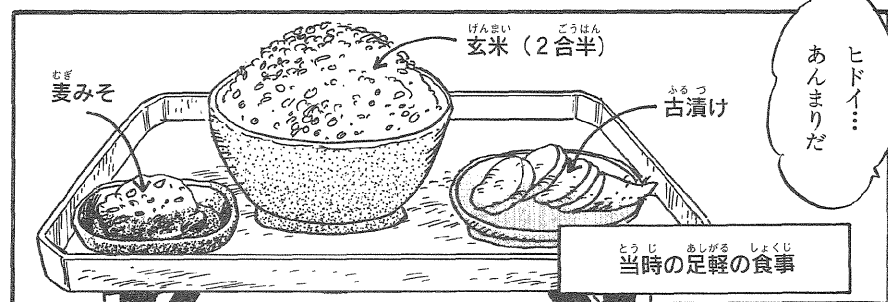
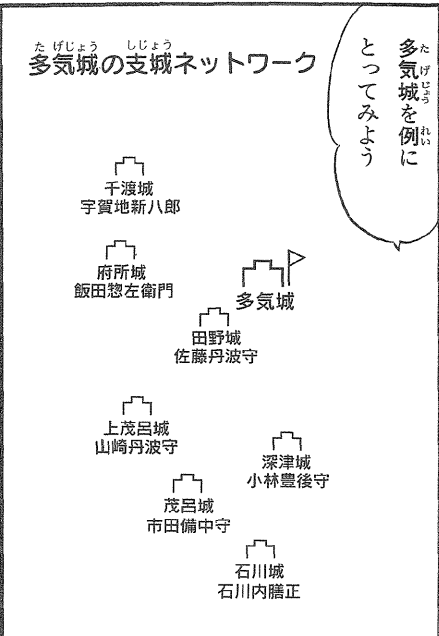
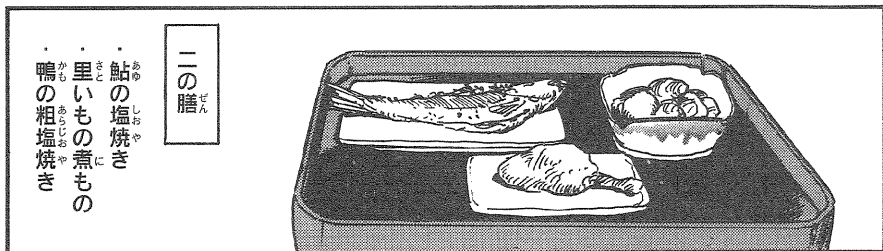
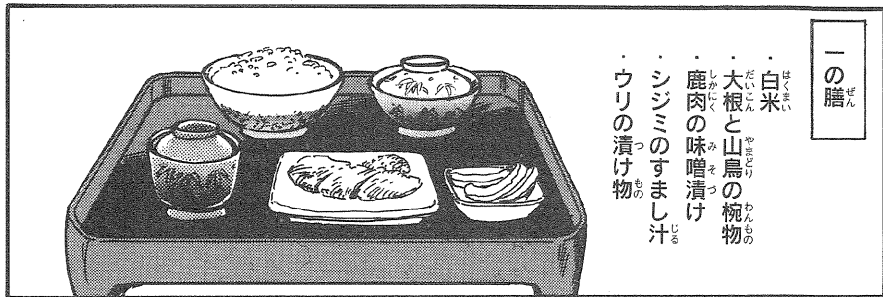
〈下野国誌〉には
常陸の佐竹家の重臣
鹿島治時や行方氏が
派遣されたと
記されていますね

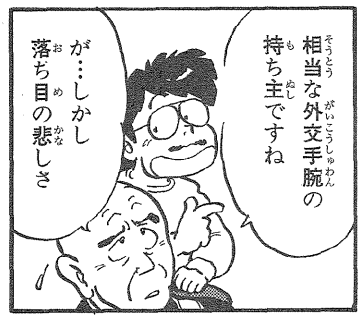
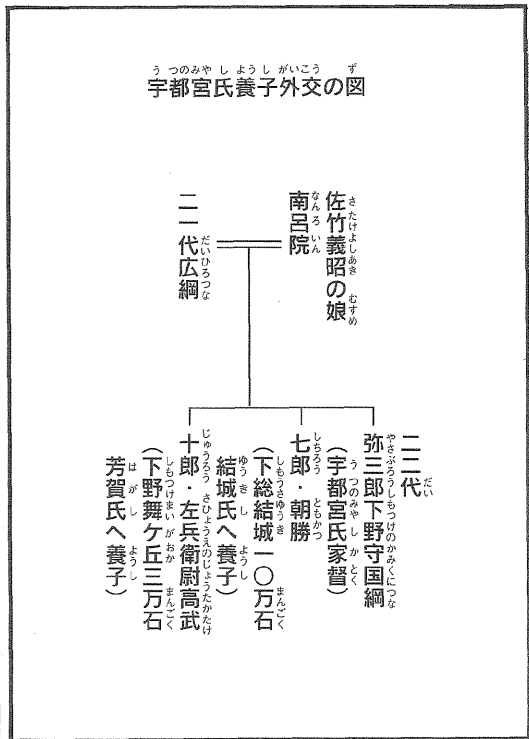
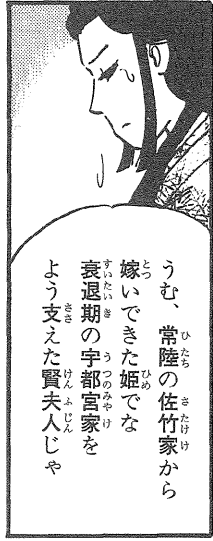
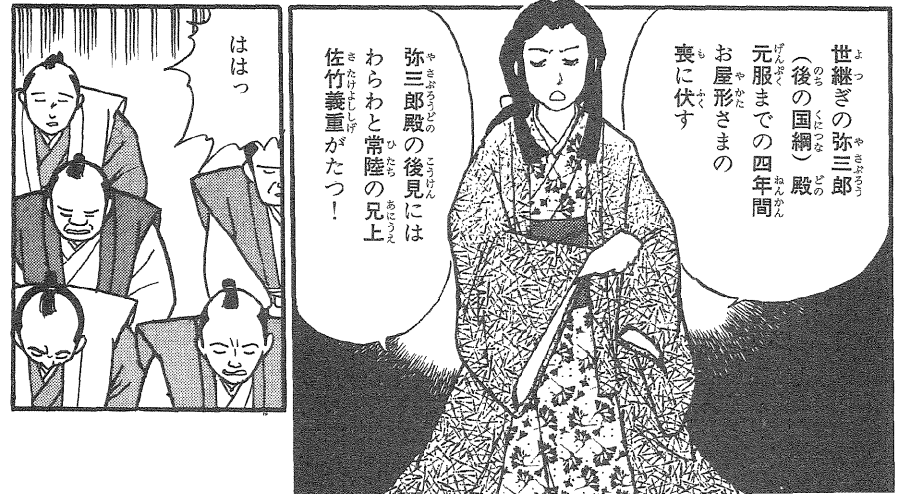
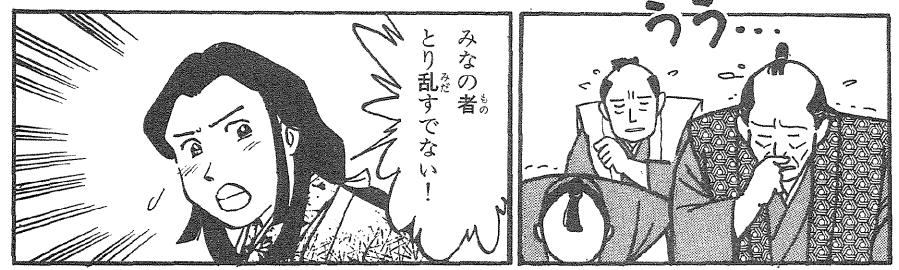
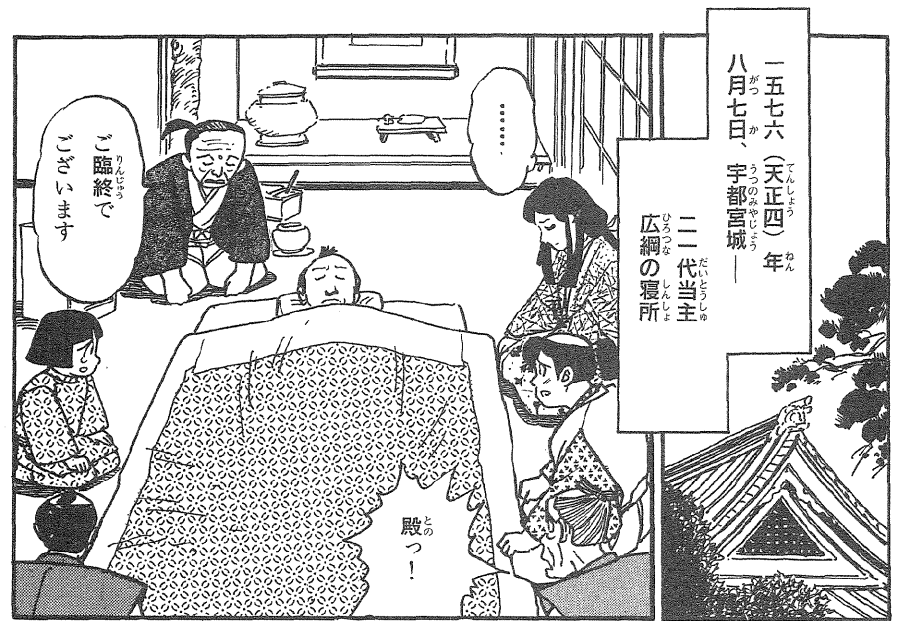
多気城(宇都宮市田下町)

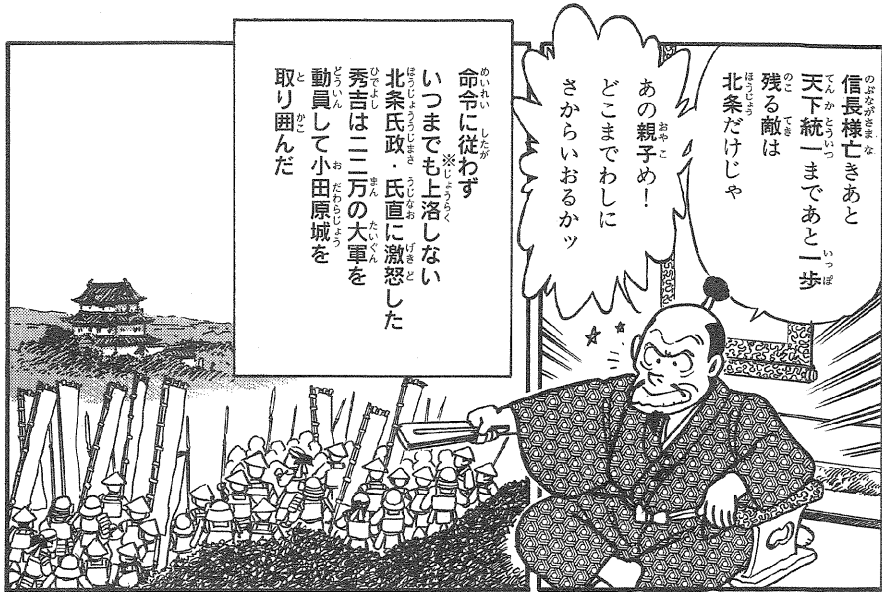


持室院と
多気山全体が
広大な城郭に
なっておるのだ

見れば見るほど
難攻不落な城郭
ですね……!

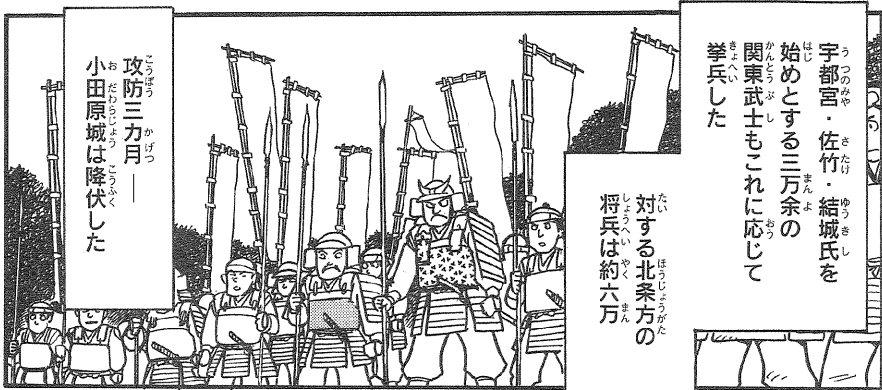






命令に従わず
いつまでも上洛しない
北条氏政・氏直に激怒した
秀吉は二万の大軍を
動員して小田原城を
取り囲んだ

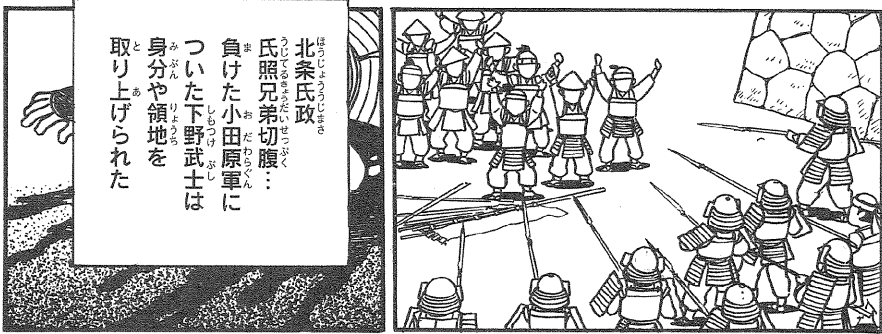
信長様亡きあと
天下統一まであと一歩
残る敵は
北条だけじゃ
あ親子め！
どこまでわしに
さからいおるかッ



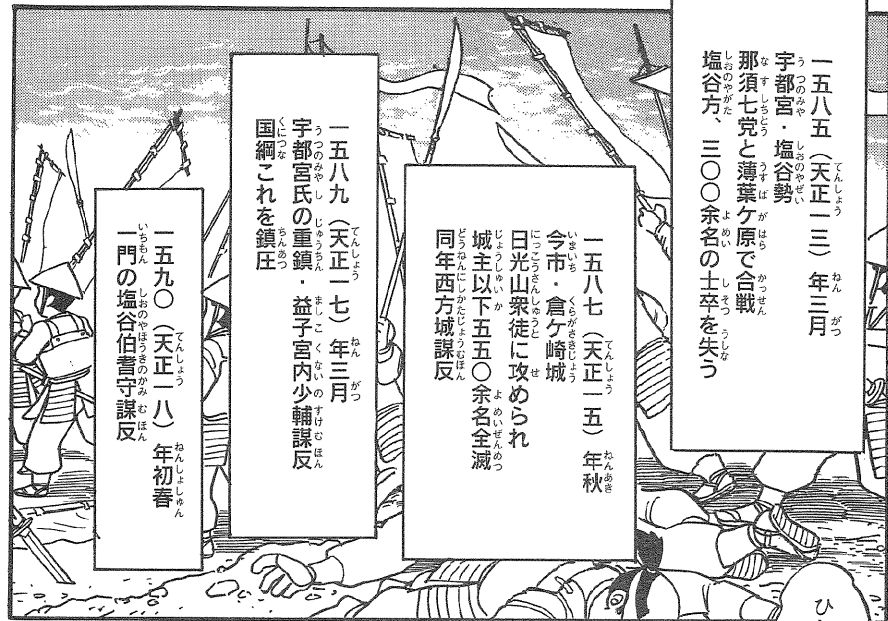
攻防三カ月——
小田原城は降伏した

宇都宮・佐竹・織城氏を
始めとする三万余の
関東武士もこれに応じて
挙兵した

対する北条方の
将兵は約六万



北条氏政
氏照兄弟切腹…
負けた小田原軍に
ついた下野武士は
身分や領地を
取り上げられた



一五八五(天正一三)年三月
宇都宮・塩谷勢
那須七党と薄葉ヶ原で合戦
塩谷方、三〇〇余名の士卒を失う

一五八七(天正一五)年秋
今市・倉ヶ崎城
日光山衆徒に攻められ
城主以下五五〇余名全滅
同年西方城謀反

一五八九(天正一七)年三月
宇都宮氏の重鎮・益子宮内少輔謀反
国綱これを鎮圧

一五九〇(天正一八)年初春
一門の塩谷伯耆守謀反



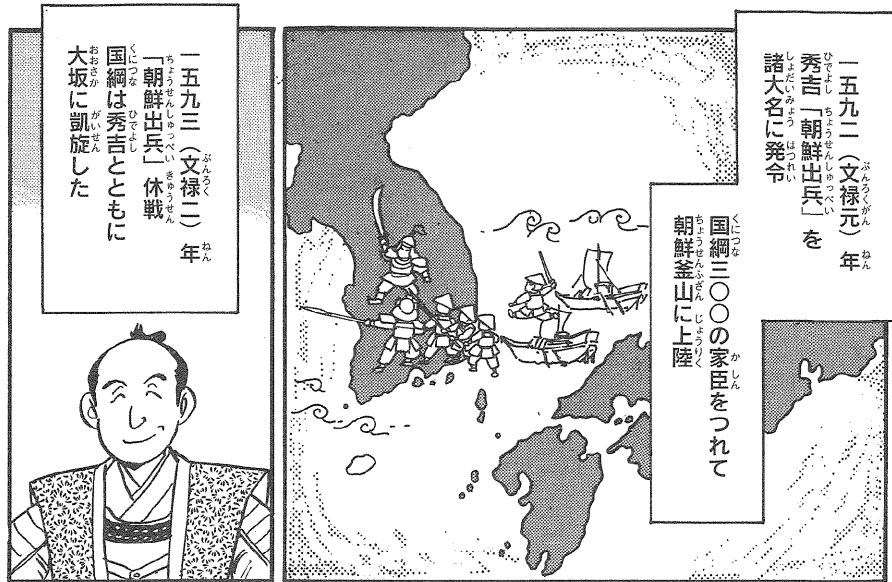
ひどい…
もはや断末魔
じゃないの

そうじゃな
あと二〜三年も
この状態が続けば
宇都宮家は
滅んでおつたらう
じゃがここに
思わぬ救世主が
現れたのじゃ



一五九〇(天正一八)年四月
秀吉の小田原攻めによつて
宇都宮氏は救われるという
結果となった——

わかった
豊臣秀吉だ！
当たり前！



一五九三(文禄二)年
「朝鮮出兵」休戦
国綱は秀吉とともに
大坂に凱旋した

一五九二(文禄元)年
秀吉「朝鮮出兵」を
諸大名に発令

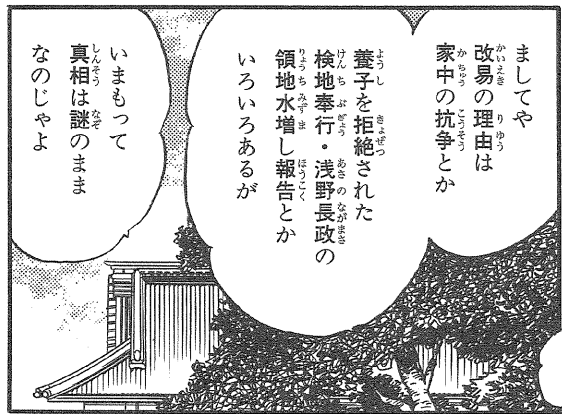
国綱三〇〇〇石家臣をつれて
朝鮮釜山に上陸



この四年後の
一〇月二三日
わが宇都宮家は
豊田家によって
領地を没収され！
滅亡したのじゃ！



……
どうしたんです？
……



いまもって
真相は謎のまま
なのじゃよ
……
ましてや
改易の理由は
家中の抗争とか
養子を拒絶された
検地奉行・浅野長政の
領地水増し報告とか
いろいろあるが



……
日本で五指に入る
名門の最後としては
あまりにも
あつけない幕切れ
ですねえ……



これで天下が統一
されたわけだ！
国綱さんは
ラッキーだった
ですねえ……

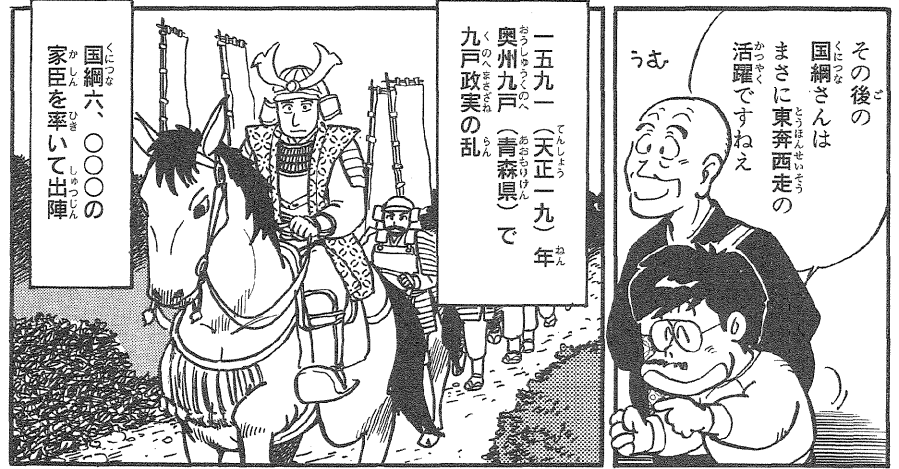
豊臣方に味方した
宇都宮国綱は今までどおりの
領地を認められ、秀吉から
一門格の「羽柴」姓を贈られ

一五九五(文禄四)年には
国守級の位である
従四位下侍従に叙せられている



豊臣家の
大名たちから
「羽柴宇都宮侍従」と
尊称されたのじゃ
オホッ
それにくらべて
那須氏はちよつと
かわいそうだな

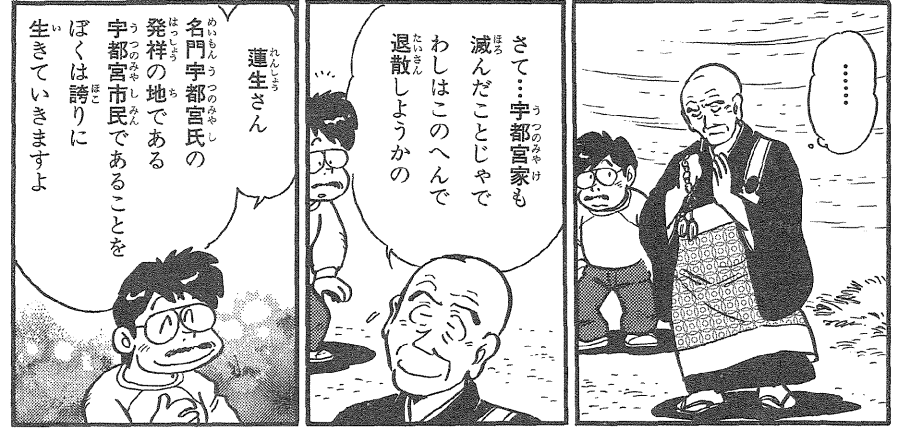
遅れて参加した
からって領地を
八万石から五千石に
減らすなんて
秀吉も
キツイよね



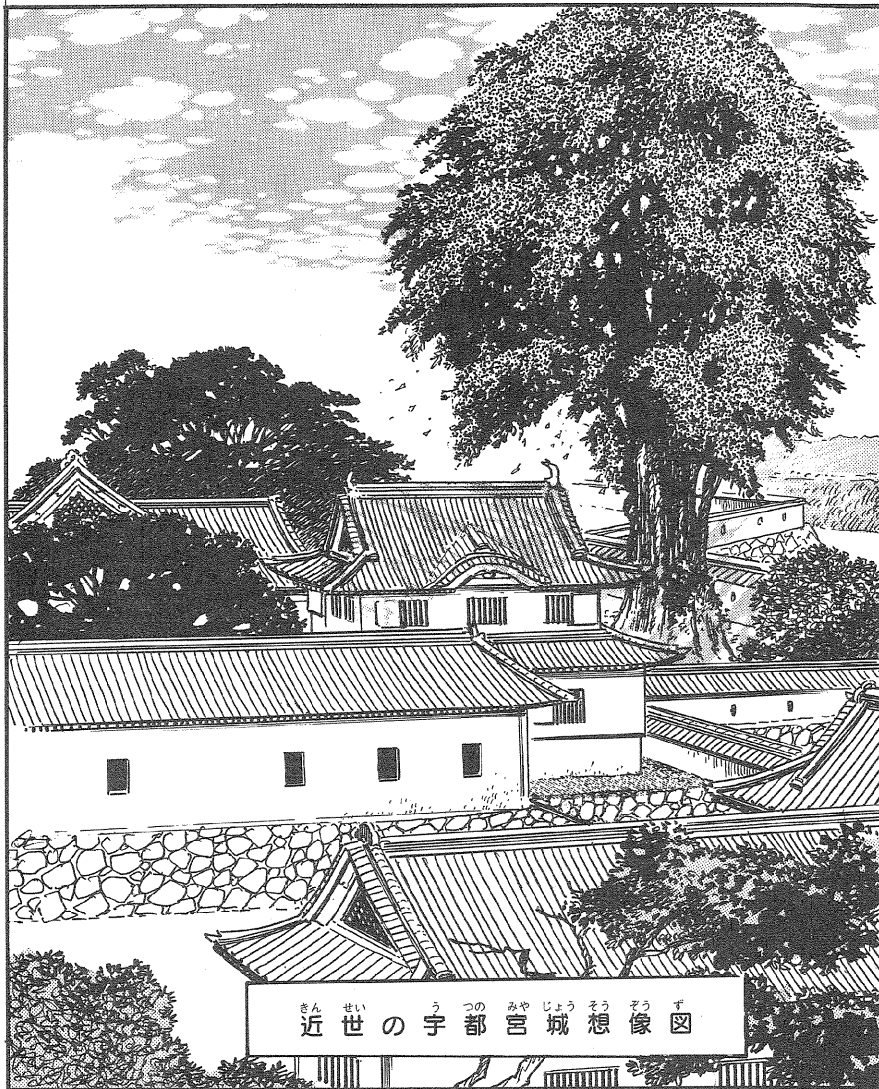
その後の
国綱さんは
まさに東奔西走の
活躍ですねえ
うむ

一五九一(天正一九)年
奥州九戸(青森県)で
九戸政実の乱

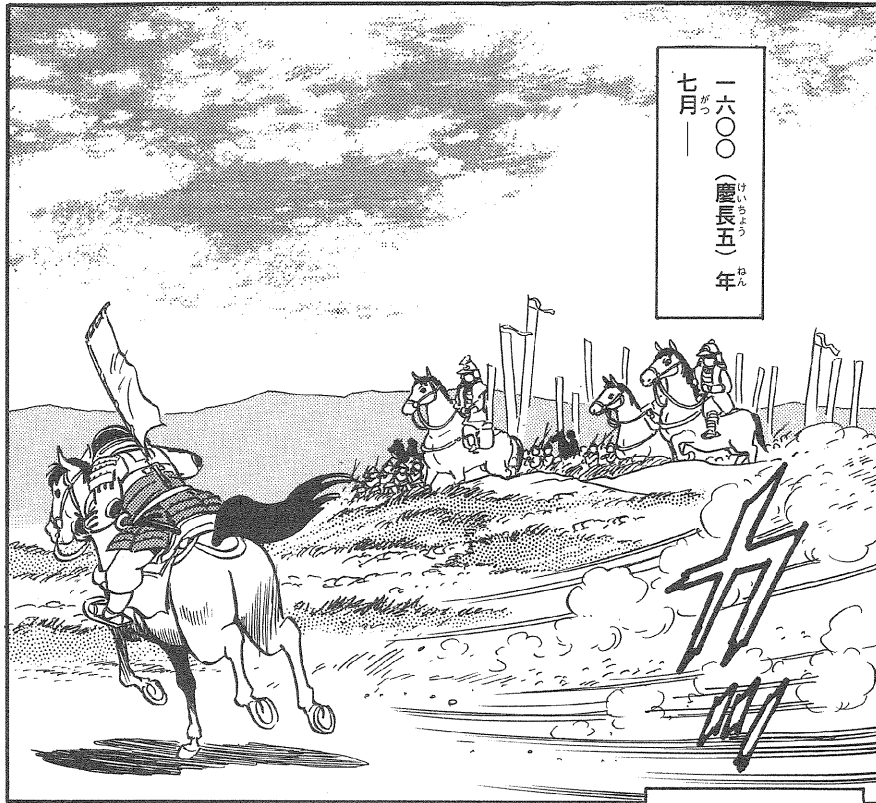
国綱六、〇〇〇石
家臣を率いて出陣



だい しょう きん せい
第三章・近 世



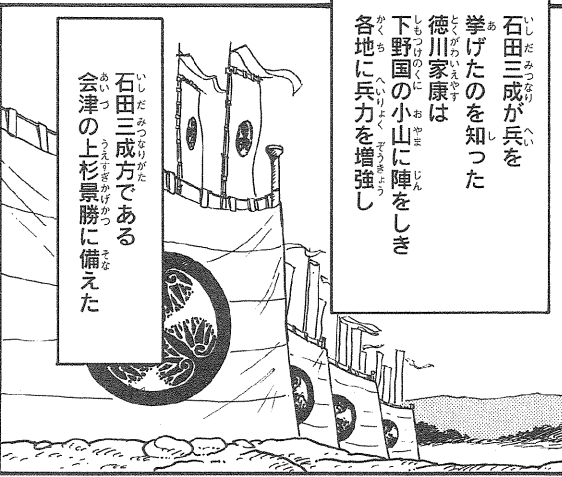
きん せい の う つ の み や じ ょ う そ う ぞ う ず
近世の宇都宮城想像図



一六〇〇（慶長五）年
七月

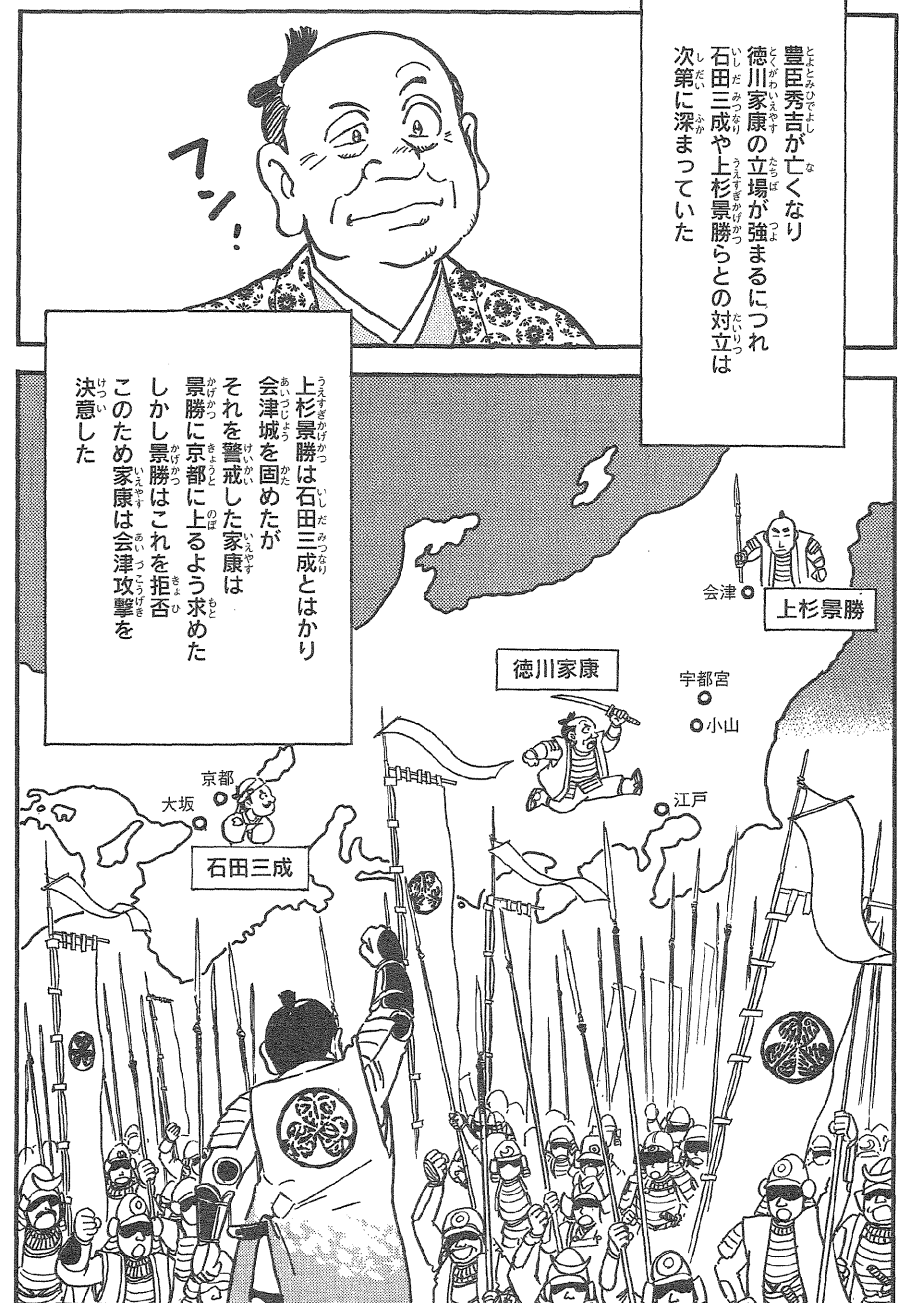


近世の案内役は
いったいどこに
いるのかな...?



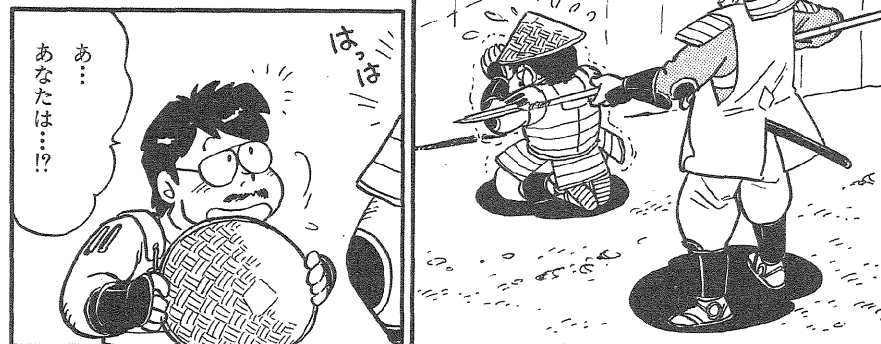
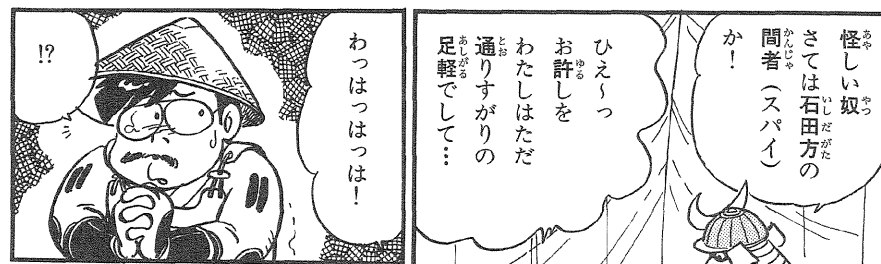
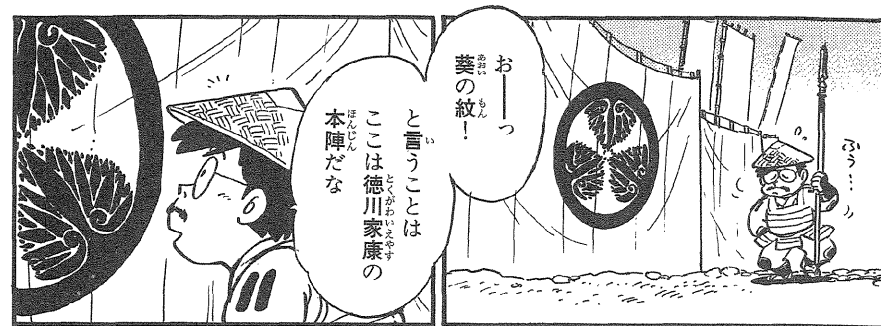
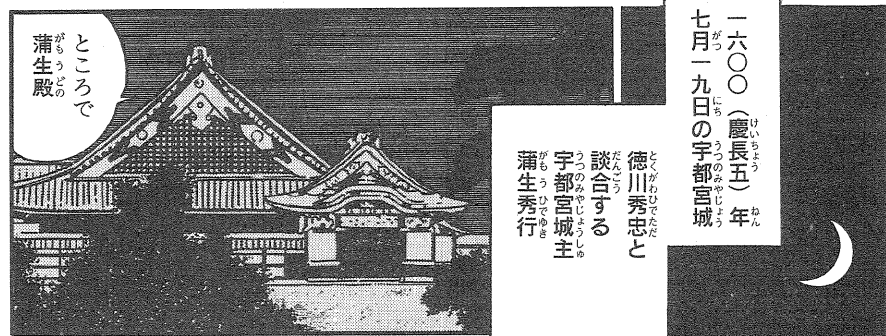
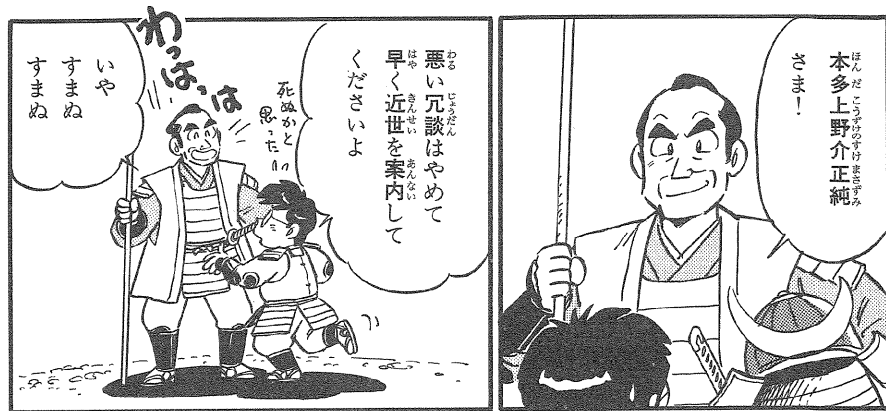
石田三成方である
会津の上杉景勝に備えた

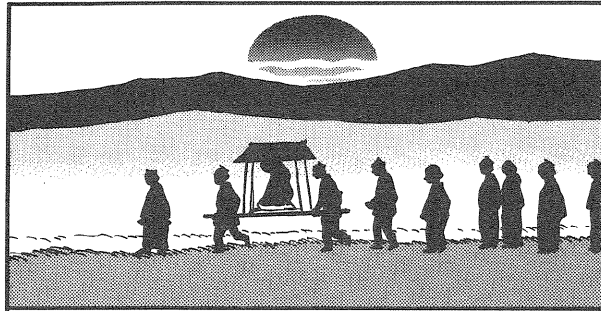
石田三成が兵を
挙げたのを知った
徳川家康は
下野国の小山に陣をしき
各地に兵力を増強し



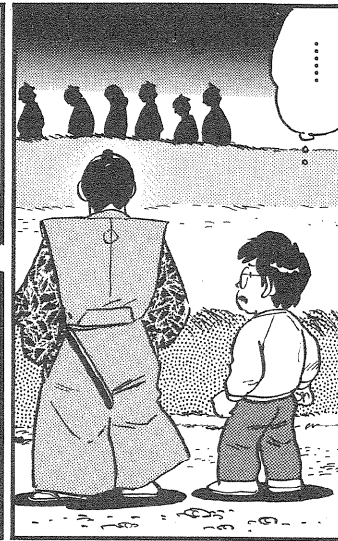
豊臣秀吉が亡くなり
徳川家康の立場が強まるにつれ
石田三成や上杉景勝らとの対立は
次第に深まっていた

上杉景勝は石田三成とはかり
会津城を固めたが
それを警戒した家康は
景勝に京都に上るよう求めた
しかし景勝はこれを拒否
このため家康は会津攻撃を
決意した

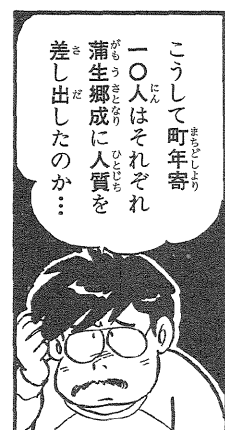




数日後
植木什屋の老母
長江宗爾の息子・藤蔵
など九人の人質が
蒲生郷成の
笠間城へ送られた



蒲生氏の重臣・常陸笠間城二万石
蒲生源左衛門郷成



こうして町年寄
一〇人はそれぞれ
蒲生郷成に人質を
差し出したのか……

一、合戦の時には出火に
くれぐれも注意をすること
商売は自由に行つてよいが
不当な値段をつけてはいけない
二、町年寄衆は人質を差し出すこと
三、会津の上杉景勝征伐に際しては
道案内の者を出すこと





さよう事実
下野の南部で
不穏な動きが
みられるし

北の方でも
会津の上杉景勝が
那須七党のひとり
千本大和守政泰に
しきりに書状を送り
味方に引き入れる
工作をしておった

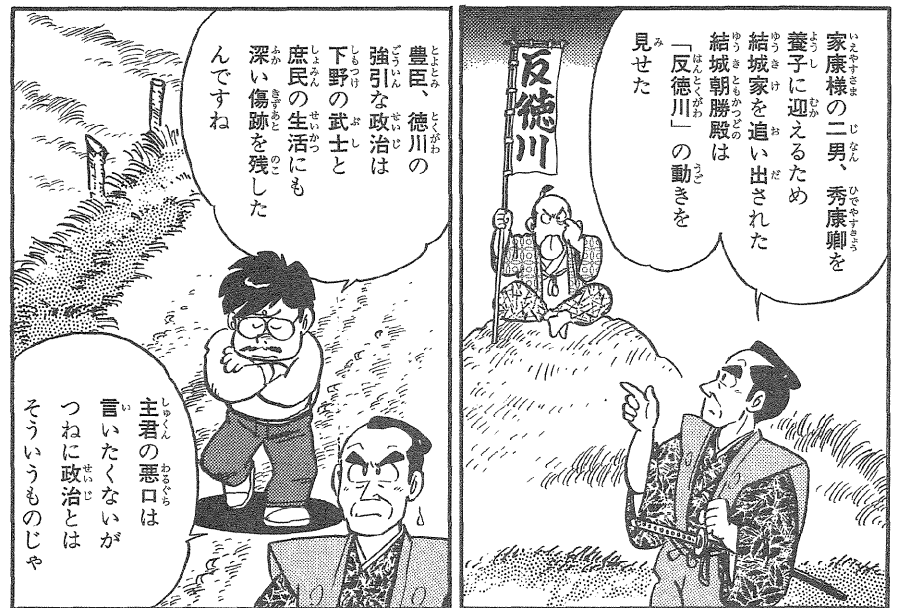
まさに
風雲急を告げる
ですね！
けど関ヶ原の戦いは
九月一五日のたった一日で
終わってしまった



ところが下野國の
世情不安は
けっこうながびくのじや

やはり中世から
近世にかけて没落した
大名の旧臣たちの
反抗か!!?

うむ…宇都宮、那須
壬生、佐野、小山氏らの
改易は大きなシコリを
残した…



家康様の二男、秀康卿を
養子に迎えるため
結城家を追い出された
結城朝勝殿は
「反徳川」の動きを
見せた

豊臣、徳川の
強引な政治は
下野の武士と
庶民の生活にも
深い傷跡を残した
んですね

主君の悪口は
言いたくないが
つねに政治とは
そういうものじや

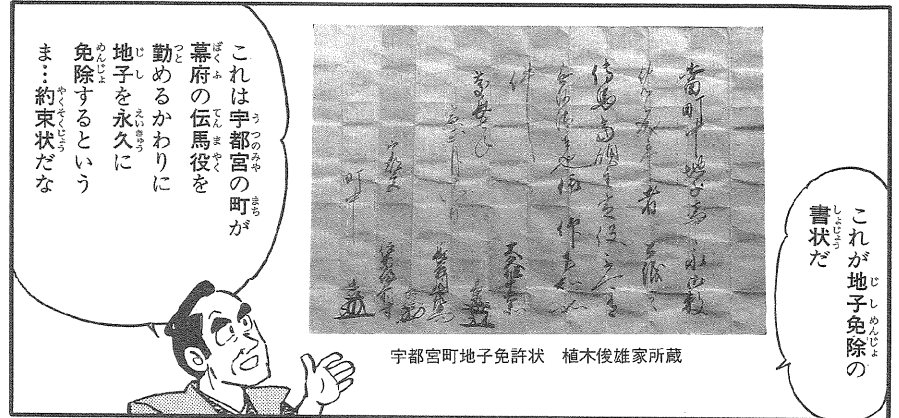


それにしても
よかったですね
下野國に戦火が
及ばなくて

笠間城に
人質にとられてた
町年寄の家族も
無事帰れたし…

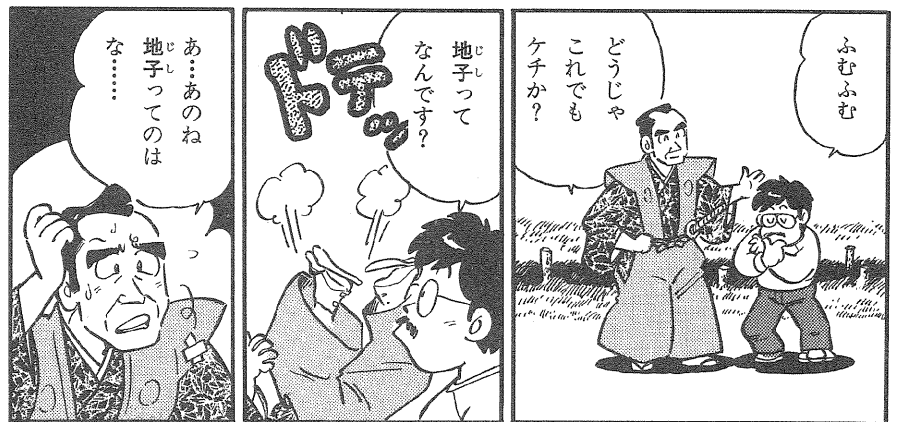
そればかりでは
ないぞ
家康様は戦後
宇都宮に
いくつかの恩恵を
与えられている

へエー
あのケチで有名な
家康さんが!?



これが地子免除の
書状だ

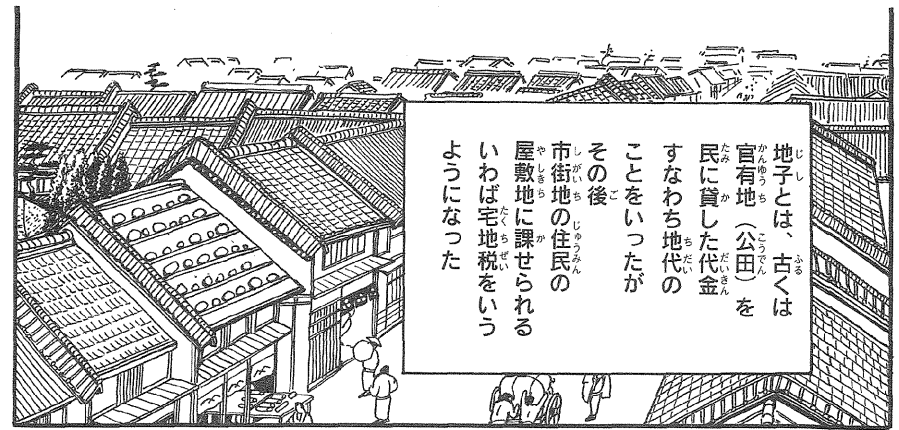
これは宇都宮の町が
幕府の伝馬役を
勤めるかわりに
地子を永久に
免除するという
ま…約束状だな



ふむふむ
どうじゃ
これでも
ケチか?

地子って
なんですか?

あ…あのね
地子ってのは
な…



地子とは、古くは
官有地(公田)を
民に貸した代金
すなわち地代の
ことをいったが
その後
市街地の住民の
屋敷地に課せられる
いわば宅地税をいっ
よびになった



どうじゃ
わかったか

はいっ!
で…
伝馬役というのも
知らないんですが
おまえなア

おまえなア



伝馬役とは幕府が
主要街道の宿場に一定数の人馬
〔日光・奥州街道は一駅ごとに
人定二五人、馬二五疋〕を置いて
幕府や藩の役人の
勤務による旅行を
サポートする役割をいう

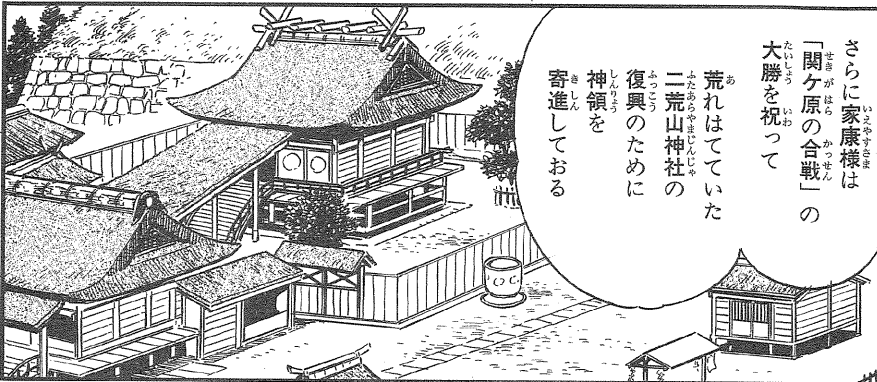
そのかわりに
宅地税が
一切免除とは
うれしいですね

私が宇都宮の
町づくりをした後には
三二の町の地子が
免除されるようになった

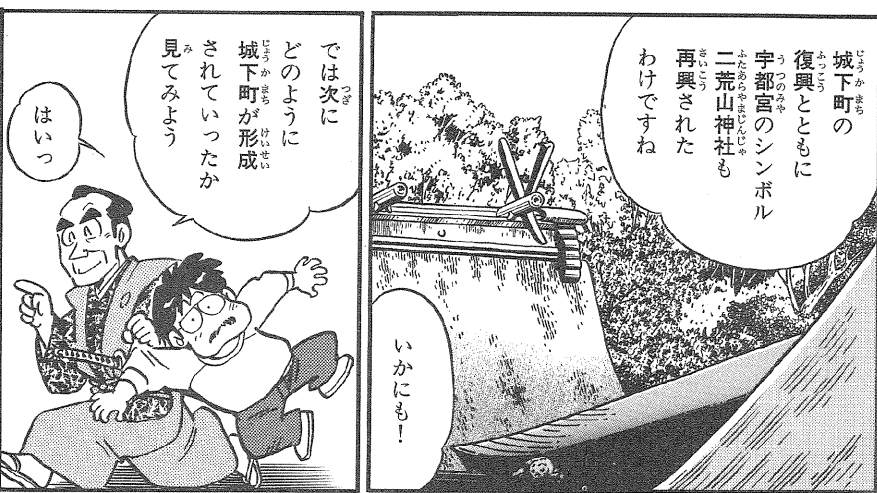


町年寄たちは
これに感激して
御礼として毎年
ろうそく二〇〇〇本を
幕府に献上したが

それ以来、
将軍が
代わるごとに
ろうそくを献上
するのが慣例と
なったのじゃ



さらに家康様は
「関ヶ原の合戦」の
大勝を祝って
荒れはてていた
二荒山神社の
復興のために
神領を
寄進しておる

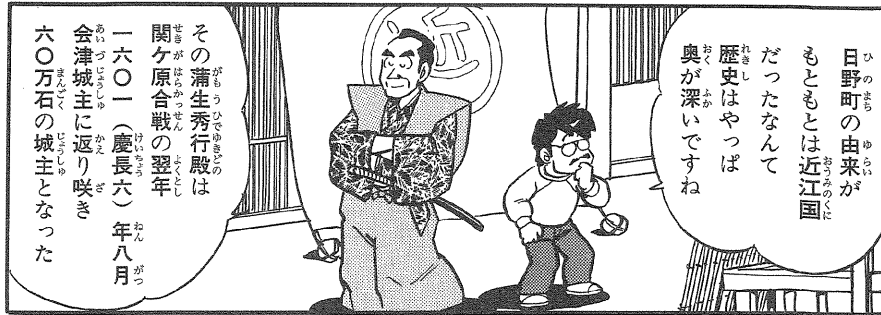


城下町の
復興とともに
宇都宮のシンボル
二荒山神社も
再興された
わけですね

では次に
どのように
城下町が形成
されていったか
見てみよう

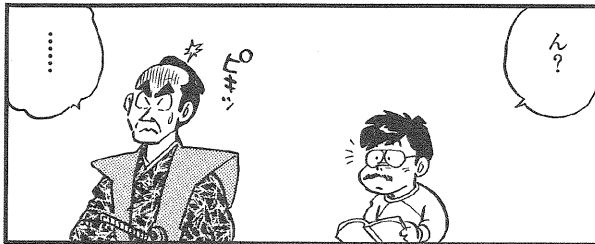
はいっ

いかにも!

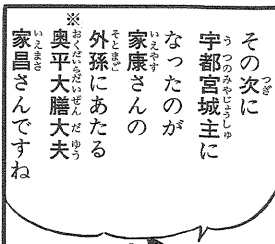


日野町の由来が
もともとは近江国
だったなんて
歴史はやっぱ
奥が深いですね

その蒲生秀行殿は
関ヶ原合戦の翌年
一六〇一年（慶長六）年八月
会津城主に返り咲き
六〇万石の城主となった



ん？



その次に
宇都宮城主に
なったのが
家康さんの
外孫にあたる
奥平大膳大夫
家昌さんですね

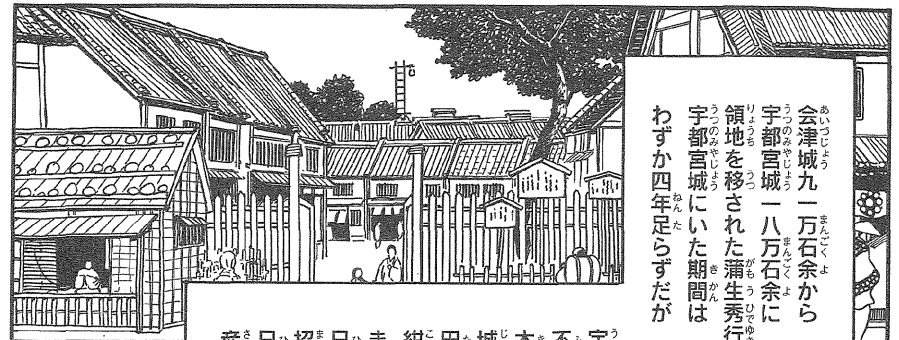


そうか…
正純さんは
家昌の母親で
徳川家康の長女
加納御前（龜姫）に
恨まれて失脚
するんだっけ…



奥平信昌は上野小幡
三万石の大名だったが
家康様の長女を嫁に
していたので
関ヶ原の合戦後
信昌は
美濃加納（岐阜県加納市）
一〇万石
長男の家昌は宇都宮城
一〇万石へと破格の大抜擢を
受けたわけじゃ

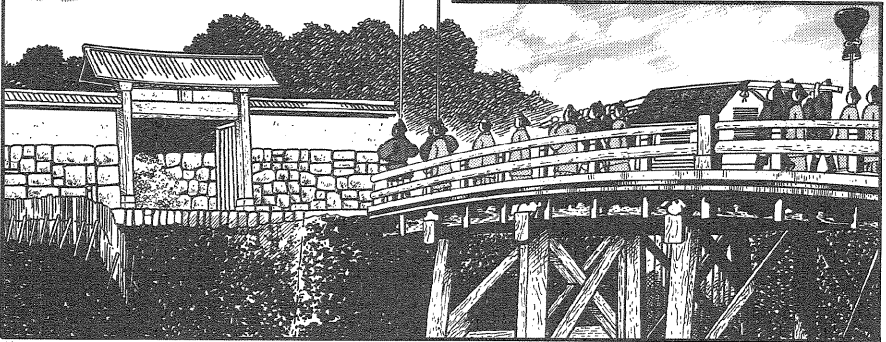
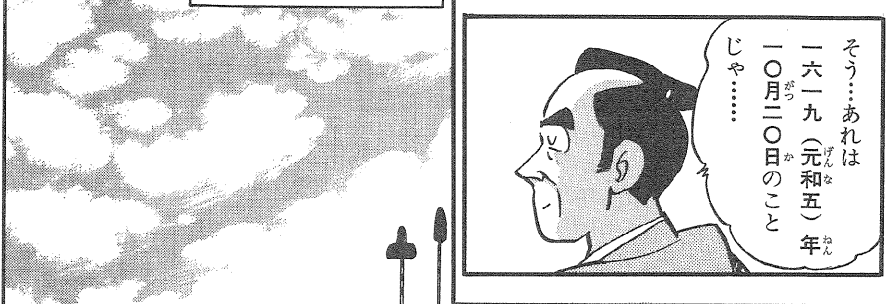
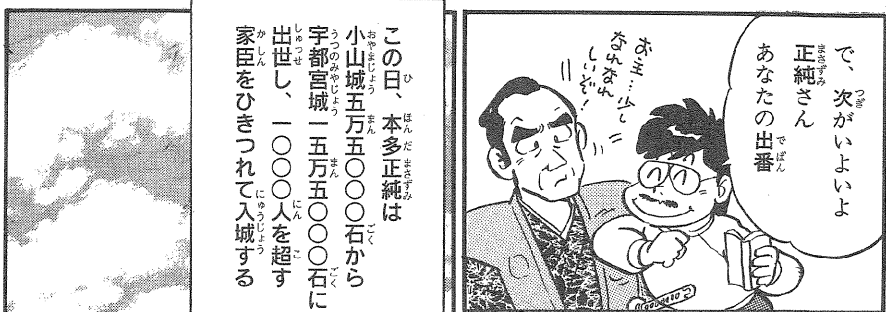
まさに新進気鋭
ですね

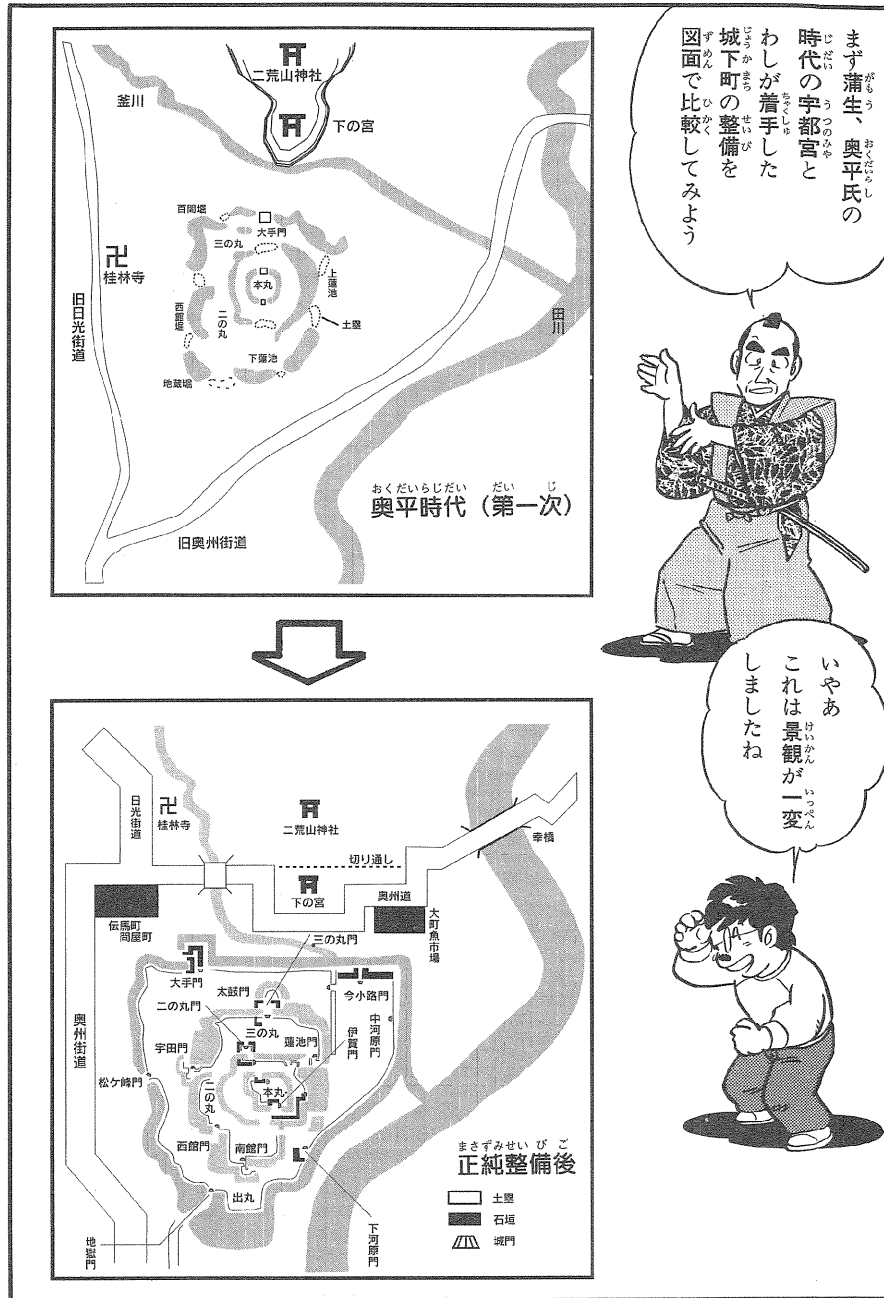


会津城九万石余から
宇都宮城一八万石余に
領地を移された蒲生秀行が
宇都宮城にいた期間は
わずか四年足らずだが

宇都宮城下に通じる
不動口、歌橋口、伝馬口、佐野口に
木戸番所を設け
城下に散在していた細屋をあつめ
田川東岸の宿郷村（宿郷町）に
紺屋町を開いた
また蒲生氏の出身地の近江国
日野（滋賀県日野町）から
招いた商人たちのために
日野町を開いたりと
産業の活性化につくした







まず蒲生、奥平氏の時代の宇都宮とわしが着手した城下町の整備を図面で比較してみよう

いやあこれは景観が一変しましたね

はい！



このとき豊臣家はすでに滅び天下は太平

で...いよいよ宇都宮城下の整備に着手するんですね

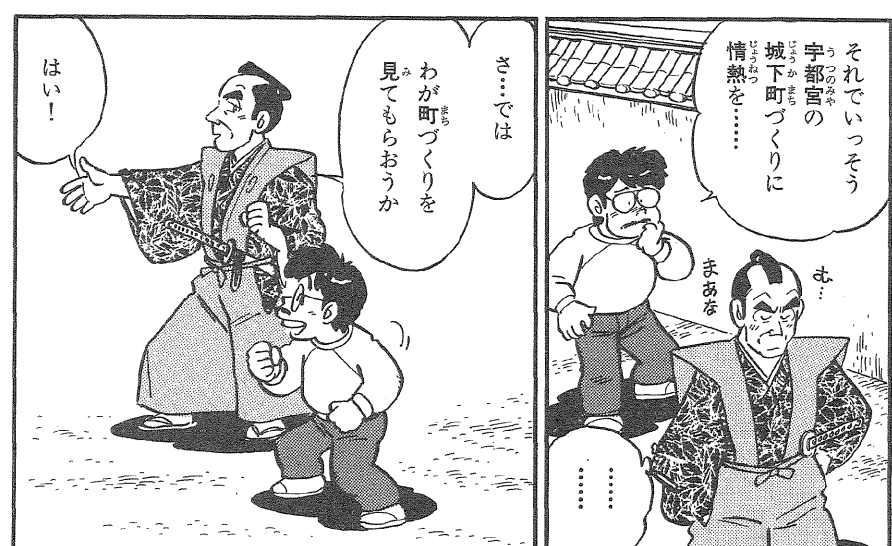
まさに栄光の瞬間ですね

わが人生で最良の日であったな



わしが先君の家康公お気に入りだったから二代將軍秀忠公やその取りまきたちからたいふけむたがられていたのよ

わしは老中筆頭の地位にあったが

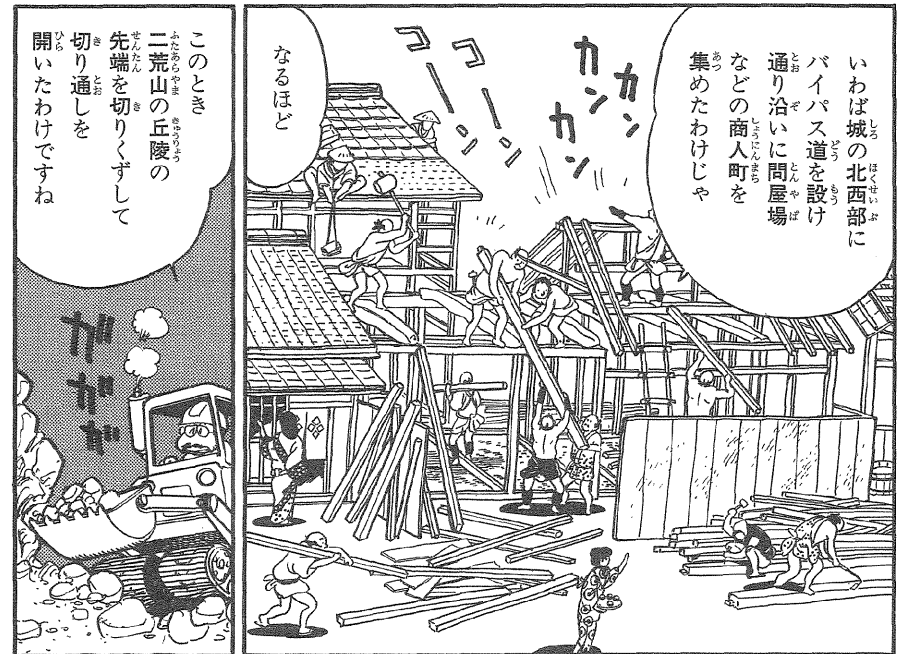
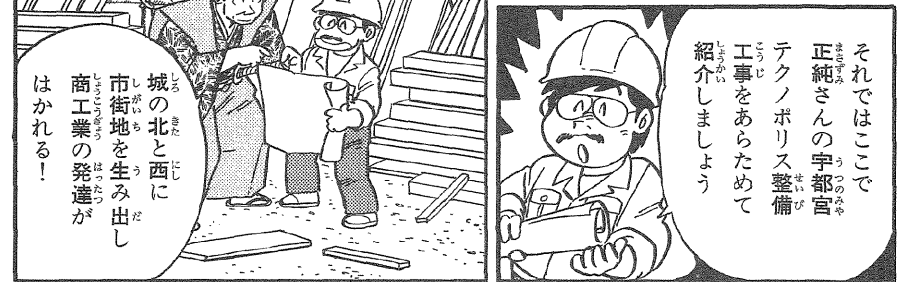
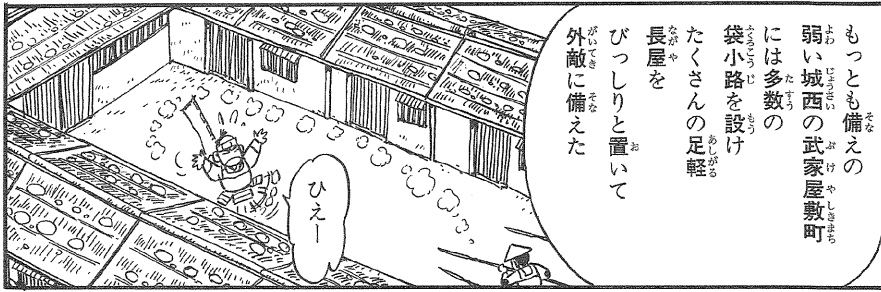


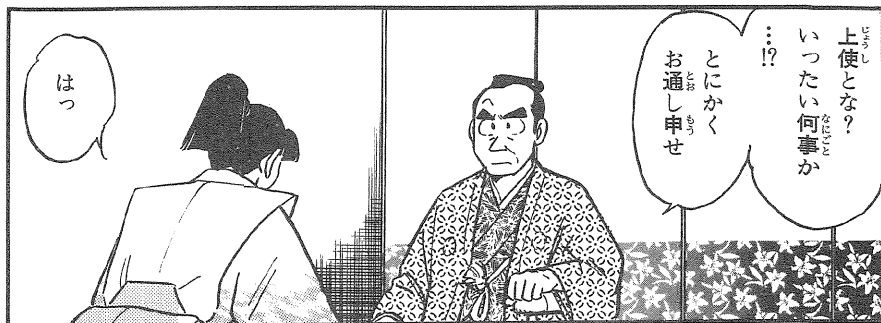
はい！

わが町づくりを見てもらおうか

それでいつそう宇都宮の城下町づくりに情熱を...

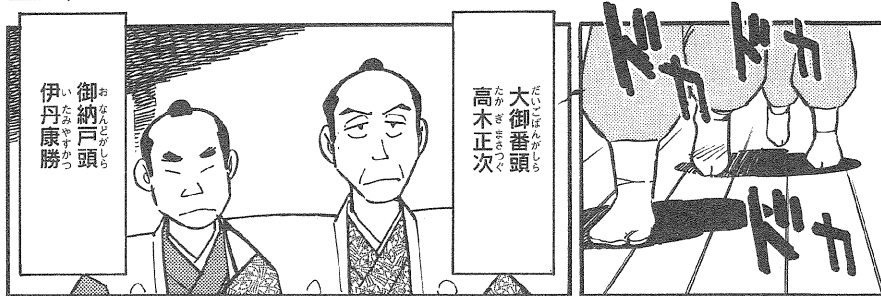
まあな





上使とな？
いったい何事か
…!?
とにかく
お通し申せ

はっ

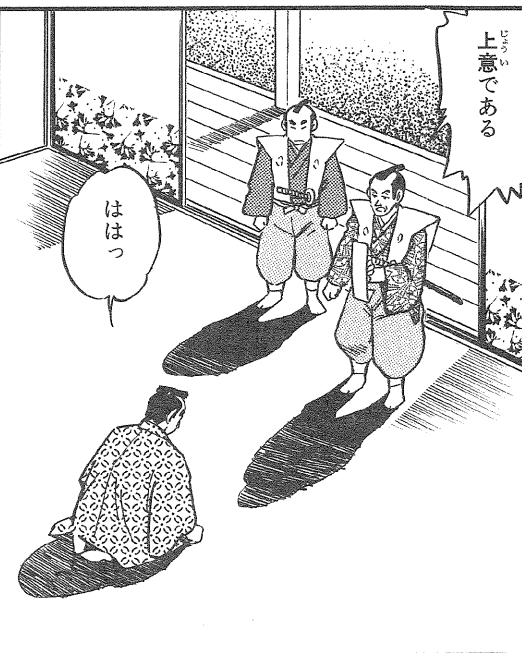


大御番頭
高木正次

御納戸頭
伊丹康勝



本多上野介儀
日頃の奉公おろそかにつき
宇都宮一五万五〇〇石を
没収！
出羽国由利郡
（秋田県本庄市）において
あらためて五万五〇〇石
くださるものなり！



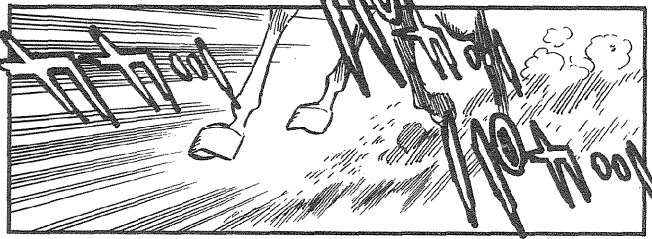
上意である

ははっ



一六三二（元和八）年八月
出羽（山形県）山形城
五七万石の最上義俊が
家臣間の争いが原因で取りつぶされた

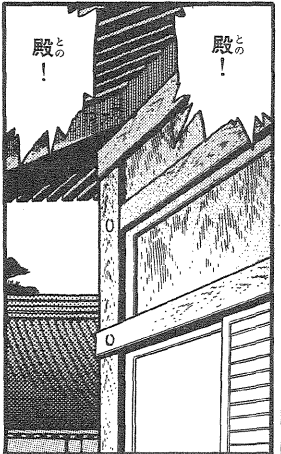
正純は、常陸の笠間城主
永井直勝とともに
城受け取りの役を
命じられた



そして山形城の
明け渡しは無事に
終わったのだが…

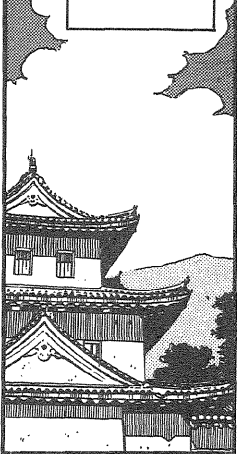


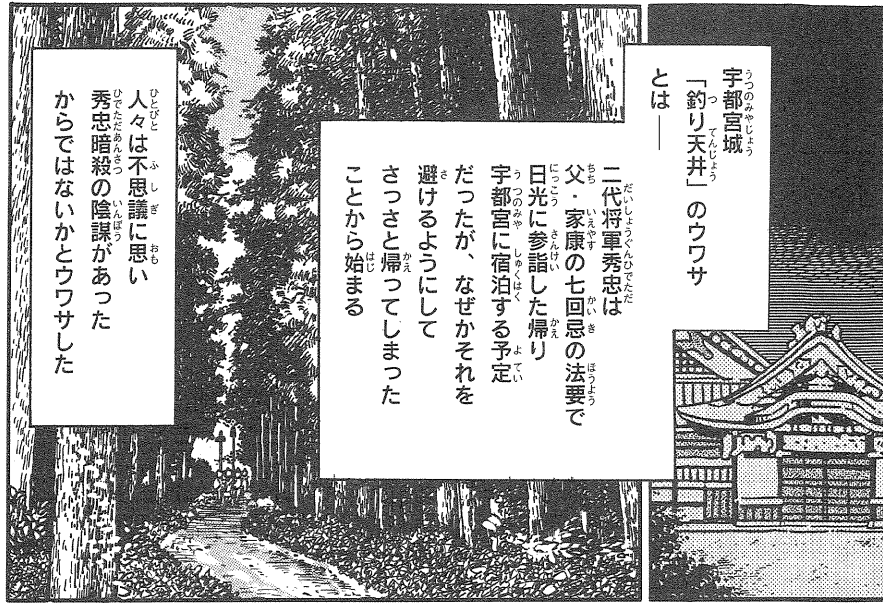
幕府よりの上使が
火急の用件ありと
まかりこしました！



殿！

殿！

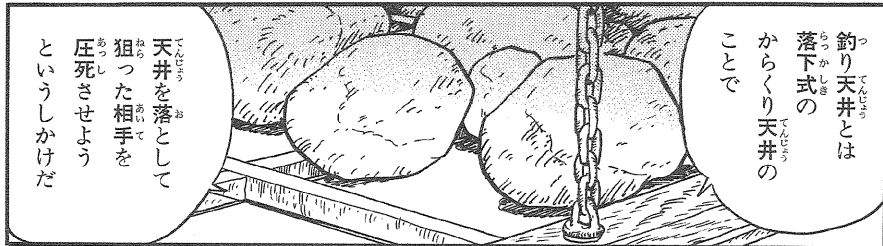




人々には不思議に思い
秀忠暗殺の陰謀があった
からではないかとウワサした

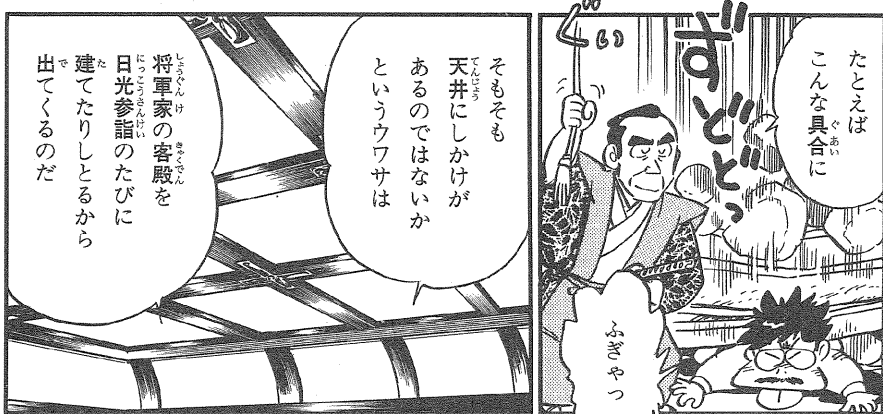
二代將軍秀忠は
父・家康の七回忌の法要で
日光に参詣した帰り
宇都宮に宿泊する予定
だったが、なぜかそれを
避けるようにして
さっさと帰ってしまった
ことから始まる

宇都宮城
「釣り天井」のウワサ
とは――



天井を落とすとして
狙った相手を
圧死させよう
というしかけだ

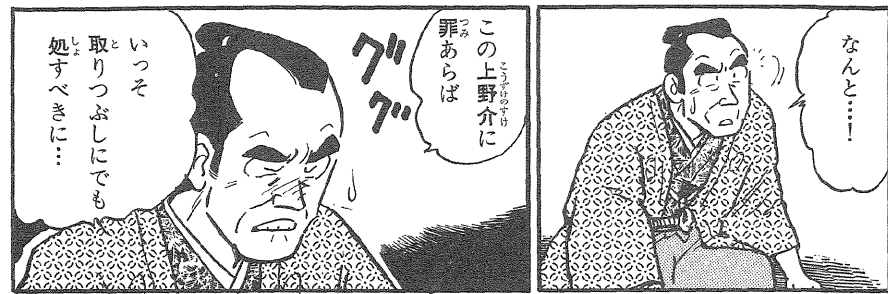
釣り天井とは
落下式の
からくり天井の
ことで



將軍家の客殿を
日光参詣のたびに
建てたりしとるから
出てくるのだ

そもそも
天井にしかけが
あるのではないか
というウワサは

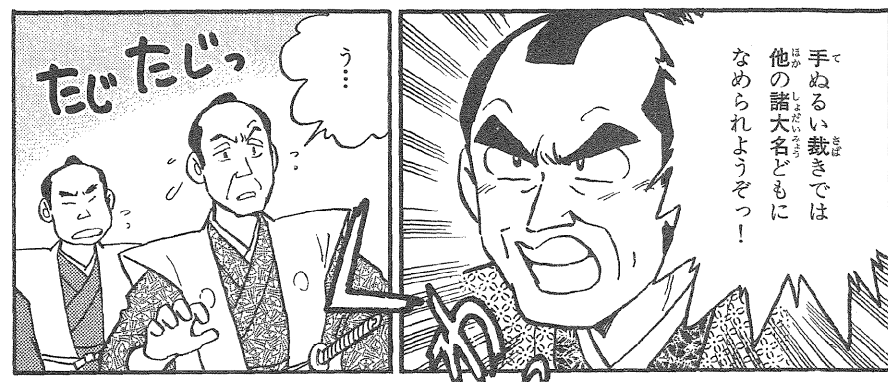
たえはば
こんな具合に
ずいずい
ふきやう



いつそ
取りつぶしにでも
処すべきに…

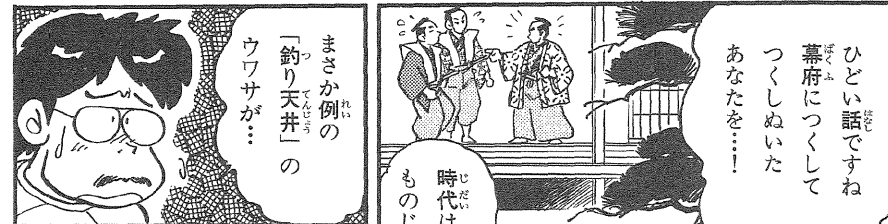
この上野介に
罪あらば

なんと…！



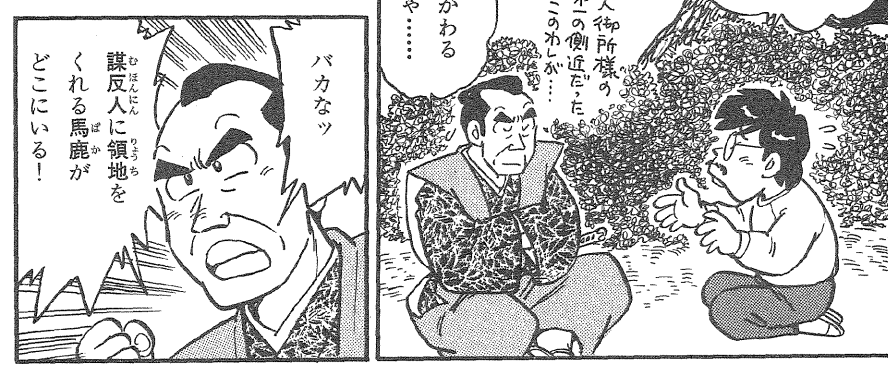
たいたい

手ぬるい裁きでは
他の諸大名どもに
なめられようぞつ！



まさか例の
「釣り天井」の
ウワサが…

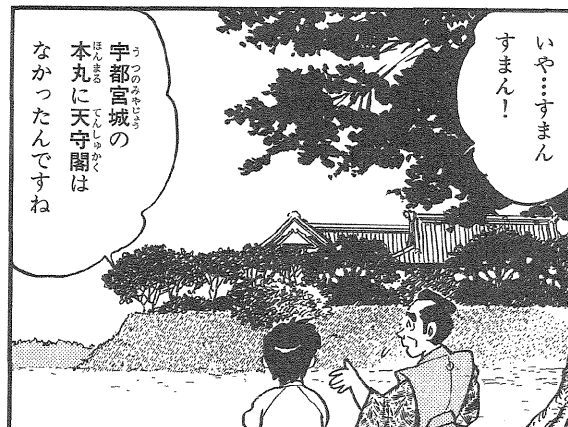
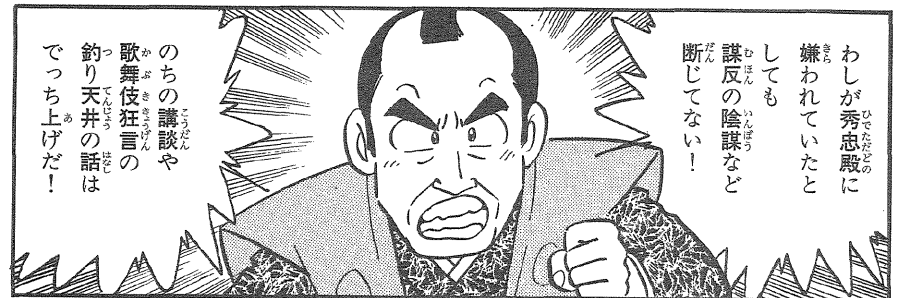
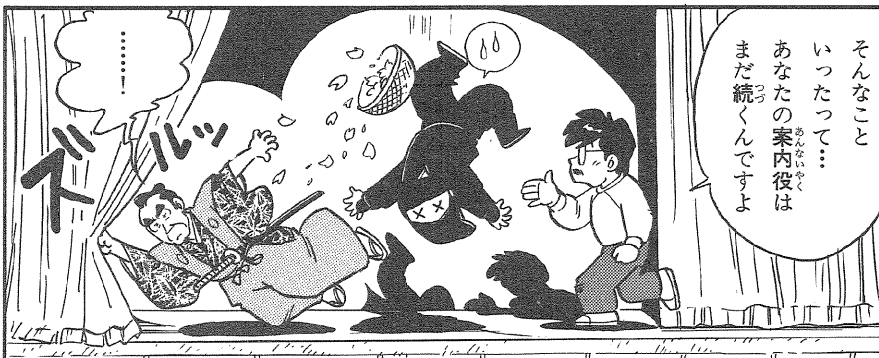
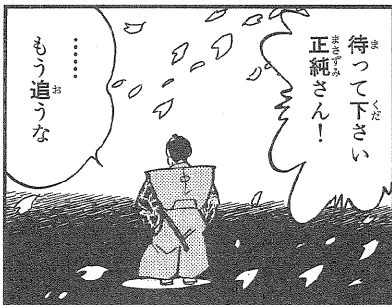
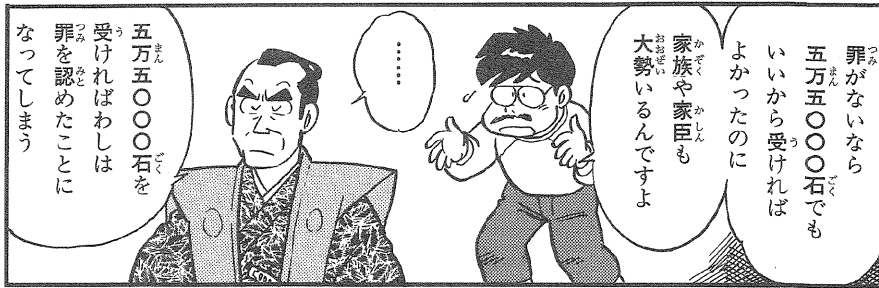
ひどい話ですね
幕府につくして
つくしぬいた
あなたを…！

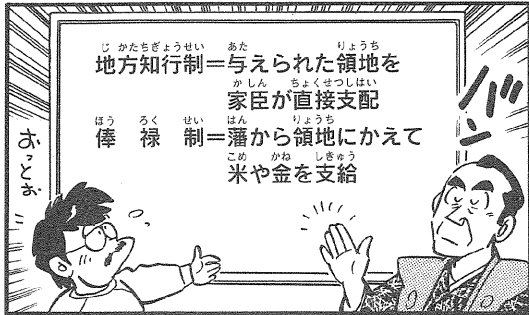


バカなツ
謀反人に領地を
くれる馬鹿が
どこにいる！

大御所様の
御側近さま
このおかしが…

時代はかわる
ものじゃ…

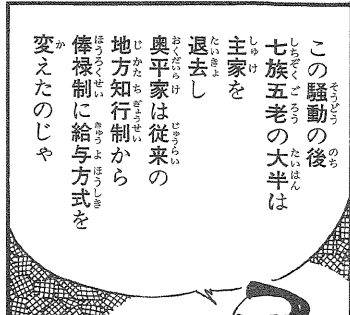




地方知行制=与えられた領地を
家臣が直接支配
俸禄制=藩から領地にかけて
米や金を支給



わかった！
それまで
本社（大名）から
子会社の経営を
まかせられていた家臣が
本会社に
合併され、給与取りの
サラリーマンになったっ
てことですね



この騒動の後
七族五老の大半は
主家を
退去し
奥平家は従来の
地方知行制から
俸禄制に給与方式を
変えたのじゃ



え
じ…
地方知行制？
俸禄制？



さよう
こうなると家臣たちは
いままでのように
知行地の農民を勝手に
使えないばかりか
豊作の年の恩恵も
うけられない
代わって藩は
全領を統治するから
大名の権限ははるかに強化
されたのじゃ
土地が無ければ
帰るところは
ありませんからね
これは憐れだな
ぜーんぶ
ワシの土地じゃ
ああ

※知行…主人から与えられた土地と人民を支配すること



やあ…
つい演技に
熱が入ってな
忘れないで
下さいよ
正純さんのあと
宇都宮城主は
また、あの奥平家
ですよ



同年一〇月
奥平忠宣
宇都宮二万石の
城主として再入封



この七族五老の間に
喧嘩が起こり
この家でも
御家騒動が
起こるのじゃ
ところが
奥平家の
七族五老は
非常に仲が
悪くてな…
一六七二（寛文二）年六月の
「江戸浄瑠璃坂の仇討」は
後の赤穂浪士が手本としたほど
見事な討ち入りだった

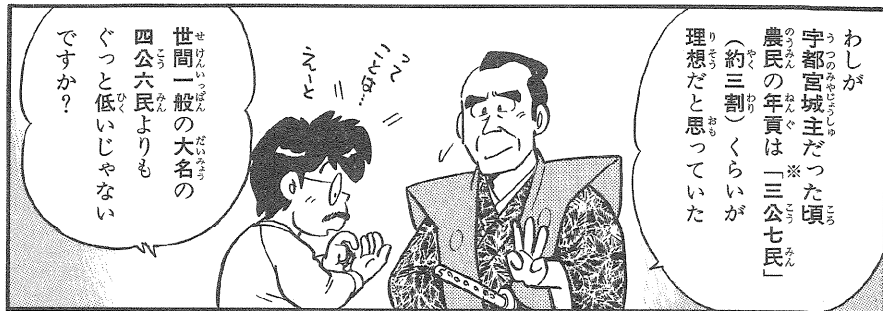
※七族五老…奥平氏創草期からの一族と譜代の重臣の俗称

※入封：大名が自分の領地に初めて入ること



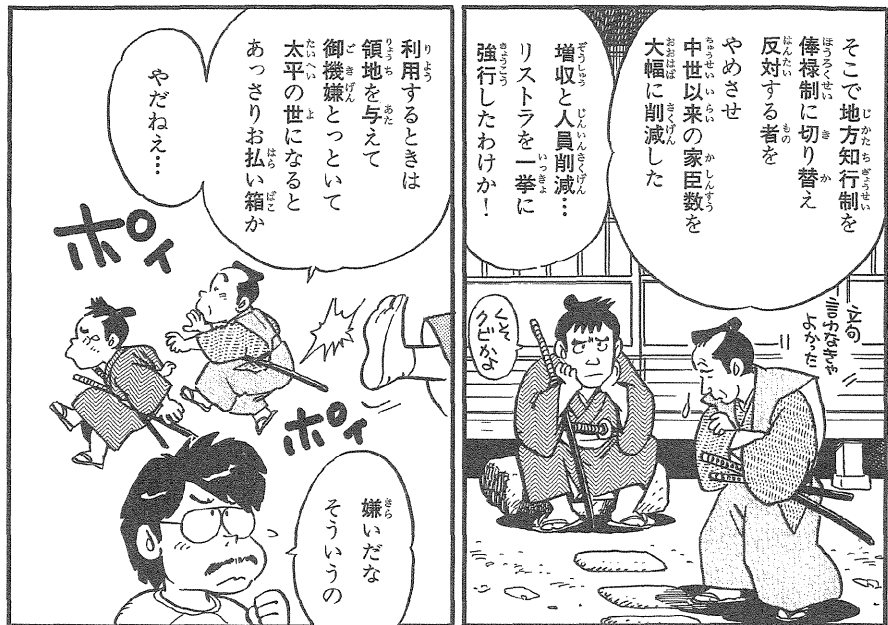
黒羽藩（黒羽町）ではこれに反対した一〇〇人からの藩士が暇を申しわたされ浪人するか帰農した

なにせ黒羽藩はわずかに一万九二〇〇石の所領しかないのに上級家臣の五四人が一万三二四六石もの知行高をもっていたこれでは藩主の力は弱くとても家中を運営してゆけない…



わしが宇都宮城主だった頃の農民の年貢は「三公七民」（約三割）くらいが理想だと思っていた

世間一般の大名の四公六民よりもぐっと低いじゃないですか？



そこで地方知行制を俵禄制に切り替え反対する者をやめさせ中世以来の家臣数を大幅に削減した

増収と人員削減…リストラを一挙に強行したわけか！

利用するときは領地を与えて御機嫌とつといて太平の世になるとあっさりお払い箱か

やだねえ…

嫌いだな
そういうの



まさに名君！改めて見直しましたよ

そう手ばなしでほめるなわしの時代は物価も安定しておったし

ところが一六三〇〜四〇年代の奥平家のころには年貢が五公五民

約五割にもなる

武士も農民も質素儉約に心がけたものじゃ

増税ですね！



それはわしとて同じじゃもつとも武士や侍は浪人になれば収入はないが気ままにも生きられる

じやが農民はそうはいかぬ！

自分の境遇から逃げ出すことは出来ない…

身分制度か…

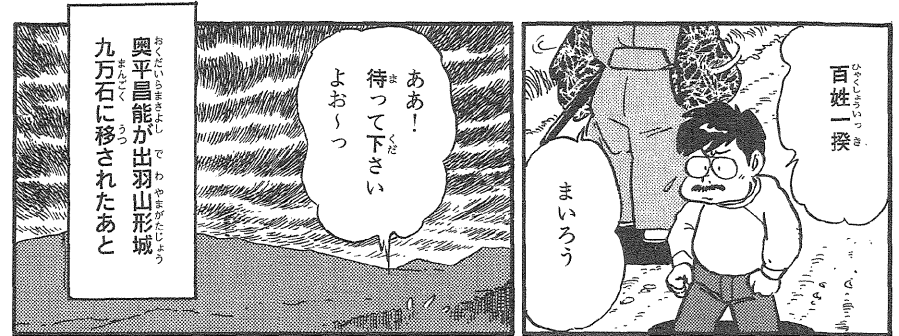
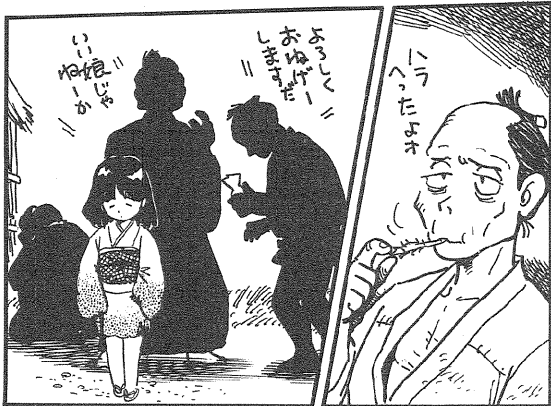
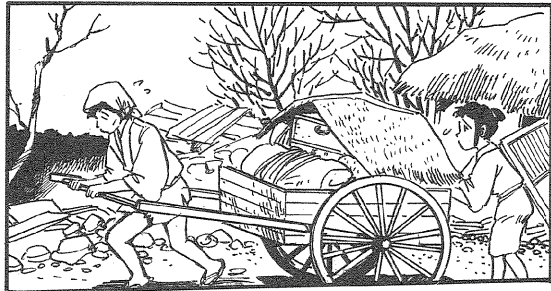
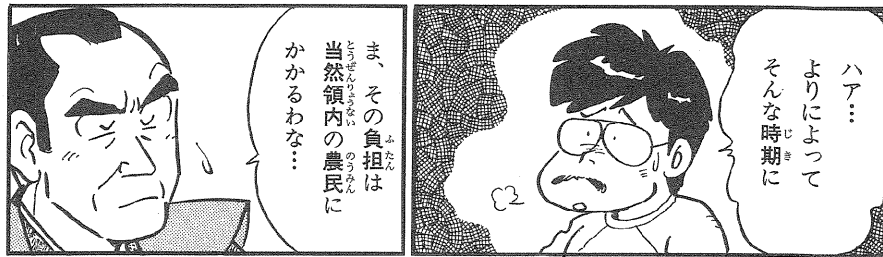
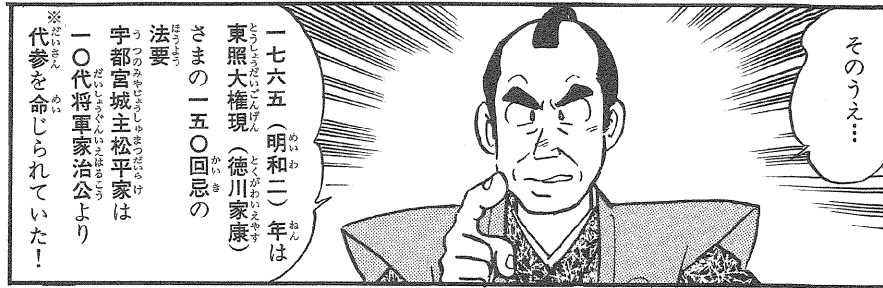


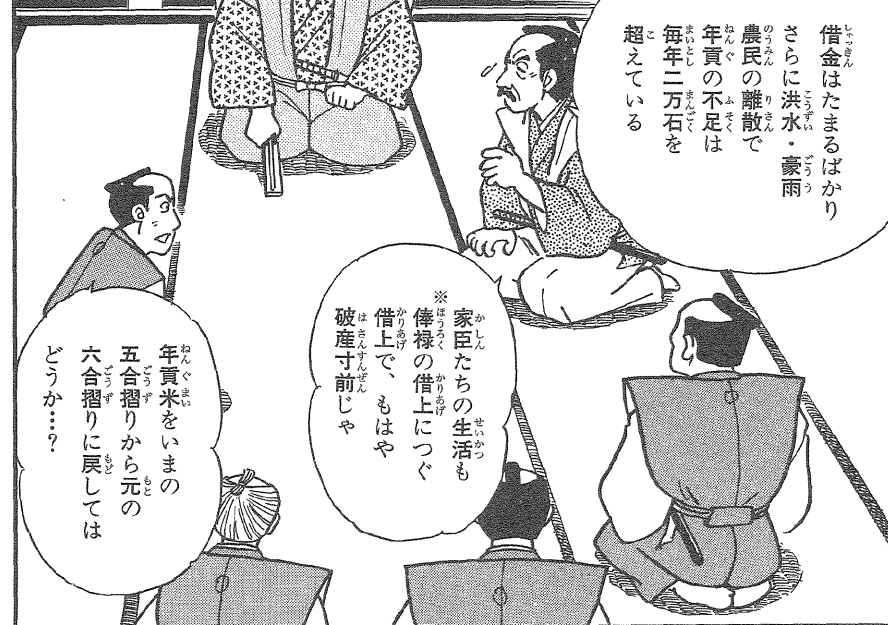
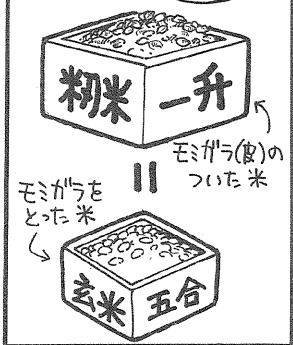
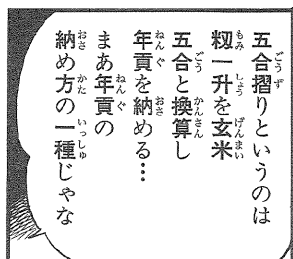
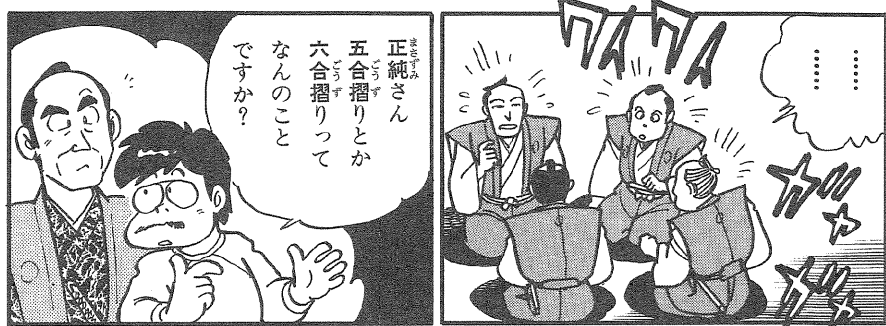
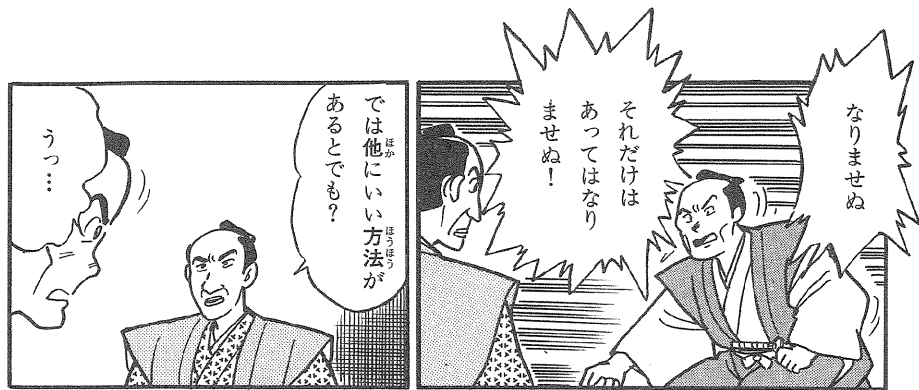
奥平家は將軍家の日光参詣のたびにこき使われたからなア…

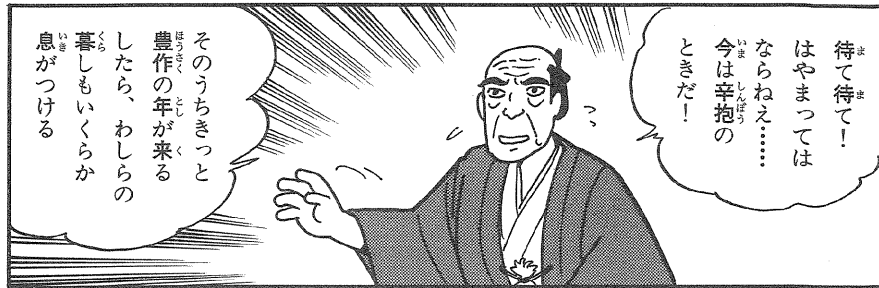
それにしたって農民は怒りますよ怒って当然です！

ああ怒ったとも！やがて怒りが爆発する！

通り道







そのうちきつと
豊作の年が来る
したら、わしらの
喜しもいくらか
息がつける

待って！
はやまっては
ならねえ……
今は辛抱の
ときだ！



こうして農民たちは
五合摺り、用捨引廃止の
税制に耐えたが
たび重なる洪水と豪雨と
凶作で
生活苦は限界に達した



このうえ
六合摺りだと!?
じゃねえ!
じゃねえ!

——にもかかわらず
一七六四(明和元)年
松平家は用捨引廃止のまま
年貢を六合摺りへ戻す
増税のかまえをみせた



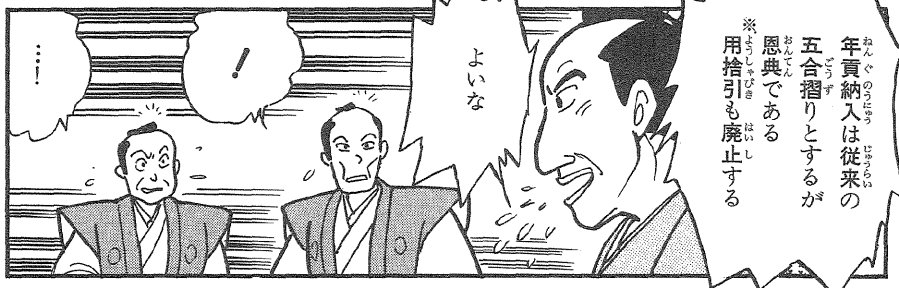
こうなりや
オラたちも
戦うだ！
んだ！
一揆だ！
一揆だ！
一揆だ！



だからこそ
藩の重臣たちが
こうして協議して
おる！

農民の死活問題と
あらば
やむをえまい……
もう一度借上を
実施し、藩士たちに
泣いてもらおう

だが農民たちにも
一歩ゆずってもらおう！



年貢納入は従来の
五合摺りとするが
恩典である
用捨引も廃止する

よいな



ここんところ
何年も凶作続きで
豊作の年なんぞ
ねえのによオ

そうじゃ
そうじゃ!



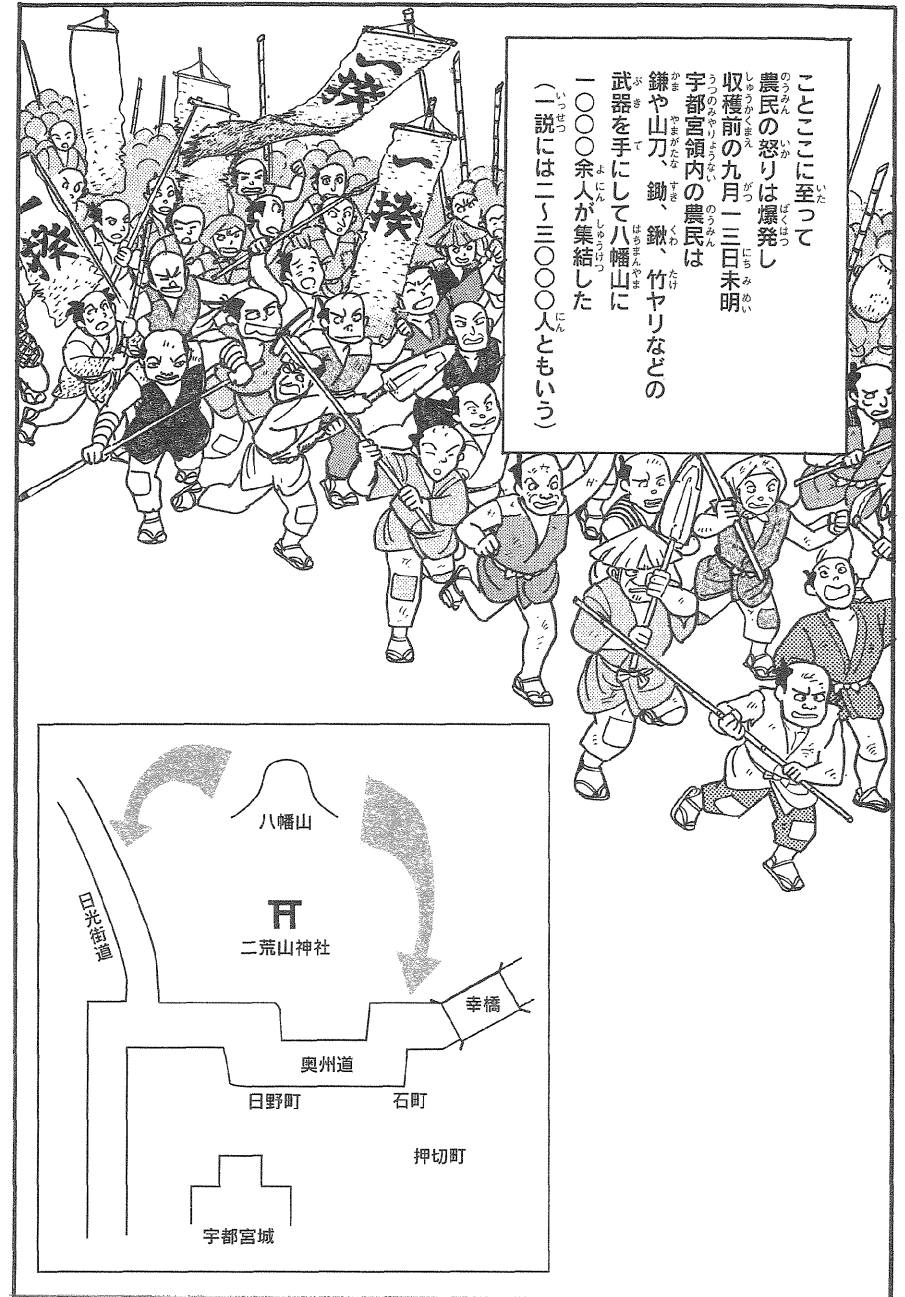
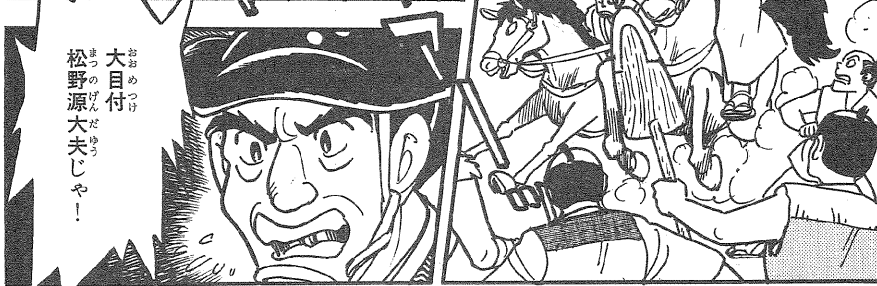
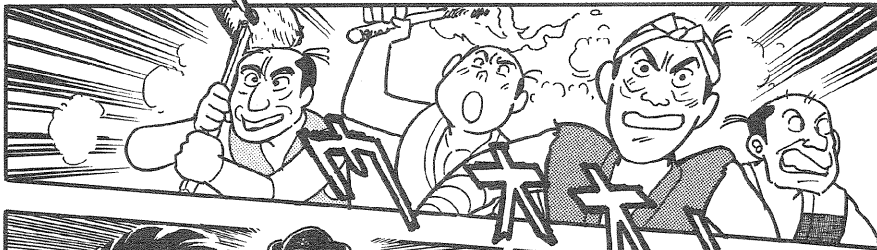
長島村(雀宮町)庄屋
鈴木源之丞宅

年貢を据えおく
代わりに用捨引の
廃止なんて
一見聞こえはいいが
こりや増税じゃ!



いつそのこと
六合摺りに
もどしてもらって
用捨引を復活
してもらうべ

その方がなんぼか
米が手元に残る



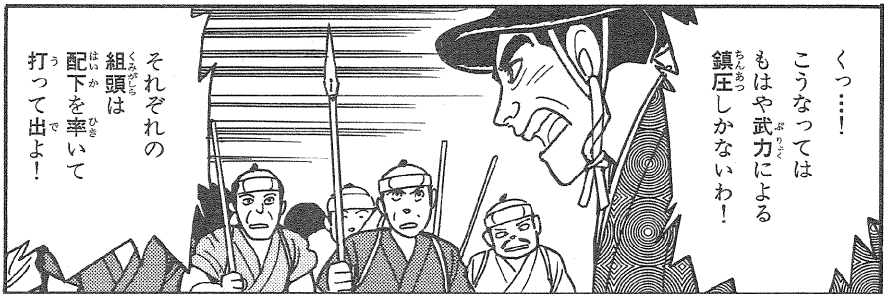


日野町に群がっていた
一揆方はこの触れによって
いったん退きかけたが

日光街道口では
伝馬町の豪商
平石屋清衛門宅
佐野口(栢木街道)の
篠元伝左衛門宅をはじめ
次々に商家がおそわれ



下火になった石町
押切町の一揆方も
勢いをもりかえした



それぞれの
組頭は
配下を率いて
打って出よ!

こうなつては
もはや武力による
鎮圧しかないわ!



長島村の庄屋
鈴木源之丞と
いいますだ

そのほうは?



大目付様
わしら農民の
唯一の救いであつた
用捨引は廃止
そのうえ
さらに鞭うつ
六合摺りの達し
どうして
これ以上の辛抱が
できましようかつ

その方々の
気持ちは
よくわかる!

分かる!



だが願いの儀は
しかるべき手順を
経て御上に
言上すべきぞ!

この度の
願いの儀は
松野源大夫の
一命に代えて
殿に申しあげる

それゆえ早々
村々に
引きあげ!



宇都宮藩の裁き

●農民側の指導者を
竹林刑場にて斬首

- 長島村庄屋 六五歳
- 源之丞 二八歳
- 上平出村庄屋 二八歳
- 亀右衛門 三三歳
- 今泉村庄屋 六平 四一歳
- 吉右衛門 三三歳
- 今泉新田村庄屋 六平 四一歳

結局農民の悲願も
徒勞に終わったん
ですね

いや…松平家も後で
用捨引をふやすなどの
農民にいろいろ譲歩
しているんじゃないよ

しかも、その後

一七七四(安永三)年四月九日
松平忠恕、肥前島原城へ国替え

あら？
また島原城へ
帰されたん
ですね



農民たちも
一矢報いたと
いうわけじゃ

昔に比べれば
農民の立場は格段に
向上している筈じゃよ



そりゃ
まー
そう言われれば
確かにそうですが



次は明治維新まで
宇都宮城主
であった戸田家じゃ

これでようやく
宇都宮藩の
藩政も安定する

藩主は
戸田忠寛

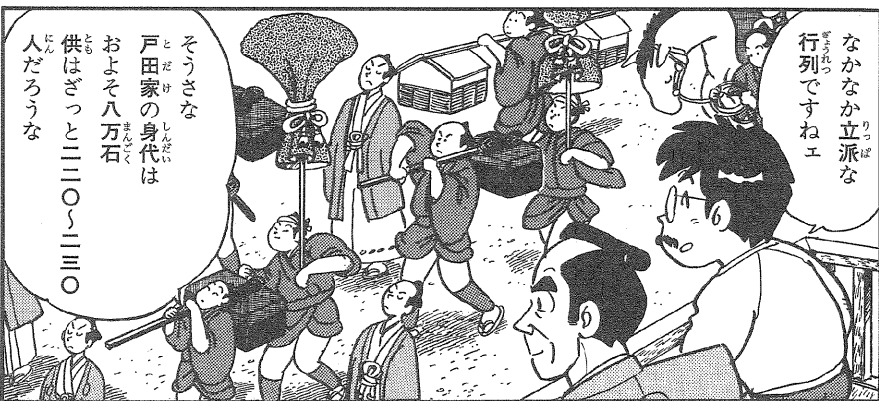
のちに寺社奉行
大坂城代から
京都所司代と
幕府の要職を
歴任する名君じゃ

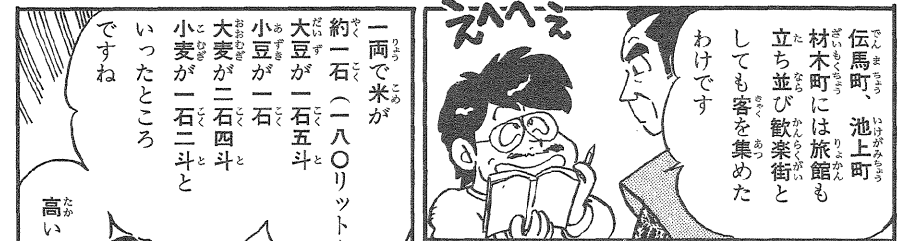
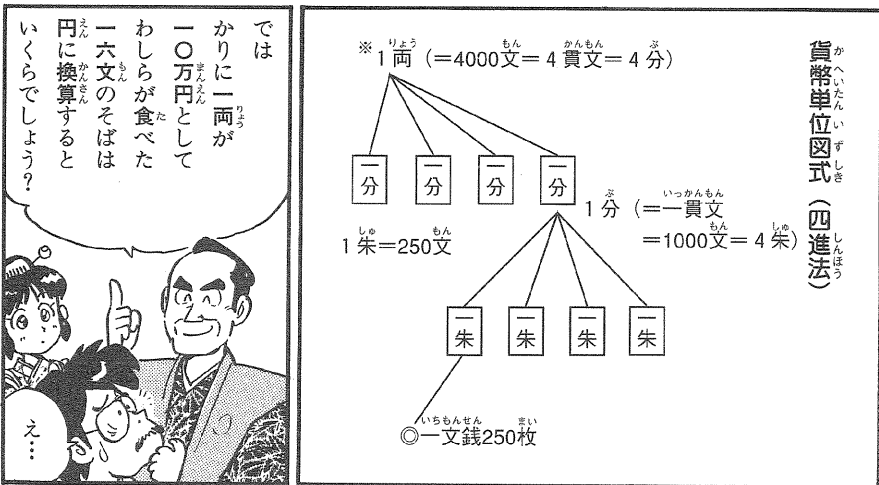
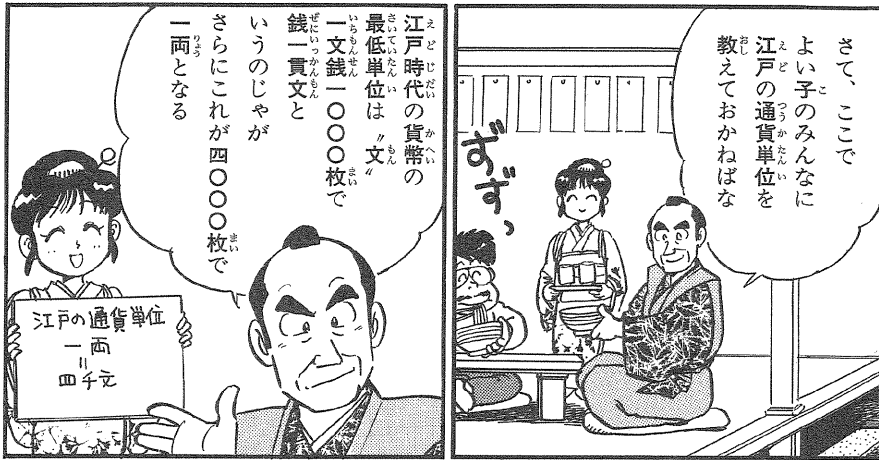
一七七四(安永三)年六月
戸田家の入城



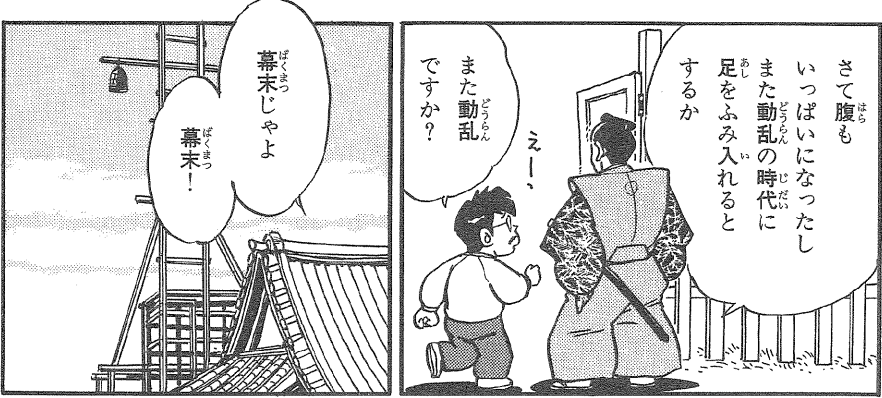
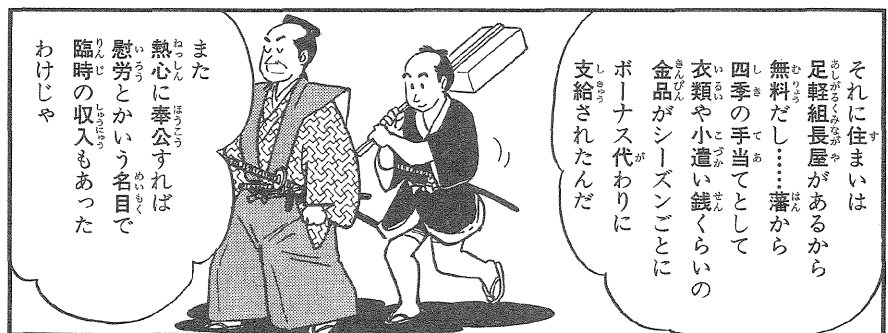
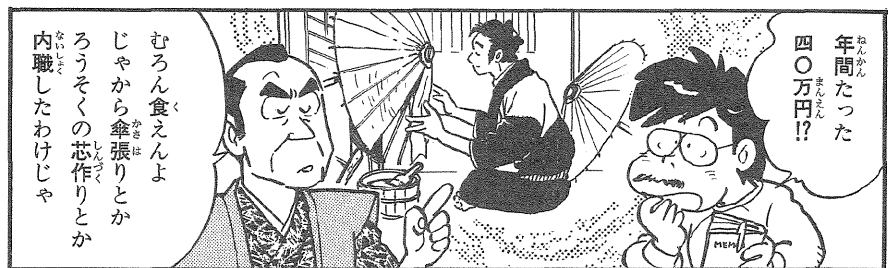
なかなか立派な
行列ですねエ

そうだな
戸田家の身代は
およそ八万石
供はざつと二二〇〇二二〇
人だろうな





※一人扶持・主君から家臣に支給する給与の基準。一人一日玄米五合を標準とし、一年分の米または相当の金銭をいう



えーと
えーと...
ハイ!
一杯四〇〇円でーす

はい
ご明算
お主は
もう一度
小学校から
やりなおせ

ああうまかった
それにしても
この時代の足輕の給料は
三兩二分一人扶持が
相場
どうやって
食べてたん
でしょうね
飯は一人扶持で一日
玄米五合が支給され
とるからな...
残りの三兩二分
つまり四〇万円
でおかずを買って
いたわけだ

年間たった
四〇万円!!
むろん食えんよ
じゃから傘張りとか
ろうそくの芯作りとか
内職したわけじゃ

それに住まいは
足輕組長屋があるから
無料だし...藩から
四季の手当てとして
衣類や小遣い銭くらいの
金品がシーズンごとに
ボーナス代わりに
支給されたんだ
また
熱心に奉公すれば
慰勞とかいう名目で
臨時の収入もあつた
わけじゃ

それにしたって
生活は苦しい
ですよ
うむ...まあ
女房持ちになれば
一兩一人扶持ぐらいは
ベースアップして
くれたんじやが

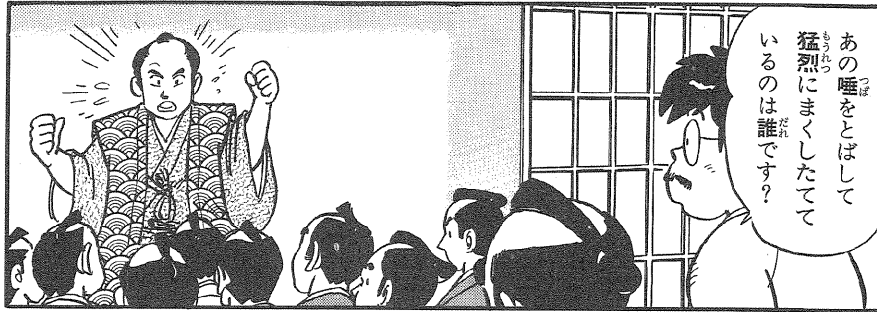
まず初鯉とは
一生縁がなからうな
本当に
本當に
初鯉か
三兩もしたり
茄子の鴨焼きが七兩も
したんですか?

江戸時代には
温室栽培の
ナスビは
ないからの
寒くなると
手に入らん

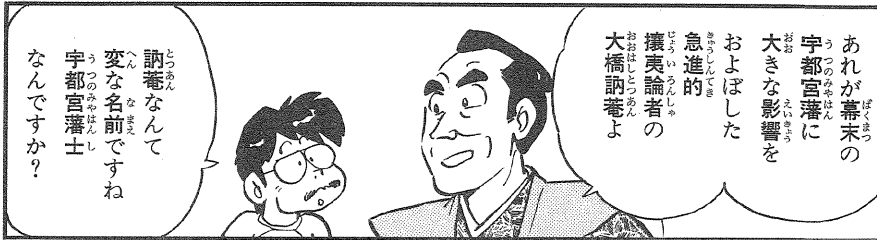
遠方から
取り寄せねば
ならんわけだが
今とちがって
クール宅急便の
ない時代じゃ
ほとんどが
運ぶ途中で
ダメになる
ほんの少ししか
残らんから
これが高い!
レトルト食品も
大量生産ラインも
ない時代なのじゃ

さて腹も
いっぱいになったし
また動乱の時代に
足をふみ入れると
するか
えー、
また動乱
ですか?

幕末じゃよ
幕末!



あの唾をどばして
猛烈にまくしたてて
いるのは誰ですか？



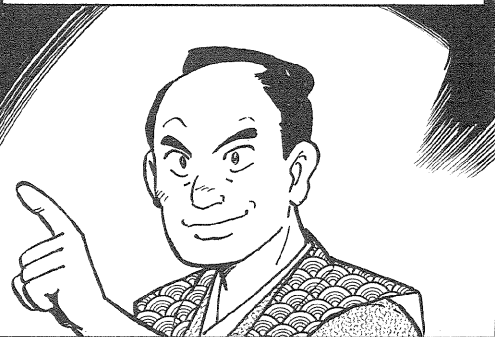
あれが幕末の
宇都宮藩に
大きな影響を
およぼした
急進的
攘夷論者の
大橋訥庵よ

訥庵なんて
変な名前ですね
宇都宮藩士
なんですか？



結婚を機に
佐野屋を
パトロンにして
日本橋橋町に
私塾の思誠塾を
ひらいた

訥庵は号
正式には大橋順蔵正順
上州高崎出身の
兵学者清水赤城の四男で
二〇歳のときに日本一の
儒学者といわれた
佐藤一斎の門人となって
頭角をあらわし
みこまれて二六歳のとき
宇都宮の豪商佐野屋と
菊池長四郎(号淡雅)の
長女巻子の婿になった

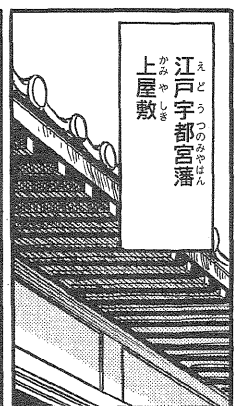


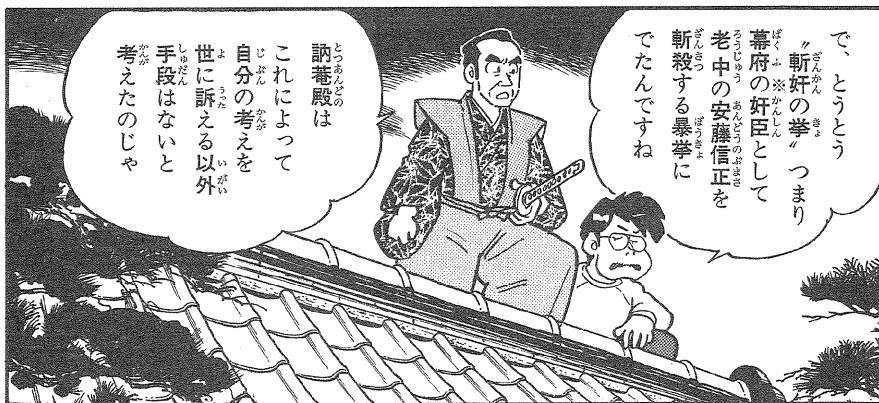
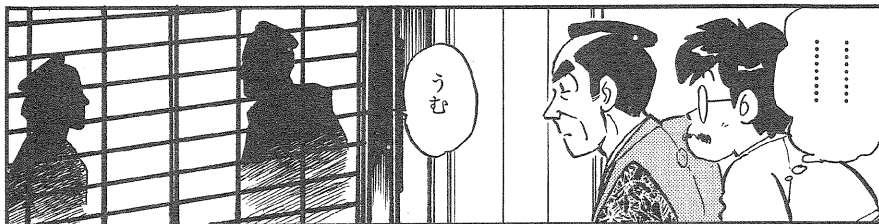
一八世紀も後半を迎えると
餓死者数一〇万人を出した
「天明の大飢饉」をきっかけに
諸藩で年貢軽減を求める
一揆が多発した

蝦夷地(北海道)をはじめ
日本の周辺には通商を求める
外国船が出没、ようやく幕府は
老中松平定信の「寛政の改革」
老中水野忠邦の「天保の改革」と
政治改革を試みるが
成果はあがらず
経済状態はいっそう
悪化し、幕府に対する不満は
拡大の一途をたどった

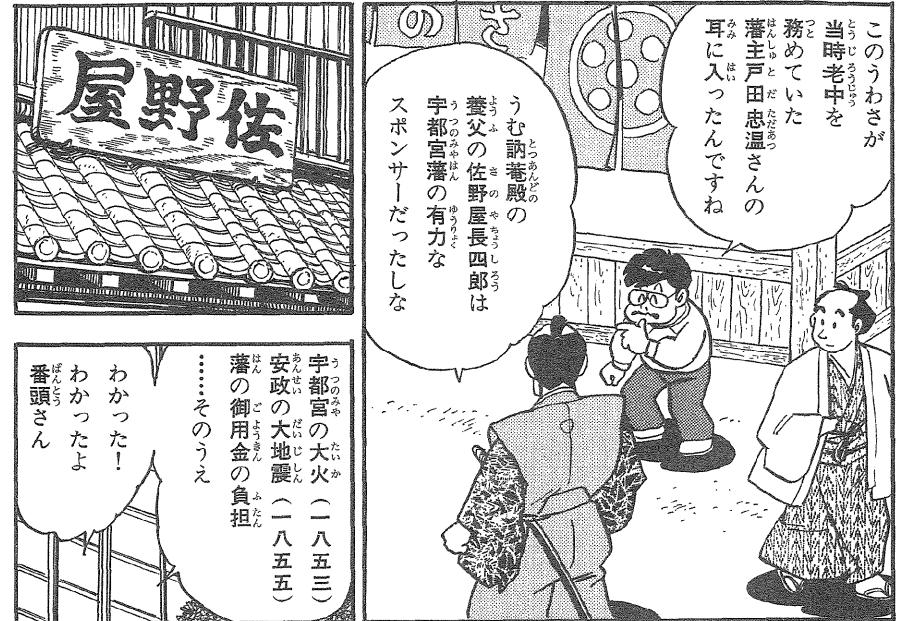


わが国は神州である
神州に夷狄(外国)を
近づけてはならない
すぐに打払うべきだ！





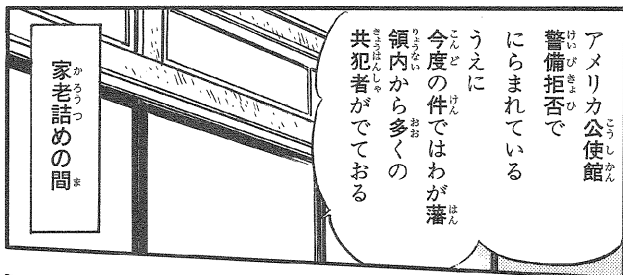
※奸臣…主君のまわりにいる悪者、よこしまな家臣





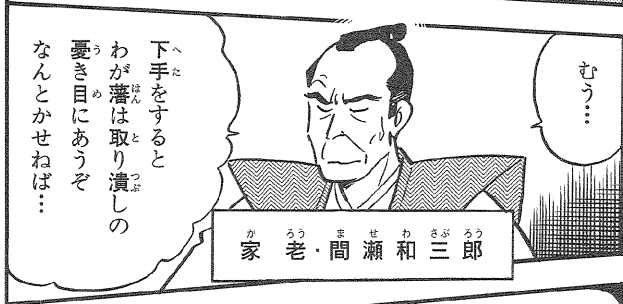
訥菴さんは
「幕永上書」の
なかで次のような
ことを記していますね
「人心さえ
ひとつになれば
武器が不足しても
たとえ大砲がなくても
必ず勝てる」

幕末の志士たちは
みな、そうした
気持ちを持っていた
のかも…な



アメリカ公使館
警備拒否で
にらまれている
うえに
今度の件ではわが藩
領内から多くの
共犯者がでている

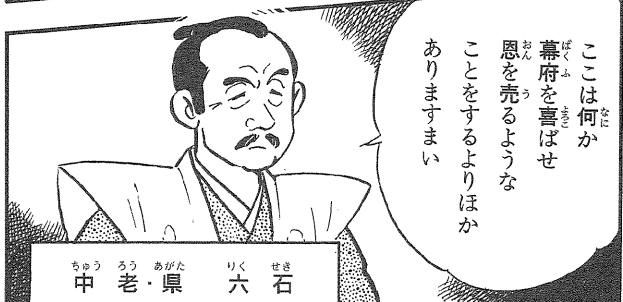
家老詰めの間



家老・間瀬和三郎

下手をすると
わが藩は取り潰しの
憂き目にあうぞ
なんとかせねば…

むう…



中老・石六

ここは何か
幕府を喜ばせ
恩を売るような
ことをするよりほか
ありません

一八六二（文久二）年
五月一日
「坂下門外の変」後の
江戸・宇都宮藩邸



これは
困ったことに
なった…



一月一五日上元の佳節
江戸城坂下門外にて
老中安藤信正を
大橋訥菴の一派六名が
安藤を襲い負傷させたが
暗殺に失敗、六名とも
斬殺された

大橋訥菴は
この事件の数日前に
逮捕され
菊池教中ら攘夷派
グループも一斉に捕縛
された…

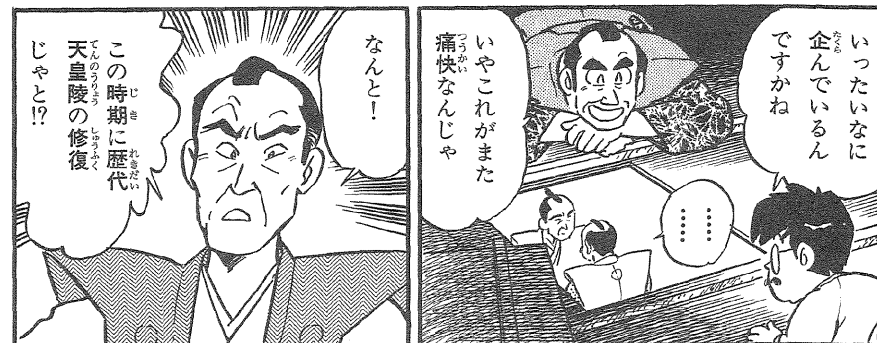
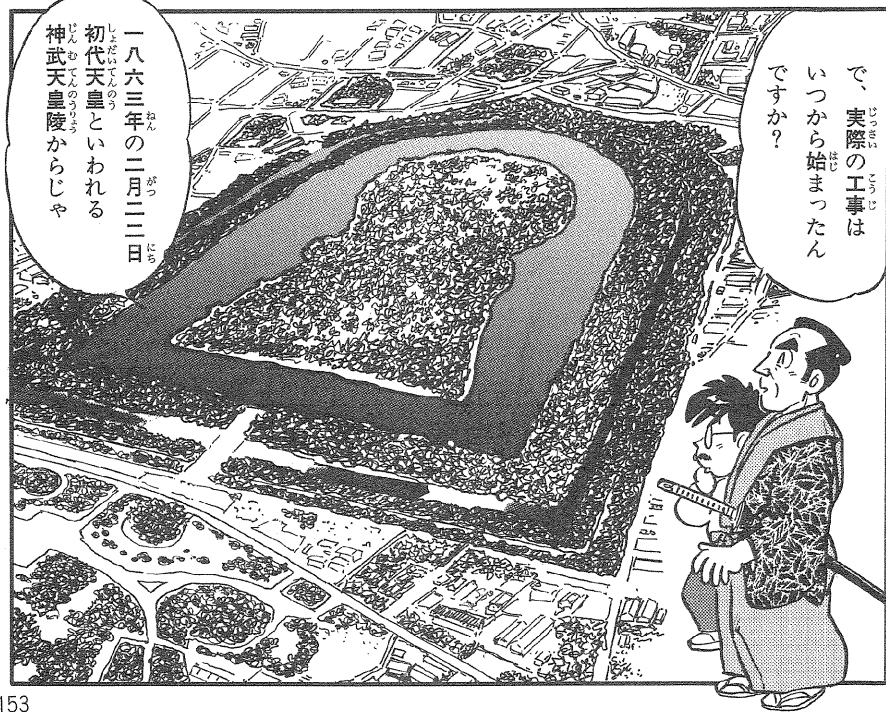


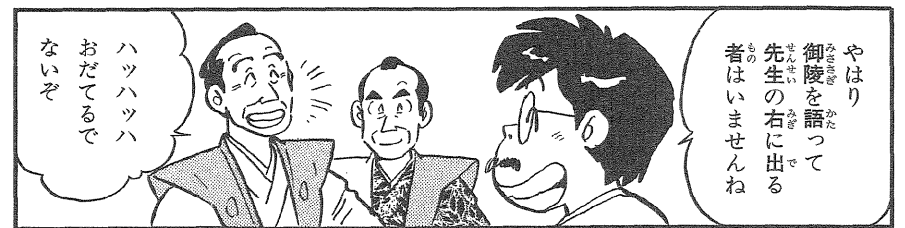
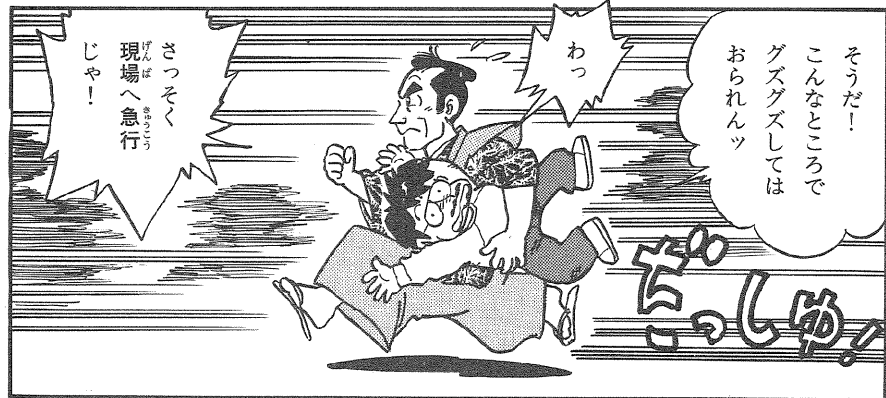
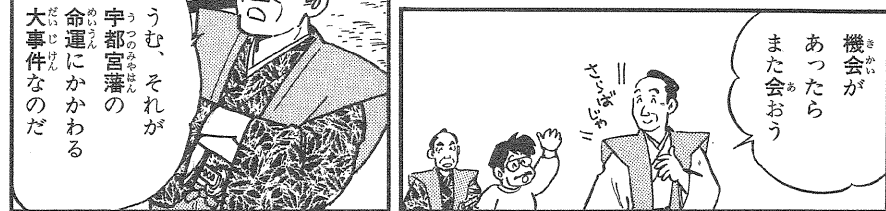
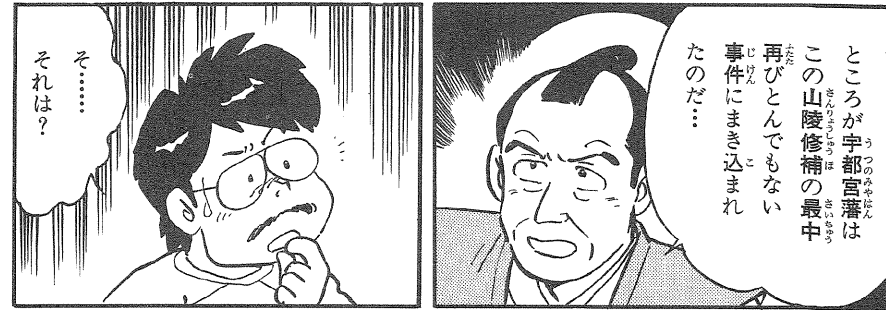
志こそ果たせなかつたが
訥菴たちの精神は
全国の勤王の志士を
ふるいたせたのじゃ

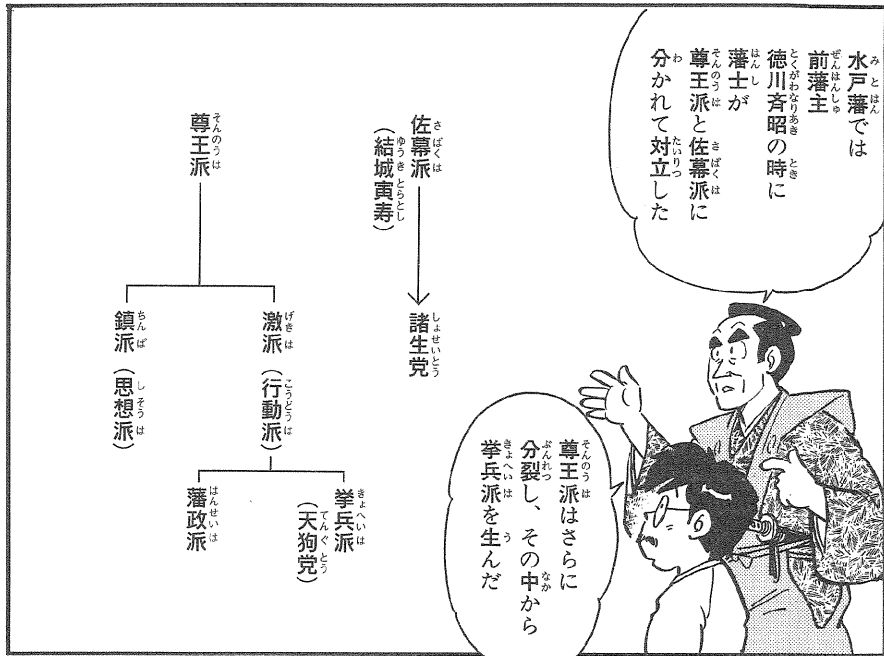


宇都宮藩では
家老の間瀬和三郎や
梶六石らが
赦免運動を展開し
大橋訥菴は七月七日
菊池教中は七月二五日に
赦免された…しかし

数日後
二人とも病死した
いずれも拷問による衰弱が
たたつたのだ







尊王派はさらに
分裂し、その中から
挙兵派を生んだ

翌六日
天狗党首領
藤田小四郎
(藤田東湖四男)
宇都宮藩に
面会を申し入れ
宇都宮藩学
修道館で会見した

その挙兵派が天狗党じゃよ…
天狗党は、坂下門外の変
以来、宇都宮藩を
尊王攘夷派の先駆けと
思っている節があつてな
その助力を得て、日光山を
占拠する腹つもりで
いたらしい



一八六四 (元治元) 年
四月五日
宇都宮城下に
見なれぬ二〇〇近い
軍勢が現れた

いったいなんで
こんなのが
宇都宮城下には
はいりこんで
きたんですか？

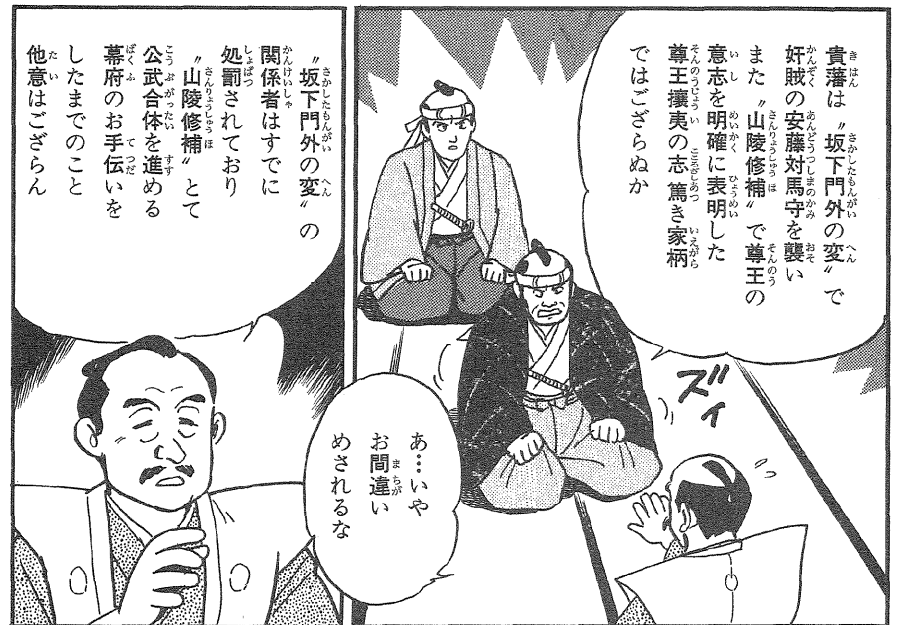
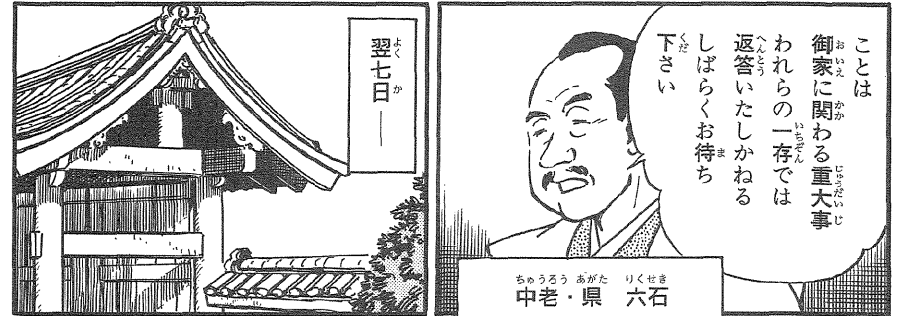
なんですか
この妙な連中は？

うむ、すこし
面倒な話に
なるでな…

図を見て
解説しよう

水戸藩脱藩者を
中心に三月に
筑波山で挙兵した
尊王攘夷軍
「天狗党」じゃ

※脱藩…武士が政治行動のため藩の所属を離れ浪人となること





七月九日
幕府はついに
若年寄・田沼玄蕃頭を
天狗党追討総督に任じ
出兵した

八月二日
宇都宮藩も出兵
家老、石原琢麿隊
藤田左京隊
藩兵四八三名が
筑波山に到着した

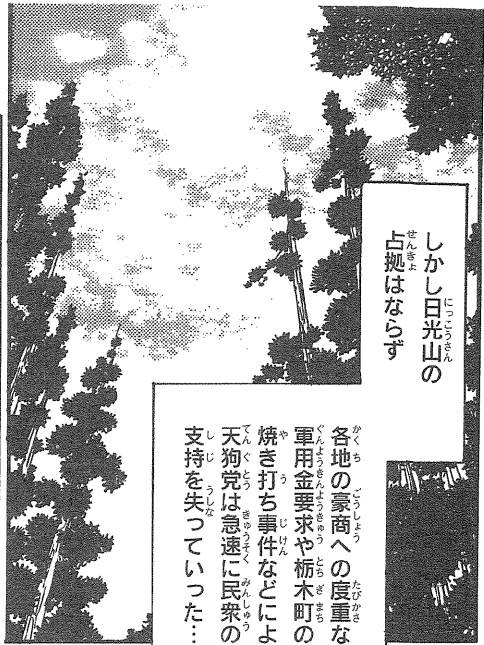


幕府はこれまでの
宇都宮藩の
にえきらぬ態度に
激怒した

ところが九月一日
あさうじとか
宇都宮藩兵は
幕府に無断で
戦線を離脱...

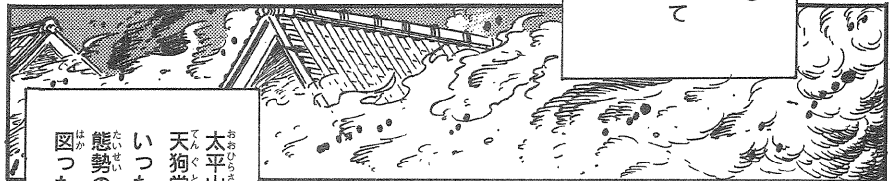


天狗党が
下野国でしたことって
いったい何だったん
でしょうね？
むう...
この拳兵をきつかけに
日本が事実上
無政府状態になった
のは確かじゃな



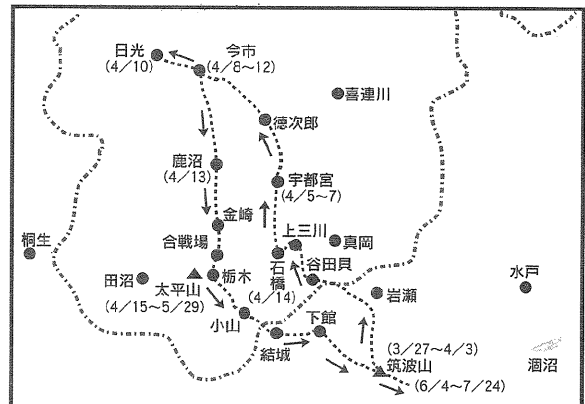
しかし日光山の
占拠はならず

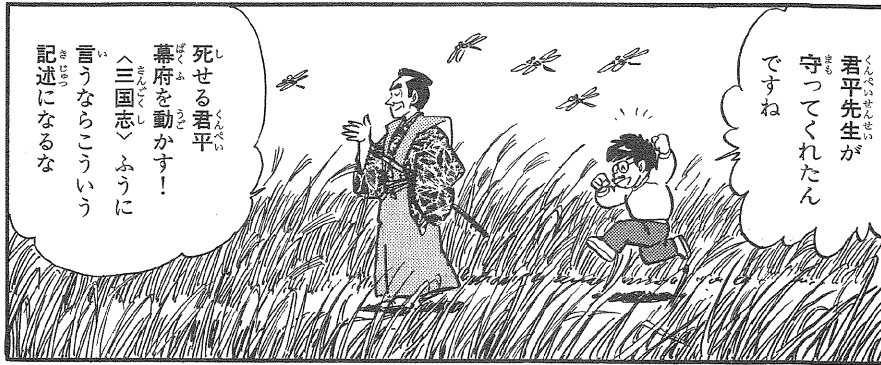
各地の豪商への度重なる
軍用金要求や栃木町の
焼き打ち事件などによって
天狗党は急速に民衆の
支持を失っていった...



大平山に屯集した
天狗党は
いったん筑波山に帰り
態勢の建て直しを
図ったが

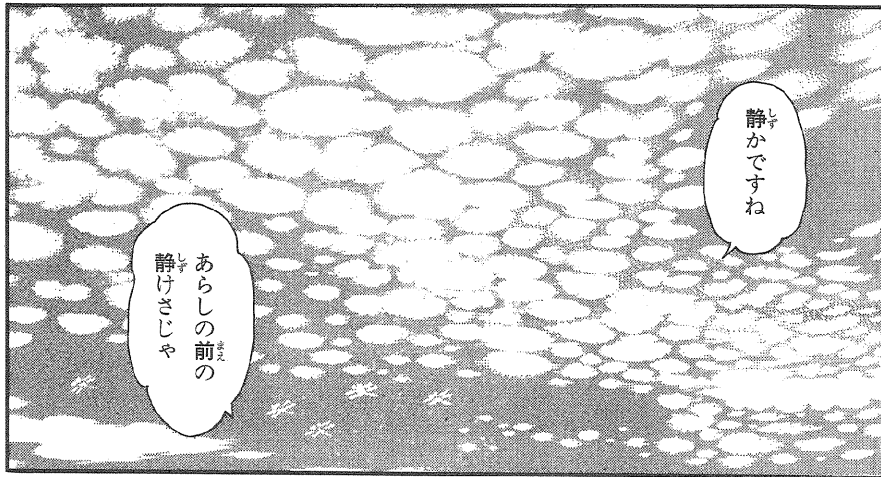
天狗党の進行経路図





君平先生が
守ってくれたん
ですね

死せる君平
幕府を動かす！
「三國志」ふうにい
言うならこういう
記述になるな



静かですね

あらしの前の
静けさじゃ

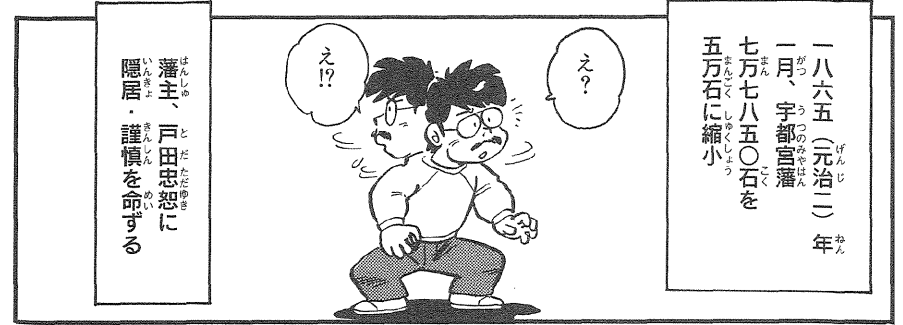


わしの役目は
ここまでじゃ

正純さん…



あらし…!!
それは？



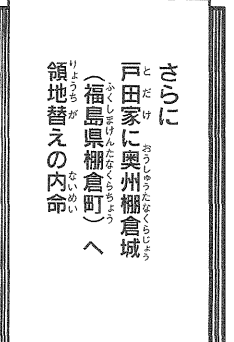
一八六五(元治二)年
一月、宇都宮藩
七万七八五〇石を
五万石に縮小

藩主、戸田忠恕に
隠居・謹慎を命ずる



この土壇場になって
格下げで引越し
ですかあ?!
そりゃ酷だ

幕府はよほど
腹わたが煮えくり
返っていたのじゃろう
ハッハッハ…



さきに
戸田家に奥州棚倉城
(福島県棚倉町)へ
領地替えの内命



安心せい
戸田家の
処分は
うやむやに
なったのじゃ

笑いごとじゃ
ないでしょうが



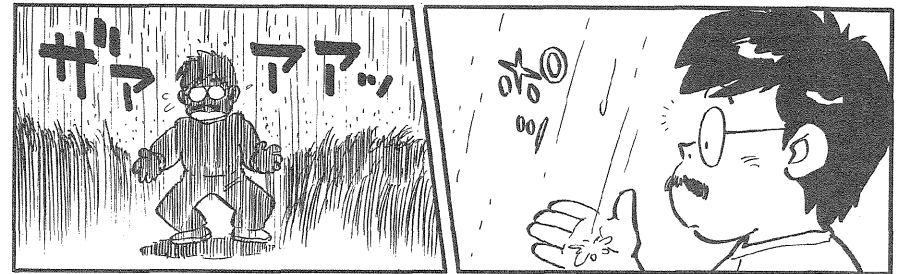
ええ!!



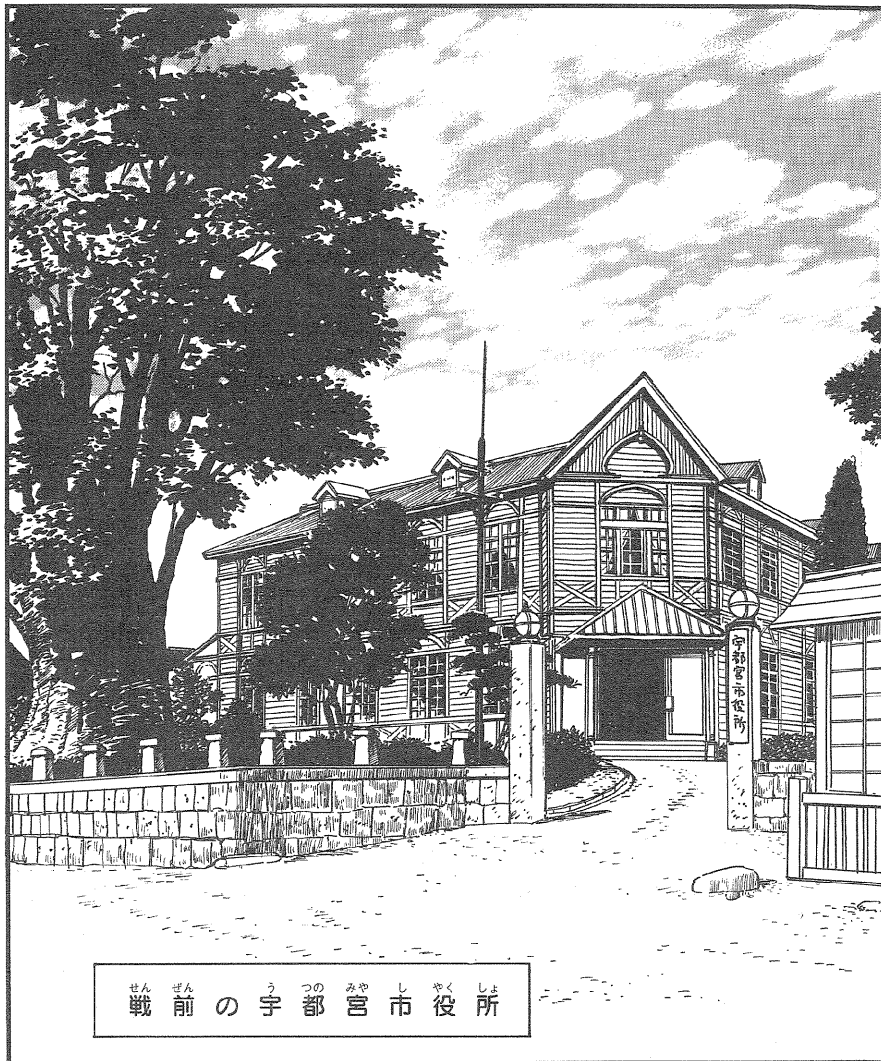
うむ山陵修補の
功績が認められて
一〇月一五日領地替えが
中止になり

二六日には
忠恕殿の謹慎も
解かれたのじゃ

うやむや？

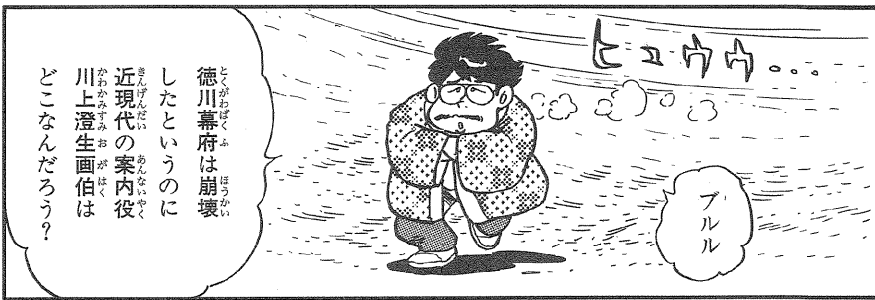


だい しょう きんげんだい
第四章・近現代





しかし翌年の一月「鳥羽・伏見の戦い」で幕軍は新政府軍に徹底的な敗北をこうむってしまつたのだ

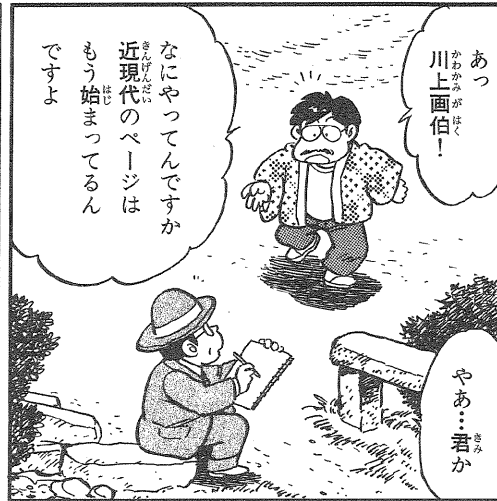


徳川幕府は崩壊したというのに近現代の案内役川上澄生画伯はどこなんだろ？

ブルル



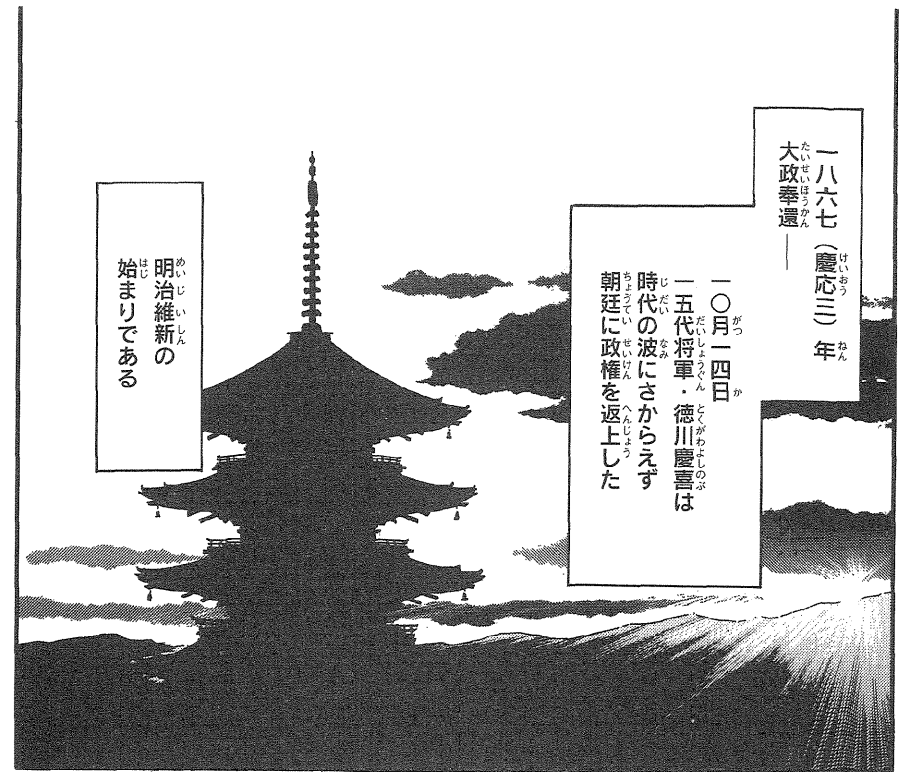
それじゃあ宇都宮藩の動向を追ってみることにしようか



なにやっつてんですか近現代のページはもう始まつてるんですよ

川上画伯！

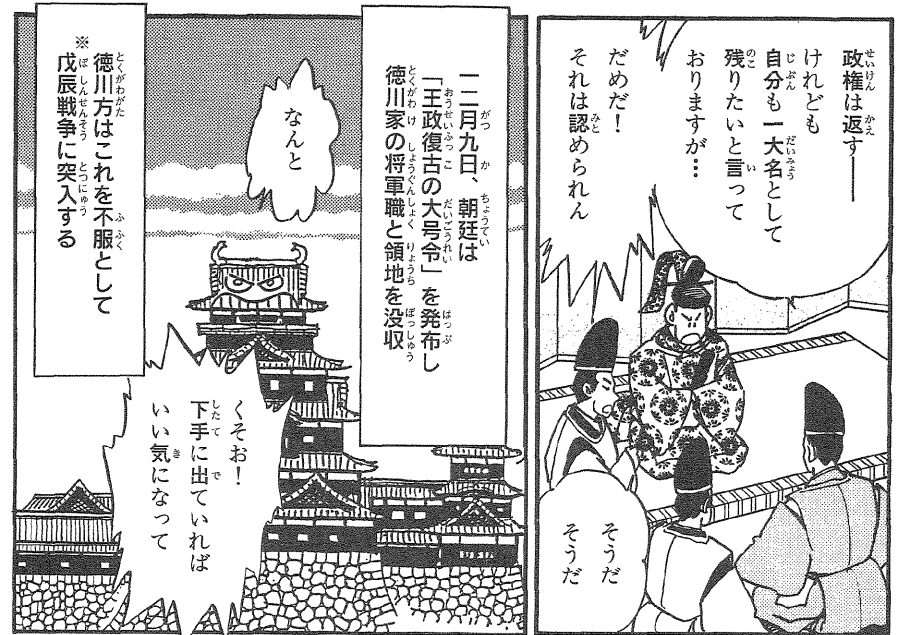
やあ…君か



一八六七（慶応三年）大政奉還

一〇月十四日 五代将軍・徳川慶喜は時代の波にさらえず朝廷に政権を返上した

明治維新の始まりである



二月九日、朝廷は「王政復古の大号令」を發布し徳川家の将軍職と領地を没収

政権は返す！ けれども自分も一大名として残りたいと言っておりますが…

そうだ そうだ

なんと

徳川方はこれを不服として戊辰戦争に突入する

くそお！ 下手に出ていればいい気になって

一八六八（慶応四年）年
宇都宮城



朝廷に對立することでも
徳川家に敵對することでも
共にできぬ……

朝廷と幕府との仲を
とりもとうとした
宇都宮藩主・戸田忠友は
幕府の役職を辞任し
京都に向かっていたが

三月一五日、新政府によって
近江大津（滋賀県）の
乗念寺において謹慎を
命じられた



え!? 藩主が
捕まっちゃったの?
これは困ったぞ



藩主不在の宇都宮城では
県六石を中心とする尊王派と
佐幕派の藩士との間で
激しい論議がくり返されたが
どちらの側に立場をとるか
意見は一致しなかった

幕府の崩壊は
もはや歴然!

ここはすみやかに
藩論を統一し
東山道総督府の
御出座を待つべき

※ 中老・県六石

わが藩は
徹底抗戦
あるべし!

そうだつ!
譜代大名の意地を
発揮し、断固朝廷軍を
うち払うべし!



※中老…家老職につく藩職

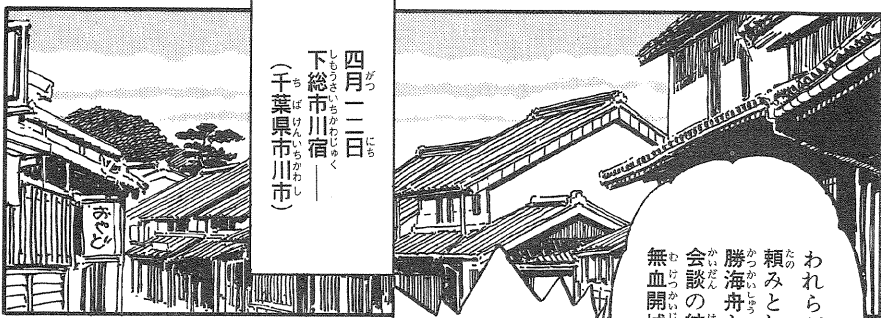
※佐幕派：幕府を支持し、援助した勢力 ※東山道総督府：旧幕府軍とたたかうため中山道（旧東山道）を進軍してきた新政府軍の指導部



旧幕府軍は
その隙をみごとに
突いたんだ

うん、明治政府も
できたてのホヤホヤで
軍隊も統制力のない
雑軍だったんだよ

城兵はわずかに
四〇〇人程度…か
こんな手薄な兵力じゃ
宇都宮城は当然
狙われますよ



四月二二日
下総市川宿
——
(千葉県市川市)

われらが最後の
頼みとした江戸城は
勝海舟と西郷隆盛の
会談の結果
無血開城と決まった



その先頭
この土方が
つとめましよう

三 歳 方 土



よって我らは
家康公を祭る
日光山にたてこもり
新政府軍と決戦すべし!

介 圭 鳥 大



これを受けて
総督府(新政府)は
大津で謹慎中の
忠友に代わって
隠居中の戸田忠恕を
藩主に復帰させた



議論はまとまらなかつたが
県六石は板橋宿(東京都
板橋区)に進出していた
東山道総督府に向き
宇都宮城への援軍を
要請する

新勢力に
さからうのは
得策ではない

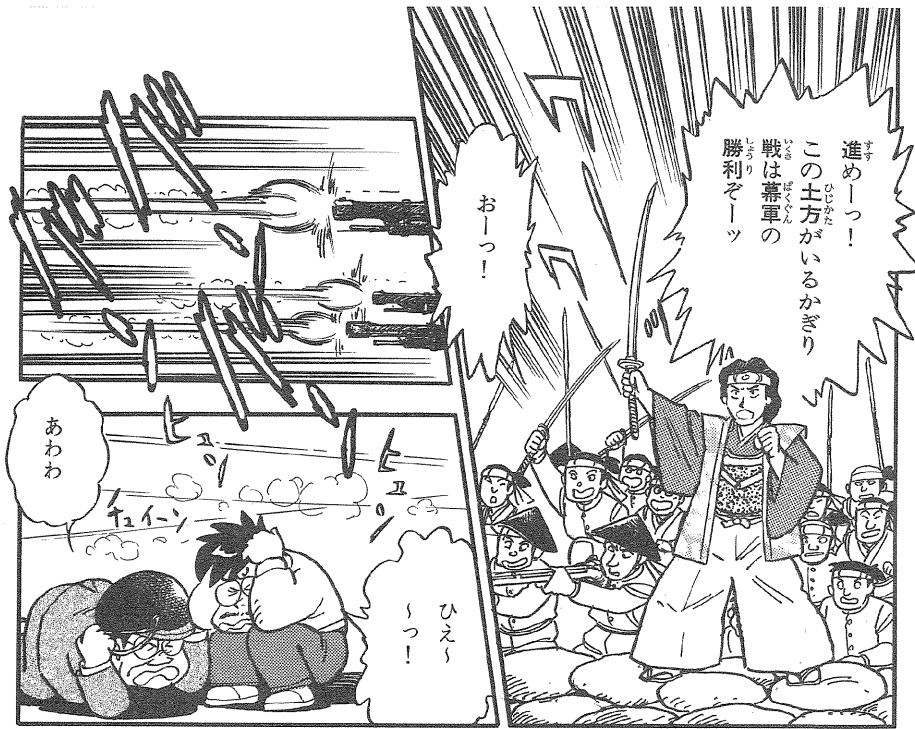


つい一年前まで
幕府が握っていた
行政の実権は
王政復古とともに
薩長に移ったん
ですなあ……
でもこれで決着が
ついたわけじゃ
ないでしょ!?

嘆かわしいことだが
この旧勢力が
永々と築かれてきた
宇都宮城下を
灰にしてしまうのだ

うむ…関東以北には
会津藩を中心とした
佐幕勢力がいるし
旧幕府の歩兵諸隊も
抗戦のかまえた

えっ!
城下が灰に!?

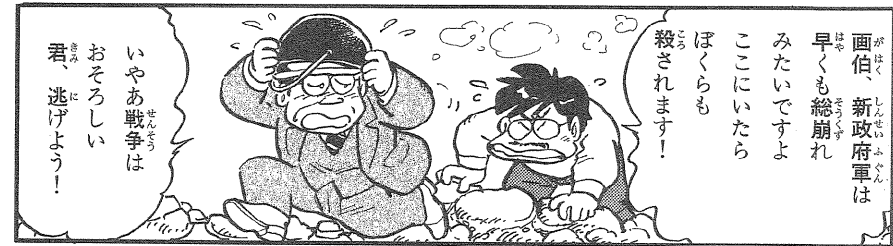


進めーっ！
この土方がいるかぎり
戦は幕軍の
勝利ぞーっ

おーっ！

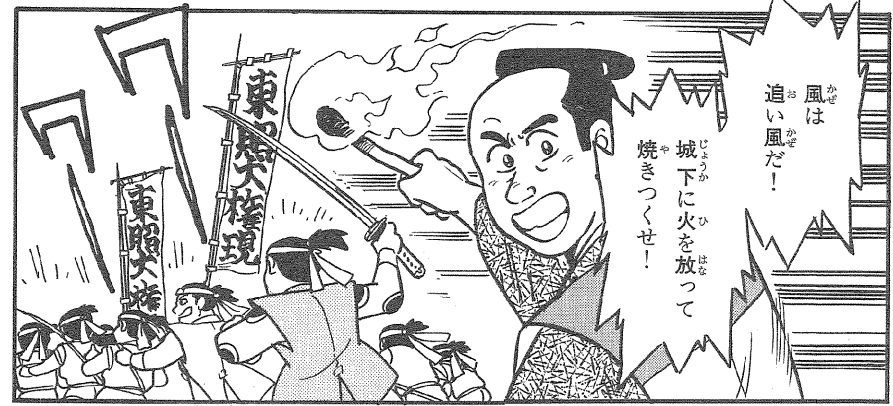
ひえー
っ！

あわわ



画伯、新政府軍は
早くも総崩れ
みたいですよ
ここにいたら
ほくらも
殺されます！

いやあ戦争は
おそろしい
君逃げよう！



風は
追いかぜ
追い風だ！
城下に火を放って
焼きつくせ！



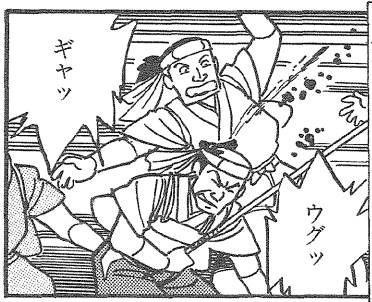
ゲツ全軍あわせて
二五〇〇人近く…

それも大将格に
新選組の鬼副長
土方歳三や

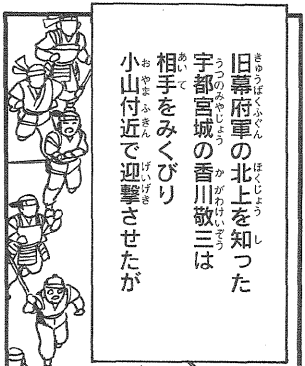
日露戦争では
名将といわれる
立見尚文將軍なんて
戦上手もいる

そればかりでは
ないんだよ君…

あ…また
いやな予感



四月一六日
数時間にわたる戦闘で
ほとんど壊滅に近い
損害をこつむつた



旧幕府軍の北上を知った
宇都宮城の香川敬三は
相手をみくびり
小山付近で迎撃させたが

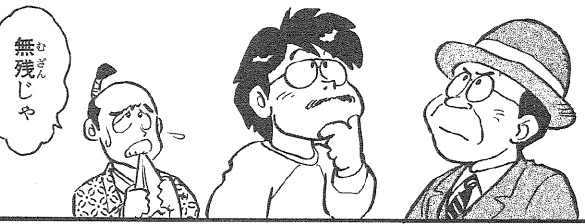
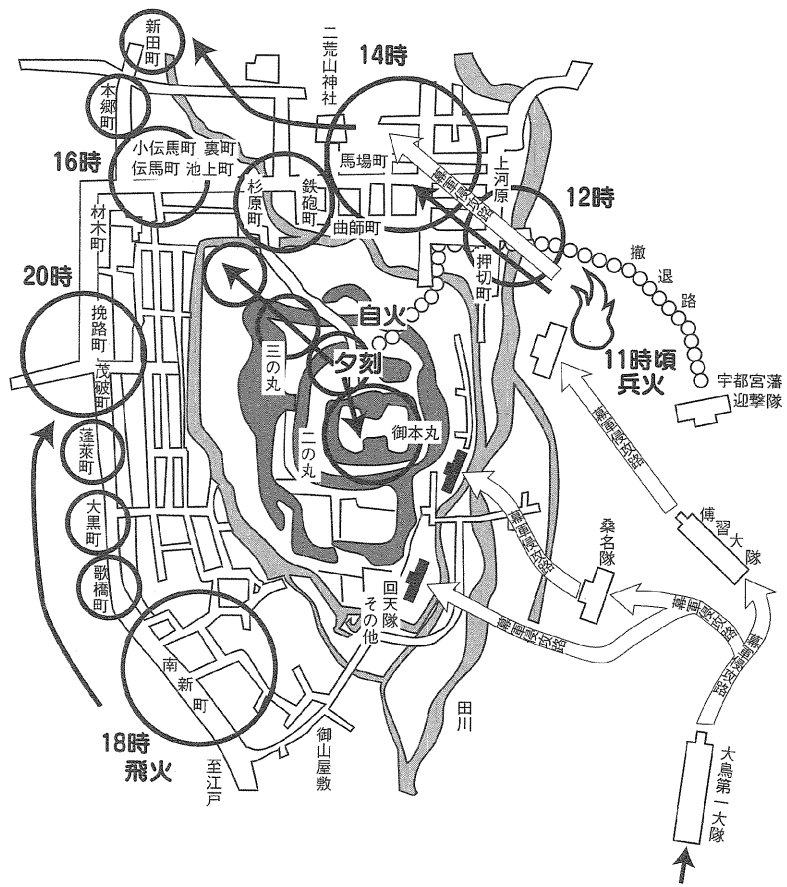


他藩からの
応援の兵隊が
次々にやられて
宇都宮城は
どうすんだろ

それを
見とけよう
じゃないか

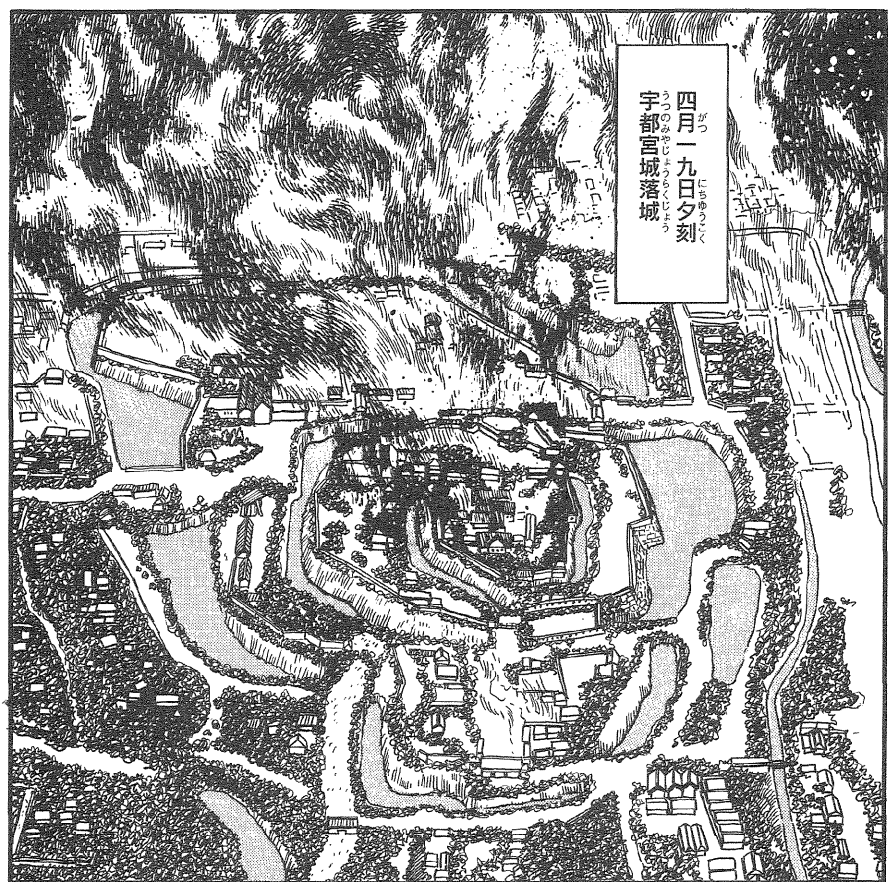


戊辰戦争・宇都宮城下焼亡図



かなわぬとみた
宇都宮藩兵は
自ら城に火を放ち
逃げだした……

くそお……！
もはやこれまで
だが……むざむざと
城は渡さぬ



四月十九日夕刻
宇都宮城落城



多くの人命とともに
ひとつの城下町が
完全に消えたん
ですわ……

宇都宮城攻防の
死傷者合計三〇〇人以上

城下三〇〇軒のうち
二四〇軒以上が焼失
被災者一万一〇〇〇余人



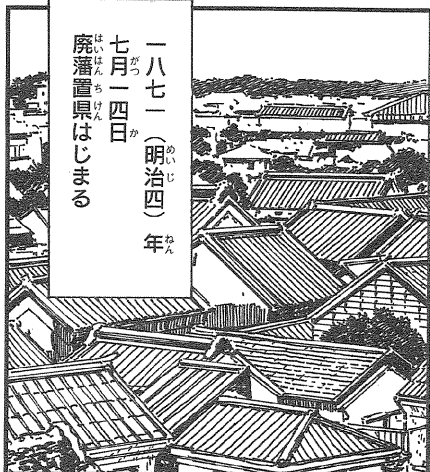
宇都宮の歴史を
語る文化遺産も
このとき焼けて
しまったのか……

戊辰戦争で
城下町がこれほど
破壊された例は
新潟の長岡市
福島のお津若松市と
宇都宮市ぐらいの
ものだろうな



これで本当に
武士の社会は
終わりました

※県令になり
ます

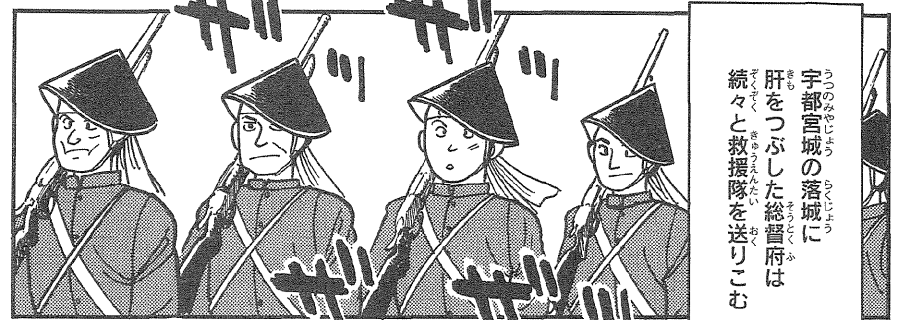


一八七一年（明治四）年
七月十四日
廃藩置県はじまる

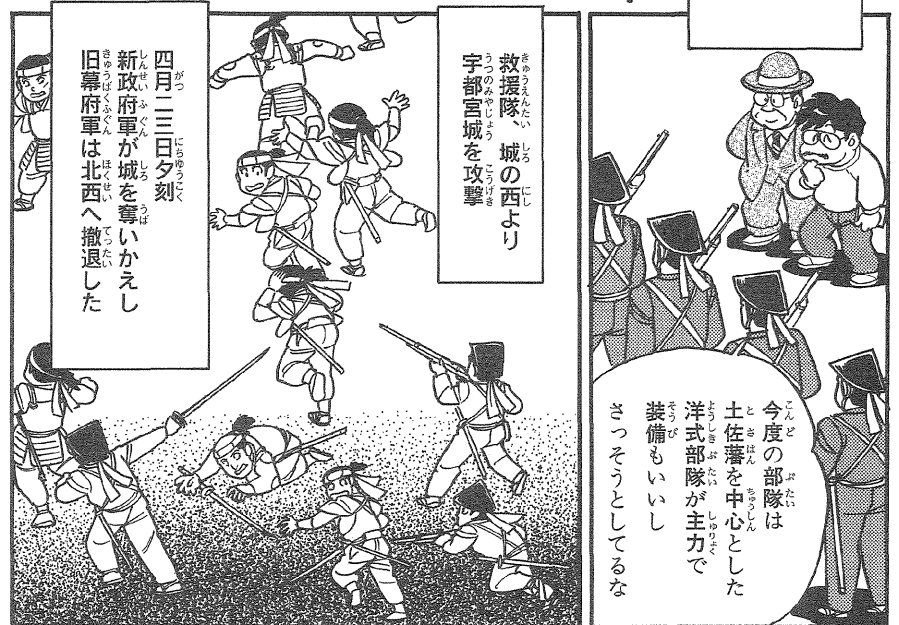


宇都宮藩側の
死傷者が二四人とは
……思ったよりも
少ないですね

新政府軍といつても
諸藩兵を集めた
だけの軍隊……他藩の
参謀や兵士たちには
城を本気で守ろう
という熱意は
なかったんだろうね



宇都宮城の落城に
肝をつぶした総督府は
続々と救援隊を送りこむ



救援隊 城の西より
宇都宮城を攻撃

四月三日夕刻
新政府軍が城を奪い返し
旧幕府軍は北西へ撤退した

今度の部隊は
土佐藩を中心とした
洋式部隊が主力で
装備もいいし
さうさうとってるな

※神仏分離令…一八六八年新政府により出された布告で、神道を国教とするため神道と仏教が一体となっていたそれまでの神仏習合を禁じたもの

それにしても
維新の大変革は
武士だけじゃなく
僧侶や神官にも
少なからぬ影響を
及ぼしたんだよ

※神仏分離令
です

一八七二
(明治四)年二月
神社・寺院の領地は
府県のものとなり
一体であった神社と
寺院が強制的に
分けられた

二荒山神社でも
本宮、神楽殿、
四つの別当寺が廃止され
社僧は一般人にもど
り社家の中里、飯田家は
失業したんだ

そのうえ二荒山神社は
一八七一年の神社制度で
国幣中社という位を
与えられていたんだが

二年後の二月
日光の二荒山神社が
突如、国幣中社に昇格し
宇都宮の二荒山神社は
県社に降格させられて
しまったんだ

神
社
格
式
図

官幣大社—官幣中社—官幣小社—別格官幣社
国幣大社—国幣中社—国幣小社
府社—県社—郷社—村社—無格社

1871 (明治4) 年頃の宇都宮県・栃木県

宇都宮県
栃木県

日光県 日光
栃木県 宇都宮 壬生 吹上 佐野 冠利 (山田) (新田)
大田原県 黒羽県 喜連川 鳥山県 茂木県 真岡

0 20km 県境

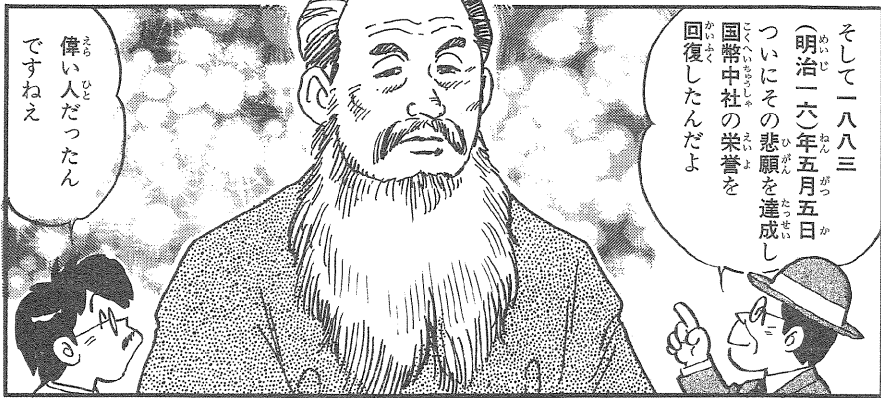
明治生まれの
ほくにとつちや
武士社会の呼称より
新政府の名称の方が
親しみを覚えるな

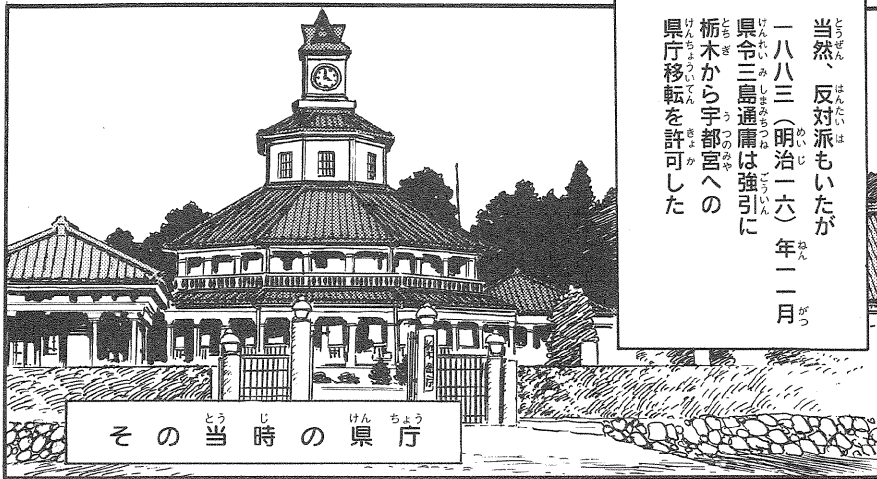
一八七二(明治五)年
宇都宮城遺構
二の丸、櫓、土塁、諸門は
払い下げとなつたり
こわされた

※同年三月、全国各地を
大区・小区に分ける
宇都宮は
六小区(各五〇〇戸)
に区分けされた

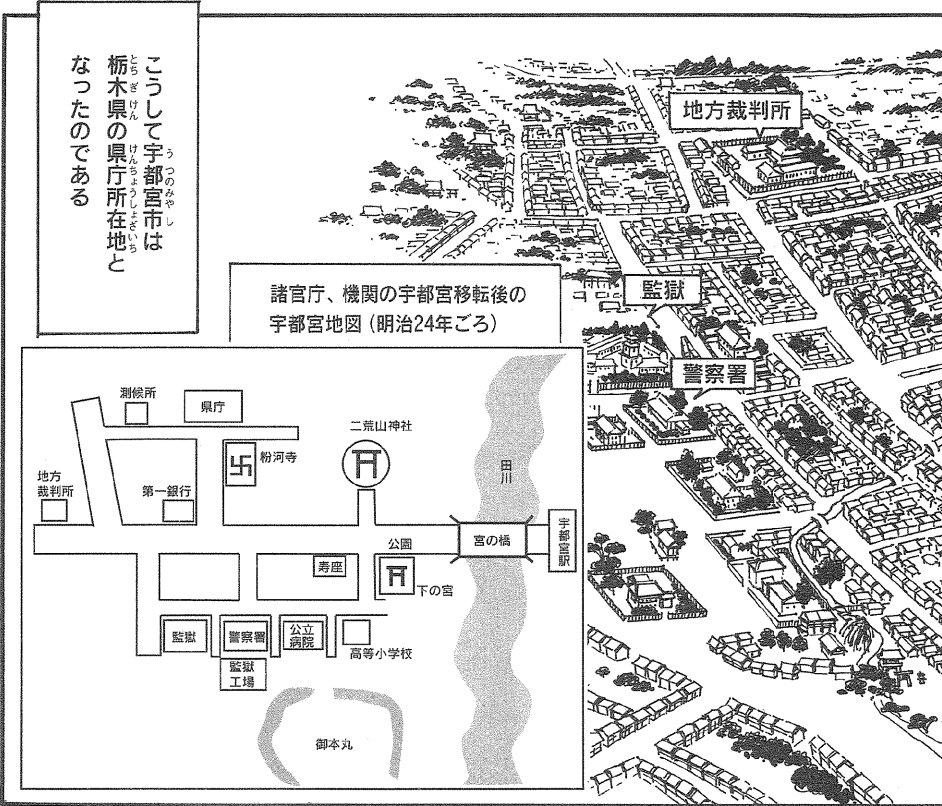
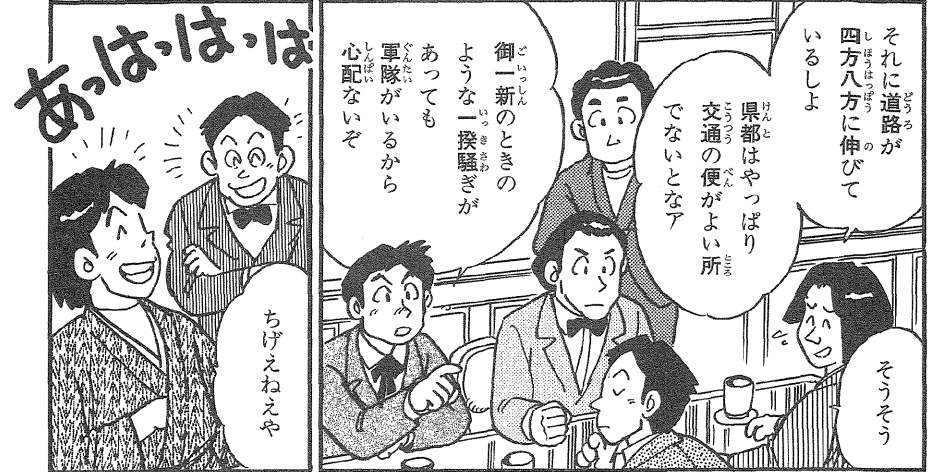
共義病院、宇都宮囚獄
三等郵便局、第二師団
七番大隊の駐屯地などが
旧宇都宮城下に
次々と建設される

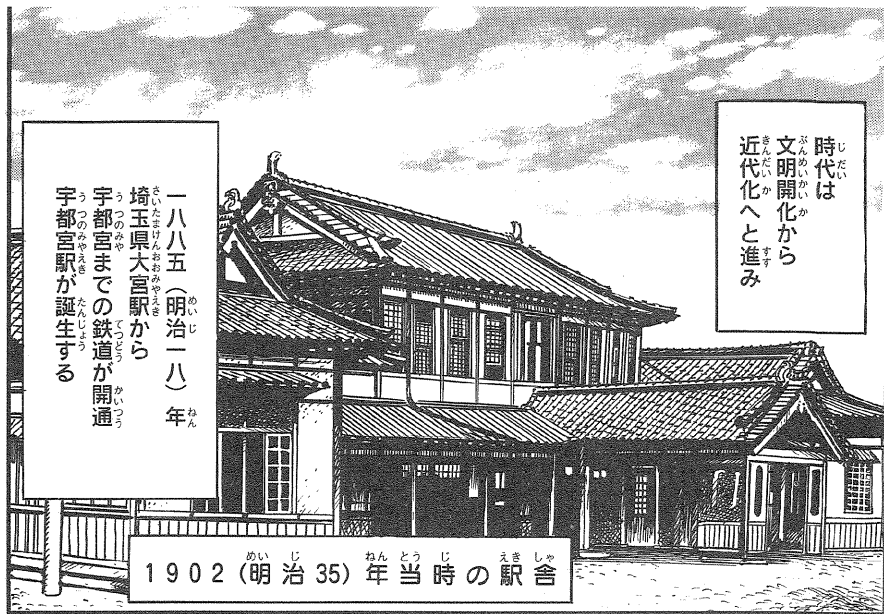
※大区・小区制：明治初年の地方行政制度でいくつかの町村を合わせ小区、数小区を合わせて大区とし、それぞれ戸長や区長を置いた





当然、反対派もいたが
 一八八三(明治一六)年二月
 県令三島通庸は強引に
 栃木から宇都宮への
 県庁移転を許可した





時代は
文明開化から
近代化へと進み

一八八五(明治一八)年
埼玉原大宮駅から
宇都宮までの鉄道が開通
宇都宮駅が誕生する

1902(明治35)年当時の駅舎

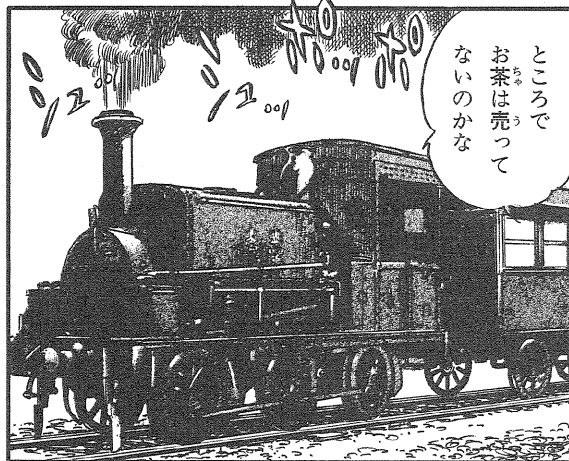


おべんとーっ
おべんとーっ

あ、画伯
駅弁らしい
ですよ

「おべん」
駅弁の
はしりだね

塩おにぎりと
タクアン三切れの
シンプルなものだ



ところで
お茶は売って
ないのかな



まさに食の
原点ですね

塩おにぎり2つと
タクアン3切れ

竹の皮に
つつんである。



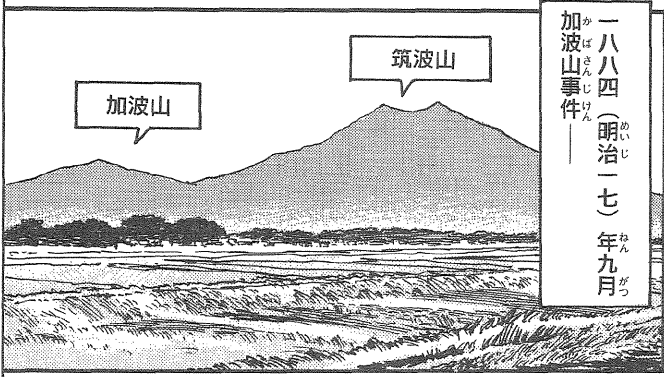
しかしね君
あまりに強引な
県令、三島通庸に
力に対抗しようと
した自由民権家たちが
いたんだよ!

なにせ県庁を
無理やり移したり
新興州街道
(旧国道四号)を
開通させたり

自由民権運動の
メンバーを弾圧
したりしたからね

力で対抗!?

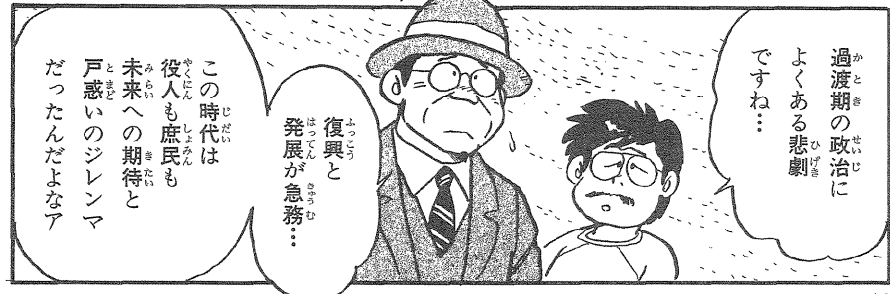
不満のたまつた同志一六名が
加波山(茨城県真壁郡)で兵を挙げ
警察との戦いで一名の死者を
出したあと、全員逮捕された



加波山

筑波山

一八八四(明治一七)年九月
加波山事件



過渡期の政治に
よくある悲劇
ですね...

復興と
発展が急務...

この時代は
役人も庶民も
未来への期待と
戸惑いのジレンマ
だったんだよなア



教育機関の開設も
そのひとつだ

けどね、初代市長
矢島中に始まった
宇都宮市は

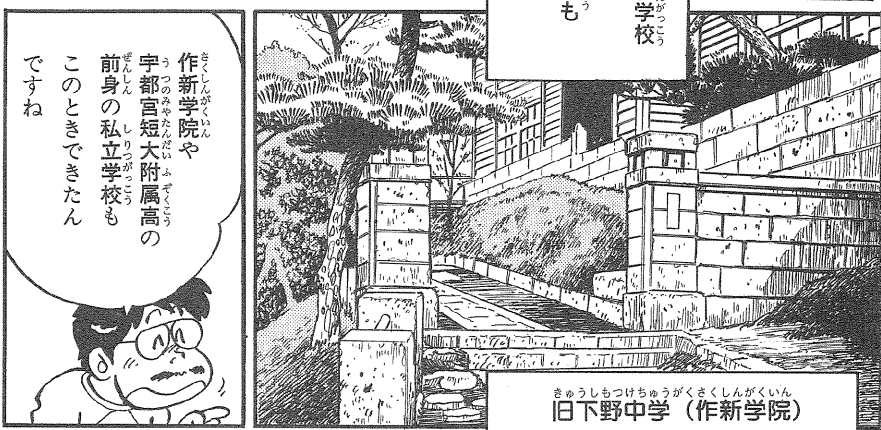
苦労しながらも
都市としての機能を
拡大していく



東 小 学 校

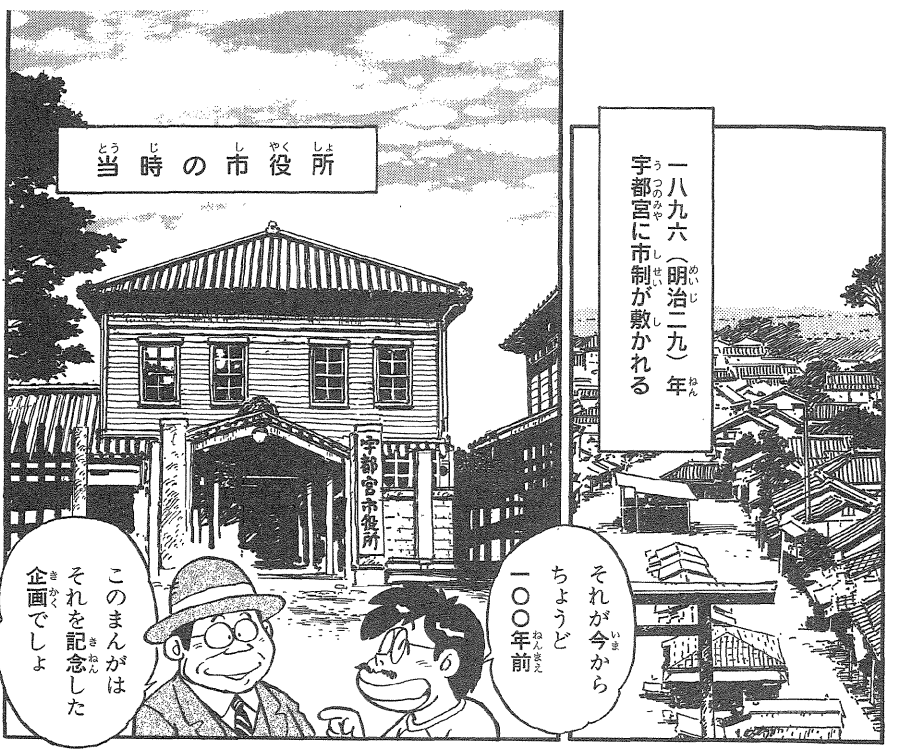
廃藩置県による
藩校の廃止にともない
宇都宮県は
小学校を六つ開校

その後、中学校や師範学校
そして市制施行後には
農業・商業・工業学校も
創立されている



旧下野中学（作新学院）

作新学院や
宇都宮短大附属高の
前身の私立学校も
このときできたん
ですね

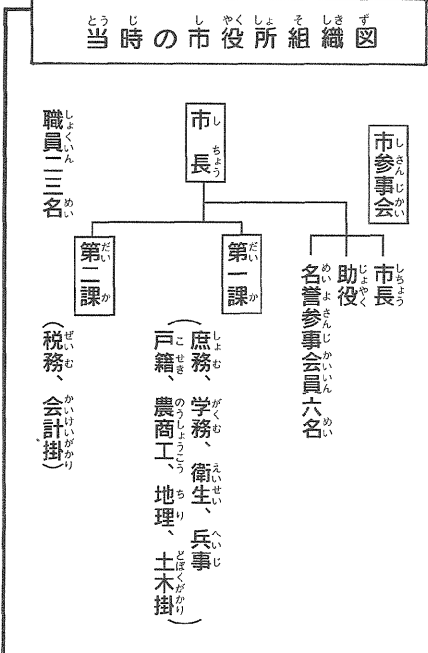


当時の市役所

一八九六（明治二九）年
宇都宮に市制が敷かれる

このまんがは
それを記念した
企画でしょ

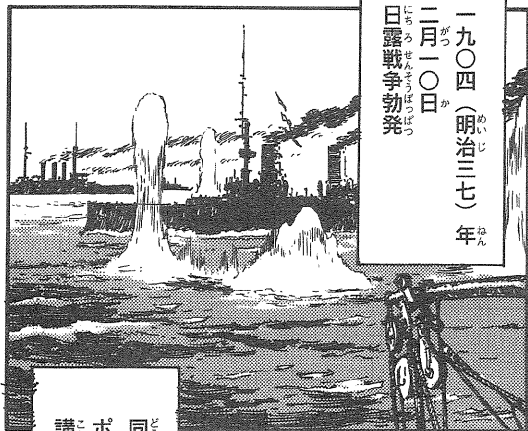
それが今から
ちようと
一〇〇年前



今の市役所は
近代的なビルに入った
機能的な自治組織
だけど、市制が敷かれた頃は
驚くほど簡単な組織
だったんだ

※市長も選挙で
選ばれたわけじゃ
ないんだよ

へえ



一九〇四(明治三七)年
二月一〇日
日露戦争勃発

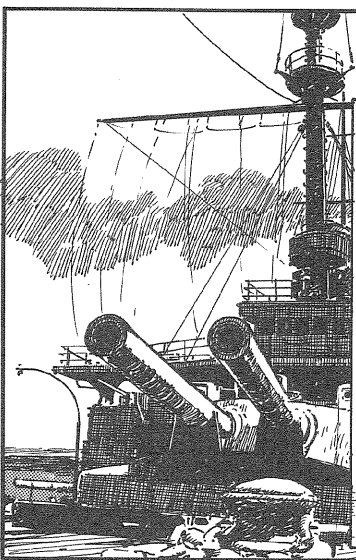


だがね…その時代が
あったからこそ
いまの世の中が
あるってことを
忘れてはいけないよ

イギリスの軍事評論家
リデル・ハートは
「戦争の悲劇を
くり返さないためには
戦争を知るべきだ」
と言っている

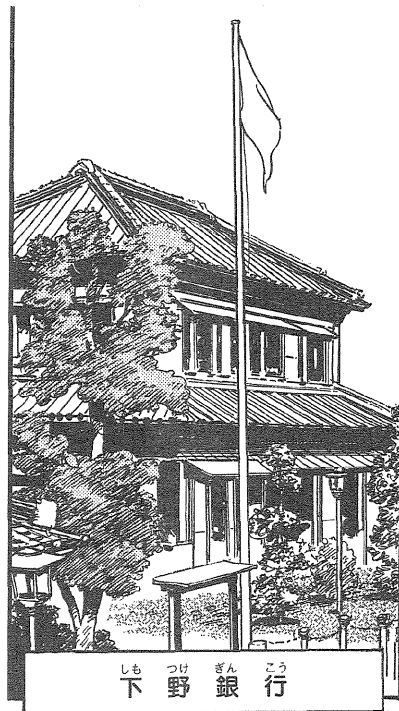
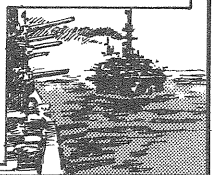


同年九月五日
ポーツマスにおいて
講和条約をむすぶ



日露戦争前までの
日本の平時陸軍兵力は二個師団
それが戦争による軍備増強で
一九〇五(明治三八)年には
正規四個師団と予備二個師団が
加えられた…一四師団は
このとき編制された部隊である

当時、世界最強といわれた
バルチック艦隊を打ちやぶり
波にのった日本は
軍拡への道をひた走った



こうぎん銀行
つげ野下



昔から育ててきた
地元産業の
活性化によって

一八九一(明治二四)年の
下野銀行から
大正末期の
下野中央銀行まで
なんと九行もの銀行が
設立されてるんだよ

※師団：陸軍を編制する際の一番大きな単位で、師団→旅団→連隊となる



このころの日本は
欧米列強に遅れまじと
海外への進出を
もくろんでいたんだね

そうだね



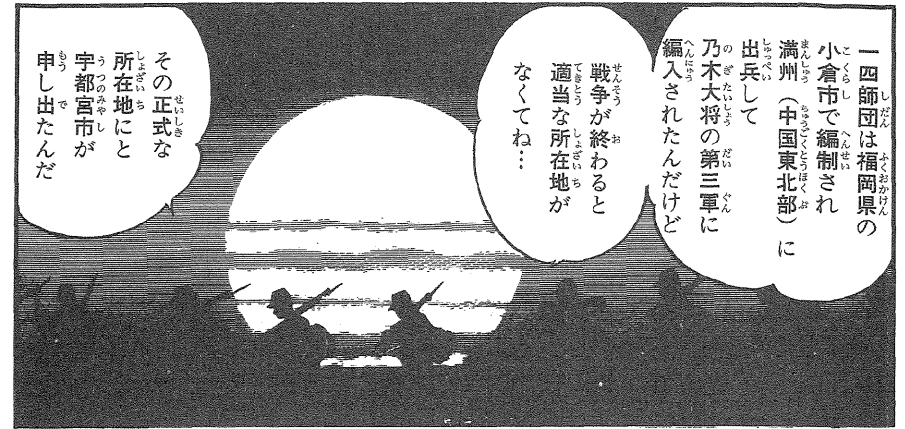
地元産業といえば
明治初期の製糸工場
大幡商舎が有名だし

のちに「軍都」の
いわれとなる
第一四師団を招いたことも
見逃せませんね



植民地を得る
ための軍備拡張って
わけですか

「おれ」
「おれ」
「おれ」



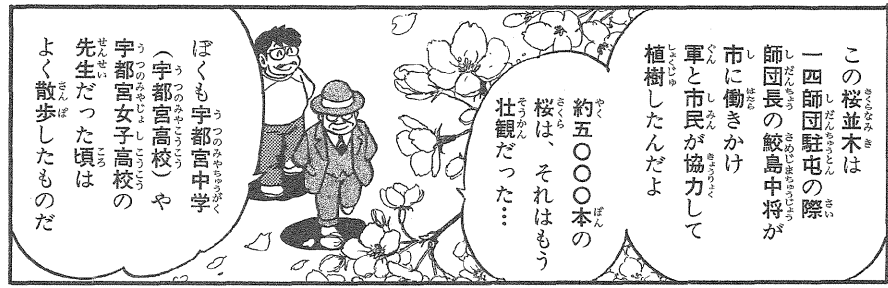
一四師団は福岡県の小倉市で編制され満州（中国東北部）に出兵して乃木大将の第三軍に編入されたんだけど戦争が終わると適当な所在地がなくてね！

その正式な所在地にと宇都宮市が申し出たんだ



師団長官舎前の軍道は一九五〇年代のなかば頃まで宇都宮唯一の桜の名所として有名だった通りでね
その名残が「桜通り十文字」という名前で残ってるんだ

知ってますよ、桜という町名もそうでしょう



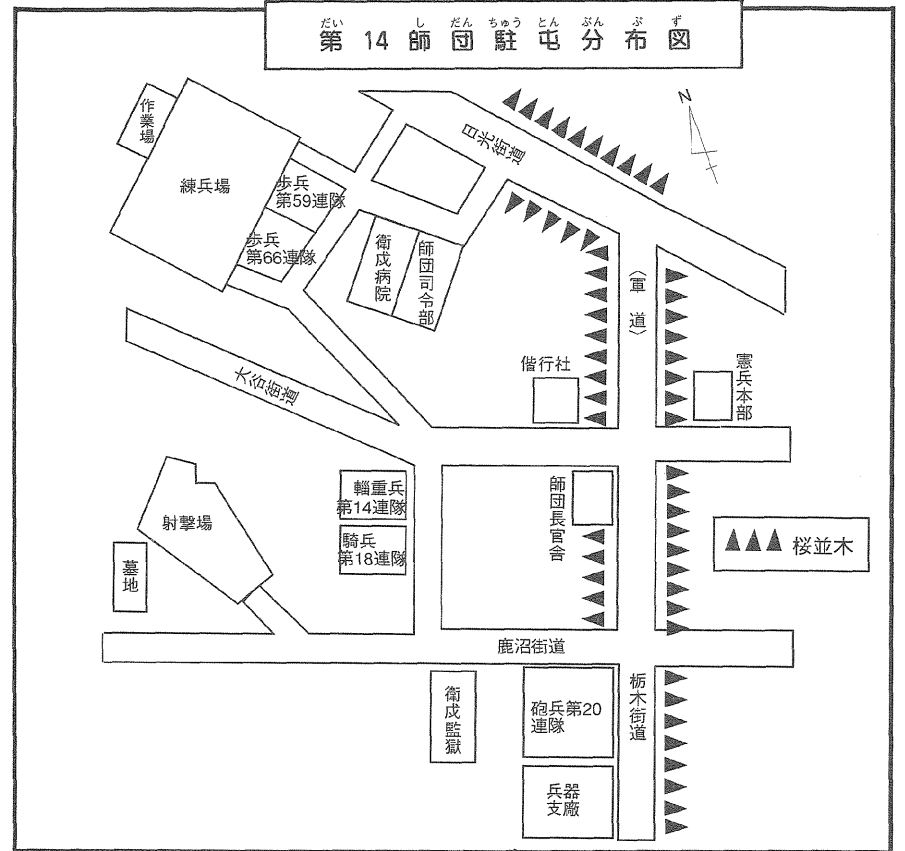
この桜並木は一四師団駐屯の際師団長の殿高中将が市に働きかけ軍と市民が協力して植樹したんだよ
約五〇〇〇本の桜は、それはもう壮観だった...

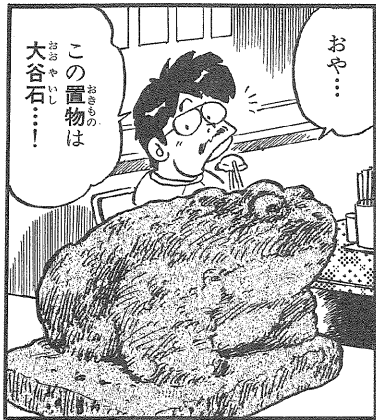
ほくも宇都宮中学（宇都宮高校）や宇都宮女子高校の先生だった頃はよく散歩したものだ



それが書虫にやられたり道路拡張のためとはいえ一本残らず切り倒されたとは残念ですね

これも時代の流れ... 人と馬が主体の道からマイカーやトラックが主体の道に変わったということじゃね





この置物は
大谷石……!

おや……



いやあ
すみませんね
サイソクした
みたいで……

したんじゃ
ないか!

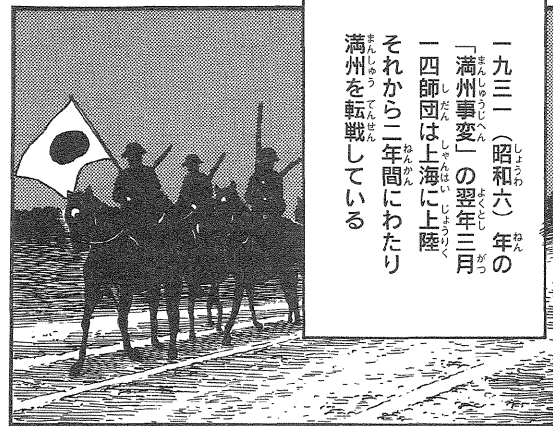


宇都宮名物の
大谷石を忘れて
ましたよ



名物どころか
大谷石は
宇都宮を代表する
地場産業でも
あったんだよ

おお やいし ろ てんさいくつげんば
大谷石の露天採掘現場



一九三一（昭和六）年の
「満州事変」の翌年三月
一四師団は上海に上陸
それから二年間にわたり
満州を転戦している



一四師団の
海外出兵の
思わぬ産物が
餃子だ……という
説もあるね



兵隊たちは
その時食べた
餃子の味が
忘れられなかつた
らしい

それが
ファースト
フードとして
日本に上陸

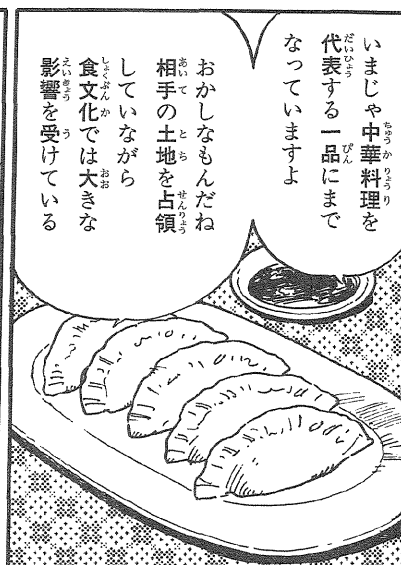


ギョーザ……

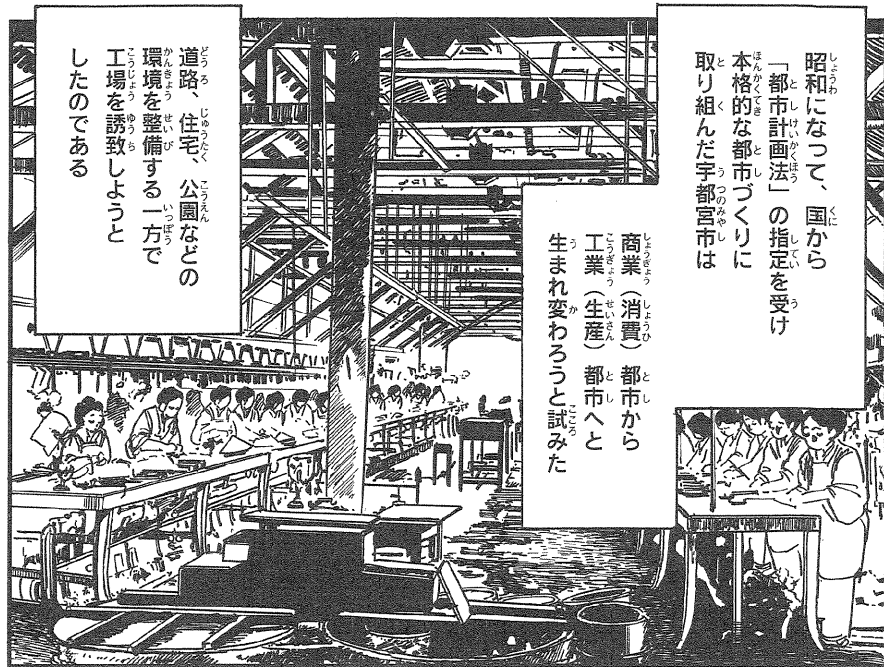
食べたいなア
ギョーザ……

!?

べうべう



いまじゃ中華料理を
代表する一品にまで
なっていますよ
おかしなもんだね
相手の土地を占領
しながら
食文化では大きな
影響を受けている



道路、住宅、公園などの環境を整備する一方で工場を誘致しようとしたのである

昭和になって、国から「都市計画法」の指定を受け本格的な都市づくりに取り組んだ宇都宮市は

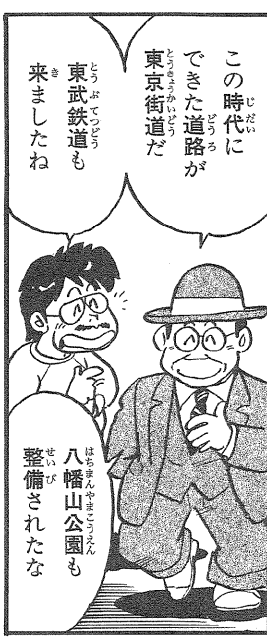
商業（消費）都市から工業（生産）都市へと生まれ変わったと試みた



しかし…市の計画は一部具体化したものの戦争が始まり実現はしなかった……

そして時代はまさに洋風建築の建設ラッシュだ

まつがみねきょうかい 松が峰教会



この時代にできた道路が東京街道だ
東武鉄道も来ましたね

八幡山公園も整備されたな

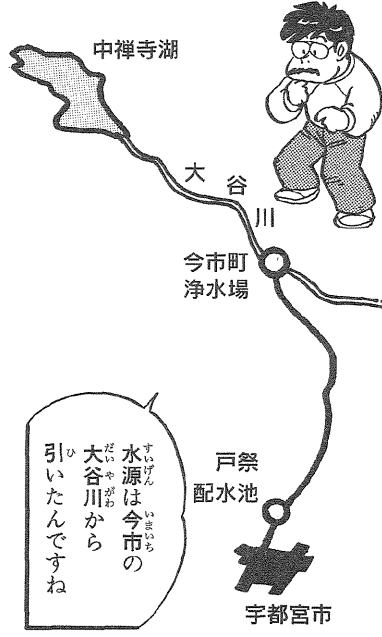


一九三三（大正二）年市は上水道の設置を決定する

井戸水が汚染されればたちまち病気はその井戸を使う地域に広がってゆく……

衛生を管理するためには上水道が不可欠であった

1916（大正5）年・宇都宮市水道部庁舎



水源は今市の大谷川から引いたんですね



これが大正期の都市づくりの始まりといえるだろう

足かけ四年もかかる大工事だ

市内水道管敷設工事



なんと四年の間に
宇都宮管区だけで
四個師団が新設
編制されてますよ

日本陸軍は
五七個師団にも
膨張したんだよ



一九四一(昭和一六)年七月
第五師団 中国中央部へ進攻

同年九月
ガソリン
配給停止

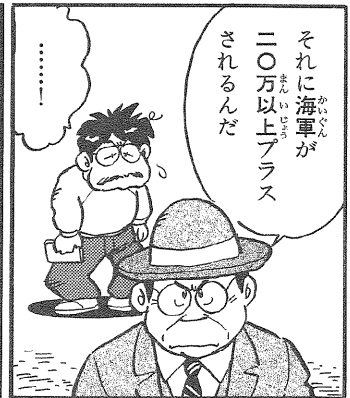


一個師団の人数を
一万五〇〇〇人として
五七個師団で兵力
八五万五〇〇〇人!

これに
その他の
兵種をあわせると
一〇〇万以上の陸軍
……!



そして運命の
一九四一年二月八日



それに海軍が
二〇万以上プラス
されるんだ



一九三七(昭和一二)年七月
「盧溝橋事件」から
日中戦争が始まる

同年二月
「南京事件」

※盧溝橋事件：北京郊外盧溝橋でもまた日中兩國軍の武力衝突 ※日独伊三國同盟：日本、ドイツ、イタリア三國の同盟



同年
宇都宮管区で
第一四師団、編制

一九三九(昭和一四)年
第三師団および
第四師団、編制
一九四〇(昭和一五)年
第五師団、編制

九月、第一四師団
満州国子チハルに
移駐する

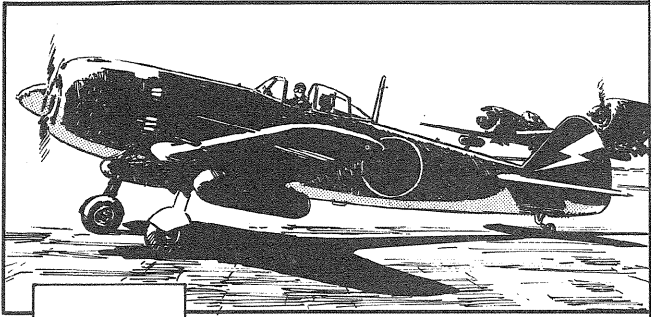


同年同月
「日独伊三國同盟」が
調印される

いよいよ
キナクさく
なってきたぞ

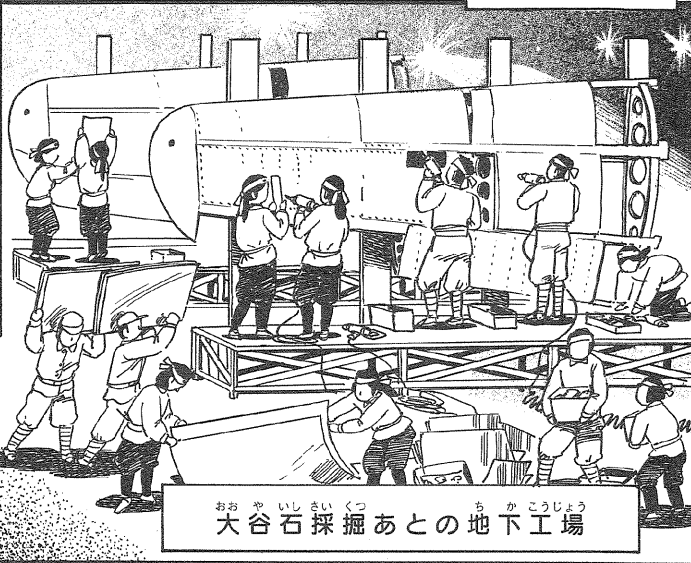
なんせ
ヒトラーと
仲間になったん
ですからね

※疎開：都市の空襲をさげるため地方へ工場を移したり、一般の人が移ること
※勤労奉仕：労働力不足のため学生や生徒を工場で働かせること

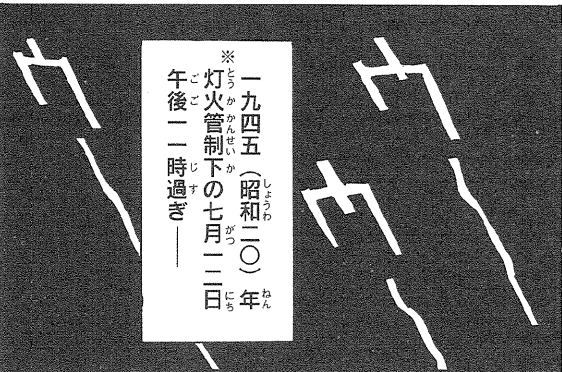


市の計画では一般企業を誘致するつもりだったが軍需産業が疎開して来たのである

戦争も大詰めに入ると女学生も男子学生も勤労奉仕にかり出された



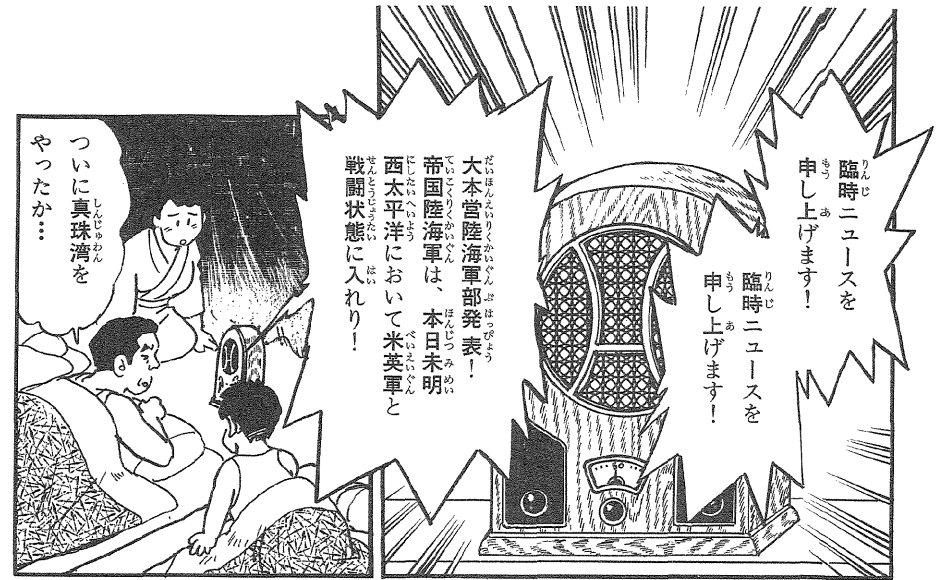
大谷石採掘あとの地下工場



一九四五（昭和二〇）年
※灯火管制下の七月二日
午後二一時過ぎ



※灯火管制…夜間の空襲に備え、明りをおおいかくすこと

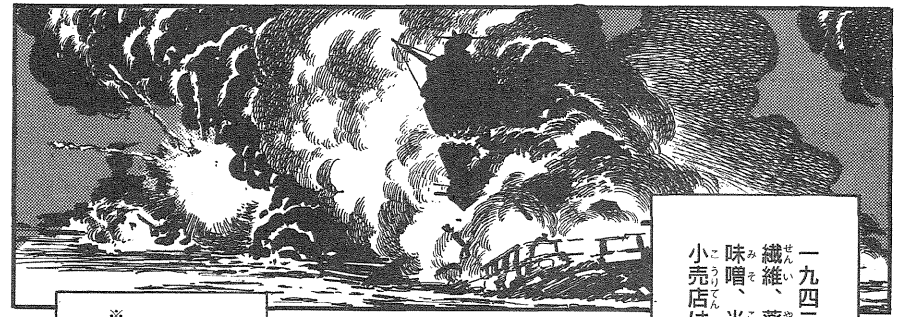


臨時ニュースを
申し上げます！

臨時ニュースを
申し上げます！

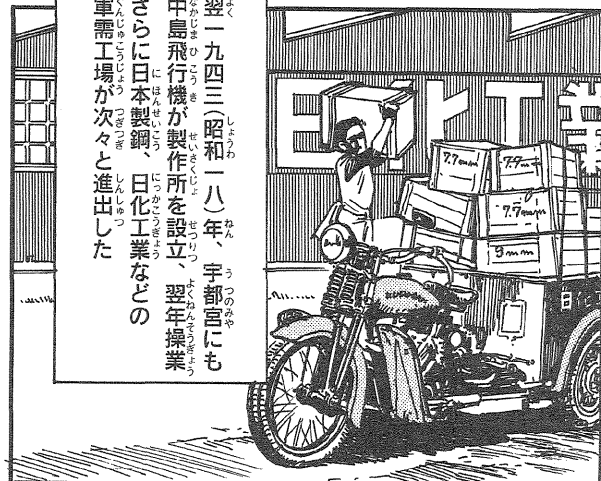
大本営陸海軍部発表！
帝国陸海軍は、本日未明
西太平洋において米英軍と
戦闘状態に入れり！

ついに真珠湾を
やったか…



一九四二（昭和一七）年
繊維、薬品、青果、魚介類
味噌、米麦が配給統制され
小売店は配給所となる

翌一九四三（昭和一八）年、宇都宮にも
中島飛行機が製作所を設立、翌年操業
さらに日本製鋼、日化工業などの
軍需工場が次々と進出した



※軍需工場…兵器製造を目的とする工場



死者五二人
重軽傷者一、二八人
被災者四万七九七六六

焼失家屋九一七三戸
市街地焼失面積
五〇パーセント



ひどい…ひどすぎる
爆弾の下にいたのは
大多数が一般人なんだ

中世以来
宇都宮の壊滅を
ぼくはいつたい何度
目にしただろう…

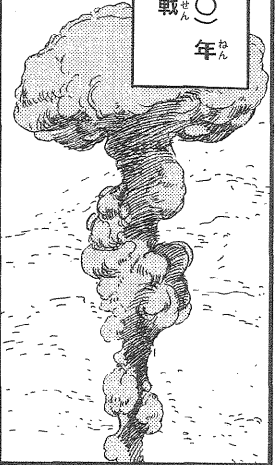


鹿島灘上空より飛来した
B-29、一二五機の編隊は
宇都宮市街地に焼夷弾の
雨を降らせた

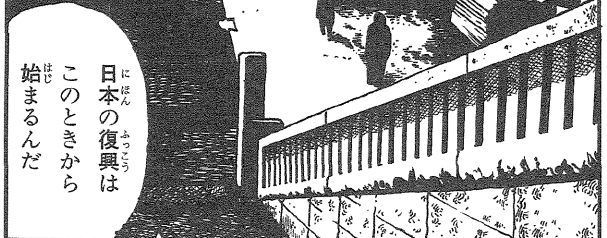
この頃の米軍の宇都宮空襲の
目的は、工場を
破壊することより
市民の生活、生命
戦意をうばうことが
狙いであった…

※焼夷弾…火災や高熱によって人と建物を破壊する爆弾

一九四五(昭和二〇)年
八月十五日—終戦

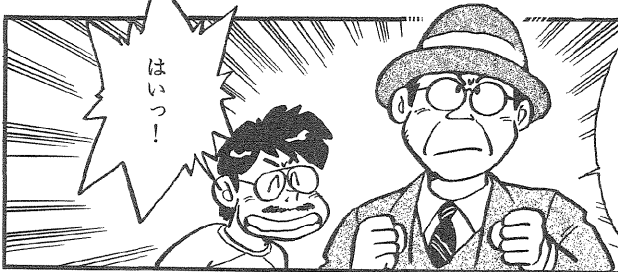


人間には
自分も知らない
粘り強い
再生力がある



日本の復興は
このときから
始まるんだ

この過ちを
二度と起こさない
その魂への
誓いこそが人間の
英知なんだよ!

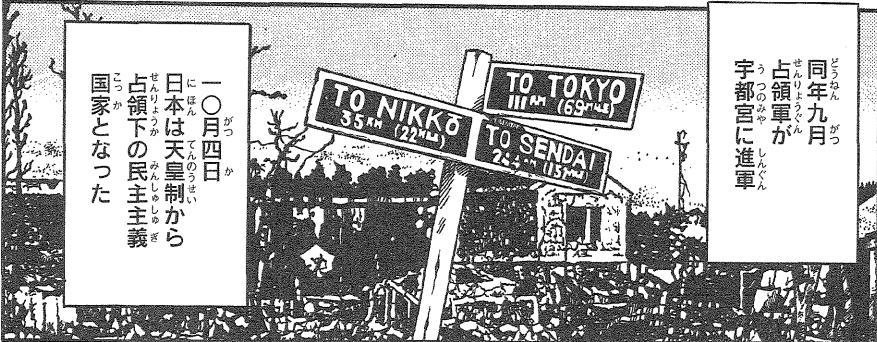


はいっ!

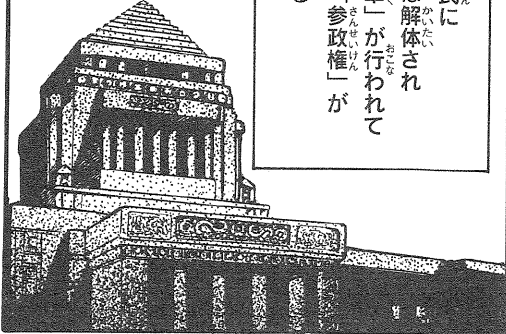
同年九月
占領軍が
宇都宮に進軍



一〇月四日
日本は天皇制から
占領下の民主主義
国家となった



主権は国民に
「財閥」は解体され
「農地改革」が行われて
婦人にも「参政権」が
与えられる



それまで選挙権を
得られなかった女性が
民主主義によって
男女同権となり
社会的地位を確立した

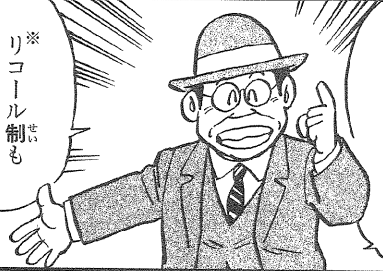
戦後の日本を
象徴する出来事
ですよ



民主政治が
始まって、知事や
市町村の首長も
住民が直接選挙で
選べるようになった

※リコール制も
採用されて

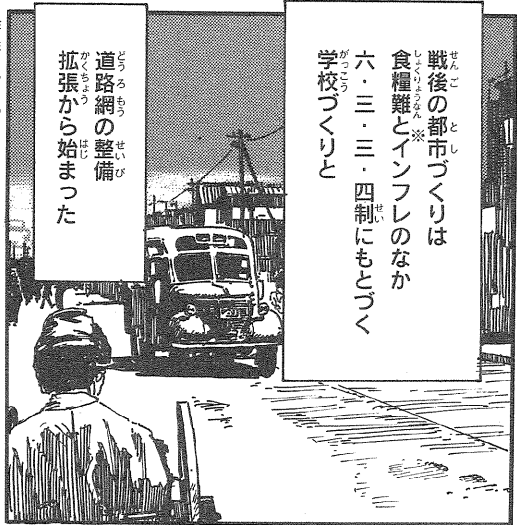
より住民サイドに
近い地方自治が
行われるように
なったんだよ



そしてもう一つが
「教育改革」だ
それまでの
尋常小学校六年間の
義務教育が
小、中学校までの
九年間になった

戦後の都市づくりは
食糧難とインフレのなか
六・三・三・四制にもとづく
学校づくりと

道路網の整備
拡張から始まった



※財閥解体…三井、三菱、住友など巨大財閥を分かつたこと

※農地改革…地主小作制度をなくし自作農をつくったこと

※リコール制…選挙で選ばれた代表が不適当と思われた時、解職を請求する制度
※インフレ…通貨量が増加し物価が急激に上がる

一九五〇（昭和二五）年
復興費用を得るための一策として
市営競輪場が造られたが
これは市の財政に大きく貢献した



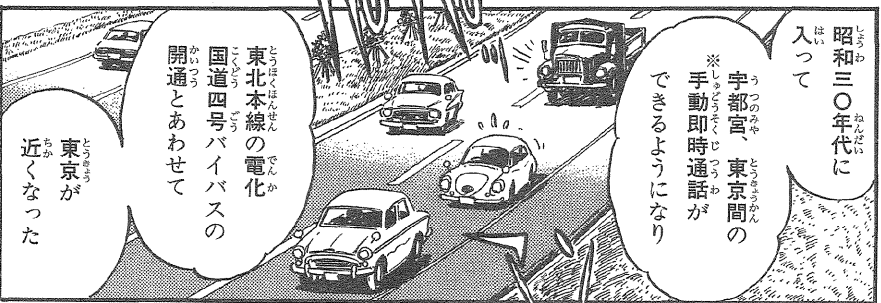
長い間渋滞の
原因となって
ますがね
まあまあ

宇都宮の戦後復興は
この競輪場の経営に
負うところが大きい



昭和三〇年代に
入って

宇都宮、東京間の
手動即時通話が
できるようになり



東京が
近くなった

東北本線の電化
国道四号バイパスの
開通とあわせて

宇都宮が
首都圏としての
地位を手に入れた
ということですね

そのとおり！

終戦時は
一〇万人余りだった
市の人口も
町村合併で
二万七五〇〇人と
倍増した！



人口はいまや
四三万人の
大都市ですよ

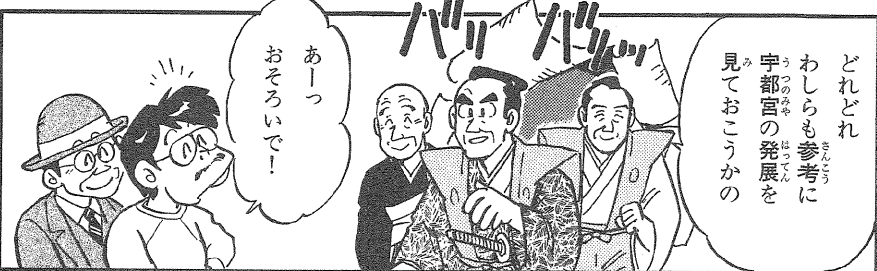
終戦時
四倍！！
えっ
三つの大学と
三つの短大があつて
教育も充実しています

えっ
どうやらこの先は
ぼくが案内人に
なった方がいい
みたいですねえ

※テクノポリス計画（産業）学（学術研究）住（住居）遊（ゆとり・憩い）が調和した活力と潤いのあるまちづくり

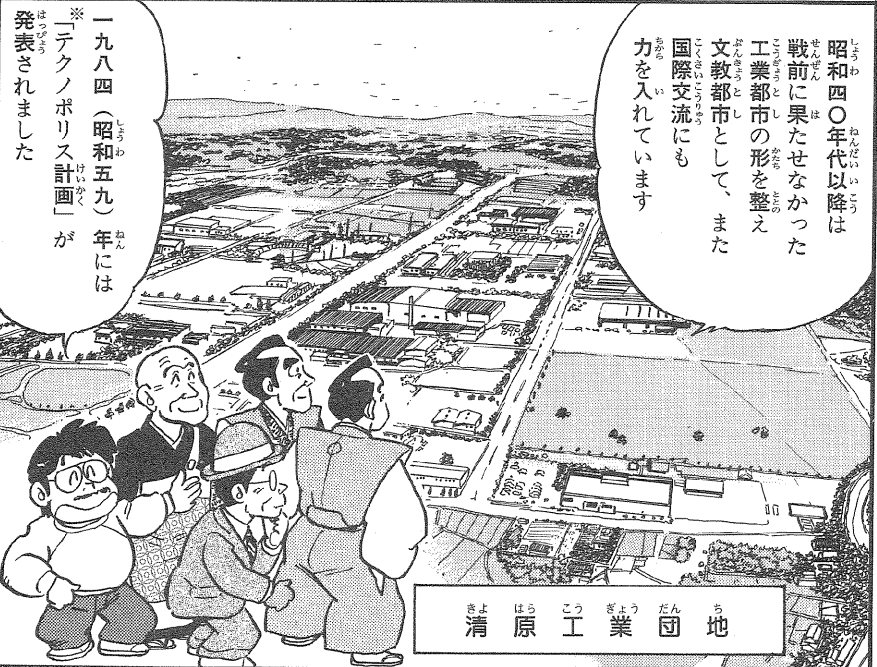
どれどれ
わしらも参考に
宇都宮の発展を
見ておこうかの

あーっ
おそろいで！

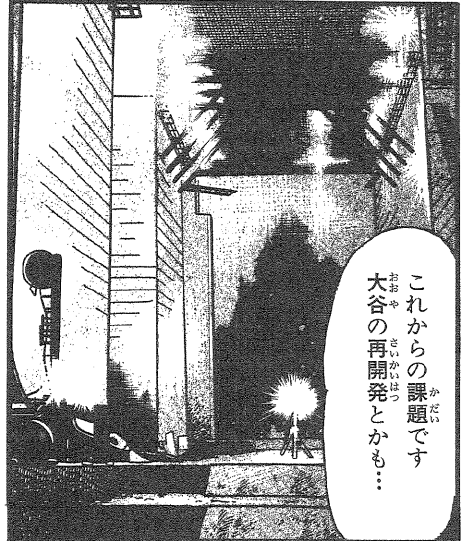
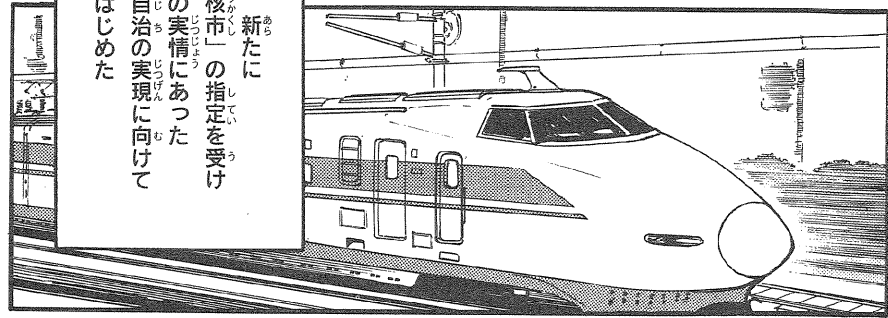
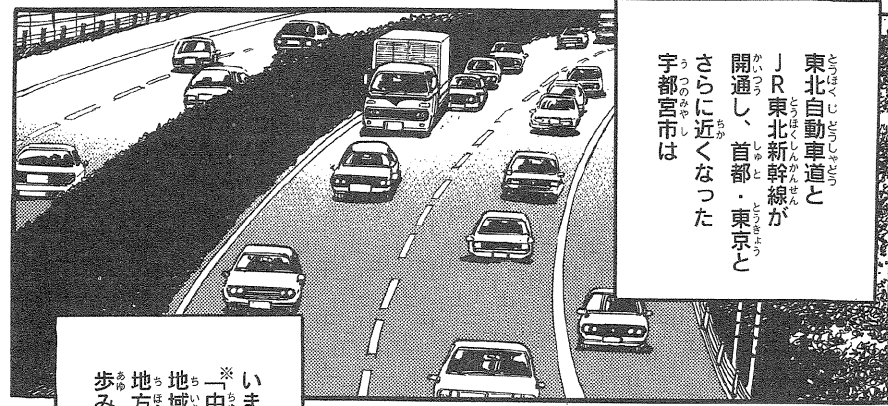
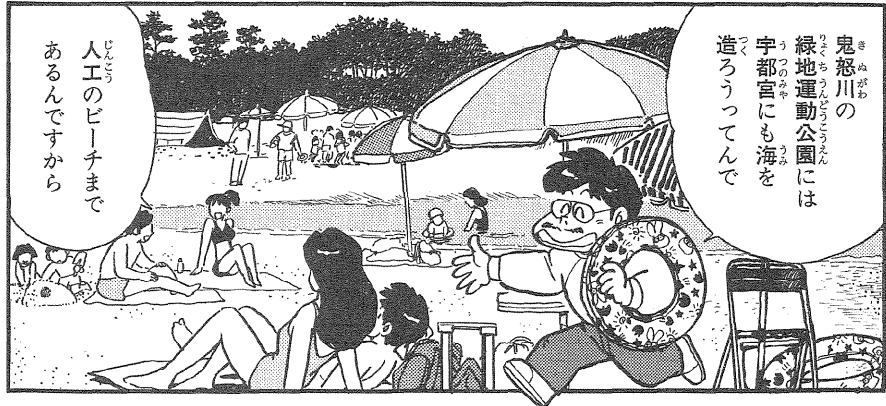


昭和四〇年代以降は
戦前に果たせなかつた
工業都市の形を整え
文教都市として、また
国際交流にも
力を入れていきます

一九八四（昭和五九）年には
「テクノポリス計画」が
発表されました



地 団 業 工 原 清



宇都宮の歴史年表

- 男体山などが噴火し、関東ローム層が形成される
- 旧石器時代の人の生活が始まる（権現山北遺跡・瑞穂団地内遺跡・上の原遺跡）
- 県内最古の土器がつけられる（大谷寺洞穴遺跡）
- 竪穴住居がつけられる（宇都宮清陵高校敷地内遺跡）
- 広場を中心とした大型建物がつけられる（根古谷台遺跡）
- 縄文中期のムラがあらわれる（上欠遺跡・御城田遺跡・竹下遺跡）
- 後・晩期、低地にムラがつけられる（石川坪遺跡・刈沼遺跡）
- 稲作が始まる
- 弥生時代中期の土器が発見される（野沢遺跡）
- 市内各地に弥生時代後期のムラがつけられる（中原遺跡・天狗原遺跡・東川田遺跡）

- 宮城県高森遺跡で約五〇万年前の石器が発見される
- 氷河時代が終わり、豊かな森が形成され、縄文土器と弓矢が出現する
- 長崎県泉福寺洞穴・新潟県本ノ木遺跡
- 神奈川県夏島貝塚・福井県鳥浜貝塚等に日本各地に貝塚がつけられる
- 長野県尖石遺跡・千葉県加曾利貝塚
- 千葉県堀之内貝塚・青森県大洞貝塚
- 稲作と金属器が大陸から伝わり、弥生時代が始まる
- 二二九 邪馬台国の女王・卑弥呼が魏に使を送る

関連する事項



戦国時代 / 室町時代 / 鎌倉時代

- 古墳時代前期（四世紀）に大日塚・愛宕塚・権現山古墳と三基の前方後方墳がつくられる（茂原古墳群）
- 五世紀中頃、田川低地に前方後円墳があらわれる（笹塚古墳・塚山古墳・雀宮牛塚古墳）
- 六世紀後半、市内各地に古墳がつくられる（宮下古墳群・針ヶ谷古墳群・瓦塚古墳群・戸祭大塚古墳等）
- 長岡で横穴墓がつくられる（長岡百穴）
- 水道山で下野薬師寺や国分寺の瓦が焼かれる（水道山窯跡）
- 須恵器の本格的な生産が始まる（広表窯跡）
- 東山道が整備される（上野遺跡）
- この頃、大谷磨崖仏がつくられる
- 須恵器の生産が九世紀後半まで継続する（欠ノ下窯跡）
- 二荒山神社が現在の地に移る
- 宗円が下野に下り、陸奥の安倍氏平定を祈願する
- 宗円が二荒山神社の社務職となる
- 一八〇 宇都宮朝綱と畠山重能、京都で平氏に抑留される
- 宇都宮朝綱が東大寺に大仏の脇侍観音を寄進する。朝綱、公田横領の罪で土佐に流される
- 二〇五 宇都宮頼綱、謀反の嫌疑を受け出家、蓮生を号す
- この頃、『信生法師集』がでる
- 二三五 藤原定家が蓮生の山荘に和歌色紙を贈る
- 宇都宮氏一族が歌人として活躍する
- 二五九 『新〇和歌集』ができる
- 二八一 宇都宮貞綱らが九州に行き元軍の防備にあたる
- 二八三 「宇都宮弘安式条」が制定される
- 飛山城（竹下町）が築かれる
- 宇都宮景綱の歌集『沙弥蓮瑜集』このころできる
- 一三二 東勝寺に鉄塔婆（清嚴寺に現存）が建てられる
- 一三三 宇都宮公綱が四天王寺の楠木正成と戦う
- 関東各地に戦乱が続き、宇都宮の町も荒廃する
- 一三六 宇都宮氏綱・芳賀高名、上野・越後の守護職をめぐり、関東管領上杉憲顕と戦い敗れる
- 一三八〇 宇都宮基綱が裳原（茂原）で小山義政と戦って敗れる
- 一四〇五 宇都宮満綱が長楽寺銅造阿弥陀如来座像を奉納する（汗かき阿弥陀、一向寺に現存）
- 一四五五 宇都宮等綱が上杉房頭方について足利成氏と戦い、敗れて奥州白河に逃れる
- 一四九八 宇都宮成綱が二荒山神社を建て替える
- 一五二六 宇都宮忠綱、結城政朝と戦う。政朝とはかった叔父芳賀興綱に宇都宮城を奪われる
- 一五五七 芳賀高定が宇都宮城から壬生綱雄を追い、宇都宮広綱を城主にする

- 奈良県に前方後円墳の箸墓古墳がつくられる
- 日本列島各地に古墳がつくられる
- 巨大な前方後円墳つくられる
- 漢字や仏教が伝来する
- 六四五 大化の改新
- 七〇一 大宝律令の制定
- 七一〇 奈良に都を移す
- 七五二 東大寺の大仏ができる
- 七九四 平安京に都を移す
- 藤原氏が力をつよめる
- 九三五 平将門の乱
- 各地に武士がおこる
- 一六七 平清盛が太政大臣になる
- 一八五 平氏が滅びる
- 一九二 源頼朝が鎌倉幕府を開く
- 二一九 源実朝が暗殺される
- 二二一 承久の乱がおこる
- 二三二 御成敗式目制定される
- 二七四 元軍がせめてくる（文永の役）
- 二八一 ふたたび元軍がせめてくる（弘安の役）
- 二九七 御家人の窮乏を救うため、政令がだされる
- 一三三三 鎌倉幕府がほろびる
- 一三三六 南朝と北朝の対立が始まる
- 一三三八 足利尊氏が室町幕府を開く
- 一三九二 南朝と北朝が一つになる
- 一四〇四 幕府が明と貿易を始める
- 全国各地に土一揆がおこる
- 一四六七 応仁の乱がおこり、戦国の世となる
- 一五四三 鉄砲が日本に伝わる
- 一五四九 ザビエルがキリスト教を伝える

鎌倉時代 / 平安時代 / 奈良時代 / 古墳時代

- 古墳時代前期（四世紀）に大日塚・愛宕塚・権現山古墳と三基の前方後方墳がつくられる（茂原古墳群）
- 五世紀中頃、田川低地に前方後円墳があらわれる（笹塚古墳・塚山古墳・雀宮牛塚古墳）
- 六世紀後半、市内各地に古墳がつくられる（宮下古墳群・針ヶ谷古墳群・瓦塚古墳群・戸祭大塚古墳等）
- 長岡で横穴墓がつくられる（長岡百穴）
- 水道山で下野薬師寺や国分寺の瓦が焼かれる（水道山窯跡）
- 須恵器の本格的な生産が始まる（広表窯跡）
- 東山道が整備される（上野遺跡）
- この頃、大谷磨崖仏がつくられる
- 須恵器の生産が九世紀後半まで継続する（欠ノ下窯跡）
- 二荒山神社が現在の地に移る
- 宗円が下野に下り、陸奥の安倍氏平定を祈願する
- 宗円が二荒山神社の社務職となる
- 一八〇 宇都宮朝綱と畠山重能、京都で平氏に抑留される
- 宇都宮朝綱が東大寺に大仏の脇侍観音を寄進する。朝綱、公田横領の罪で土佐に流される
- 二〇五 宇都宮頼綱、謀反の嫌疑を受け出家、蓮生を号す
- この頃、『信生法師集』がでる
- 二三五 藤原定家が蓮生の山荘に和歌色紙を贈る
- 宇都宮氏一族が歌人として活躍する
- 二五九 『新〇和歌集』ができる
- 二八一 宇都宮貞綱らが九州に行き元軍の防備にあたる
- 二八三 「宇都宮弘安式条」が制定される
- 飛山城（竹下町）が築かれる
- 宇都宮景綱の歌集『沙弥蓮瑜集』このころできる
- 一三二 東勝寺に鉄塔婆（清嚴寺に現存）が建てられる
- 一三三 宇都宮公綱が四天王寺の楠木正成と戦う
- 関東各地に戦乱が続き、宇都宮の町も荒廃する
- 一三六 宇都宮氏綱・芳賀高名、上野・越後の守護職をめぐり、関東管領上杉憲顕と戦い敗れる
- 一三八〇 宇都宮基綱が裳原（茂原）で小山義政と戦って敗れる
- 一四〇五 宇都宮満綱が長楽寺銅造阿弥陀如来座像を奉納する（汗かき阿弥陀、一向寺に現存）
- 一四五五 宇都宮等綱が上杉房頭方について足利成氏と戦い、敗れて奥州白河に逃れる
- 一四九八 宇都宮成綱が二荒山神社を建て替える
- 一五二六 宇都宮忠綱、結城政朝と戦う。政朝とはかった叔父芳賀興綱に宇都宮城を奪われる
- 一五五七 芳賀高定が宇都宮城から壬生綱雄を追い、宇都宮広綱を城主にする

- 奈良県に前方後円墳の箸墓古墳がつくられる
- 日本列島各地に古墳がつくられる
- 巨大な前方後円墳つくられる
- 漢字や仏教が伝来する
- 六四五 大化の改新
- 七〇一 大宝律令の制定
- 七一〇 奈良に都を移す
- 七五二 東大寺の大仏ができる
- 七九四 平安京に都を移す
- 藤原氏が力をつよめる
- 九三五 平将門の乱
- 各地に武士がおこる
- 一六七 平清盛が太政大臣になる
- 一八五 平氏が滅びる
- 一九二 源頼朝が鎌倉幕府を開く
- 二一九 源実朝が暗殺される
- 二二一 承久の乱がおこる
- 二三二 御成敗式目制定される
- 二七四 元軍がせめてくる（文永の役）
- 二八一 ふたたび元軍がせめてくる（弘安の役）
- 二九七 御家人の窮乏を救うため、政令がだされる
- 一三三三 鎌倉幕府がほろびる
- 一三三六 南朝と北朝の対立が始まる
- 一三三八 足利尊氏が室町幕府を開く
- 一三九二 南朝と北朝が一つになる
- 一四〇四 幕府が明と貿易を始める
- 全国各地に土一揆がおこる
- 一四六七 応仁の乱がおこり、戦国の世となる
- 一五四三 鉄砲が日本に伝わる
- 一五四九 ザビエルがキリスト教を伝える

- 一五八五 北条氏直が宇都宮を攻め、城下に放火する
- 一五九二 宇都宮国綱が秀吉の命により朝鮮に出兵する
- 一五九七 宇都宮氏がほろびる
- 一五九八 蒲生秀行が宇都宮城代となる
- 一六〇〇 徳川秀忠、上杉景勝征伐のため宇都宮に入る
- 一六〇一 奥平家昌、宇都宮城主となる
- 一六〇四 徳川幕府が二荒山神社を造営する
- 一六一九 宇都宮城主・本多正純が城下を整備。領内総検地を始める
- 一六二二 秀忠日光社参、本多正純改易される。奥平忠昌、宇都宮に再入封する
- 一六六八 奥平忠昌死去。家臣・杉浦右衛門兵衛殉死する。忠昌の法要に刃傷事件起き、昌能山形へ国替えされる
- 一六七〇 西原・宝木十力新田の開発が始まる
- 一六七二 浄瑠璃坂の仇討事件起きる
- 一七一〇 戸田忠真、宇都宮城主となる
- 一七一六 忠真、老中へ就任する
- 一七四三 宇都宮宿に貫目改所つくられる
- 一七四九 松平忠祇、宇都宮城主として島原から入封
- 一七五三 宇都宮藩、上納米を五合摺に改める

- 一五七三 室町幕府がほろびる
- 一五八二 太閤検地・刀狩が始まる
- 一五九〇 豊臣秀吉が北条氏を滅ぼし、全国を統一する
- 一六〇〇 関ヶ原の戦いがおこる
- 一六〇三 徳川家康が江戸幕府を開く
- 一六三五 参勤交代の制度ができる
- 一六三七 島原の乱がおこる
- 一六三九 幕府が鎖国を行う
- 一六四九 農民へのふれ書きがだされる (慶安の御触書)
- 町人文化 (元禄文化) が栄える
- 一七一六 徳川吉宗が享保の改革を始める

- 一七六四 宇都宮藩五合摺を六合摺に改め、これに反対する百姓一揆起こる (糶摺騒動)
- 一七七四 宇都宮城主・松平忠恕、島原へ転封。戸田忠寛、島原から入封する
- 一七八九 宇都宮宿大火
- 一八一 宇都宮藩「善行録」を刊行する
- 一八一四 宇都宮に大火がおこる
- 一八一五 宇都宮藩、藩学「修道館」・「潔身館」を設置する
- 一八三二 宇都宮に大火がおこる
- 一八四三 將軍・家慶、日光社参。宇都宮城にとまる
- 一八五五 桑島新田の開発が始まる
- 一八五九 宝木用水の工事が始まる
- 一八六〇 大橋訥菴「政権恢復秘策」を著す
- 一八六三 宇都宮藩、山陵を修理する
- 一八六四 水戸天狗党、宇都宮藩の支援を求める
- 一八六五 宇都宮藩、減封と奥州棚倉への国替えを命ぜられるが、山陵修補成功により許される
- 一八六八 戊辰戦争で宇都宮の大半が焼ける

- 一七七四 杉田玄白らが「解体新書」をあらわす
- 一七八二 天明の大きなおこる
- 一七八七 松平定信が寛政の改革を始める
- 江戸を中心とする文化 (化政文化) が栄える
- 一八三三 天保の大きなおこる
- 各地に百姓一揆がおこる
- 一八四一 水野忠邦が天保の改革を始める
- 一八五三 ペリーが浦賀に来航する
- 一八五四 日米和親条約が結ばれる
- 一八五八 日米修好通商条約が結ばれ、安政の大獄がおこる
- 一八六〇 桜田門外の変がおこる
- 一八六七 徳川慶喜が政権を朝廷に返し、江戸幕府の政治が終わる
- 一八六八 戊辰戦争がおこる。五方条の御誓文が出される

平成時代 / 昭和時代

- 一九四五 空襲をうけ市街地の大半が焼失する
- 一九四七 地方自治制下初の市長選挙が行われる
- 一九四九 宇都宮大学ができる
- 一九五八 東北本線宇都宮・大宮間が電化される
- 一九六一 宇都宮工業団地の分譲が開始される
- 一九七二 市章の規格及び市旗を制定する
- 一九八〇 東北自動車道岩槻・宇都宮間が開通する
- 一九八二 ニュージージーランドのマヌカウ市と姉妹都市になる
- 一九八四 中国のチチハル市と友好都市になる
- 一九八六 現在の市庁舎ができる
- 一九八八 フランスのオルレアン市と姉妹都市になる
- 一九九〇 東北本線上野・黒磯間に「宇都宮線」の愛称が付く
- 一九九二 世界選手権自転車競技大会ロード競技が開かれる
- 一九九二 アメリカのタルサ市と姉妹都市になる
- 一九九五 イタリアのピエトラサンタ市と文化友好都市になる
- 一九九六 市制一〇〇周年を迎える。中核市になる

昭和時代 / 大正時代 / 明治時代

- 一八七一 大崎商舎が石井町に建てられる
- 一八七二 宇都宮・東京間に乗合馬車が開通する
- 一八七三 宇都宮県、栃木県と合併する
- 一八八四 栃木県庁、栃木から宇都宮に移転する
- 一八八五 東北本線大宮・宇都宮間が開通
- 一八八九 宇都宮町制施行される
- 一八九六 宇都宮が市となる
- (戸数/六九九一戸、人口/三万五二三三人)
- 一八九九 市内に初めて電灯がつく
- 一九〇六 市内に電話が開通する
- 一九〇七 第一四師団司令部の設置が決定する
- 一九二二 旭町に市庁舎ができる
- 一九二七 水道の給水を開始する
- 一九二七 市内バスが運行される
- 一九二二 宇都宮高等農林学校創設
- 一九二五 市立旭病院が竣工する
- 一九二七 市立八幡山公園を開設する
- 軍道(桜通り)の桜並木が花見の名所となる
- 東武鉄道宇都宮線が開通する
- 新国道(一一九号)が開通する

- 一八九九 日清戦争がおこる
- 一九〇四 日露戦争がおこる
- 一九一〇 韓国の併合が行われる
- 一九二二 関東大震災がおこる
- 一九二五 普通選挙制度ができる
- 一九二八 第一回普通選挙が行われる
- 一九三一 満州事変がおこる
- 一九三三 国際連盟を脱退する
- 一九三七 日中戦争がおこる
- 一八九九 版籍を奉還する
- 一八七一 廃藩置県を行う
- 一八七二 学校の制度を定める
- 一八七三 地租改正を行う。徴兵令が実施される
- 一八八九 大日本帝国憲法が公布される
- 一八九〇 第一回衆議院議員選挙が行われる。帝国議会が開かれる
- 一八九一 東北本線上野・青森間全線が開通する

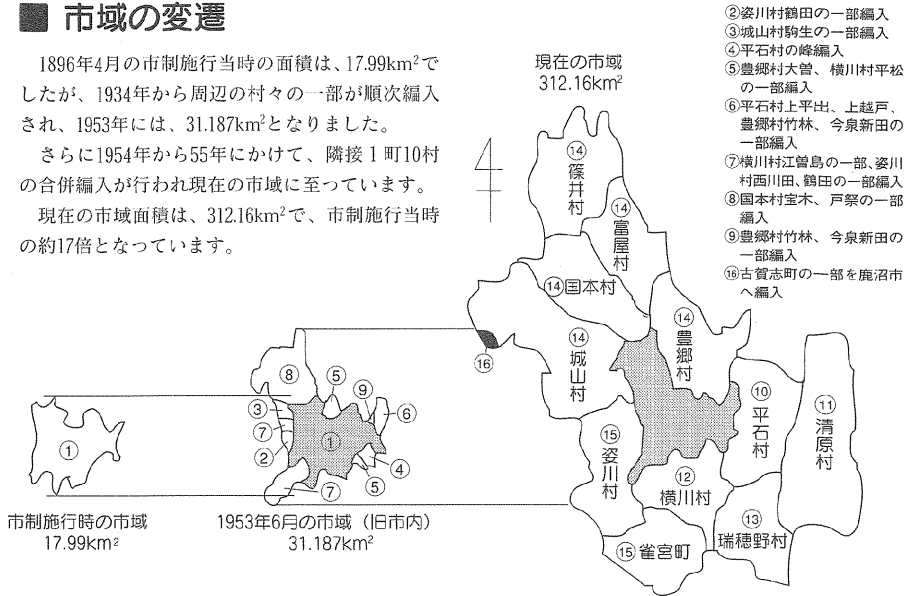
- 一九四一 太平洋戦争がおこる
- 一九四五 広島と長崎に原子爆弾が投下される。ポツダム宣言を受け入れて太平洋戦争がおわる
- 一九四六 日本国憲法が公布される
- 一九五一 サンフランシスコ平和条約が結ばれる。日米安全保障条約が結ばれる
- 一九五六 国際連合に加盟する
- 一九六四 東海道新幹線が開通する。オリンピック東京大会が開かれる
- 一九七〇 日本万国博覧会が大坂で開かれる
- 一九七二 沖縄が日本に復帰する
- 一九七八 日中平和友好条約が結ばれる
- 一九八二 東北・上越新幹線が開通する
- 一九九二 ソ連が解体する

市域の変遷

1896年4月の市制施行当時の面積は、17.99km²でしたが、1934年から周辺の村々の一部が順次編入され、1953年には、31.187km²となりました。

さらに1954年から55年にかけて、隣接1町10村の合併編入が行われ現在の市域に至っています。

現在の市域面積は、312.16km²で、市制施行当時の約17倍となっています。



宇都宮

わたしたちのまち

都

うつのみや

宮

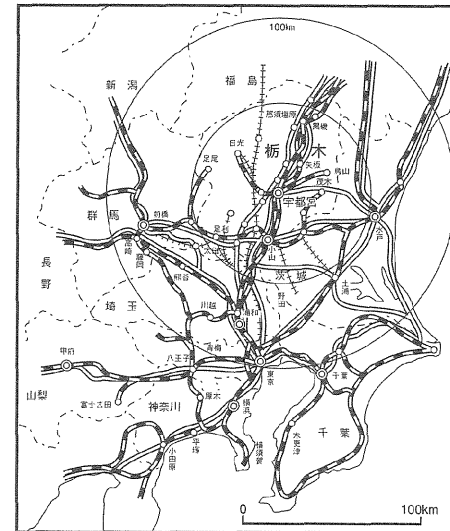


宇都宮市の位置

宇都宮市は、首都東京から北へ約100km、栃木県のほぼ中央に位置しています。

北西に日光連山、北に那須連山を望み、南には広大な関東平野がひらけ、市内東部に鬼怒川が流れる、美しく豊かな自然に恵まれたまちです。

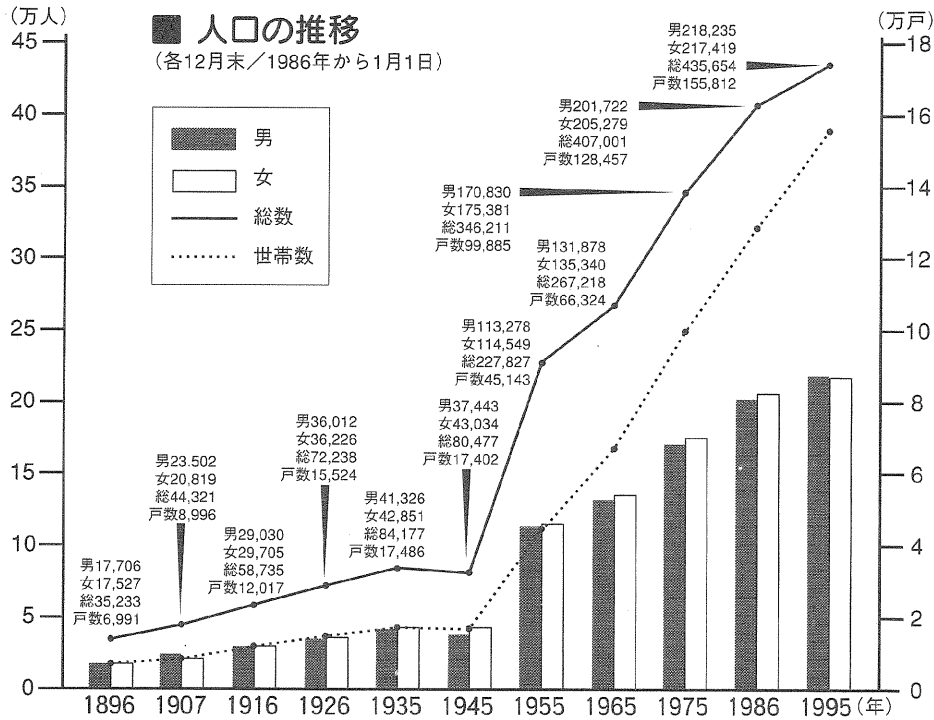
また、栃木県の県庁所在地としてだけでなく、経済や文化などの機能が集積する北関東の拠点都市として発展を続けています。



- ◇市制施行 1896年4月1日
- ◇位置 東経139°53'9"
北緯 36°33'10"
(宇都宮市役所が基準)
- ◇面積 312.16km²
- ◇周囲 101km
- ◇広がり 東西 23.6km
南北 27.9km
- ◇海拔 116.07m (宇都宮市役所が基準)
- ◇人口 436,254人
男 218,332人 女 217,922人
- ◇世帯 156,838世帯
(1996年1月1日現在)

人口の推移

(各12月末/1986年から1月1日)



宇都宮市民憲章

1980年4月1日制定

宇都宮市は、恵まれた自然と古い歴史に支えられ、
二荒の森を中心に栄えてきたまちです。
このふるさとに誇りをもち、みんなの力で豊かな未来を築くため、
市民の誓いを定めます。

◇
1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくりまします。

◇◇
2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくりまします。

◇◇◇
3 学ぶことを大切に、文化の薫る美しいまちをつくりまします。

市章

1911年2月14日制定



この市章は、かつて宇都宮城が龜が丘城といわれたのにちなみ、龜甲形と宇都宮の「宮」の文字を図案化したもので、古い歴史を持つ郷土の万年にわたる栄光と限りない発展とを象徴するものです。

市花 さつき

1970年4月1日制定



市の木 イチヨウ

1986年4月1日制定



市民のくらし

1996年1月1日現在

人口密度 1 km ² に1,398人	世帯 1世帯平均2.78人	出生 1日12.6人	死亡 1日7.2人
結婚 1日8.7組	離婚 1日2.2組	転入 1日59.1人	転出 1日59.0人
市税 市民1人あたり170,007円	行政費 市民1人あたり317,356円	市職員 市民107人に1人	消防職員 市民1,019人に1人
医師 市民644人に1人	教員 児童・生徒数21人に1人	上水道 1人1日あたり418ℓ	交通事故 1日10.5件
火災 1日0.5件	ごみ処理 1日551 t	し尿処理 1日291ℓ	商店 21.5世帯に1店

●監修者紹介

阿 部 昭 (あべ あきら) 宇都宮市上小池町在住

1943年足利市生まれ、東京教育大学文学部史学科卒業

現在、国士館大学文学部教授、地方史研究協議会委員、栃木県歴史文化研究会常任委員長
主な著書／『近世村落の構造と農家経営』『小貫万右衛門』共著として『天保期の政治と社会』『図説・栃木県の歴史』『栃木県歴史人物事典』など多数

石 川 速 夫 (いしかわ はやお) 宇都宮市大寛2丁目在住

1931年宇都宮市生まれ、東京教育大学文学部国文科卒業、中世文学専攻

現在、栃木県生涯学習振興財団理事長

主な著書／『新式和歌集』共著として『宇都宮市史(中世)』『壬生町史』『栃木の文学史』『栃木県神社誌』『栃木県教育史』『栃木県歴史人物事典』『栃木県大百科事典』『世界山岳百科辞典』『ふるさとの文学・栃木』など多数

石 下 眞 (いしげ まこと) 宇都宮市上大曾町在住

1935年宇都宮市生まれ、宇都宮大学学芸学部卒業

前宇都宮市立錦小学校校長、前宇都宮市小学校教育研究会社会部会長

主な著書／共著として『史跡と人物でつづる栃木県の歴史』分担執筆として『新社会科指導法事典』『新しい社会科よい授業の条件Q&A』など多数

大 嶽 浩 良 (おおたけ ひろよし) 宇都宮市今宮3丁目在住

1945年宇都宮市生まれ、横浜市立大学文理学部人文学科日本史課程卒業

現在、県立真岡女子高等学校教諭

主な著書／共著として『宗教・民衆・伝統』『図説・栃木県の歴史』『おはなし歴史風土記・栃木県』(以上共著)分担執筆として『藩史大辞典・関東編』『真岡市史』など多数

橋 本 澄 朗 (はしもと すみお) 芳賀郡益子町七井在住

1945年益子町生まれ、宇都宮大学教育学部卒業

現在、(財)栃木県埋蔵文化財センター大規模調査班長

主な著書／『木葉底の基礎的研究』『間仕切住居に関する覚書』『古墳時代への移行期の東国社会』『下野における平安時代の仏教文化の展開について』(論文)共著として『図説・栃木県の歴史』『南河内町史』など多数

山 吉 泰 夫 (やまよし やすお) 宇都宮市若草4丁目在住

1936年水戸市生まれ、宇都宮大学学芸学部卒業

前宇都宮市立宝木中学校校長、前宇都宮市中学校教育研究会社会部会長

主な著書／共著として『中学校社会科授業技術入門』分担執筆として『栃木県大百科事典』など多数

●漫画家紹介

広 井 て つ お (ひろい てつお)

本 名／広井哲雄(ひろい てつお)

生年月日／1950年生まれ

住 所／東京都文京区小石川

岡山県立西大寺高校卒業後、サラリーマンを経て、漫画家村野守美氏に師事。アシスタントとして漫画制作に取り組む。

昭和50年月刊漫画専門誌『COM』で「小さな世界」を発表してデビュー。手塚治虫氏が主宰する手塚プロの制作に携わるなど、本格的に活躍を始める。

主な作品／

漫画「90年代の日本」などハウツーものや「W1ララバイ」「ライダーズラブソディ」「西大寺ぶるうす」など。

●シナリオライター紹介

島 遼 伍 (しま りょうご)

本 名／佐藤日出男(さとう ひでお)

生年月日／1957年生まれ

住 所／宇都宮市中一の沢町

栃木県立氏家高校を経て、大正大学英文科を卒業。

県芸術祭文芸部門創作の部で準文芸賞3回、同奨励賞3回、宇都宮市民芸術祭文芸部門創作の部で奨励賞を4回受賞

主な作品／

『陰謀の城—真説宇都宮釣天井—』『改易の城—下野宇都宮氏断絶秘話—』『“戦国”下野落城物語』『“下剋上”下野落城悲話』『古城水滸伝』など。『史跡めぐり 栃木の城』の監修も、てがける。

◆参考資料・文献

- 『栃木県史』
『宇都宮市史』
『改訂うつのみやの歴史』
『宇都宮興廃記』
『ふるさと栃木県の歩み』
- 『下野国誌』 下野新聞社
『栃木県の歴史』 山川出版社
『栃木県歴史年表』 下野新聞社
『図説・栃木県の歴史』 河出書房
『日本の名族』 新人物往来社
『物語藩史』 新人物往来社
『宇都宮の歴史』 落合書店
『物語・栃木県史』 栃木新聞社
『戊辰戦争事典』 新人物往来社
『栃木県の百年』 山川出版社

まんが うつのみやの歴史

1996年4月1日発行

漫 画 広井てつお
シナリオ 島 遼伍
発 行 宇都宮市制100周年記念事業実行委員会
企画・監修 記念出版編集委員会
制 作 下野新聞社
印 刷 松井ピ・テ・オ・印刷

© 宇都宮市 1996